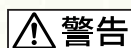
SONY

4-098-009-**06**(1)

PLASMA
WEGA
digital Hi-Vision

フラットパネルデジタルテレビ取扱説明書

KDE-P42HX2
KDE-P50HX2
KDE-P55HX2
KDE-P61HX2

お買い上げいただきありがとうございます。

⚠警告 電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。**この取扱説明書と別冊の「安全のために」をよくお読みのうえ、**製品を安全にお使いください。
お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

SONY フラットパネルデジタルテレビ KDE-P42HX2/KDE-P50HX2/KDE-P55HX2/KDE-P61HX2

取扱説明書の中の画面はイメージです。実際の画面表示とは異なることがあります。

次のページにつづく

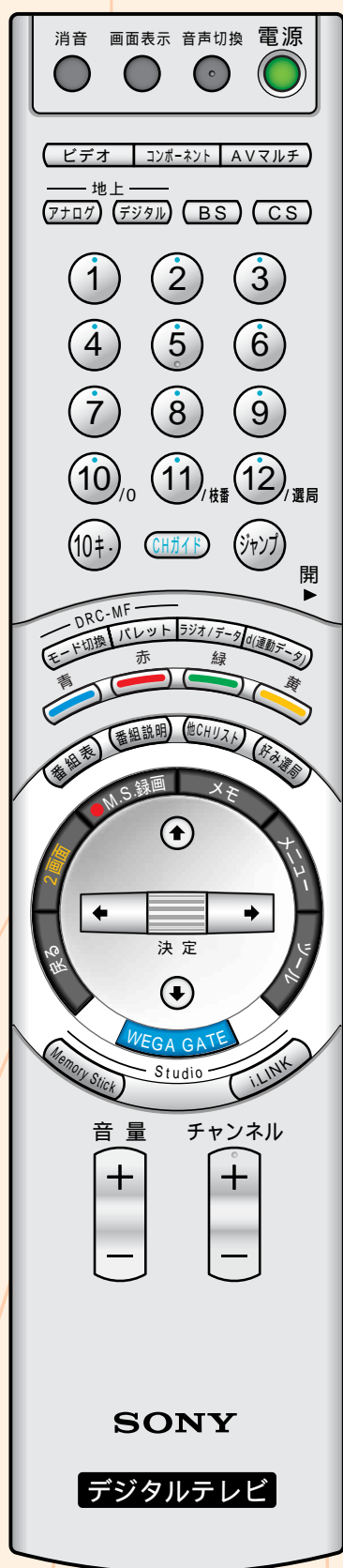
取扱説明書の中の画面はイメージです。実際の画面表示とは異なることがあります。

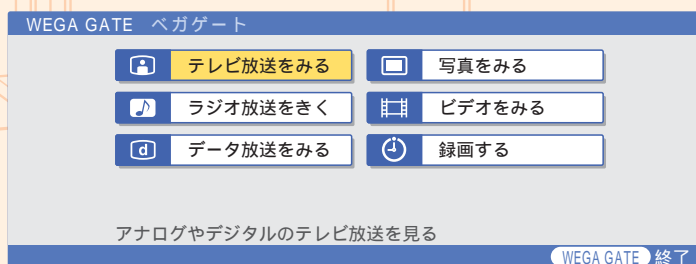
次のページにつづく

準 備

取扱説明書の中の画面はイメージです。実際の画面表示とは異なることがあります。

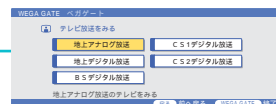
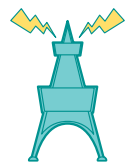
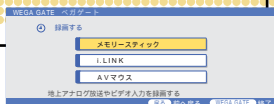
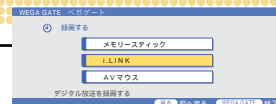
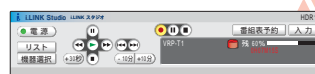
こんなことができます

WEGA<ベガ>で楽しもう!

<ベガ>への入り口

WEGA GATE<ベガゲート>

いろいろな放送や<ベガ>オリジナルの
アプリケーションを目的別に、簡単にナビゲート。

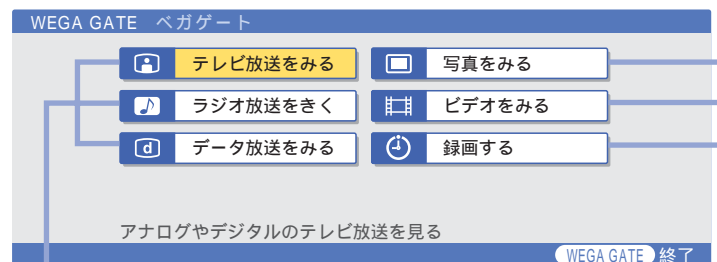
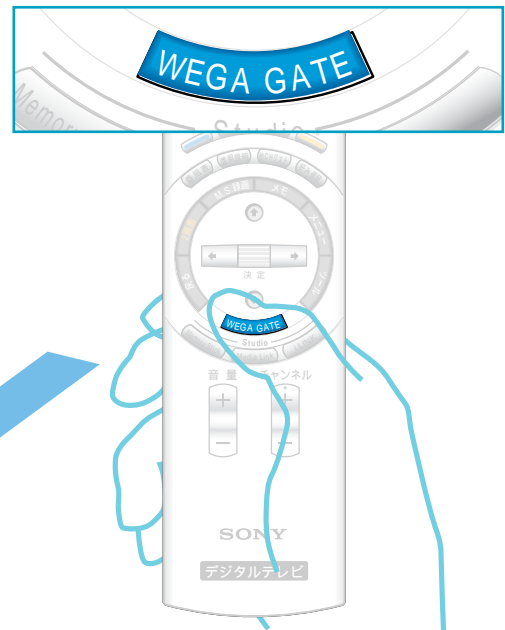
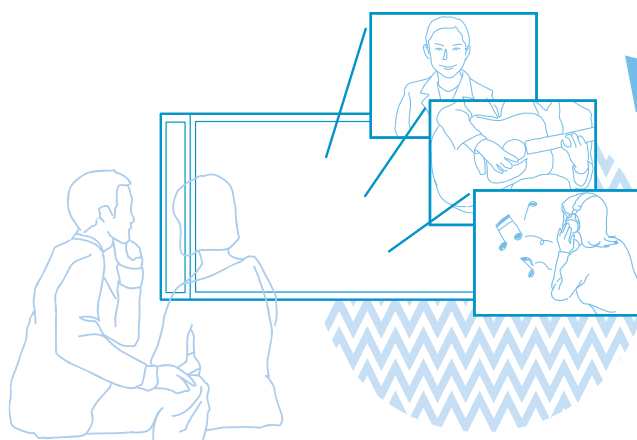
まずは準備と接続から ☞189、195、211ページ

リモコンの便利な使いかた ☞14ページ

●ジョグダイヤル搭載リモコン
●「ツール」「メニュー」「戻る」ボタン

高画質でいろいろな放送を楽しもう!
従来の地上アナログ放送
テレビ放送を楽しむ
アナログ
☞20ページ
地上デジタル放送
テレビ放送を楽しむ
データ放送を楽しむ
デジタル
☞22、28ページ
BSデジタル放送
110度CSデジタル放送
テレビ放送を楽しむ
データ放送を楽しむ
ラジオ放送を楽しむ
BSデジタル
110度CSデジタル
☞26、28ページ

放送を録画して楽しもう!
Memory Stick<メモリースティック>に録画する
地上アナログ放送を録画する。
M.S.録画
●M.S.録画ボタンで"メモリースティック"に簡単に録画できます。
☞81ページ
接続機器に録画する
i.LINKを使って録画する。
AVマウスを使って録画する。
☞59、169ページ

<ベガ>オリジナルのアプリケーションで映像や写真を楽しもう!
Memory Stick Studio
<メモリースティック スタジオ>
デジタルスチルカメラなどで撮影した静止画を楽しむ。
地上アナログ放送を録画する。
録画した動画をクリエなどの携帯機器で外へ持ち出して楽しむ。
☞143ページ
i.LINK Studio
<i.LINK スタジオ>
デジタルビデオカメラレコーダーをつないで映像を楽しむ。
i.LINKで録画した映像を再生して楽しむ。
デジタル放送を高画質で録画する。
☞159ページ

あの操作がわからない。こんなときどうしたら…。

WEGA GATE<ベガゲート>

いろいろな放送や<ベガ>オリジナルのアプリケーションを、目的別に簡単にナビゲート

いろいろな放送や<ベガ>オリジナルのアプリケーションを、やりたいこと別に簡単にナビゲートします。操作に迷ったら、まずはこのWEGA GATEからどうぞ。

ベガで楽しめる放送ってどんなもの？

各種放送

地上アナログ放送はもちろん、デジタルならではのハイビジョン放送やデータ放送を楽しめます。

デジタル放送では、ハイビジョン放送により、高画質な映像を楽しめます。さらに、データ放送やラジオ放送などのサービスもあり、テレビの楽しみかたが広がります。

☞12ページ

テレビ放送

地上デジタル　BSデジタル
110度CSデジタル

従来の地上アナログ放送に加え、地上デジタル、BSデジタル、110度CSデジタルの計4種類のテレビ放送が楽しめます。特にデジタル放送では、高画質なハイビジョン放送を見たり、番組表でたくさんの番組から探せたり、録画予約ができたりなど、便利な機能が盛りだくさんです。

☞20、22、26ページ

ラジオ放送

BSデジタル
110度CSデジタル

テレビですがラジオも楽しめます。デジタル音声なので、音質がCD並みにクリアな放送もあります。

☞28ページ

データ放送

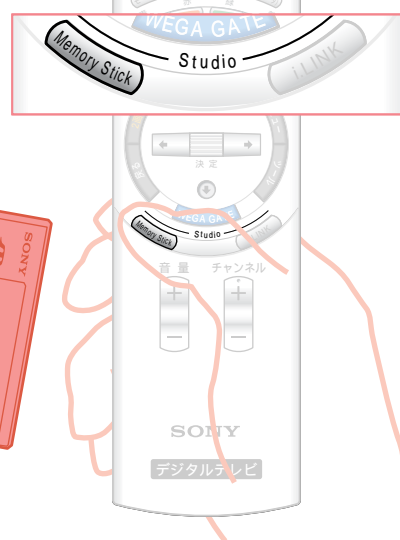
地上デジタル　BSデジタル
110度CSデジタル

これまで見るだけが主流だったテレビですが、これからは違います。テレビを見ながら番組のアンケートに答えたり、ゲームをしたり、クイズの回答者として参加したりと、双方向で楽しめます。テレビがもっと身近になり、便利な情報をやり取りする入口に変わります。

☞28ページ

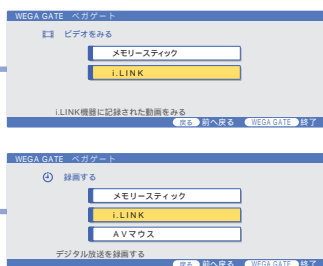
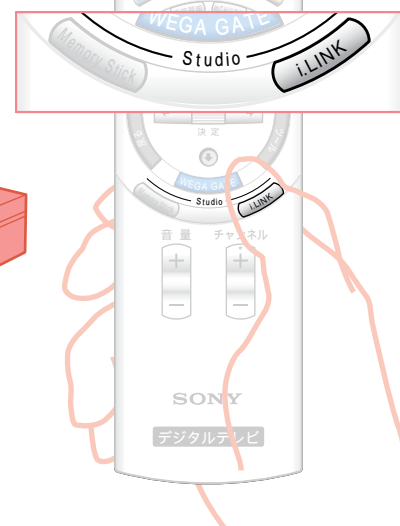
家の中から家の外へテレビの楽しみを持ち出したい。

Memory Stick Studio<メモリースティック スタジオ>

テレビ番組の録画も可能です。たとえば今見ている番組を録りたいと思ったときは、リモコンの●M.S.録画ボタンで簡単に"メモリースティック"に録画できます。さらに、録画したものをクリエなどの携帯機器で外へ持ち出して見ることもできます。また、"メモリースティック"に撮ったデジタルカメラなどの画像や映像をテレビの大画面に映し、みんなでわいわい騒ぎながら楽しむこともできます。

見る ········ ☞143ページ

録画する ····· ☞81ページ

せっかくの高画質デジタル放送、きれいに録りたい。

i.LINK Studio<i.LINK スタジオ>

i.LINKでつなぐと、デジタル放送を高画質のまま録画できます。また、デジタルビデオカメラレコーダーやハードディスクレコーダー(HDR)に記録された映像を高画質で再生できます。また、i.LINK Studioを使うと、つないだ機器をテレビの画面上で一括操作できて便利です。

見る ········· ☞165ページ

画面上の操作ボタンを使うだけで、録画した番組などを簡単に見ることができます。一時停止や早送り、早戻しもすべて画面でOKです。

録画する ··· ☞59、169ページ

i.LINKでつないだ機器からの録画も、もちろん画面で。しかも高画質で記録できるため、オリジナルの画質を損なわずに美しいまま残せます。

本機で楽しめるテレビ放送

本機では、次のテレビ放送をお楽しみいただけます。

既存のテレビ放送（地上アナログ放送）

現在放送されているテレビ放送です。

3種類のデジタル放送

地上デジタル放送

2003年12月より関東、中京、近畿の一部地域で本放送が開始された、受信無料のデジタル放送です。既存のテレビ放送（地上アナログ放送）がデジタル化され、より高画質でお楽しみいただけます。

BS*1 デジタル放送

2000年12月に開始された、衛星を利用した受信無料（一部有料）のデジタル放送です。

*1 BSはBroadcasting Satellite（ブロードキャスティング サテライト）（放送衛星）の略です。

110度CS*2デジタル放送

2002年3月に開始された、衛星を利用した受信有料のデジタル放送です。

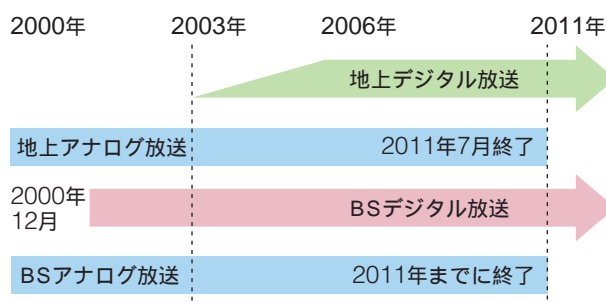
*2 CSはCommunications Satellite（コミュニケーションズ サテライト）（通信衛星）の略です。

デジタル放送とは？

地上デジタル放送について

アナログ放送からデジタル放送への移行

地上デジタル放送は、関東、中京、近畿の三大広域圏の一部地域で2003年12月より開始され、その他の地域でも、2006年末までに放送が開始される予定です。地上アナログ放送は2011年7月*3に、BSアナログ放送は2011年*3までに終了することが、国の方針として決定されています。

*3 2003年8月現在の情報です。

アンテナについて

地上デジタル放送を受信するには、UHFアンテナが必要です。
現在お使いのUHFアンテナでも地上デジタル放送を受信できます。
ただし、地上デジタル放送のチャンネルによってはアンテナなどの交換や調整が必要となる場合があります。詳しくは、お買い上げ店にお問い合わせください。
なお、ケーブルテレビで受信・視聴するときは、UHFアンテナは不要です。

ケーブルテレビ（CATV）について

地上デジタル放送は、ケーブルテレビでも受信・視聴できます。
お住まいの地域のケーブルテレビで地上デジタル放送が開始されているかは、ケーブルテレビ放送会社にお問い合わせください。なお、ケーブルテレビ放送会社によって送信方式が異なりますが、本機はパススルー方式のすべての周波数に対応しています。送信方式について詳しくは、「地上デジタル放送ケーブルテレビ（CATV）の送信方式について」（☞25ページ）をご覧ください。

デジタル放送

デジタル放送では、テレビ放送とは別にラジオ放送やデータ放送をお楽しみいただけます。

放送の種類	テレビ	ラジオ	データ
地上デジタル	○	—	○
BSデジタル	○	○	○
110度CSデジタル	○	○	○

デジタル化で大容量・高品質の情報発信

デジタル放送は、アナログ放送に比べ、映像や音声をデジタル化して大容量の情報を扱えるため、高画質な映像や多チャンネルの番組を楽しめます。幅広いジャンルの番組内容で、デジタルハイビジョン放送 HD *4（110度CSを除く）を中心に、ラジオ放送、データ放送（双方向サービス）が楽しめます。

*4 デジタルの画質や画像方式、走査線について詳しくは、☞135ページをご覧ください。

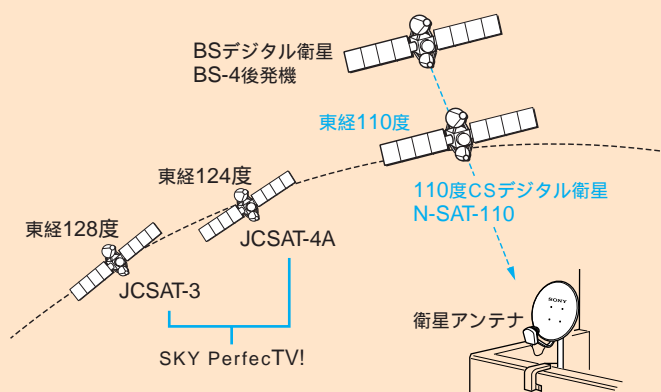
BS•110度CSの有料放送は受信契約が必要

BSデジタルの有料放送や110度CSデジタル放送をご覧になるには、受信契約が必要です（☞227ページ）。
受信契約すれば、さまざまな放送やサービスが楽しめます。
詳しくは、各放送局、衛星サービス会社にお問い合わせください。

ちょっと一言
110度CSデジタルにも一部無料放送があります。このときは、受信契約は不要です。

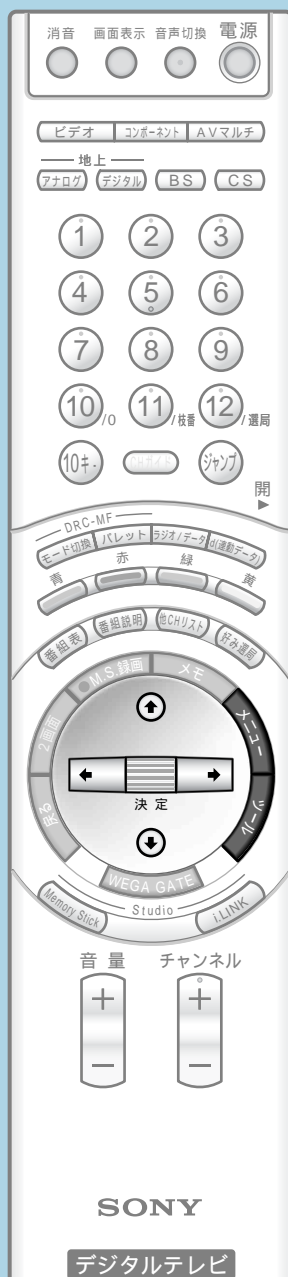
BSと110度CSは同じアンテナや共同受信システムで受信可能

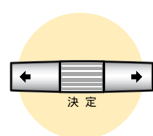
BSデジタル衛星（BS-4後発機）と110度CSデジタル衛星（N-SAT-110）は同じ東経110度の方角にあり、送信方式も同じ円偏波のため1つのアンテナや共同受信システムで受信できます。
ただし、110度CSに衛星アンテナや分配器、ブースター（増幅器）、および共同受信システムが対応している必要があります。詳しくは、お買い上げ店か、マンション管理会社にお問い合わせください。

ちょっと一言
従来からあるデジタルCS放送（SKY PerfecTV!）は、図のように、BSデジタル衛星と異なる経度に2つあり、送信方式もBSと異なる水平/垂直偏波（偏波面電圧切換方式）のため、専用のCSアンテナとデジタルCSチューナーが別に必要です。

B-CASカードについて

デジタル放送（地上デジタル、BSデジタル、110度CSデジタル）を視聴するときは、B-CASカードを必ず挿入してください。

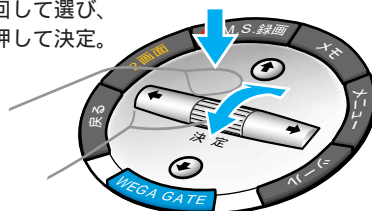
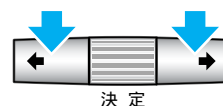
- 2004年4月から、番組の著作権保護のためにB-CASカードを利用します。
  B-CASカードを挿入しないと、すべてのデジタル放送を視聴できなくなります。
- 2004年4月からデジタル放送には、「一回だけ録画可能」のコピー制御信号が加えられます。詳しくは、「録画制約について」（☞87ページ）および録画機器の取扱説明書をご覧ください。

リモコンの使いかたガイド

ちょっと一言

上下を選ぶときは、ジョグダイヤルの上下にある矢印ボタンでもできます。

ジョグダイヤルを使う

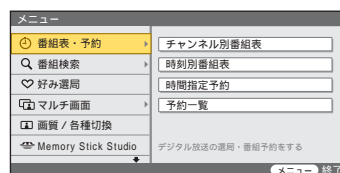
カーソルの上下移動が早く、他のボタンを探す必要がないため、**操作画面を見ながらの操作が簡単にできます。**
メニューやツールなどの項目を選ぶときや、画質などを調整するときに使います。

ジョグダイヤルの使いかた

回して選び、
押して決定。

左右を選ぶときは

ジョグダイヤルでメニュー操作してみましょう

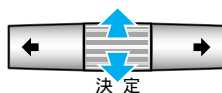
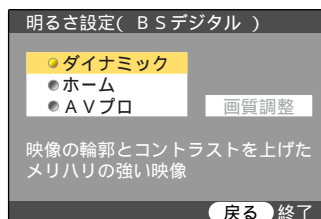
メニューボタンを押して、メニューを出す。

メニュー
- 番組表・予約
- 番組検索
- 好み選局
- マルチ画面
- 画質／各種切換
- Memory Stick Studio

チャンネル別番組表
時刻別番組表
時間指定予約
予約一覧
デジタル放送の選局・番組予約をする
メニュー 終了

で「画質／各種切換」を選んで、　で決定する。

回して選ぶ。

メニュー
- 番組表・予約
- 番組検索
- 好み選局
- マルチ画面
- 画質／各種切換
- Memory Stick Studio

DRC-MFモード切換：DRC高密度・標準
DRC-MFパレット
ブロックノイズリダクション：　切
明るさ設定：　ホーム
ワイド切換：　ワイドズーム
DRC-MFモードを切り換える
戻る 前へ戻る　メニュー 終了

押して決定する。

引き続き　で選んで、　で決定して、次の操作に進みます。

ここでは、便利な機能をもつ**ツール**と**ジョグダイヤル**の2つのボタンについて紹介します。

ツールボタンを使う

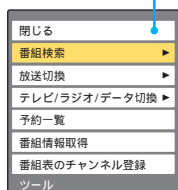
そのときできる便利な機能を表示できます。表示された**できること**を選べば、通常の手順より早く操作できます。

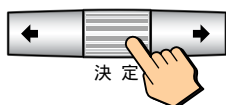
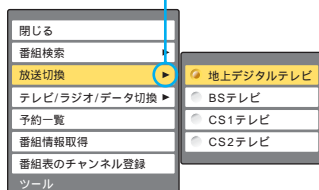
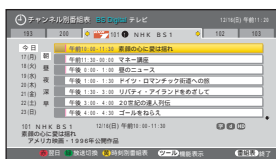
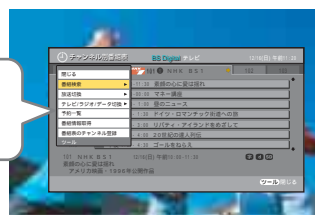
地上デジタルの番組表からBSデジタルの番組表に切り換えてみましょう

地上デジタルの番組表を表示するには

地上デジタルを視聴中に番組表ボタンを押すと、番組表（チャンネル別番組表）が表示されます（☞38ページ）。

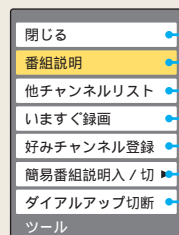
番組表を表示中に押す。
（もう1度押すと、消える。）

ツールが表示される。

で「放送切換」を選んで、で決定する。

▶が表示されている項目は、小項目が表示される。

で「BSテレビ」を選んで、で決定する。

BSデジタルのテレビ放送の番組表が表示される。

この取扱説明書では、ツールからできることを以下のように紹介しています。

例：BSデジタルを視聴中

ツールを使う

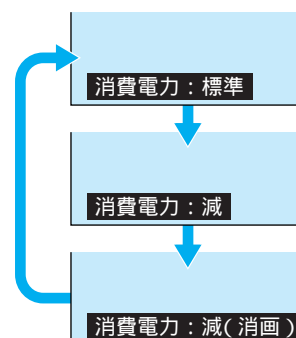
BSデジタル視聴中にツールボタンを押すと…

- **ツールを消す。**
- **番組説明を見る（☞36ページ）。**
- **現在放送中の他の番組をチェックする（☞57ページ）。**
- **視聴中の番組を録画する（☞70ページ）。**
- **好み選局にチャンネルを登録する（☞42ページ）。**
- **画面表示ボタンを押したときに、簡単な番組説明を表示するかを設定する（☞32ページ）。**
- **データ放送で通信中にのみ選べ、通信を切断する。**

本機の省エネ対応について

本機では、通常時の消費電力量を設定によって抑えたり、しばらく何も操作をしなかったときなどに自動で電源が切れるようにするなど、省エネに対応しています。

消費電力（リモコン）（☞120ページ）

リモコンの消費電力ボタン（☞120ページ）を押すたびに、右のように切り換わり、消費電力を軽減できます。
また、メニューの「消費電力減レベル」*1を設定すれば（☞120ページ）、さらに消費電力を抑えられます。
さらに、ラジオ放送などをお楽しみになるときは、消画モード（☞120ページ）にすれば、画面を消して音声のみを楽しむことができます。

*1「セットアップ」→「テレビ設定」→「各種設定」→「消費電力減レベル」を選ぶ。
選びかたは☞14ページをご覧ください。

オートシャットオフ*2

約9分間、無信号を検出すると「オートシャットオフ」と画面に表示され、その1分後に電源スタンバイになります。深夜などの放送終了後には、自動で電源スタンバイになります。

*2 アナログ放送のときのみ働きます。

無操作電源オフ（☞120ページ）

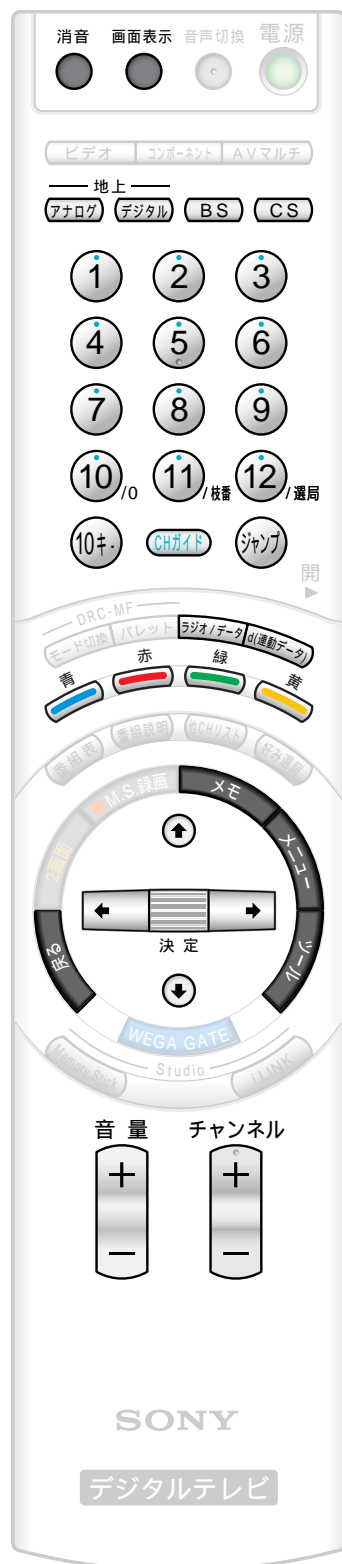
メニューの「無操作電源オフ」*3を「1時間」または「2時間」、「3時間」に設定すると、チャンネル切り換えや音量調節など、設定した時間内に何も操作をしなかったときは、「無操作電源オフにより、まもなく電源が切れます」と表示され、その1分後に電源が自動で切れます。お買い上げ時の設定は、「切」になっています。

*3「セットアップ」→「テレビ設定」→「各種設定」→「無操作電源オフ」を選ぶ。
選びかたは☞14ページをご覧ください。

オフタイマー（☞34ページ）

見ている番組の終了時間などに合わせて、自動的にテレビの電源を切るように設定できます。設定できる時間は30分、60分、90分、120分です。設定した時間が過ぎると、自動的に電源が切れ、電源スタンバイになります。

テレビを見る

テレビを見るための基本的な操作や、チャンネルの選びかたを説明しています。

このイラストは、リモコンのジョグダイヤルの上下回転操作を表します。

決定
このイラストは、リモコンのジョグダイヤルを押しこんで決定する操作を表します。

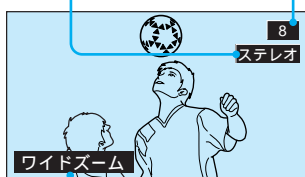
テレビを見るときの基本操作

一時的に音を消す

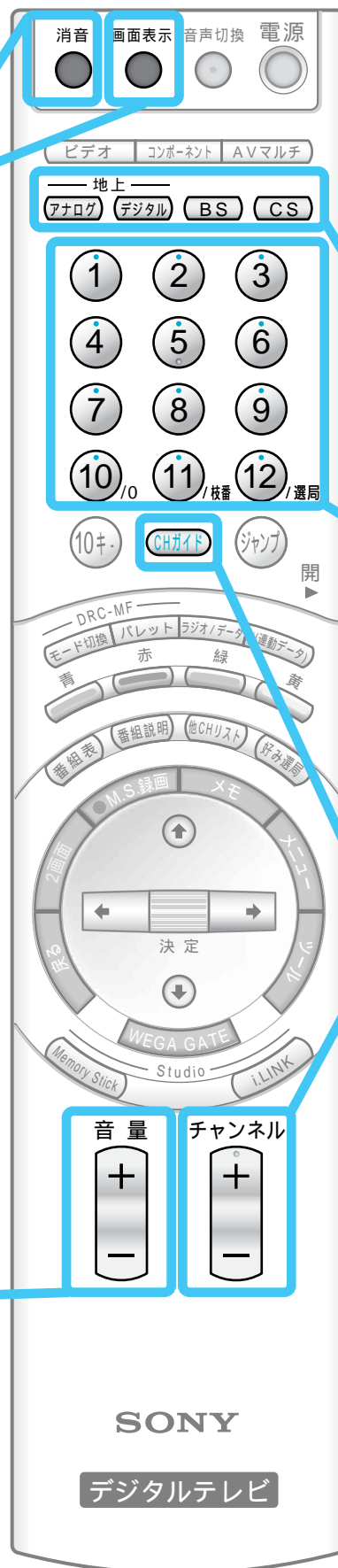
電話がかかってきたときなど、テレビの音量が気になるときに押すだけで音を消せます。

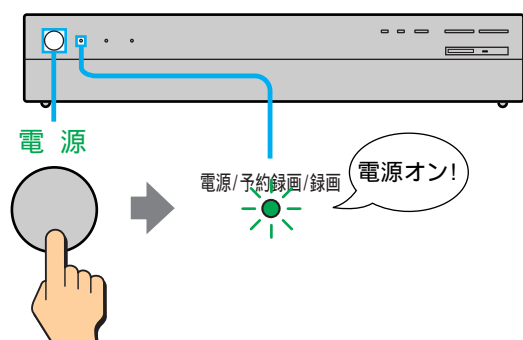
消音

押す。
（もう1度押すか、音量＋ボタンを押すと音が出る。）

チャンネル番号などを確認する

ちょっと一言
画面表示ボタンを押したあと、約5秒後に自動的に画面表示は消えます。

音量を調節する

音量表示の横にある数値も調節の目安になります。

リモコンで電源が入らないときは

メディアレシーバーの電源スイッチを押します。

ちょっと一言
メディアレシーバーの電源スイッチを押すと、同時にディスプレイの電源も入/切できます。

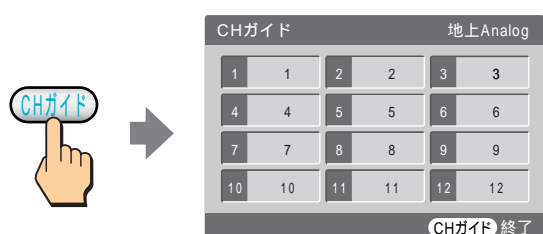
選局用のボタンで電源も入れる［チャンネルポン］

地上アナログボタン、地上デジタルボタン、BSボタン、CSボタン、①〜⑫選局の数字ボタンとチャンネル＋/－ボタンは、電源スタンバイ中（スタンバイ/オフタイマーランプが赤く点灯）に押せば、電源ボタンを押さなくても自動的に電源が入ります。

ワンタッチ選局のチャンネルを確認する［CHガイドボタン］

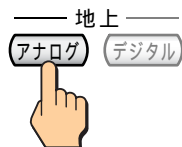
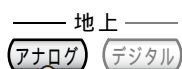
①〜⑫選局ボタンにどのチャンネルが登録されているか確認できます。

押す。
（もう1度押すと消える。）

CHガイド					地上Analog
1	1	2	2	3	3
4	4	5	5	6	6
7	7	8	8	9	9
10	10	11	11	12	12
					CHガイド 終了

見ている放送の登録チャンネルが表示される。

ちょっと一言
①〜⑫選局ボタンには、地上アナログ、地上デジタル、BSデジタル、110度CSデジタル（CS1、CS2）ごとにお好きなチャンネルを登録できます（☞248ページ）。

地上アナログ放送を見る

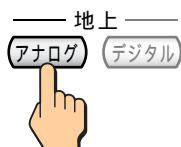
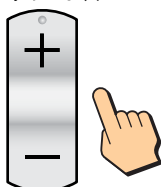
地上アナログに切り換える

ワンタッチ選局する

地上アナログになっていないときに押す。

ご注意

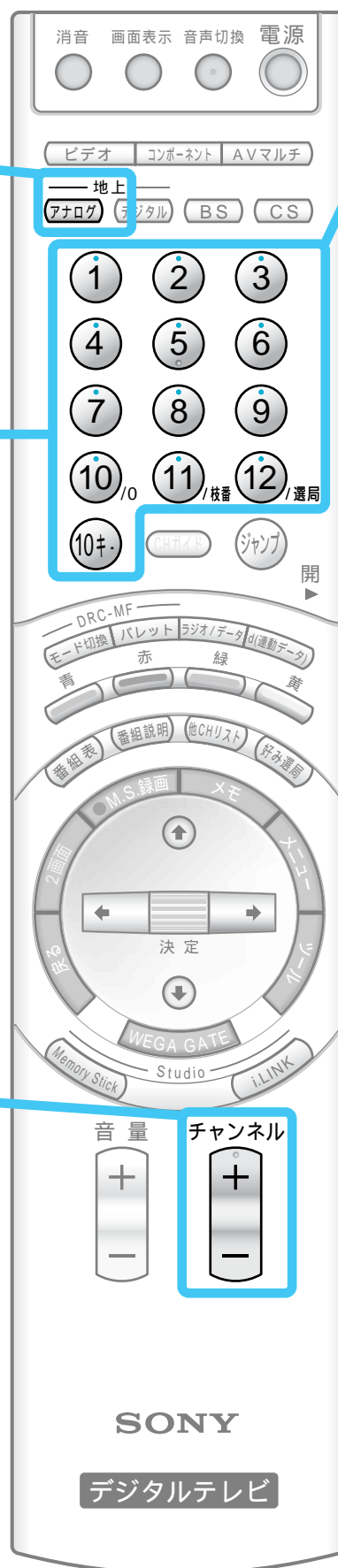
あらかじめチャンネルスキャン（☞217ページ）を行ってください。

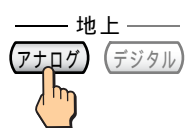
ちょっと一言

- CHガイドボタンを押すと、①〜⑫ボタンに登録されている、チャンネルを一覧表示します。
- 地上アナログ、地上デジタル、BSデジタル、110度CSデジタル（CS1、CS2）の、それぞれの放送ごとに①〜⑫ボタンにお好きなチャンネルを登録できます（☞248ページ）。

順送りで選局する

地上アナログになっていないときに押す。

押し続けると、チャンネル番号のみ早く切り換わり、離すとそのチャンネルが映る。

ちょっと一言

- シームレス選局（☞32ページ）にしているときは、視聴中の放送サービス（テレビ、ラジオ、独立データ）のチャンネルをすべての放送（地上アナログ、地上デジタル、BSデジタル、110度CSデジタル）を通して順送りします。
- チャンネル+/−ボタンを押して選局できるチャンネルは、お好みで変更できます（「チャンネル+/−ボタンや番組表で選べるチャンネルを変更する」☞251ページ）。

チャンネル番号で選局する

例：12ch**のとき**

地上アナログになっていないときに押す。

十の位から順に押す。

押せばすぐに切り換わり、押さなくても約3秒後に切り換わる。

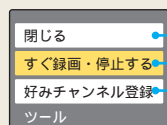
ちょっと一言

チャンネル番号が1桁のチャンネルを選局するときは、十の位を省略して入力することもできます。

例：1チャンネルを選局する

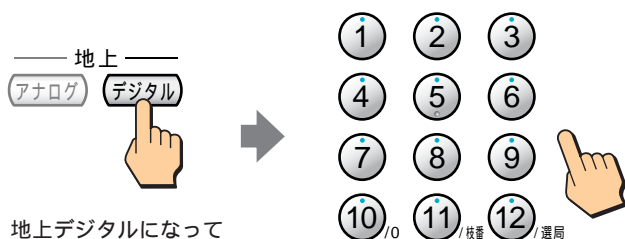
10キーボタン → ① → ⑫選局

ツールを使う（☞15ページ）

地上アナログ視聴中にツールボタンを押すと…

- 閉じる：ツールを消す。
- すぐ録画・停止する：視聴中の番組を“メモリースティック”に録画する（☞81ページ）。
- 好みチャンネル登録：好み選局にチャンネルを登録する（☞42ページ）。

地上デジタル放送を見る

地上デジタルに切り換える

ワンタッチ選局する

地上デジタルになっていないときに押す。

ご注意

あらかじめチャンネルスキャン（☞212、219ページ）を行ってください。

ちょっと一言

- CHガイドボタンを押すと、①〜⑫ボタンに登録されているチャンネルを一覧表示します。
- 地上アナログ、地上デジタル、BSデジタル、110度CSデジタル（CS1、CS2）の、それぞれの放送ごとに①〜⑫ボタンにお好きなチャンネルを登録できます（☞248ページ）。

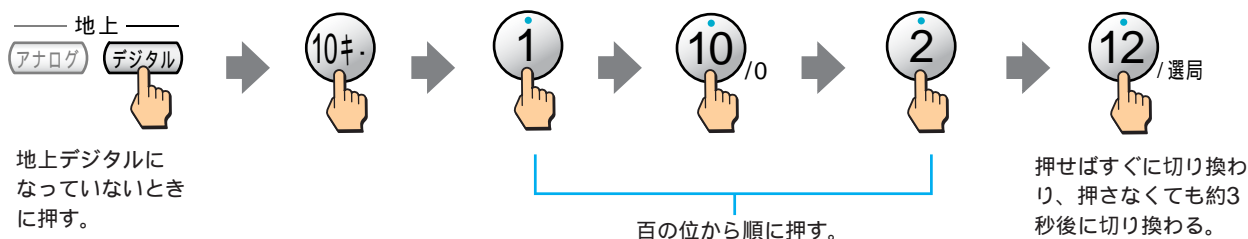
順送りで選局する

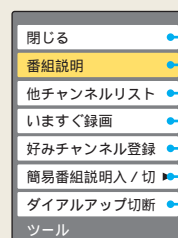
地上デジタルになっていないときに押す。

押し続けると、チャンネル番号のみ早く切り換わり、離すとそのチャンネルが映る。放送サービス（テレビまたは独立データ）の中で順送りされる。

ちょっと一言

- 放送サービス（テレビまたは独立データ）を切り換えるときは、ラジオ/データボタンを押してください。
- シームレス選局（☞32ページ）にしているときは、視聴中の放送サービス（テレビ、ラジオ、独立データ）のチャンネルをすべての放送（地上アナログ、地上デジタル、BSデジタル、110度CSデジタル）を通して順送りします。
- チャンネル＋/－ボタンを押して選局できるチャンネルは、お好みで変更できます（「チャンネル＋/－ボタンや番組表で選べるチャンネルを変更する」☞251ページ）。

3桁のチャンネル番号で選局する

他の方法で番組を選ぶには

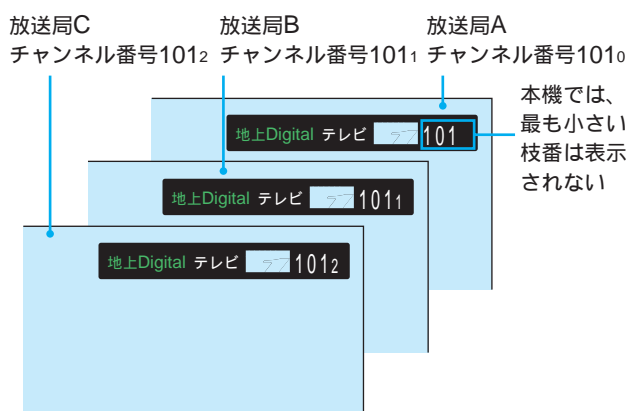
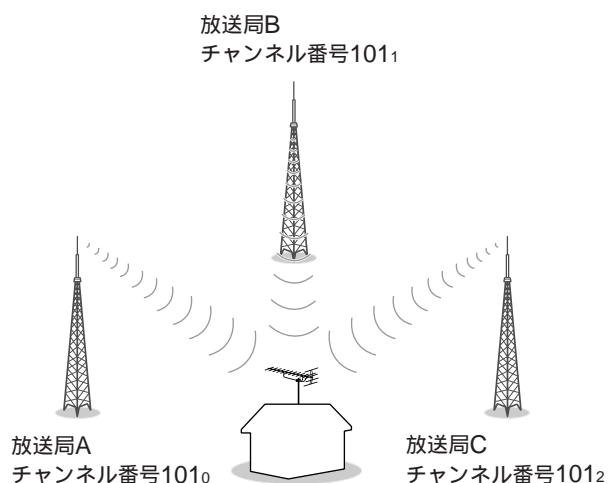
番組表（☞38ページ）
好み選局（☞42ページ）
番組検索（☞44ページ）
CHインデックス（☞55ページ）
他チャンネルリスト（☞57ページ）

次のページにつづく

地上デジタル放送を見る（つづき）

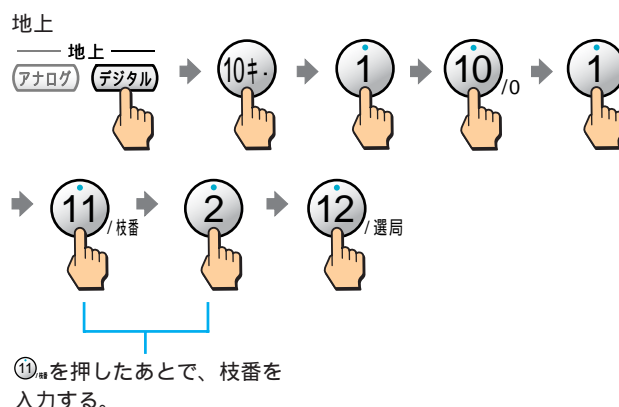
チャンネル番号の枝番について

枝番とは？

お住まいの地域によって複数地域の放送を受信できるときは、チャンネル番号が重なることがあります。枝番とは、このようなときに区別するために、3桁のチャンネル番号の後につく番号です。本機では、一番小さい枝番のついているチャンネルは、枝番を表示しません。

例：101チャンネルを3つの放送局で使用する場合
「0」～「2」または「1」～「3」の枝番が割り当てられます。

枝番がついている3桁のチャンネル番号で選局するには

例：101_2chのとき

⑪を押したあとで、枝番を入力する。

チャンネル＋/－ボタンで順送り選局するには

チャンネル＋/－ボタンを押すたびに、下記のように切り換わります。

例：チャンネル011と013に枝番がある場合

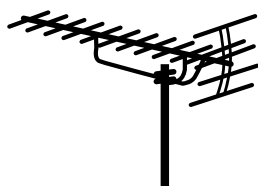
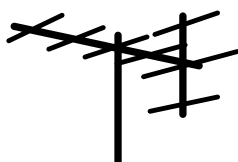
…「011」→「012」→「013」→「011_1」→「013_1」→「021」…

地上デジタルが受信できないときは

地上デジタルは2003年12月から一部の地域で放送が開始されています。その後、受信できる地域は徐々に増えていきますので、お住まいの地域が地上デジタルを受信できる地域かどうかをご確認ください。
また、受信できる地域でも地上波アンテナの調整が必要な場合があります。
お買い上げ店などにご相談ください。

アンテナについて

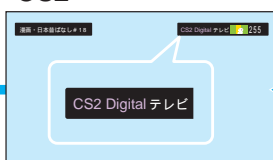
地上デジタルを受信するためには、地上デジタル対応のUHFアンテナをつなぐ必要があります。現在、使用しているアンテナが地上デジタル対応であれば、アンテナを変えることなく、そのまま受信できます。また、VHFアンテナでは地上デジタルを受信できません。
ただし、地域によっては、地上デジタルの送信塔の方向が現在受信している地上アナログと異なる場合は、アンテナの向きを変える必要があります。地上アナログ受信用のアンテナ（VHFアンテナ）とは別に、地上デジタル受信用のアンテナ（UHFアンテナ）をお使いになるときは、VHFとUHFを混合する必要があります。詳しくは、お買い上げ店などにご相談ください。

UHFアンテナ
地上デジタルを受信できます。

VHFアンテナ
地上デジタルを受信できません。

地上デジタル放送ケーブルテレビ（CATV）パススルー対応方式について

ケーブルテレビでは、地上デジタル放送を伝送する方式として、同一周波数パススルー方式や周波数変換パススルー方式、トランスモジュレーション方式があります。どの伝送方式でサービスがされるかは、ケーブルテレビ放送会社により異なりますので、詳しくは、お住まいの地域のケーブルテレビ放送会社にお問い合わせください。
なお、本機は同一周波数パススルー方式、および周波数変換パススルー方式ともに、すべての周波数に対応しています。

送信方式	内容
パススルー方式	受信した電波を変調方式を変えずに伝送する方式。
同一周波数パススルー方式	地上デジタル放送が使用するUHF帯の電波を、放送の周波数のままでケーブルテレビ網に再送信する方式。変換後の周波数がUHF帯以外の帯域の場合は、UHF帯以外の帯域まで受信範囲が拡大されている地上デジタル放送対応テレビまたは、外付けの地上デジタル放送対応チューナーが必要です。
周波数変換パススルー方式	受信した地上デジタル放送波を、放送の周波数とは異なる周波数に周波数変換してケーブルテレビ網に再送信する方式。
トランスモジュレーション方式	受信した地上デジタル放送波を、ケーブルテレビに適した変調方式に変換して伝送する方式。ケーブルテレビ専用のSTB（セットトップボックス）をつなぐことにより、地上デジタルチューナーがないテレビでも受信が可能です。詳しくは、ケーブルテレビ放送会社にお問い合わせください。

BSデジタル・110度CSデジタル放送を見る

BSデジタルまたは110度CSデジタルに切り換える

ワンタッチ選局する

BSデジタルになっていないときに押す。

110度CSデジタルになっていないときに押す。押すたびに、衛星サービスが切り換わる。

ちょっと一言

- CHガイドボタンを押すと、①〜⑫選局ボタンに登録されている、今見ている放送のチャンネルを一覧表示します。
- 地上アナログ、地上デジタル、BSデジタル、110度CSデジタル（CS1、CS2）の、それぞれの放送ごとに①〜⑫選局ボタンにお好きなチャンネルを登録できます（☞248ページ）。

順送りで選局する

BSデジタルになっていないときに押す。

110度CSデジタルになっていないときに押す。押すたびに、衛星サービスが切り換わる。

押し続けると、チャンネル番号のみ早く切り換わり、離すとそのチャンネルが映る。放送サービス（テレビ、ラジオ、独立データ）の中で順送りされる。

ちょっと一言

- 放送サービス（テレビまたはラジオ、独立データ）を切り換えるときは、ラジオ/データボタンを押してください。
- シームレス選局（☞32ページ）にしているときは、視聴中の放送サービス（テレビ、ラジオ、独立データ）のチャンネルをすべての放送（地上アナログ、地上デジタル、BSデジタル、110度CSデジタル）を通して順送りします。
- チャンネル＋/－ボタンを押して選局できるチャンネルは、お好みで変更できます（「チャンネル＋/－ボタンや番組表で選べるチャンネルを変更する」☞251ページ）。

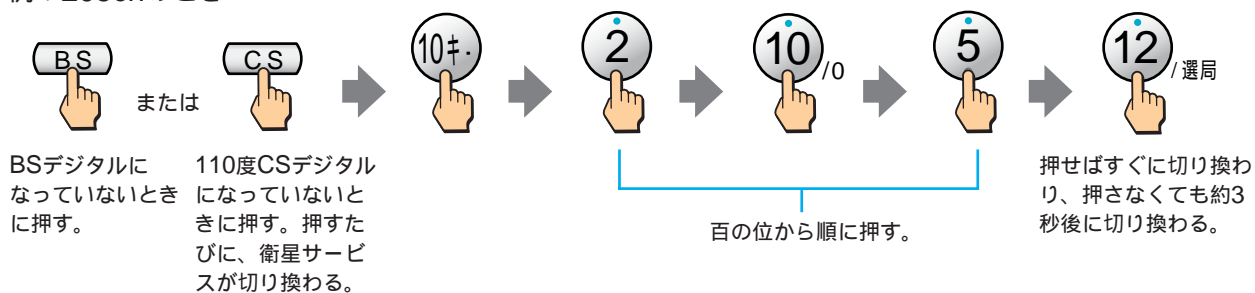
3桁のチャンネル番号で選局する

例：205chのとき

または

BSデジタルになっていないときに押す。

110度CSデジタルになっていないときに押す。押すたびに、衛星サービスが切り換わる。

百の位から順に押す。

押せばすぐに切り換わり、押さなくても約3秒後に切り換わる。

お買い上げ時にワンタッチ選局で選べるBSデジタルのチャンネル

数字ボタン	チャンネル番号	数字ボタン	チャンネル番号
①	101	⑦	171
②	102	⑧	181
③	103	⑨	191
④	141	⑩/0	200
⑤	151	⑪	–
⑥	161	⑫/選局	–

お買い上げ時にワンタッチ選局で選べる110度CSデジタルのチャンネル

CS1

数字ボタン	チャンネル番号	数字ボタン	チャンネル番号
①	001	⑦	700
②	999	⑧	–
③	963	⑨	090
④	011	⑩/0	–
⑤	055	⑪	–
⑥	900	⑫/選局	–

CS2

数字ボタン	チャンネル番号	数字ボタン	チャンネル番号
①	100	⑦	170
②	110	⑧	182
③	123	⑨	194
④	128	⑩/0	190
⑤	250	⑪	235
⑥	160	⑫/選局	–

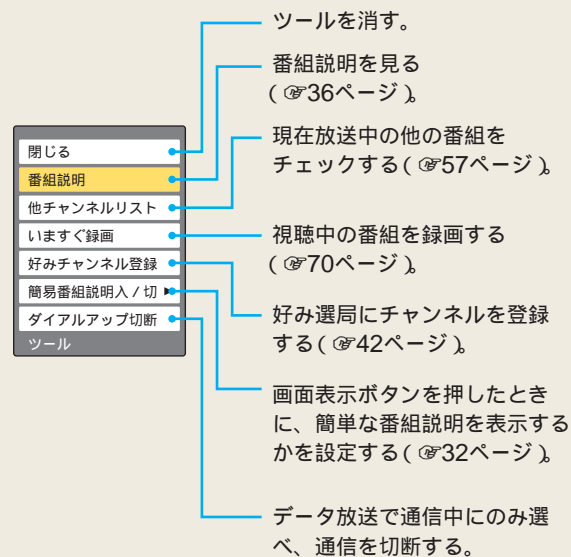
他の方法で番組を選ぶには

番組表（☞38ページ）
好み選局（☞42ページ）
番組検索（☞44ページ）
CHインデックス（☞55ページ）
他チャンネルリスト（☞57ページ）

ご注意

本機はepサービスには対応していません。
epサービスは、イーピー株式会社が提供するeプラットフォームサービスです。epサービスについて詳しくは、イーピー株式会社にお問い合わせください。

ツールを使う（☞15ページ）

BSデジタル・110度CSデジタル視聴中にツールボタンを押すと…

ラジオ/データ放送を楽しむ

デジタル放送にはテレビの他に、ラジオ放送とデータ放送があります。

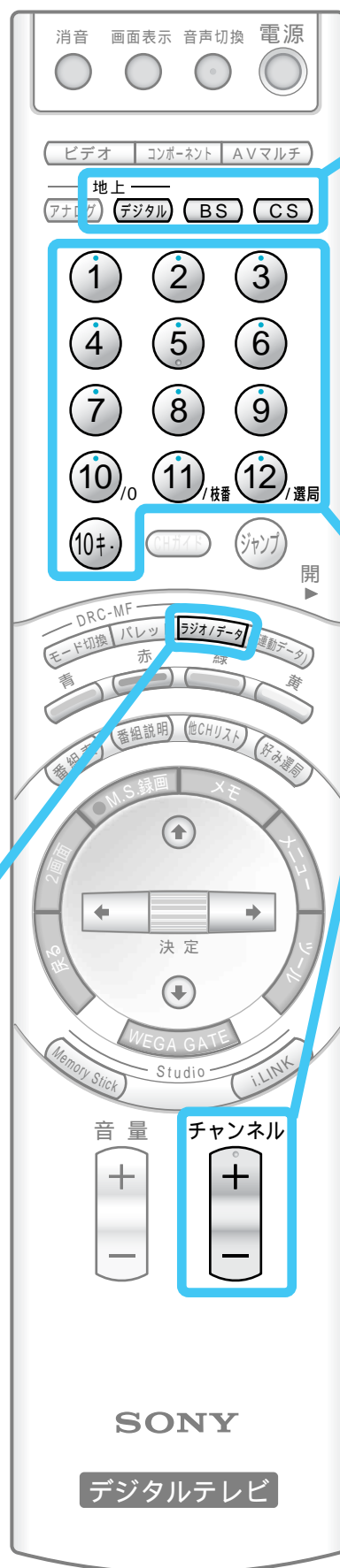
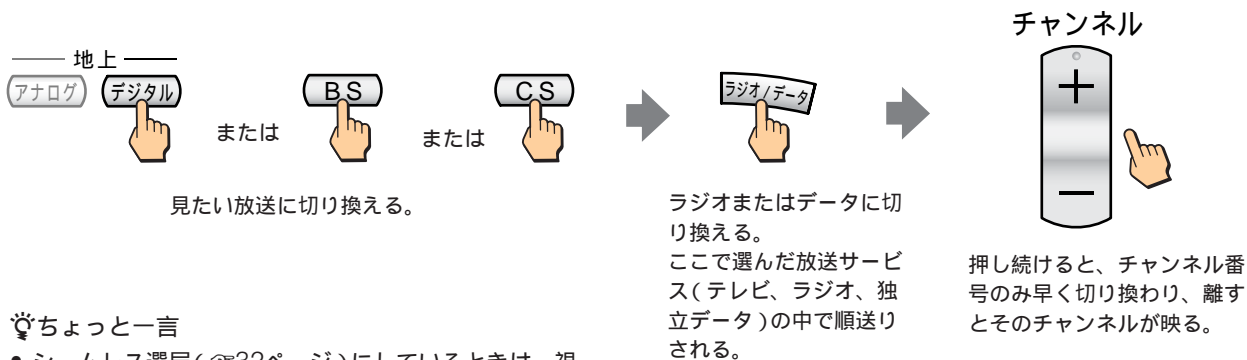
ラジオ放送
画像や連動したデータを楽しめるラジオ放送と、音声のみのラジオ放送があり、番組によっては、音楽CD並みの高音質が楽しめます。

データ放送
データのみを専門に放送する独立データ放送と、デジタル放送のテレビやラジオの番組に連動して見ることができる連動データ放送があります。
様々なニュースや情報を見たり、クイズやゲームなど双方向サービスを楽しんだりできます。
ここでは、独立データ放送を楽しむための操作について説明しています。

ラジオ、データに切り換える

押すたびに下記のように切り換わる。

テレビ→ラジオ→独立データ

ちょっと一言
連動データはテレビ、ラジオを視聴中にd（連動データ）ボタンを押して切り換えます（☞30ページ）。

順送りで選局する

または

または

見たい放送に切り換える。

ラジオまたはデータに切り換える。
ここで選んだ放送サービス（テレビ、ラジオ、独立データ）の中で順送りされる。

押し続けると、チャンネル番号のみ早く切り換わり、離すとそのチャンネルが映る。

ちょっと一言

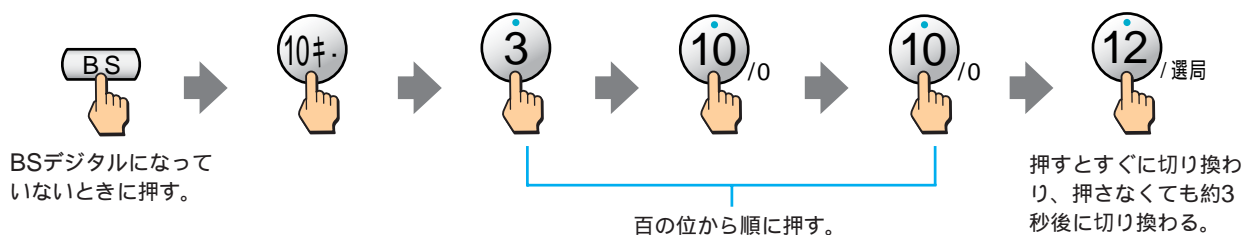
- シームレス選局（☞32ページ）にしているときは、視聴中の放送サービス（テレビ、ラジオ、独立データ）のチャンネルをすべての放送（地上アナログ、地上デジタル、BSデジタル、110度CSデジタル）を通して順送りします。
- チャンネル+/−ボタンを押して選局できるチャンネルは、お好みで変更できます（「チャンネル+/−ボタンや番組表で選べるチャンネルを変更する」☞251ページ）。

3桁のチャンネル番号で選局する

例：BSデジタルの300chのとき

BSデジタルになっていないときに押す。

百の位から順に押す。

押すとすぐに切り換わり、押さなくても約3秒後に切り換わる。

ちょっと一言

- 連動データはテレビ、ラジオの番組を視聴中にd（連動データ）ボタンを押して切り換えます（☞30ページ）。連動データのない番組では、切り換わりません。
- ①〜⑫の数字ボタンにラジオや独立データのチャンネルを登録しておけば、数字ボタンを押すだけで切り換えられます。詳しくは、「ワンタッチ選局できるチャンネルを変更する」（☞248ページ）をご覧ください。

次のページにつづく

データ放送を楽しむ

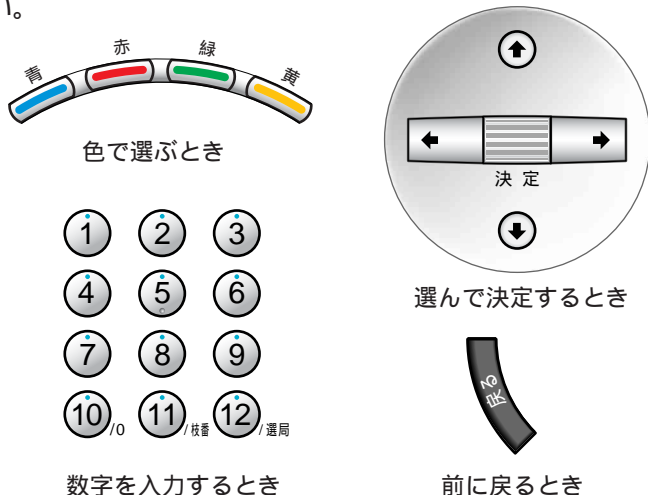
データ放送の画面で何かを選んだり入力したりするときは

詳しくは、画面の指示に従って、リモコンを操作してください。

色で選ぶとき

数字を入力するとき

選んで決定するとき

前に戻るとき

連動データ放送に切り換えるには

連動データ放送は、デジタル放送のテレビやラジオの番組に連動しているデータ放送です。

押す。

データ放送が行われていれば、「データ取得中です」と表示されたあと、画面が切り換わる。

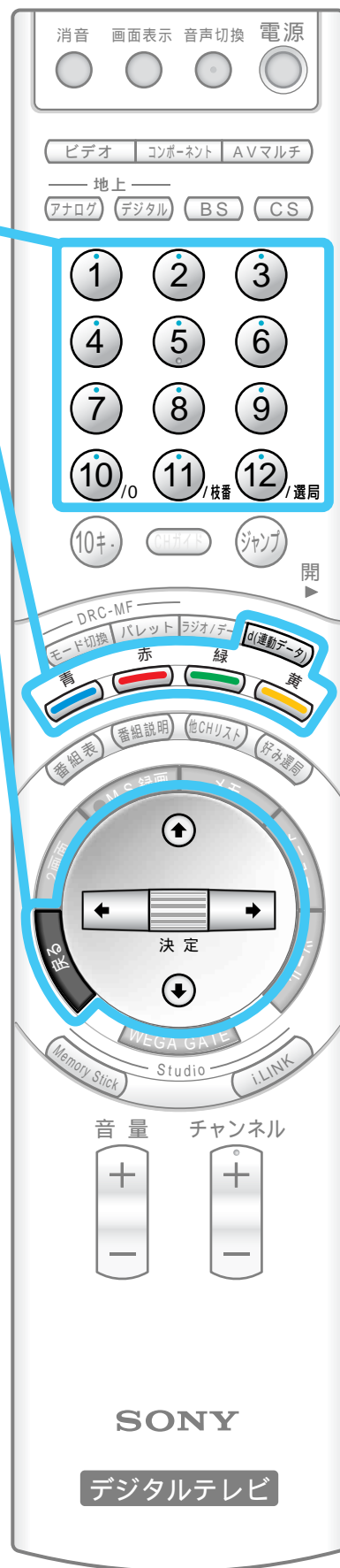
視聴中の番組

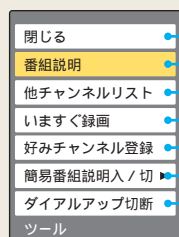
情報欄（ニュースなど）

ご注意

連動データ放送は、チャンネル＋/－ボタンや、数字ボタン、ラジオ/データボタンでは選べません。

ちょっと一言

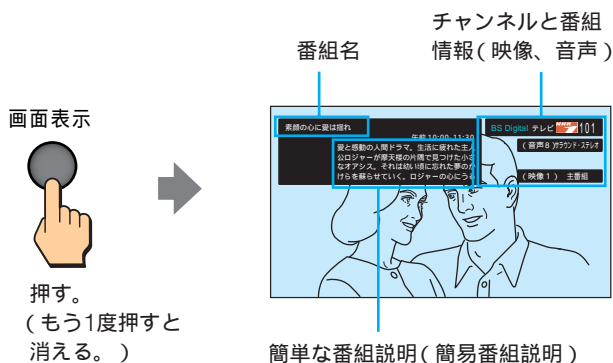
- データ放送の文字や記号の入力で、ソフトウェアキーボードを使えるときは、自動的にソフトウェアキーボードが表示されます。
- データ通信をするときに、登録しておいて、あとで通信することができます。詳しくは、「放送局と情報をやりとりする［登録発呼］」（☞101ページ）をご覧ください。
- お気に入りのデータ放送を登録しておいて、簡単に呼び出すことができます。詳しくは、「お気に入りのデータ放送を登録する［ブックマーク］」（☞104ページ）をご覧ください。
- 終了する場合も、画面の指示に従ってください。d（連動データ）ボタンや戻るボタンで終了できる場合もあります。

データ放送の番組を楽しむときは

- あらかじめ電話回線の接続（☞202ページ）と設定（☞228ページ）を行ってください。
- 番組によっては、デジタル放送のデータ番組が自動的に画面に表示されることがあります。
- リモコンやメディアレシーバーのボタンは、デジタル放送のデータ番組で使うときだけ機能が変わる場合があります。番組の指示に従ってください。
- デジタル放送のデータ番組では、メディアレシーバーにつないだ電話回線を使って通信を行う場合があります。通信中（メディアレシーバー前面の通信ランプが点灯）は、電話機やファクシミリなど同一回線上の通信機器は使えません。また、通話料がかかる場合があります。

ちょっと便利な機能

直前のチャンネルに戻る

放送の種類（地上アナログ、地上デジタル、BSデジタル、110度CSデジタル）にかかわらず、直前のチャンネルに戻れます。

見ているチャンネルの番号など、情報を確認する

見ている番組の情報や、チャンネルなどを確認できます。

ちょっと一言
画面表示ボタンを押したあと、約5秒後に自動的に画面表示は消えます。

簡易番組説明について

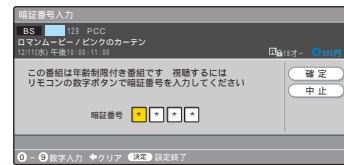
「簡易番組説明入/切」を「入」に設定しておくと、画面表示ボタンを押したときに、見ている番組の放送時間やあらすじも表示します。
詳しい番組説明や、放送予定の番組の説明を見るときは、「番組説明を見る」（☞36ページ）をご覧ください。

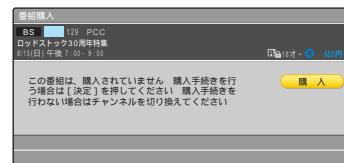
簡易番組説明を表示するには

- **「セットアップ」メニューから**
  「セットアップ」→「デジタル放送設定」→「表示設定」→「簡易番組説明入/切」→「入」を選ぶ。
- **デジタル放送視聴中にツールから**
  「簡易番組説明入/切」→「入」を選ぶ。
- **i.LINK Studioで再生中にツールから**
  「簡易番組説明入/切」→「入」を選ぶ。

選びかたは☞14ページをご覧ください。

視聴年齢制限付き番組を選んだときは

「暗証番号入力」画面が表示されます。①～⑩までの数字ボタンまたはで4桁の暗証番号（☞255ページ）を入力してください。

番組購入画面が出たときは

ペイ・パー・ビュー（PPV）番組のため、視聴するには別途料金がかかります（☞96ページ）。
購入するときは、画面の指示に従って、購入手続きを行ってください。

ちょっと一言
デジタル放送のPPV番組の先月分と今月分の購入概算金額を確認できます（☞97ページ）。

シームレス選局にする

チャンネル＋/－ボタンを押したときに、テレビ、ラジオ、独立データの放送サービスごとに、地上アナログ、地上デジタル、BSデジタル、110度CSデジタルのすべてのチャンネルを順送りで選べるように設定できます。

例：BSデジタル独立データを見ているときに、チャンネル＋/－ボタンを押すと
以下の順ですべての独立データのチャンネルを順送りで切り換えます。

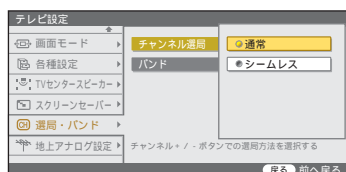
BS Digitalデータ → CS1 Digitalデータ
↑ ↓
地上 Digitalデータ ← CS2 Digitalデータ

1 **メニューボタンを押して、メニューを出す。**

2 **で「セットアップ」を選んで、で決定する。**

3 で「テレビ設定」を選んで、決定で決定する。

4 で「選局・バンド」を選んで、決定で決定する。

5 で「チャンネル選局」を選んで、決定で決定する。

6 で「シームレス」を選んで、決定で決定する。

「通常」（お買い上げ時の設定）：視聴中の放送内で、視聴中の放送サービス（テレビ、ラジオ、独立データ）のチャンネルを順送りします。

「シームレス」：すべての放送を通して、視聴中の放送サービス（テレビ、ラジオ、独立データ）のチャンネルを順送りします。

7 戻るボタンをくり返し押して、設定画面を消す。

メモするために画面を静止させる

視聴者プレゼントの応募先や料理の材料など、メモしたい場面を静止画像で確認できます。

押す。
（もう1度押すとメモした画面を解除する。）

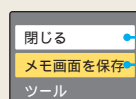
地上アナログとビデオ2、3、4入力のときは

メモ画面が表示されます。
「閉じる」を選ぶと、消えます。

ちょっと一言

- 地上アナログとビデオ2、3、4入力のときは、メモした画面を“メモリースティック”に保存できます（☞86ページ）。ただし、“メモリースティック”録画実行中は保存できません。
- メモ画面を消しても、ツールからメモした画面を保存できます。

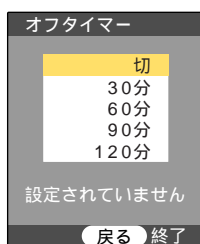
ご注意

- 2画面やCHインデックス、ラジオ、独立データの画像、Memory Stick Studioのときは、メモボタンは働きません。
- メモ中に、チャンネルや入力を切り換えると、メモした画面を解除します。
- メモリースティックエラーになるときは、メモした画面を保存できません。

自動で電源を切る［オフタイマー］

本機をつけたままでも、設定した時間（30分、60分、90分または120分）が過ぎると、自動的に電源が切れ、電源スタンバイ（メディアレシーバー前面のスタンバイ/オフタイマーランプが赤く点灯）になります。
お買い上げ時は、「切」に設定されています。

1 メニューボタンを押して、メニューを出す。

2 で「画質/各種切換」を選んで、決定で決定する。

3 で「オフタイマー」を選んで、決定で決定する。

4 で設定したい時間を選んで、決定で決定する。
メディアレシーバー前面のスタンバイ/オフタイマーランプとディスプレイのTIMER◴ランプが点灯します。

5 戻るボタンを押して、設定画面を消す。

オフタイマーを途中でやめるには
手順4で「切」を選ぶか、電源を入れ直す。

ご注意

“メモリースティック”の「すぐ録画する・停止する」で録画中に、オフタイマーで電源スタンバイ（スタンバイ/オフタイマーランプが赤く点灯）になったときは、その時点で録画を停止し、電源スタンバイになる直前までのデータを“メモリースティック”に記録します。
“メモリースティック”に「終了時間を決めて録画する」および「日時を決めて録画予約する」で録画中にオフタイマー設定で電源スタンバイになったときは、“メモリースティック”の残量に余裕があるかぎり設定時間まで録画を続けます。

このイラストは、リモコンのジョグダイヤルの上下回転操作を表します。

決定

このイラストは、リモコンのジョグダイヤルを押しこんで決定する操作を表します。

番組のいろいろな選びかた・探しかた

地上デジタルなど放送の種類が増えたため、チャンネルや番組のジャンルも多彩になっています。
この章では、多くの番組の中から、簡単にすばやく見たい番組を探したり、番組の詳しい説明を見るための操作などを説明しています。

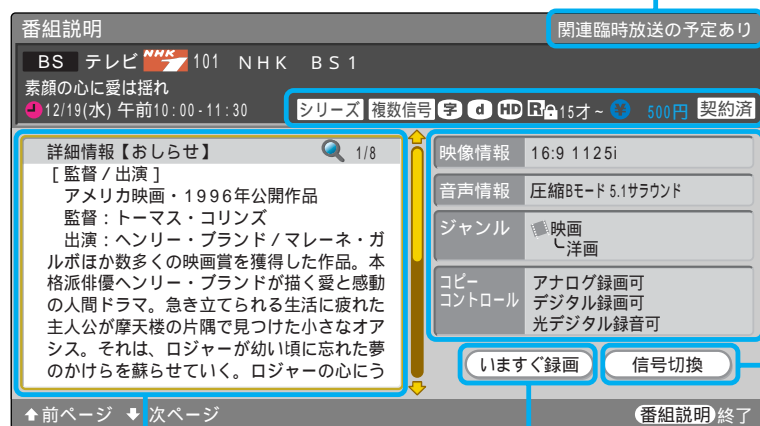
番組説明を見る
[番組説明ボタン]

地上デジタルやBSデジタル、110度CSデジタル放送の番組の、番組名やあらすじ、出演者、映像/音声情報、ジャンルなど詳しい情報を見ることができます。

番組説明を見る

デジタル放送視聴中に押す。
（もう1度押すと消える。）

下記の番組はフィクションであり、実際の放送局での放送内容や、実際の人物、地名などとは関係ありません。

視聴中の番組の番組説明

番組の状況
「開始前」や「終了」など

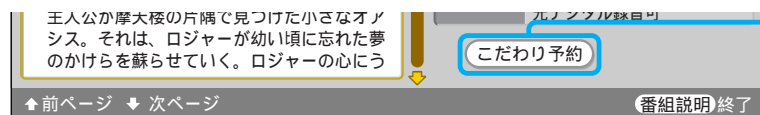
マーク（☞37ページ）

番組情報欄
「映像情報」（☞135ページ）
「音声情報」（☞141ページ）
「ジャンル」（☞44ページ）
「コピーコントロール」（☞87、284ページ）：
録画や録音についての情報

「信号切換」（☞93ページ）：
映像/音声信号の情報を見ることができます。
また、映像/音声が複数あるときは、信号を切り換えられます。

「いますぐ録画」（☞70ページ）：
「いますぐ録画」設定画面を表示します。

番組内容表示欄
でページをスクロールします。
1/8は8ページ中の1ページ目の意味です。
：キーワード検索（☞44ページ）の対象となる番組情報。
が表示されているページは、キーワード検索の対象となりません。

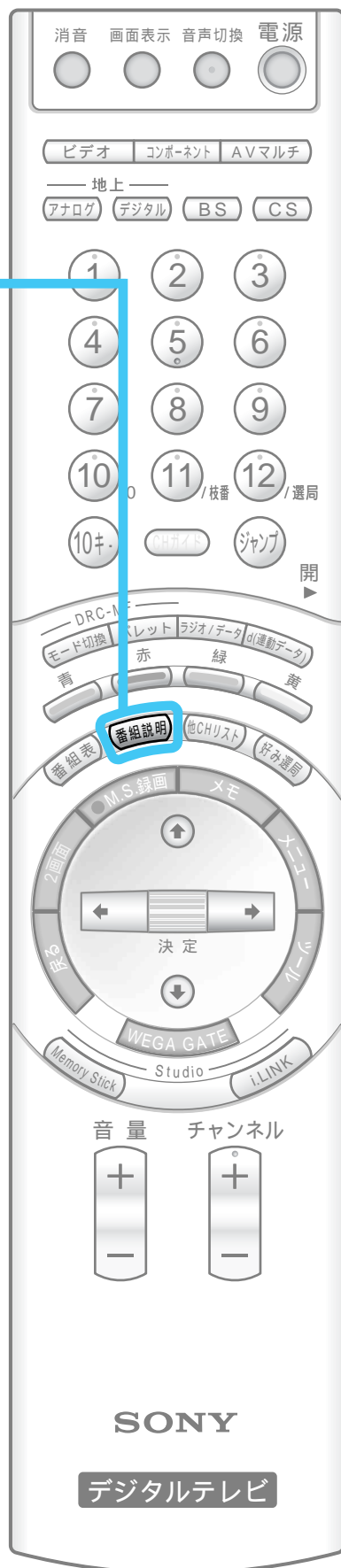
放送開始前の番組の番組説明

「こだわり予約」または「予約取消」（☞65、73、77ページ）：
「こだわり予約」設定画面を表示します。すでに予約しているときは、予約を取り消せます。

ちょっと一言
放送開始前の番組の番組説明は、番組表（☞38ページ）や検索結果画面（☞53ページ）、予約一覧画面（☞76ページ）で放送開始前の番組を選んだときに表示されるサブメニューから「番組説明」を選ぶと表示できます。

画面上のボタンや項目を選ぶには
/←/→で選んで、で決定します。

左右に移動
決 定
上下移動と決定

他の方法でも表示できます
- **番組視聴中にツールから**
  「番組説明」を選ぶ。
- **i.LINK再生中にツールから**
  「番組説明」を選ぶ。
- **番組表や検索結果画面、予約一覧画面から**
  で番組を選んで、で決定すると表示されるサブメニューから「番組説明」を選ぶ。

選びかたは☞14ページをご覧ください。

番組説明からできること

番組説明画面上のボタンや項目を選ぶと、次のようなことができます。

ボタン/項目	できること
「信号切換」	映像/音声信号の情報を見ることができます。また、第2映像や第2音声など信号が複数あるときは視聴したい信号を選べます（☞93ページ）。
「いますぐ録画」*1	視聴中の番組の録画に進めます（☞70ページ）。
「こだわり予約」*2	録画予約や視聴予約に進めます（☞65、73ページ）。
「予約取消」*2	すでに予約済みの番組のときは「こだわり予約」の代わりに「予約取消」が表示されます。番組の予約が取り消せます。

*1 視聴中の番組の番組説明でのみ表示されます。
*2 放送開始前の番組の番組説明でのみ表示されます。

表示マークの意味

字 ： 字幕のある放送（☞94ページ）
d ： テレビやラジオと連動しているデータ放送（☞30ページ）
MV ： マルチビュー放送（☞92ページ）
HD ： デジタルハイビジョン信号HD（☞135ページ）
SD ： 標準テレビ信号SD（☞135ページ）
R ： 視聴年齢制限付き番組（☞32、255ページ）
¥XXX円 ： ペイ・パー・ビュー（PPV）など有料番組（☞96ページ）と料金
： 録画予約した番組（☞63、65、70ページ）
： 視聴予約した番組（☞72ページ）
： キーワード検索（☞44ページ）の対象となる番組情報
が表示されているページは、キーワード検索の対象となりません。
シリーズ：野球中継や季節ごとの番組（毎週/毎回に属さないもの）
複数信号：第2映像など複数の映像/音声信号がある番組
契約済/未契約：放送事業者との契約が済んでいるかどうか（☞227ページ）

ちょっと一言

MV、HDまたはSDは同じ場所に表示されるため、いずれか1つが表示されます。

番組表で見たい番組を選ぶ［番組表ボタン］

地上デジタル、BSデジタル、110度CSデジタルでは、放送局が送信する番組情報を元に、番組表（EPG*）を約1週間先まで見ることができます。

* EPGは、電子番組表（Electronic Program Guide（エレクトロニック・プログラム・ガイド））の略です。

番組表を見る

チャンネル別番組表

デジタル放送視聴中に押す。
（もう1度押すと消える。）

番組表にはチャンネル別と時刻別があります。**チャンネル別番組表は、現在放送中の番組から放送時刻順に表示され、←/→でチャンネルを切り換えられます。**
見たい番組を放送するチャンネルがわかっているときに便利です。

放送と放送サービス
放送（地上デジタル、BSデジタル、110度CSデジタル）と放送サービス（テレビ、ラジオ、独立データ）の種類。見ている番組に関係なく切り換えられる。

日付と時間帯

チャンネル表示欄
現在、番組表に表示中のチャンネル。
←/→で、番組表に表示したいチャンネルを選べます。
❶～⓬が表示されているのは、数字ボタンでワンタッチ選局（☞22、26ページ）できるチャンネルです。

番組一覧
放送時間と番組名が表示されます。
現在の時間は青く表示されます。

**　　　　で選んでいる番組の情報**

：録画予約した番組
（☞63、65、70ページ）

：視聴予約した番組
（☞72ページ）

｜：予約が重なっている番組
他のチャンネルで同じ時間帯に予約があるときに表示します。

操作ガイド表示欄
番組表を表示中にリモコンのカラーボタンとツールボタンを使ってできることをガイド表示します。

青：前日へ切り換えます。
赤：翌日へ切り換えます。
緑：番組表の放送（地上デジタル、BSデジタル、110度CSデジタル）を切り換えます。押すたびに、次のように切り換わります。
地上 Digital → BS Digital → CS1 Digital → CS2 Digital
黄：時刻別番組表に切り換えます。もう1度押すと、チャンネル別番組表に戻ります。
ツール：ツールを表示します（☞41ページ）。

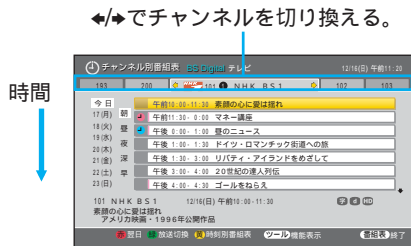
他の方法でも表示できます

- **メニューから**
「番組表・予約」→「チャンネル別番組表」を選ぶ。
- **i.LINK操作画面から**
「番組表予約」を選ぶ。

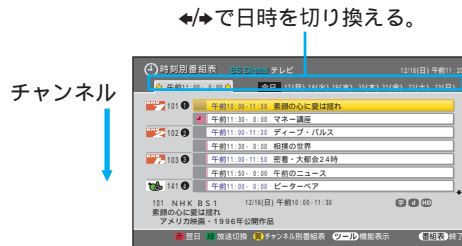
選びかたは☞14ページをご覧ください。

上記の番組はフィクションであり、実際の放送局での放送内容や、実際の人物、地名などとは関係ありません。

見たい番組が決まっているときは [チャンネル別番組表]

←/→でチャンネルを切り換える。

押すたびに
切り換わる。

見たい時間帯が決まっているときは [時刻別番組表]

←/→で日時を切り換える。

チャンネル

時刻別番組表

番組表にはチャンネル別と時刻別があります。時刻別番組表は、チャンネル別番組表を表示しているときに、黄ボタンを押して表示します。**←/→で時間帯や日付を切り換えられます。**いつ見るか予定が決まっているときなどに便利です。

時間帯表示欄
現在番組表に表示中の時間帯。
←/→で、番組表に表示したい時間帯を1時間ごとに選べます。

日付表示欄
現在番組表に表示中の日付。
←/→で、番組表に表示したい日付を選べます。

ご注意

複数のチャンネルで同時に同じ番組を放送（イベント共有）しているときは、代表チャンネルのみ表示されます。

ちょっと一言

地上デジタルはチャンネル番号順に表示されないことがあります。

他の方法でも表示できます

メニューから
「番組表・予約」→「時刻別番組表」を選ぶ。
選びかたは☞14ページをご覧ください。

表示マークの意味

- 字 ： 字幕放送（☞94ページ）
- d ： テレビやラジオと連動しているデータ放送（☞30ページ）
- MV ： マルチビュー放送（☞92ページ）
- HD ： デジタルハイビジョン信号HD（☞135ページ）
- SD ： 標準テレビ信号SD（☞135ページ）
- R🔒 ： 視聴年齢制限付き番組（☞32、255ページ）
- ¥ ： ペイ・パー・ビュー（PPV）など有料番組（☞96ページ）

ちょっと一言

MV、HDまたはSDは同じ場所に表示されるため、いずれか1つが表示されます。

他に、放送局から、番組の種類を表すマークが付いてくる場合があります。以下はその一例です。

- 二 ： 二か国語放送（☞138ページ）
- S ： ステレオ放送（☞141ページ）
- 字 ： 字幕放送（☞94ページ）
- B ： 圧縮Bモードステレオ放送（☞141ページ）
- N ： ニュース番組

ご注意

地上アナログの番組表（EPG）信号には対応していないため、地上アナログの番組表はありません。

ちょっと一言

番組表に表示できるチャンネルを変更するには☞251ページをご覧ください。

番組表で見たい番組を選ぶには…

次のページにつづく

番組表で見たい番組を選ぶ

チャンネル別番組表

時刻別番組表

で番組を選んで、で決定する。
サブメニューが表示されます。

現在放送中の番組を選んだときは

サブメニュー

で「選局」を選んでで決定すると、番組を表示できます。

選んだチャンネルの画面になる。

放送開始前の番組を選んだときは

サブメニュー

録画予約や視聴予約に進めます。

視聴予約するときは

で「かんたん視聴予約」または「こだわり予約」を選んで、で決定します（☞72、73ページ）。

録画予約するときは

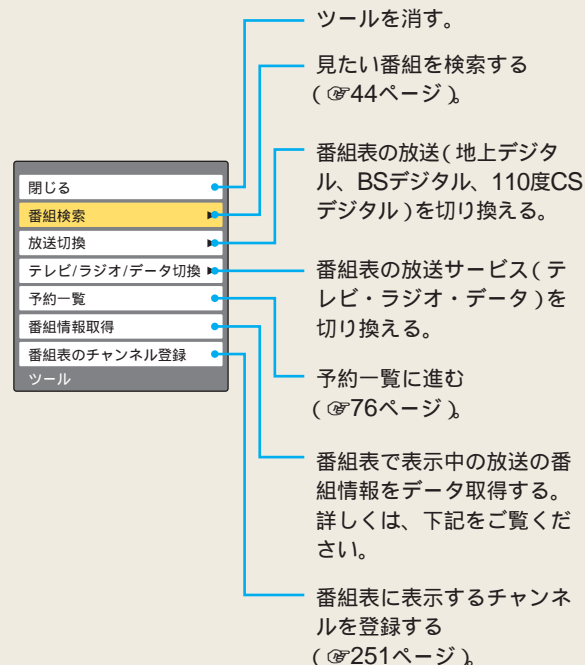
で「かんたん録画予約」または「こだわり予約」を選んで、で決定します（☞63、65ページ）。

番組表に表示されている番組の番組説明を見るには

で番組を選び、番組説明ボタンを押す。

サブメニューからできること

項目	できること
「戻る」	サブメニューを消して、他の番組を選べます。
「選局」*1	選んだ番組に切り換えます。
「番組説明」	番組説明を見ることができます（☞36ページ）。
「かんたん視聴予約」*2	簡単な視聴予約に進めます（☞72ページ）。
「かんたん録画予約」*2	簡単な録画予約に進めます（☞63ページ）。
「こだわり予約」*2	視聴予約や録画予約に進み、細かい設定ができます（☞65、73ページ）。
「予約取消」*2	すでに予約済みの番組のときは「かんたん視聴予約」、「かんたん録画予約」、「こだわり予約」の代わりに「予約取消」が表示されます。番組の予約を取り消せます。
「時刻別番組表」または「チャンネル別番組表」	番組表を切り換えます。

*1 現在放送中の番組を選んだときのみ表示されます。
*2 放送開始前の番組を選んだときのみ表示されます。

デジタル放送の番組情報取得について

お買い上げ時、または長時間メディアレシーバーの電源スイッチで主電源を切った状態のときは、次に電源スイッチを押して主電源を入れると、番組表に表示される番組が少ないことがあります。メディアレシーバーで主電源を切っている間は、放送局が送信する番組情報をデータ取得できないためです。

番組情報をデータ取得し直すには

番組情報のデータを取得し直すときは、上記のツールから「番組情報取得」を選んで、決定します。番組表で見ている放送の番組情報のデータを取得できます。
データ取得を中止するときは、取得中に「中止」を選びます。

登録したよく見るチャンネルを選ぶ [好み選局ボタン]

よく見るチャンネルを「好み選局」に登録すると、「好み選局」画面からチャンネルを選べます。放送（地上アナログ、地上デジタル、BSデジタル、110度CSデジタル）や放送サービス（テレビ、ラジオ、データ）を切り換えることなく、チャンネルを選べます。

好み選局を表示する

押す。
（もう1度押すと消える。）

あらかじめ登録したチャンネルが、地上A、地上D、BS、CS1、CS2の順に表示されます。

ちょっと一言
地上Aは地上アナログ、地上Dは地上デジタルのことです。

他の方法でも表示できます
メニューから
「好み選局」を選ぶ。
選びかたは☞14ページをご覧ください。

好み選局　　登録数：28件（最大42件）

地上A	地上A	地上A	地上A	地上A	地上D	地上D
1	3	4	6	8	102	103
BS 101	BS 102	BS 103	BS 141	BS 151	BS 161	BS 171
BS 181	BS 191	BS 745	BS 900	BS 910	BS 933	BS 940
BS 955	BS 963	CS1 001	CS1 009	CS2 100	CS2 194	CS2 170

NHK BS1
決定 選局　ツール 機能表示　　好み選局 終了

ご注意

「好み選局」画面に表示されるチャンネル番号は、自動設定したチャンネル（新聞のテレビ欄などに載っているチャンネル）です。「チャンネル表示を書き換えるには」（☞249ページ）で画面に出てくるチャンネル表示を変更しても、「好み選局」画面のチャンネル番号表示は変わりません。

好み選局からお好みのチャンネルを選ぶ

1 好み選局ボタンを押す。

2 ⇕◆/◆で見たいチャンネルを選んで、決定で決定する。

選んだチャンネルの画面になる。

好み選局にチャンネルを登録する

放送（地上アナログ、地上デジタル、BSデジタル、110度CSデジタル）や放送サービス（テレビ、ラジオ、データ）の区別なく、42チャンネルまで登録できます。

1 **メニューボタンを押して、メニューを出す。**

2 **で「セットアップ」を選んで、決定で決定する。**

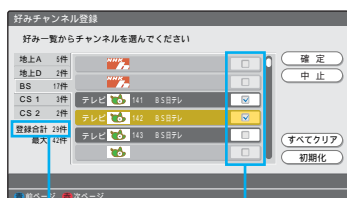
3 **で「デジタル放送設定」を選んで、決定で決定する。**

4 **で「好み登録」を選んで、決定で決定する。**

5 **「好みチャンネル登録」が選ばれていることを確認して、決定で決定する。**

他の方法でも表示できます
好み選局を表示中にツールから
「好みチャンネル登録」を選ぶ。

6 **◀/で放送（地上A、地上D、BS、CS1、CS2）を選んで、決定で決定する。**
選んだ放送の受信可能なチャンネルがチャンネルリストに表示されます。

7 **で登録したいチャンネルを選んで、決定で決定する。**

現在登録済みのチャンネル数

チャンネルの登録状況
☐：未登録
☑：登録済み

ご注意

臨時チャンネルや非対応のチャンネルは登録できません。

✓をはずすには

で✓の付いているチャンネルを選び、決定で決定する。

すべてのチャンネルの✓をはずすには

▶を押してから、で「すべてクリア」を選んで、決定で決定する。

お買い上げ時の設定に戻すには

▶/で「初期化」を選んで、決定で決定する。

8 **引き続きチャンネルを登録するときは、手順7をくり返す。**
続けてチャンネルを登録できます。

他の放送のチャンネルを登録するには

◀を押して、手順6から行ってください。

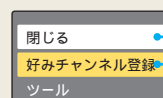
9 **▶を押してから、「確定」が選ばれていることを確認して、決定で決定する。**
登録したチャンネルが、好み選局に登録されます。

チャンネルの登録を中止するには

▶/で「中止」を選んで、決定で決定する。設定を始める前の状態に戻ります。

10 **戻るボタンをくり返し押して、設定画面を消す。**

ツールを使う（☞15ページ）

好み選局を表示中にツールボタンを押すと…

ツールを消す。

「好みチャンネル登録」画面を表示する。

番組を視聴中にツールボタンを押すと…
「好みチャンネル登録」を選ぶと、視聴中のチャンネルが好み選局に登録されます。

番組のいろいろな選びかた・探しかた

いろいろな方法で見たい番組を探す

[番組検索ボタン]

番組検索ボタンで、お好みのジャンル(分野やテーマ)やキーワードから見たい番組を探せます。すべてのデジタル放送から検索するので、放送や放送サービスを切り換えると、他の放送や放送サービスの検索結果も表示できます。

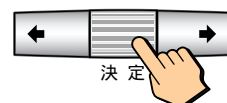
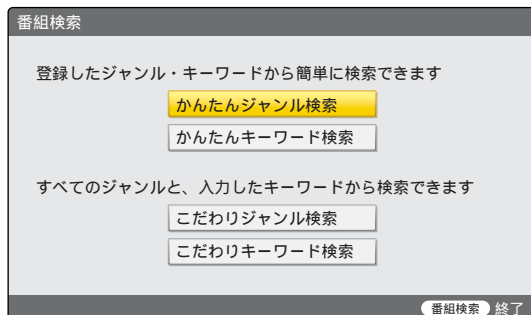
ジャンル検索とは

デジタル放送の番組は複数のジャンルに属していることがあります。ジャンルを指定して検索するとそのジャンルに属する番組を検索します。

開 を押して、ふたを開ける。

番組の検索方法を選ぶ

番組の検索方法には、右ページの4つがあります。

デジタル放送視聴中に押す。
(もう1度押すと消える。)

で番組を探す方法（検索方法）を選んで、で決定する。

他の方法でも選べます

- **メニューから**
  「番組検索」を選ぶ。
- **番組表を表示中にツールから**
  「番組検索」を選ぶ。

選びかたは☞14ページをご覧ください。

キーワード検索とは
番組説明の番組情報に、キーワードが含まれている番組を探します。番組説明の番組情報欄に🔍マークが表示されているページがキーワード検索の対象となります（☞36ページ）。あらかじめ登録されているキーワードから選ぶ方法と、「こだわりキーワード検索」では、ソフトウェアキーボードでキーワードを入力する方法（フリーワード）があります。

検索結果の放送や放送サービスを切り換えるには
検索結果（☞53ページ）が表示されたら、ツールから放送（地上デジタル、BSデジタル、110度CSデジタル）と放送サービス（テレビ、ラジオ、データ）を切り換えて（☞54ページ）、他の放送や放送サービスの検索結果を表示できます。

ジャンルとキーワードの両方を指定して、番組を検索できます
「こだわりジャンル検索」と「こだわりキーワード検索」では、ジャンルとキーワードの両方に該当する番組を検索し、一覧表示できます（☞50、51ページ）。

検索範囲を指定して、番組を検索できます
「こだわりジャンル検索」と「こだわりキーワード検索」では、チャンネルや放送日を指定して番組を検索できます（☞52ページ）。
検索範囲を指定しないときは、すべてのチャンネルの8日分の番組から検索します。

[かんたんジャンル検索]（☞46ページ）

よく見るジャンルから番組を絞り込んで探せます。例えば音楽番組なら、「音楽」に当てはまる番組が一覧できます。あらかじめ登録されているジャンルで探したり、好きなジャンルを登録して探せます。登録のしかたは、☞47ページをご覧ください。

[かんたんキーワード検索]（☞46ページ）

よく見る番組のキーワードから番組を絞り込んで探せます。例えば好きなタレントが出演する番組を探したいときは、あらかじめその名前を登録しておけば、そのキーワードに当てはまる番組が一覧できます。登録のしかたは、☞47ページをご覧ください。

[こだわりジャンル検索]（☞50ページ）

ジャンルを細かく指定して、番組を探せます。[こだわりキーワード検索] と組み合わせたり、チャンネル・放送日を指定することもできるため、さらに番組を絞り込めます。

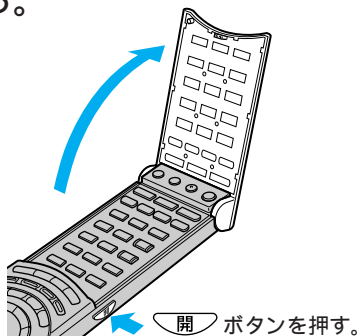
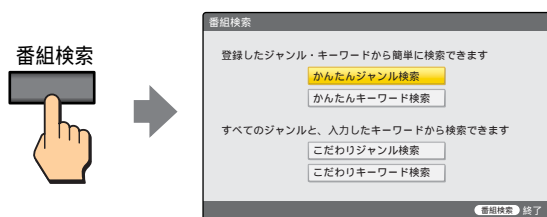
[こだわりキーワード検索]（☞51ページ）

フリーワードでキーワードを指定して、番組を探せます。[こだわりジャンル検索] と組み合わせたり、チャンネル・放送日を指定することもできるため、さらに番組を絞り込めます。

次のページにつづく

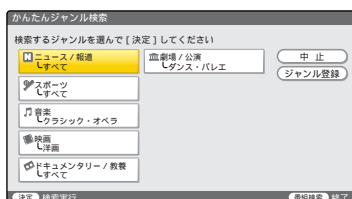
いろいろな方法で見たい番組を探す［番組検索ボタン］（つづき）

ジャンルから簡単に番組を探す［かんたんジャンル検索］

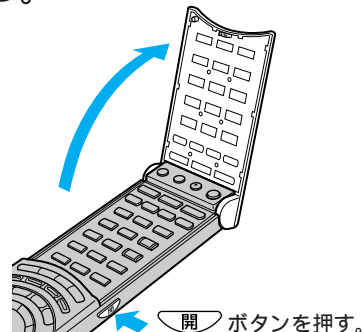
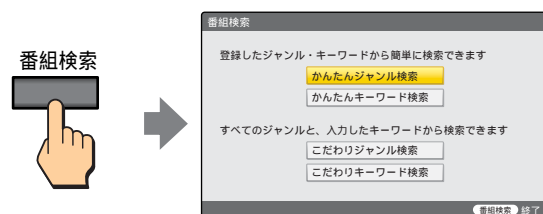
1 開ボタンを押して、ふたを開ける。

2 番組検索ボタンを押す。

3 上下で「かんたんジャンル検索」を選んで、決定で決定する。

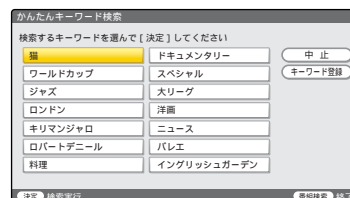
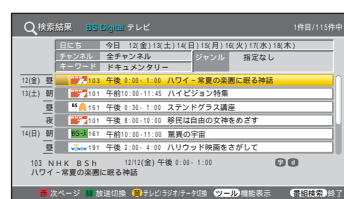
ジャンル登録したジャンルが一覧表示されます。

4 上下/←/→でジャンルを選んで、決定で決定する。

検索結果が表示されます。

キーワードから簡単に番組を探す［かんたんキーワード検索］

1 開ボタンを押して、ふたを開ける。

2 番組検索ボタンを押す。

3 上下で「かんたんキーワード検索」を選んで、決定で決定する。

キーワード登録したキーワードが一覧表示されます。

4 上下/←/→でキーワードを選んで、決定で決定する。

検索結果が表示されます。

検索結果から番組を選ぶには

「検索結果から番組を選ぶ」（☞53ページ）をご覧ください。

ちょっと一言

他の放送や放送サービスの検索結果を見たいときは、緑ボタンまたは黄色ボタンを押すと簡単に切り換えられます。

ジャンルやキーワードを登録する

「かんたんジャンル検索」に、よく見るジャンルをあらかじめ登録する

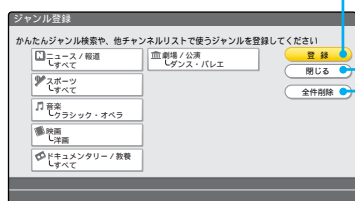
最大10件のジャンルを、大ジャンルと小ジャンルでそれぞれに登録できます。

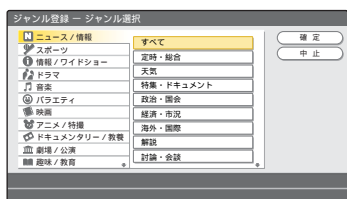
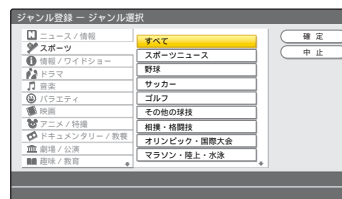
大ジャンルアイコンについて

大ジャンルには、それぞれアイコンが設定されています（☞48ページ）。
ジャンル登録すると、「他チャンネルリスト」（☞57ページ）を表示したときに、チャンネル番号の横に登録した大ジャンルアイコンが表示されるようになります。

ここでは例として、「大ジャンル：スポーツ、小ジャンル：サッカー」を登録する手順を説明します。

1 **☞46ページの「ジャンルから簡単に番組を探す［かんたんジャンル検索］」の手順1〜3を行う。**

2 **➡/▲▼で「ジャンル登録」を選んで、決定で決定する。**

他の方法でも表示できます
「セットアップ」メニューから
「セットアップ」→「デジタル放送設定」→「好み登録」→「ジャンル登録」を選ぶ。
選びかたは☞14ページをご覧ください。

3 **「登録」が選ばれていることを確認して、決定で決定する。**
ジャンルが一覧表示され、新しくジャンルを追加できます。

4 **▲▼で登録したい大ジャンル（ここでは「スポーツ」）を選んで、決定で決定する。**
小ジャンルを選ぶ画面になります。

5 **▲▼で登録したい小ジャンル（ここでは「サッカー」）を選んで、決定で決定する。**

大ジャンルだけ登録したいときは
小ジャンルで「すべて」を選びます。

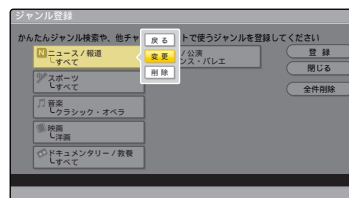
6 **「確定」が選ばれていることを確認して、決定で決定する。**
選んだ大ジャンルとその小ジャンルが、ジャンル登録されます。

7 **引き続きジャンルを登録するときは、手順3〜6をくり返す。**
最大10件のジャンルを登録できます。

8 **➡/▲▼で「閉じる」を選んで、決定で決定する。**

9 **番組検索ボタンを押して、設定画面を消す。**

すでに登録されているジャンルを変更したいときは

手順3で、▲▼/⬅/➡で変更したいジャンルを選んで、決定で決定する。サブメニューが表示されたら、▲▼で「変更」を選んで、決定で決定する。

サブメニューからできること

項目	できること
「戻る」	サブメニューを消して、他のジャンルを選べます。
「変更」	ジャンルを変更できます。
「削除」	ジャンルを削除します。

次のページにつづく

いろいろな方法で見たい番組を探す［番組検索ボタン］（つづき）

ジャンル一覧

大ジャンルには、それぞれアイコンが設定されています。

ニュース/報道
- 定時・総合
- 天気
- 特集・ドキュメント
- 政治・国会
- 経済・市況
- 海外・国際
- 解説
- 討論・会談
- 報道特番
- ローカル・地域
- 交通
- その他

スポーツ
- スポーツニュース
- 野球
- サッカー
- ゴルフ
- その他の球技
- 相撲・格闘技
- オリンピック・国際大会
- マラソン・陸上・水泳
- モータースポーツ
- マリン・ウィンタースポーツ
- 競馬・公営競技
- その他

情報/ワイドショー
- 芸能・ワイドショー
- ファッション
- 暮らし・住まい
- 健康・医療
- ショッピング・通販
- グルメ・料理
- イベント
- 番組紹介・お知らせ
- その他

ドラマ
- 国内ドラマ
- 海外ドラマ
- 時代劇
- その他

音楽
- 国内ロック・ポップス
- 海外ロック・ポップス
- クラシック・オペラ
- ジャズ・フュージョン
- 歌謡曲・演歌
- ライブ・コンサート
- ランキング・リクエスト
- カラオケ・のど自慢
- 民謡・邦楽
- 童謡・キッズ
- 民族音楽・ワールドミュージック
- その他

バラエティ
- クイズ
- ゲーム
- トークバラエティ
- お笑い・コメディ
- 音楽バラエティ
- 旅バラエティ
- 料理バラエティ
- その他

映画
- 洋画
- 邦画
- アニメ
- その他

アニメ/特撮
- 国内アニメ
- 海外アニメ
- 特撮
- その他

ドキュメンタリー/教養
- 社会・時事
- 歴史・紀行
- 自然・動物・環境
- 宇宙・科学・医学
- カルチャー・伝統文化
- 文学・文芸
- スポーツ
- ドキュメンタリー全般
- インタビュー・討論
- その他

劇場/公演
- 現代劇・新劇
- ミュージカル
- ダンス・バレエ
- 落語・演芸
- 歌舞伎・古典
- その他

趣味/教育
- 旅・釣り・アウトドア
- 園芸・ペット・手芸
- 音楽・美術・工芸
- 囲碁・将棋
- 麻雀・パチンコ
- 車・オートバイ
- コンピュータ・TVゲーム
- 会話・語学
- 幼児・小学生
- 中学生・高校生
- 大学生・受験
- 生涯教育・資格
- 教育問題
- その他

福祉
- 高齢者
- 障害者
- 社会福祉
- ボランティア
- 手話
- 文字（字幕）
- 音声解説
- その他

その他

110度CS専用ジャンル

スポーツ（CS）
- テニス
- バスケットボール
- ラグビー
- アメリカンフットボール
- ボクシング
- プロレス
- その他

洋画（CS）
- アクション
- SF/ファンタジー
- コメディー
- サスペンス/ミステリー
- 恋愛/ロマンス
- ホラー/スリラー
- ウエスタン
- ドラマ/社会派ドラマ
- アニメーション
- ドキュメンタリー
- アドベンチャー/冒険
- ミュージカル/音楽映画
- ホームドラマ
- その他

邦画（CS）
- アクション
- SF/ファンタジー
- お笑い/コメディー
- サスペンス/ミステリー
- 恋愛/ロマンス
- ホラー/スリラー
- 青春/学園/アイドル
- 仁侠/時代劇
- アニメーション
- ドキュメンタリー
- アドベンチャー/冒険
- ミュージカル/音楽映画
- ホームドラマ
- その他

「かんたんキーワード検索」に、よく使うキーワードをあらかじめ登録する

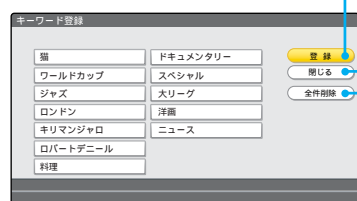
最大14件のキーワードを、登録できます。

ちょっと一言

「こだわりキーワード検索」で入力したキーワードを、キーワード登録できます。
検索結果を表示したあと、ツールから「検索キーワード登録」を選ぶと検索に使ったキーワードを登録します（☞54ページ）。

1 ☞46ページの「キーワードから簡単に番組を探す［かんたんキーワード検索］」の手順1～3を行う。

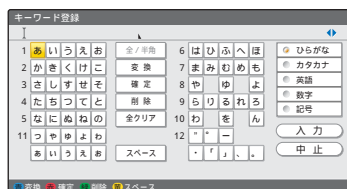
2 ➡/▲▼で「キーワード登録」を選んで、決定で決定する。

「登録」
新しくキーワードを登録する。

「閉じる」
画面を閉じる。

「全件削除」
登録されているキーワードをすべて削除する。

他の方法でも表示できます
「セットアップ」メニューから
「セットアップ」→「デジタル放送設定」→「好み登録」→「キーワード登録」を選ぶ。
選びかたは☞14ページをご覧ください。

3 「登録」が選ばれていることを確認して、決定で決定する。

ソフトウェアキーボード（☞98ページ）が表示され、新しくキーワードを追加できます。

4 ソフトウェアキーボードで、キーワードを入力する。

入力のしかたについては、「文字を入力する［ソフトウェアキーボード］」（☞98ページ）をご覧ください。

5 ▲▼/⬆/⬇/⬅/➡で「入力」を選んで、決定で決定する。

入力したキーワードが、キーワード登録されます。

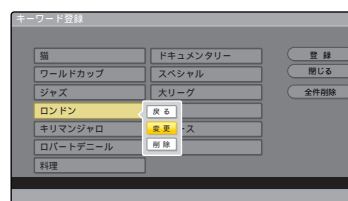
6 引き続きキーワードを登録するときは、手順3～5をくり返す。

最大14件のキーワードを登録できます。

7 ▲▼で「閉じる」を選んで、決定で決定する。

8 番組検索ボタンを押して、設定画面を消す。

すでに登録されているキーワードを変更したいときは

手順3で、▲▼/⬅/➡で変更したいキーワードを選んで、決定で決定する。サブメニューが表示されたら、▲▼で「変更」を選んで、決定で決定する。

サブメニューからできること

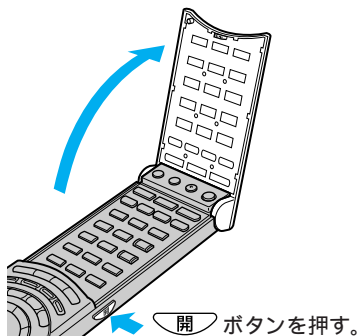
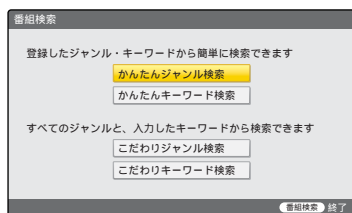
項目	できること
「戻る」	サブメニューを消して、他のキーワードを選べます。
「変更」	キーワードを変更できます。
「削除」	キーワードを削除します。

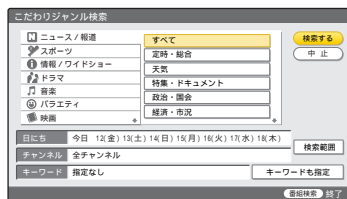
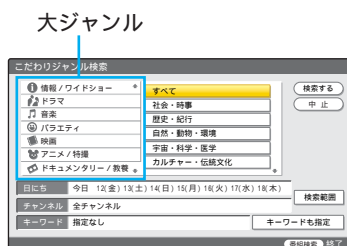
番組のいろいろな選びかた・探しかた

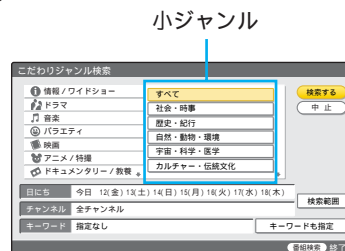
次のページにつづく

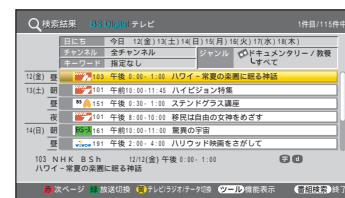
いろいろな方法で見たい番組を探す［番組検索ボタン］（つづき）

すべてのジャンルから番組を探す［こだわりジャンル検索］

1 開ボタンを押して、ふたを開ける。

2 番組検索ボタンを押す。

3 で「こだわりジャンル検索」を選んで、決定で決定する。

4 ←/で見たい大ジャンルを選んで、決定で決定する。

5 で見たい小ジャンルを選んで、決定で決定する。

「すべて」を選ぶと大ジャンルのみ選ばれます。

6 「検索する」が選ばれていることを確認して、決定で決定する。

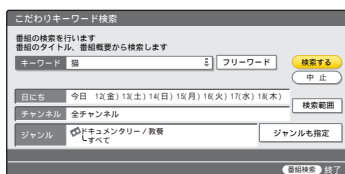
選んだジャンルの番組が開始時刻順に表示されます。

検索結果から番組を選ぶには

「検索結果から番組を選ぶ」（☞53ページ）をご覧ください。

ちょっと一言

他の放送や放送サービスの検索結果を見たいときは、緑ボタンまたは黄色ボタンを押すと簡単に切り換えられます。

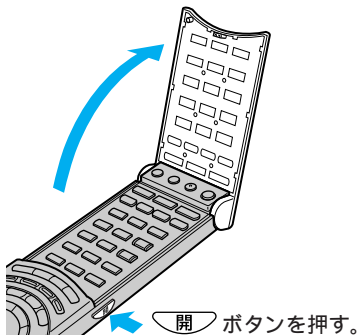
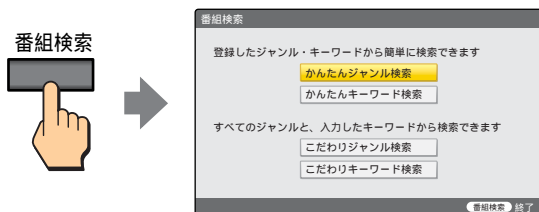
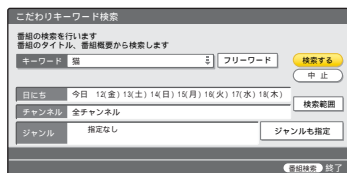
キーワードも指定するときは

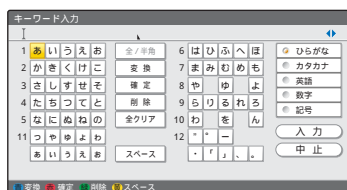
手順5のあとで、で「キーワードも指定」を選んで、決定で決定する。「こだわりキーワード検索」が表示されます。

「いろいろなキーワードから番組を探す［こだわりキーワード検索］」（☞51ページ）の手順4～6を行ってください。

検索範囲を指定するときは

「チャンネルと放送日を指定して検索する［検索範囲］」（☞52ページ）をご覧ください。

いろいろなキーワードから番組を探す［こだわりキーワード検索］

1 開ボタンを押して、ふたを開ける。

2 番組検索ボタンを押す。

3 で「こだわりキーワード検索」を選んで、決定で決定する。

4 ←で「フリーワード」を選んで、決定で決定する。

ソフトウェアキーボード（☞98ページ）が表示されます。

すでに登録されているキーワードで検索するときは

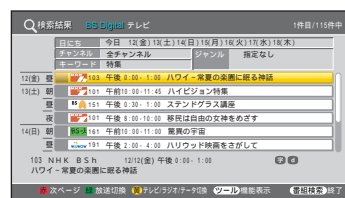
「登録されているキーワードで検索するときは」をご覧ください。

5 ソフトウェアキーボードで、キーワードを入力する。

入力のしかたについては、「文字を入力する［ソフトウェアキーボード］」（☞98ページ）をご覧ください。

6 /↑/↓/←/→で「入力」を選んで、決定で決定する。

入力したキーワードが表示されます。

7 →で「検索する」を選んで、決定で決定する。

キーワードを含む番組が開始時刻順に表示されます。

ちょっと一言

「こだわりキーワード検索」で入力したキーワードを、キーワード登録できます。
検索結果を表示したあと、ツールから「検索キーワード登録」を選ぶと検索に使ったキーワードを登録します（☞54ページ）。

登録されているキーワードで検索するときは

1 「いろいろなキーワードから番組を探す［こだわりキーワード検索］」の手順1〜3を行う。

2 ←で「キーワード」欄を選んで、決定で決定する。

3 でキーワードを選んで、決定で決定する。

4 →で「検索する」を選んで、決定で決定する。

キーワードを含む番組が開始時刻順に表示されます。

次のページにつづく

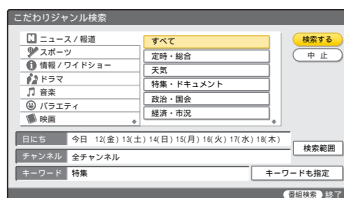
いろいろな方法で見たい番組を探す［番組検索ボタン］（つづき）

検索結果から番組を選ぶには

「検索結果から番組を選ぶ」（☞53ページ）をご覧ください。

ちょっと一言
他の放送や放送サービスの検索結果を見たいときは、緑ボタンまたは黄色ボタンを押すと簡単に切り換えられます。

ジャンルも指定するときは

☞51ページの手順6のあとで、➡/⇕で「ジャンルも指定」を選んで、[決定]で決定する。「こだわりジャンル検索」が表示されます。

「すべてのジャンルから番組を探す［こだわりジャンル検索］」（☞50ページ）の手順4～5を行ってください。

検索範囲を指定するときは

「チャンネルと放送日を指定して検索する［検索範囲］」をご覧ください。

チャンネルと放送日を指定して検索する［検索範囲］

「こだわりジャンル検索」（☞50ページ）と「こだわりキーワード検索」（☞51ページ）では、チャンネルと放送日時を指定して検索することができます。

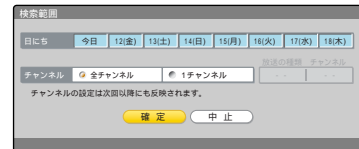
1 ジャンルやキーワードを指定する。

「こだわりジャンル検索」で検索範囲を指定するときは

「すべてのジャンルから番組を探す［こだわりジャンル検索］」（☞50ページ）の手順1～5を行う。

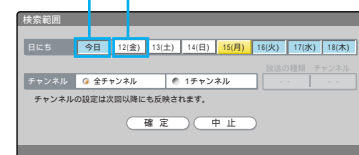
「こだわりキーワード検索」で検索範囲を指定するときは

「いろいろなキーワードから番組を探す［こだわりキーワード検索］」（☞51ページ）の手順1～6を行う。

2 ➡/⇕で「検索範囲」を選んで、[決定]で決定する。

3 検索する日にちを絞りこむ。

現在から8日間先まで検索するように設定されています。

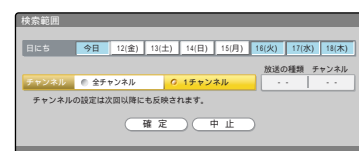
1. ⇕で「日にち」欄を選ぶ。
2. ⬅/➡で検索しない日にちを選んで、[決定]で決定する。

検索する日にちの指定状況
指定済み　未指定

ちょっと一言
検索しないように設定した日にちを、検索するように戻すときは、もう1度⬅/➡で日にちを選んで、[決定]で決定します。

4 検索するチャンネルを選ぶ。

1. ⇕/⬅/➡で「全チャンネル」または「1チャンネル」を選んで、[決定]で決定する。

「全チャンネル」：すべてのデジタル放送のチャンネルから検索します。
「全チャンネル」を選んだときは、手順4-5に進んでください。

「1チャンネル」：指定したチャンネルから検索します。

2. ➡で「放送の種類/チャンネル」欄を選んで、[決定]で決定する。

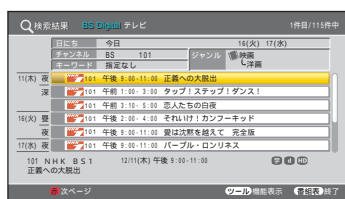
3 で放送を選んで、➡を押す。

4 でチャンネルを選んで、決定で決定する。

5 で「確定」を選んで、決定で決定する。

検索範囲が登録され、「こだわりキーワード検索」または「こだわりジャンル検索」に戻ります。

5 で「検索する」を選んで、決定で決定する。

検索された番組が開始時刻順に表示される。

検索結果から番組を選ぶ

「かんたんジャンル検索」(☞46ページ)
「かんたんキーワード検索」(☞46ページ)
「こだわりジャンル検索」(☞50ページ)
「こだわりキーワード検索」(☞51ページ)
で表示される検索結果から番組を選びます。
検索結果を表示中に他の放送や放送サービスの検索結果に切り換えることもできます。

ご注意

地上アナログの番組は検索できません。

操作ガイド表示欄

検索結果画面を表示中にリモコンを使ってできることをガイド表示します。

青：前ページへ切り換えます。

赤：次ページへ切り換えます。

緑：検索結果の放送を切り換えます。押すたびに、次のように切り換わります。

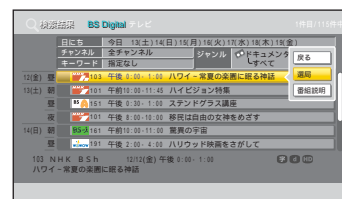
地上 Digital → BS Digital → CS1 Digital → CS2 Digital

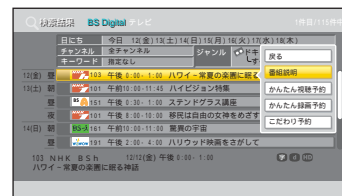
黄：検索結果の放送サービスを切り換えます。押すたびに、次のように切り換わります。

テレビ → ラジオ → データ

ツール：ツールを表示します（☞54ページ）。

1 で番組を選んで、決定で決定する。

サブメニューが表示されます。

現在放送中の番組を選んだとき

放送開始前の番組を選んだとき

2 でサブメニューの項目を選んで、決定する。

手順1で現在放送中の番組を選んだときは

「選局」を選ぶと、番組を表示できます。

選んだチャンネルの画面になる。

次のページにつづく

いろいろな方法で見たい番組を探す［番組検索ボタン］（つづき）

手順1で放送開始前の番組を選んだときは

録画予約や視聴予約に進めます。

視聴予約するときは

で「かんたん視聴予約」または「こだわり予約」を選んで、決定します（☞72、73ページ）。

録画予約するときは

で「かんたん録画予約」または「こだわり予約」を選んで、決定します（☞63、65ページ）。

検索結果に表示される番組の放送や放送サービスを切り換えるには

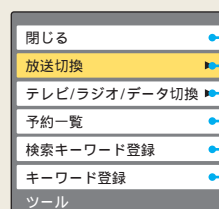
検索結果を表示中に、放送を切り換えるときは緑ボタンを、放送サービスを切り換えるときは黄ボタンをくり返し押す。

検索結果に表示されている番組の番組説明を見るには

で番組を選び、番組説明ボタンを押す。

サブメニューからできること

項目	できること
「戻る」	サブメニューを消して、他の番組を選べます。
「選局」*1	選んだ番組に切り換えます。
「番組説明」	番組説明を見ることができます（☞36ページ）。
「かんたん視聴予約」*2	簡単な視聴予約に進めます（☞72ページ）。
「かんたん録画予約」*2	簡単な録画予約に進めます（☞63ページ）。
「こだわり予約」*2	視聴予約や録画予約に進み、細かい設定ができます（☞65、73ページ）。
「予約取消」*2	すでに予約済みの番組のときは「かんたん視聴予約」、「かんたん録画予約」、「こだわり予約」の代わりに「予約取消」が表示されます。番組の予約を取り消せます。

*1 現在放送中の番組を選んだときのみ表示されます。
*2 放送開始前の番組を選んだときのみ表示されます。

検索に使ったキーワードを登録する

「こだわりキーワード検索」で入力したキーワードを、キーワード登録できます。
検索結果を表示したら、ツールから「検索キーワード登録」を選んで決定すると、検索に使ったキーワードを登録します。
いったん登録すると、「かんたんキーワード検索」で検索を行えます。また、「こだわりキーワード検索」でキーワードを選ぶときに、登録キーワードの一覧に表示されるようになります。

現在放送中のテレビ放送を一覧で見る [CHインデックスボタン]

放送（地上アナログ、地上デジタル、BSデジタル、110度CSデジタル）ごとに、現在放送中のテレビのチャンネルを一覧表示できます。一覧表示したCHインデックスから、お好みのチャンネルを選べます。

開を押して、ふたを開ける。

現在放送中のテレビ放送を一覧で見る

CHインデックス

押す。
（もう1度押すと消える。）

地上アナログや地上デジタル、BSデジタル、110度CSデジタルのテレビ放送ごとに一覧表示されます。

現在放送中のチャンネルがチャンネル番号の小さい順に表示され、順に更新されていきます。

選んでいるチャンネル

現在選んでいるチャンネル番号*

* 地上アナログ放送はチャンネル番号のみ表示します。

操作ガイド表示欄
CHインデックス画面を表示中にリモコンを使ってできることをガイド表示します。

緑：放送を切り換えます。押すたびに、次のように切り換わります。

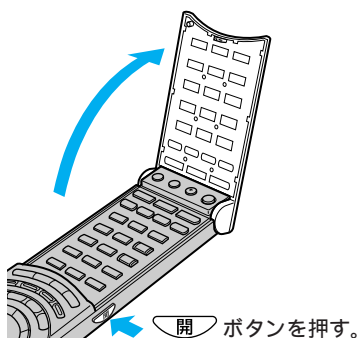
地上アナログ → 地上Digital → BS Digital → CS1 Digital → CS2 Digital

ツール：ツールを表示します（☞56ページ）。

ちょっと一言
複数のチャンネルで同時に同じ番組を放送（イベント共有）しているときは、代表チャンネルのみ表示されます。
ただし、イベント共有であるという信号を取得していないときは、複数のチャンネルが表示されることもあります。

他の方法でも表示できます
メニューから
「マルチ画面」→「CHインデックス入/切」を選ぶ。
選びかたは☞14ページをご覧ください。

CHインデックスからお好みのチャンネルを選ぶ

1 開ボタンを押して、ふたを開ける。

2 CHインデックスボタンを押す。

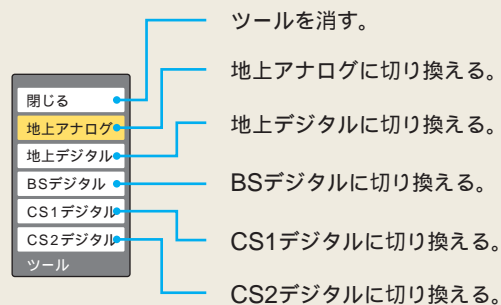
3 ▲▼/◀/▶でチャンネルを選んで、決定で決定する。

自動更新が止まり、選んだチャンネルの映像/音声を視聴できます。

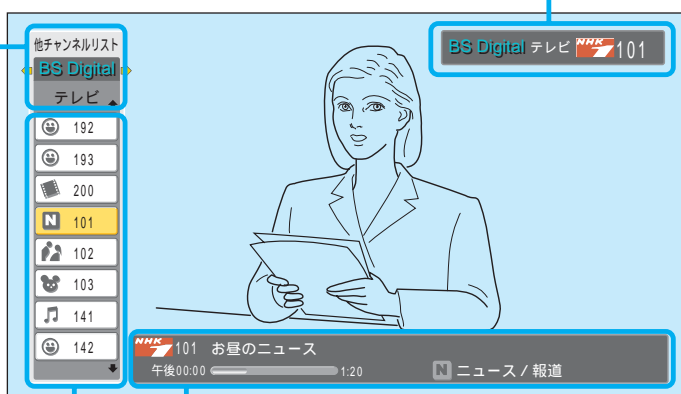
4 決定で決定する。

選んだチャンネルの画面になる。

手順3で戻るボタンを押すと

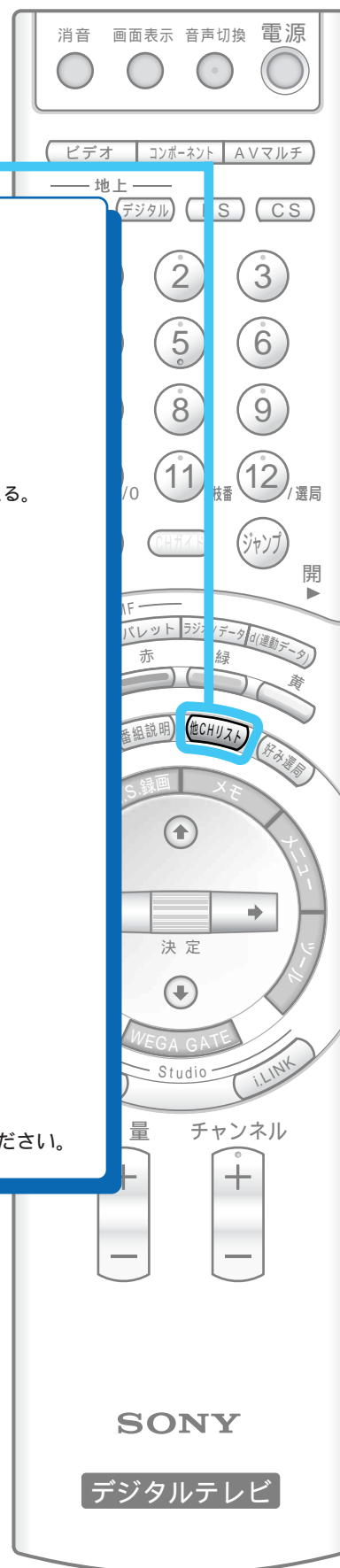
自動更新を再開します。

他チャンネルの番組をチェックする

[他CHリストボタン]

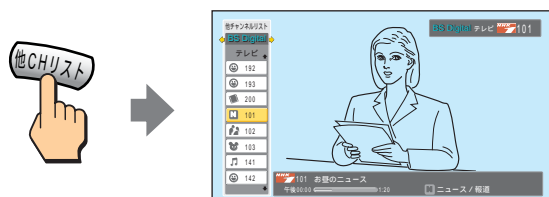
番組を見ながら、放送（地上デジタル、BSデジタル、110度CSデジタル）の種類にかかわらず、他のチャンネルでどのような番組を放送しているかを確認できます。

他チャンネルの番組をチェックする

* ジャンル登録（☞47ページ）されているジャンルの番組が放送中のチャンネルは、チャンネル番号の横に登録した大ジャンルアイコンが表示されます。

他の方法でも表示できます
番組視聴中にツールから
「他チャンネルリスト」を選ぶ。
選びかたは☞14ページをご覧ください。

次のページにつづく

他チャンネルの番組をチェックする［他CHリストボタン］（つづき）

他チャンネルリストからお好みのチャンネルを選ぶ

1 他CHリストボタンを押す。

2 で見たいチャンネルを選んで、決定で決定する。

選んだチャンネルの画面になる。

放送（地上 Digital、BS Digital、CS1 Digital、CS2 Digital）を切り換えるには

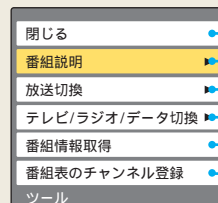
←/→または緑ボタンを押す。

放送サービス（テレビ、ラジオ、データ）を切り換えるには

黄ボタンを押す。

3 他CHリストボタンを押して、他チャンネルリストを消す。

リスト上のチャンネルの番組説明を見るには

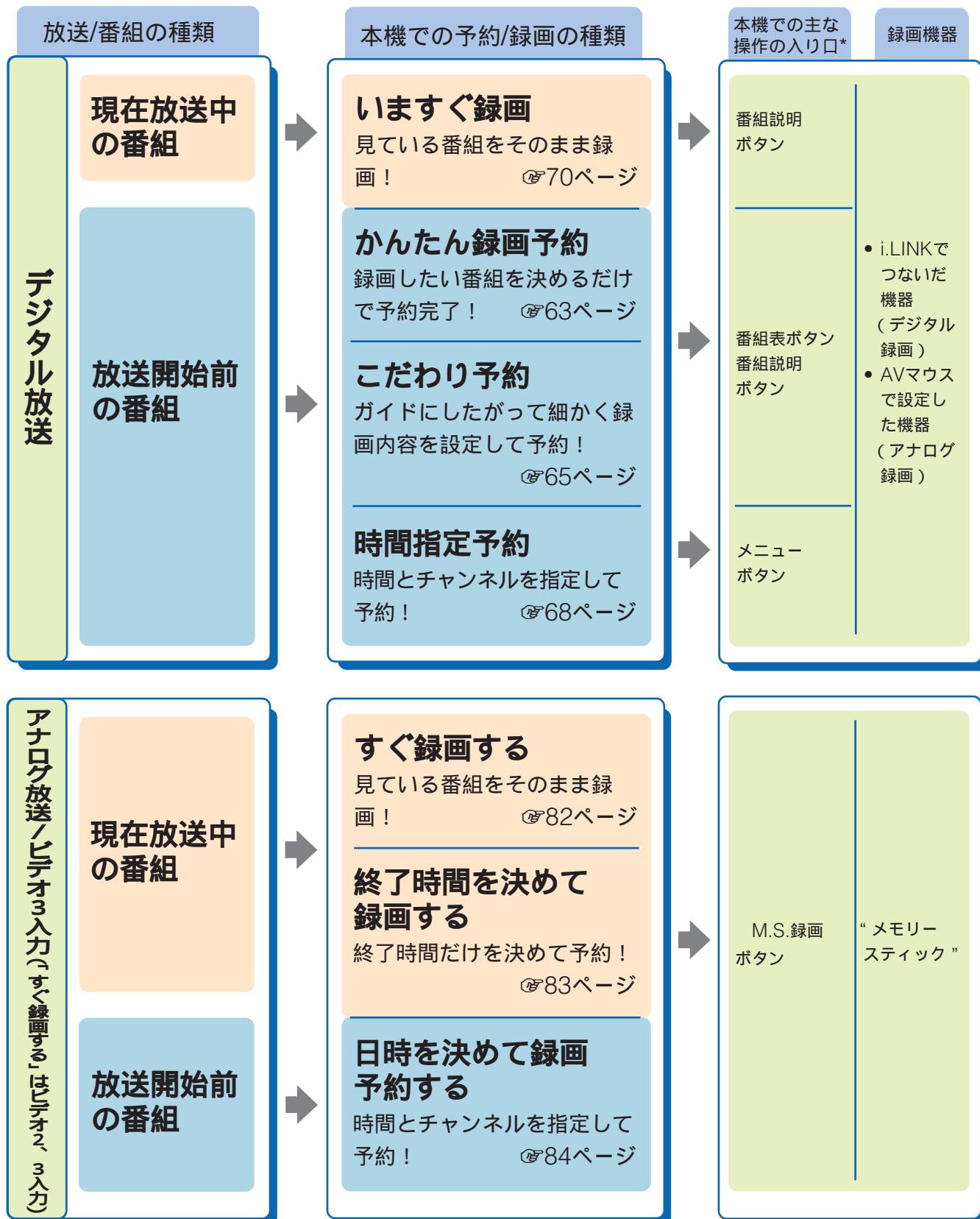
でチャンネルを選び、番組説明ボタンを押す。
選んだチャンネルで現在放送中の番組の番組説明を見ることができます。

番組を予約/録画する

この章では、デジタル放送の番組を本機から予約して、接続機器に録画する操作について説明しています。
また、地上アナログやビデオ入力の映像を"メモリースティック"に録画/保存したりする操作についても説明しています。"メモリースティック"に録画/保存した画像を再生するときは☞143ページをご覧ください。

このイラストは、リモコンのジョグダイヤルの上下回転操作を表します。

決定
このイラストは、リモコンのジョグダイヤルを押しこんで決定する操作を表します。

放送と録画の関係

お手持ちの録画機器や、録画する放送によって、録画予約のしかたが異なります。

* 主な操作の入り口のみ示しています。詳しくは、各予約の説明ページをご覧ください。
また、これらの操作はWEGA GATEの「録画する」からも行えます（☞327ページ）。

デジタル放送をi.LINKで録画する

本機とハードディスクレコーダー*1やD-VHSビデオ*2をi.LINK**でつないで、**デジタル放送を**高画質・高音質でデジタル録画できます。**

*1 ソニー製のハードディスクレコーダーVRP-T1/VRP-T3/VRP-T5などです。
*2 2004年9月現在推奨機種日本ビクター製デジタルハイビジョンビデオHM-DHS1/HM-DHX1/HM-DHX2です。

デジタル放送をAVマウスで録画する

本機とつないだ録画機器に本機付属のAVマウスを使えば、デジタル放送を録画機器側で予約しなくても、**地上アナログ放送と同等の画質で録画**できます。
また、i.LINK対応していないハードディスクレコーダーやDVDレコーダー、ブルーレイディスクレコーダーなどを本機のデジタル放送/ビデオ出力端子につないだときも、AVマウスに対応している機器であれば、AVマウスを使って録画予約できます。

AVマウスが使えないときは

AVマウスの接続テスト（☞244ページ）がうまくいかなかったときや、AVマウスを使えないメーカーの録画機器をお使いのときは、録画機器の予約機能を使って録画してください。
まず本機で予約の設定を行い、録画機器側で、予約した時刻に本機をつないだ入力から録画できるように設定してください。
なお、予約した番組の放送時刻などの変更には対応できません。

例：前の番組が延長されて、予約した番組の開始時刻がくり下がったときは、途中までしか録画されません。ペイ・パー・ビュー（PPV）番組は、途中までの録画でも料金がかかりますのでご注意ください。

アナログ放送を“メモリースティック”に録画する

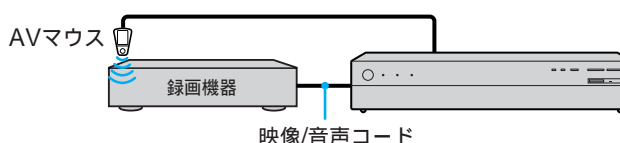
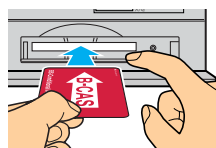
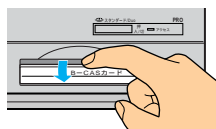
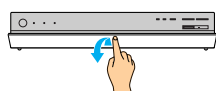
メディアレシーバーに“メモリースティック”を挿入して、地上アナログやビデオ2、3、4入力の映像を録画したり、メモした画面を保存できます。

デジタル放送を録画するための準備をする

録画する機器をつなぐ

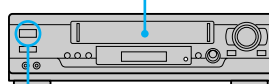
本機と正しくつなぎ、必要な設定を行ってください。

i.LINK対応機器
（☞283ページ）

録画機器とAVマウス
（☞244ページ）

B-CASカードをメディアレシーバーに挿入する

B-CASカードを正しく入れる（☞225ページ）。

録画する機器の準備をする

入力切換（AVマウスを使って録画予約するときのみ）
本機をつないだ入力にする。

録画モードを設定する

電源「切」（AVマウスを使って録画予約するときのみ）
必ず録画前に録画機器の電源は切っておく（入ったままだと録画されません）。

番組を予約／録画する

次のページにつづく

放送と録画の関係（つづき）

あらかじめ録画機器を選ぶ

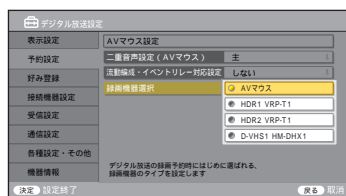
あらかじめ録画する機器を設定しておけば、予約のたびに機器を選ぶ必要はありません。
選択できる機器は、AVマウスが設定されている機器（1台）と接続登録されているi.LINK機器（最大5台）です。
お買い上げ時は、「AVマウス」に設定されています。

1 **メニューボタンを押して、メニューを出す。**

2 **で「セットアップ」を選んで、決定で決定する。**

3 **で「デジタル放送設定」を選んで、決定で決定する。**

4 **で「予約設定」を選んで、決定で決定する。**

5 **で「録画機器選択」を選んで、決定で決定する。**

6 **でよく使う録画機器を選んで、決定で決定する。**

7 **戻るボタンをくり返し押して、設定画面を消す。**

録画予約のご注意について詳しくは、「録画制約について」（☞87ページ）をご覧ください。

あらかじめ二重音声番組の音声を選ぶ（AVマウスでの録画予約）

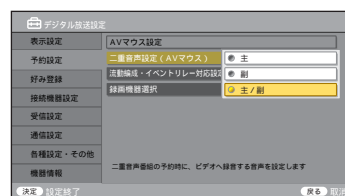
メディアレシーバー後面のデジタル放送/ビデオ出力端子から出力する音声はあらかじめ選んだ音声に固定されます。設定を変更しないかぎり、すべての二重音声番組が選んだ音声で録画されます。
録画中は音声切換ボタンを押しても、スピーカーから出る音声を変えられません。
お買い上げ時は、主音声と副音声が記録されるように設定されています。

1 **メニューボタンを押して、メニューを出す。**

2 **で「セットアップ」を選んで、決定で決定する。**

3 **で「デジタル放送設定」を選んで、決定で決定する。**

4 **で「予約設定」を選んで、決定で決定する。**

5 **で「二重音声設定（AVマウス）」を選んで、決定で決定する。**

6 **で「主」、「副」または「主/副」を選んで、決定で決定する。**
設定を変更しないかぎり、すべての二重音声番組が選んだ音声で録画されます。

7 **戻るボタンをくり返し押して、設定画面を消す。**

放送時間などの変更に対応して予約する

予約した番組に次のような変更があったとき、放送局が送信する放映時刻情報を本機が検知して、その変更に合わせて予約が実行されるように設定できます。

- 開始時刻がくり下がったとき
  例：野球の延長などで開始時刻がくり下がったとき
- 放送中に中断や割込みがあったとき
- 放送時間内に終わらず、引き続き他のチャンネルで放送するとき（イベントリレー）

お買い上げ時は、放送時間などの変更に対応するように設定されています。

1 メニューボタンを押して、メニューを出す。

2 で「セットアップ」を選んで、決定で決定する。

3 で「デジタル放送設定」を選んで、決定で決定する。

4 で「予約設定」を選んで、決定で決定する。

5 で「流動編成・イベントリレー対応設定」を選んで、決定で決定する。

6 で「する」を選んで、決定で決定する。

「しない」を選ぶと
番組編成に変更があったときは、予約が取り消されることがあります。

7 戻るボタンをくり返し押して、設定画面を消す。

ご注意

- 以下のときは、放送時間などの変更に対応しません。
  - 放送局が放映時刻情報を送信しない番組のとき
  - AVマウスやi.LINK接続を使わないで、録画機器の予約機能を使って録画するとき（☞61ページ）
  - 予約した番組が予定より早く始まったとき（早まった時間は、録画されません。）
- 「する」を選び、録画時間が変更されて、次の予約番組と時間が重複したときは、前の番組が自動的に番組終了まで録画されます。あとの番組は前の番組の終了約10秒*後から録画されます。ただしあとの番組がペイ・パー・ビュー（PPV）番組のときは、予約自体が自動的に取り消されます（☞80ページ）。

* 録画する機器を切り換えるときは、時間がかかることがあります。

簡単に録画予約する［かんたん録画予約］

デジタル放送の番組表や番組検索から、録画したい番組を選ぶだけで簡単に録画予約できます。

1 録画したい番組を選ぶ。

1 番組表ボタンを押す。
番組表が表示されます。番組表について詳しくは、☞38ページをご覧ください。

他の方法でも表示できます
- **メニューから**
  「番組表・予約」→「チャンネル別番組表」を選ぶ。
- **i.LINK Studio 操作画面から**
  「番組表予約」を選ぶ。

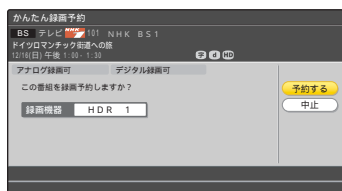
選びかたは☞14ページをご覧ください。

2 で録画したい番組を選んで、決定で決定する。
サブメニューが表示されます。

例：放送開始前の番組を選んだとき

次のページにつづく

簡単に録画予約する [かんたん録画予約]（つづき）

2 で「かんたん録画予約」を選んで、決定で決定する。

録画する機器を変更するときは

「予約時に録画機器を選ぶには」（☞65ページ）をご覧ください。

3 「予約する」が選ばれていることを確認して、決定で決定する。

「予約設定を完了しました」と表示されたあと、番組表に戻り、予約した番組に が表示されます。また、メディアレシーバー前面の電源/予約録画/録画ランプがオレンジ色に点灯します。

これで予約完了です！

4 番組表ボタンを押して、番組表を消す。

ご注意

- **次の場合は録画予約できません。**
  - すでに放送開始している番組
  - コピープロテクションにより録画できない番組
  - すでに予約が20件あるとき（☞76ページ）
  - 視聴予約（☞72ページ）/録画予約の実行中
  - i.LINKダビング中（☞171ページ）、i.LINK録画中、“メモリースティック”録画中
  - 放送開始時間が未定の番組
  - 未契約チャンネルの番組
  - 番組終了時刻まで残り時間が少ないとき
- **次の場合はAVマウスで録画できません。**
  - デジタル放送のテレビやラジオと連動しているデータ（予約できても録画されません。）
  - デジタル放送の独立データ

「重複確認」画面が表示されたときは

重複している内容のメッセージが表示されます。「予約する」を選んで決定すれば、予約できます。正しく録画されるかは、「予約一覧」画面で予約内容を確認してください（☞76ページ）。

視聴年齢制限付き番組を選んだときは

「暗証番号入力」画面が表示されます。①～⑩までの数字ボタンまたは /で4桁の暗証番号を入力してください。

ご注意

有料番組を予約すると、予約時には料金がかかりませんが、録画が始まると料金がかかります。

開始時刻になると

録画機器の電源が入り、録画が始まります。
また、本機は開始時刻の数分前に予約したチャンネルに固定され、他のデジタル放送のチャンネルに切り換わらなくなります。

ご注意

- **メディアレシーバーの電源スイッチで、主電源を切らないでください。** 主電源が切れたままだと、予約した時刻になっても電源は入らず、録画が始まりません。予約した番組の開始時刻前に電源スタンバイにしておいてください。
- AVマウスで録画機器に録画するときは、ビデオのAPC（アダプティブ・ピクチャー・コントロール）機能などが働くと、録画の冒頭が途切れることがあります。

ちょっと一言

録画開始時に本機が電源スタンバイのときは、そのままテレビの画面が出ることなく、デジタルテレビチューナー部の電源が入り、録画が行われます。

録画実行中は

デジタル放送を録画中でも、地上アナログやビデオ入力などの映像を見ることができます。また、メディアレシーバー前面の電源/予約録画/録画ランプが赤色に点灯します。

ご注意

- 次のときは録画が解除されます。
  - 他の予約と重なっているとき（☞80ページ）
  - i.LINKダビング中（☞171ページ）、i.LINK録画中、“メモリースティック”録画中に、予約した番組が始まるとき
- 録画を妨げるようなデジタル放送の操作（例：チャンネル切換、信号切換など）はできません。
- リモコンの電源ボタンで電源スタンバイにしても、録画はそのまま実行されます。
- 接続した他のi.LINK対応機器の電源を入/切したり、接続を外したりすると、画像が乱れたり途切れたりすることがあります。

終了時刻になると

録画が停止し、録画機器の電源が自動的に切れます。

予約時に録画機器を選ぶには

あらかじめメニューで設定しておけば、予約のたびに選ぶ必要はありません（☞62ページ）。予約するときに録画機器を変更するには次の操作をしてください。

1 **「簡単に録画予約する［かんたん録画予約］」（☞63ページ）の手順1〜2を行う。**

2 **←で「録画機器」欄を選んで、決定で決定する。**

録画機器はi.LINK、AVマウスでつないだ機器から選びます。

ご注意

i.LINK対応機器やAVマウスを本機と正しくつないでいないと（☞244、283ページ）、録画はできません。

3 **↕で録画する機器を選んで、決定で決定する。**

4 **→で「予約する」を選んで、決定で決定する。**

5 **番組表ボタンを押して、番組表を消す。**

細かい設定をして録画予約する［こだわり予約］

デジタル放送のお気に入りの番組をくり返し（毎週、毎日など）予約したり、映像/音声などの信号や録画に追加料金があったときに購入手続きをするなど、詳細な録画予約ができます。

1 **録画したい番組を選ぶ。**

1 **番組表ボタンを押す。**

番組表が表示されます。番組表について詳しくは、☞38ページをご覧ください。

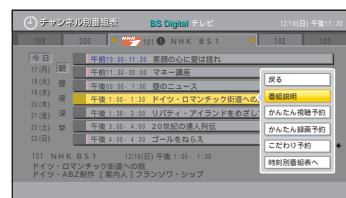
他の方法でも表示できます

- **メニューから**
  「番組表・予約」→「チャンネル別番組表」を選ぶ。
- **i.LINK Studio 操作画面から**
  「番組表予約」を選ぶ。

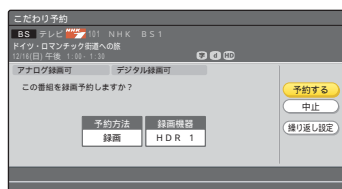
選びかたは☞14ページをご覧ください。

2 **↕で録画したい番組を選んで、決定で決定する。**

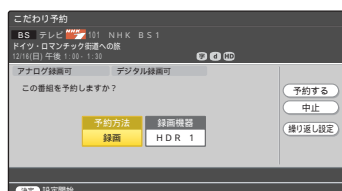
サブメニューが表示されます。

例：放送開始前の番組を選んだとき

番組を予約／録画する

細かい設定をして録画予約する［こだわり予約］（つづき）

2 で「こだわり予約」を選んで、決定で決定する。

録画する機器を変更するときは

「予約時に録画機器を選ぶには」（☞68ページ）をご覧ください。

3 ◀で「予約方法」を選んで、決定で決定する。

4 で「録画」を選んで、決定で決定する。

5 ▶で「予約する」を選んで、決定で決定する。

「予約設定を完了しました」と表示されたあと、番組表に戻り、予約した番組にが表示されます。また、メディアレシーバー前面の電源/予約録画/録画ランプがオレンジ色に点灯します。

これで予約完了です！

6 番組表ボタンを押して、番組表を消す。

追加課金のあるマルチビュー番組を選んだときは（i.LINK録画時のみ）

料金確認画面が表示され、「この番組はマルチビュー番組です　マルチビューのすべての番組を録画するには　追加料金＊＊＊＊円がかかります。　追加録画しますか？」とメッセージが表示されます。追加録画するときは、「追加録画」を選んでください。「追加しない」を選ぶと、無料のマルチ番組のみ録画されます。

「重複確認」画面が表示されたときは

重複している内容のメッセージが表示されます。「予約する」を選んで決定すれば、予約できます。正しく録画されるかは、「予約一覧」画面で予約内容を確認してください（☞76ページ）。

視聴年齢制限付き番組を選んだときは

「暗証番号入力」画面が表示されます。①〜⑩までの数字ボタンまたは/▶で4桁の暗証番号を入力してください。

ご注意

有料番組を予約すると、予約時には料金がかかりませんが、録画が始まると料金がかかります。

映像/音声信号などが複数ある番組を選んだときは

1 **で予約する信号を選んで、決定で決定する。**

i.LINKで録画するときは、追加したい有料の信号を複数選べ、無料の信号はすべて録画されます。

AVマウスで録画するときは、有料無料を含め、映像と音声の信号を1つずつ選べます。

2 **料金を確認して➡で「確定」を選んで、決定で決定する。**

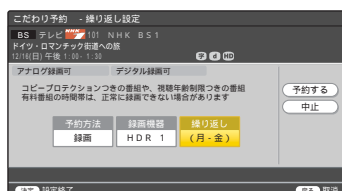
くり返して録画するように設定するには

「こだわり予約」では、違う日の同じ時間帯にくり返して録画するように設定できます。

1 **「細かい設定をして録画予約する［こだわり予約］」（☞65ページ）の手順1～4を行う。**

2 **/➡で「繰り返し設定」を選んで、決定で決定する。**

3 **⬅で「繰り返し」欄を選んで、決定で決定する。**

4 **で「毎週（日）」～「毎週（土）」または「(月ー金)」、「(月ー土)」、「毎日」を選んで、決定で決定する。**

5 **☞66ページの手順5～6を行う。**

ご注意

- **次の場合は予約できても録画できません。**
  - 未購入のペイ・パー・ビュー（PPV）番組
  - 視聴できないデータサービス
  - コピープロテクションにより録画できない番組
  - 未契約チャンネルの番組
  - 視聴年齢制限つきの番組
- **次の場合はAVマウスで録画できません。**
  - デジタル放送のテレビやラジオと連動しているデータ（予約できても録画されません。）
  - デジタル放送の独立データ
- くり返し設定をしたときは、番組の内容に関係なく指定した日時に録画を行います。そのため、番組によっては正しく録画されないことがあります。
- 放送時間などの変更に対応するように設定（☞63ページ）していても、くり返し設定をしたときは対応しません。

開始時刻になると

録画機器の電源が入り、録画が始まります。

また、本機は開始時刻の数分前に予約したチャンネルに固定され、他のデジタル放送のチャンネルに切り換わらなくなります。

ご注意

- **メディアレシーバーの電源スイッチで、主電源を切らないでください。**主電源が切れたままだと、予約した時刻になっても電源は入らず、録画が始まりません。予約した番組の開始時刻前に電源スタンバイしておいてください。
- AVマウスで録画機器に録画するときは、ビデオのAPC（アダプティブ・ピクチャー・コントロール）機能などが働くと、録画の冒頭が途切れることがあります。

ちょっと一言

録画開始時に本機が電源スタンバイのときは、そのままテレビの画面が出ることなく、デジタルテレビチューナー部の電源が入り、録画が行われます。

録画実行中は

デジタル放送を録画中でも、地上アナログやビデオ入力などの映像を見ることができます。また、メディアレシーバー前面の電源/予約録画/録画ランプが赤色に点灯します。

ご注意

- 次のときは録画が解除されます。
  - 他の予約と重なっているとき（☞80ページ）
  - i.LINKダビング中（☞171ページ）、i.LINK録画中、"メモリースティック"録画中に、予約した番組が始まるとき
- 録画を妨げるようなデジタル放送の操作（例：チャンネル切換、信号切換など）はできません。
- リモコンの電源ボタンで電源スタンバイにしても、録画はそのまま実行されます。
- 接続した他のi.LINK対応機器の電源を入/切したり、接続を外したりすると、画像が乱れたり途切れたりすることがあります。

番組を予約/録画する

細かい設定をして録画予約する［こだわり予約］（つづき）

終了時刻になると

録画が停止し、録画機器の電源が自動的に切れます。

予約時に録画機器を選ぶには

あらかじめメニューで設定しておけば、予約のたびに選ぶ必要はありません（☞62ページ）。予約するときに録画機器を変更するには次の操作をしてください。

1 **「細かい設定をして録画予約する［こだわり予約］」（☞65ページ）の手順1〜4を行う。**

2 **➡で「録画機器」欄を選んで、決定で決定する。**

録画機器はi.LINK、AVマウスでつないだ機器から選びます。

ご注意

i.LINK対応機器やAVマウスを本機と正しくつないでいないと（☞244、283ページ）、録画はできません。

3 **で録画する機器を選んで、決定で決定する。**

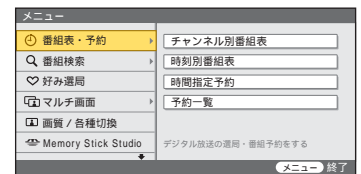
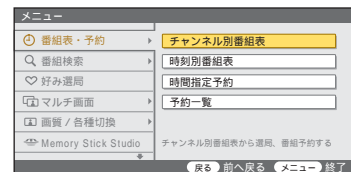
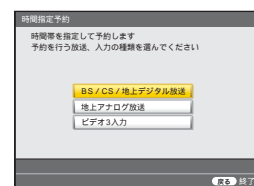
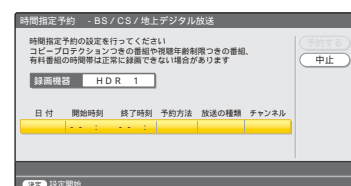
4 **☞66ページの手順5〜6 を行う。**

ご注意

- **次の場合は録画予約できません。**
  - すでに放送開始している番組
  - コピープロテクションにより録画できない番組
  - すでに予約が20件あるとき（☞76ページ）
  - 視聴予約（☞72ページ）/録画予約の実行中
  - i.LINKダビング中（☞171ページ）、i.LINK録画中、“ メモリースティック ”録画中
  - 放送時間が未定の番組
  - 未契約チャンネルの番組
  - 番組終了時刻まで残り時間が少ないとき
- **次の場合はAVマウスで録画予約できません。**
  - デジタル放送のテレビやラジオと連動しているデータ（予約できても録画されません。）
  - デジタル放送の独立データ

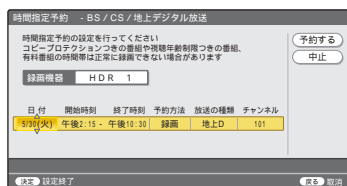
録画したい日時を決めて録画予約する［時間指定予約］

デジタル放送のチャンネルと録画時間を決めて予約できます。

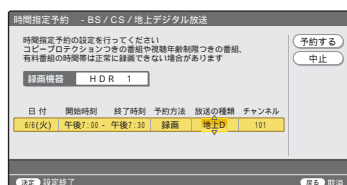
1 **メニューボタンを押す。**

2 **で「番組表・予約」を選んで、決定で決定する。**

3 **で「時間指定予約」を選んで、決定で決定する。**

4 **で「BS/CS/地上デジタル放送」を選んで、決定で決定する。**

録画する機器を変更するときは

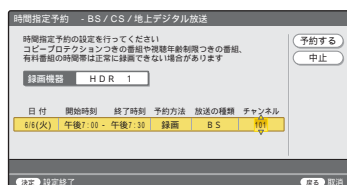
「予約時に録画機器を選ぶには」（☞70ページ）をご覧ください。

5 日時を設定する。

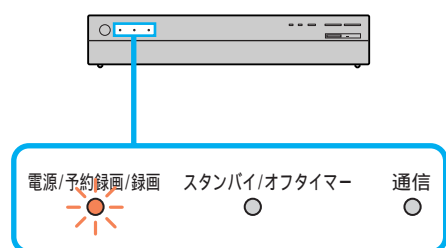
1 「日付」欄が選ばれていることを確認して、決定で決定する。

2 で録画する日付を選んで、➡を押す。

3 手順5-**2**をくり返して、開始時刻と終了時刻を設定する。

6 で「録画」を選んで、➡を押す。

7 チャンネルを設定する。

1 で放送を選んで、➡を押す。

2 でチャンネルを選んで、決定で決定する。

8 ➡で「予約する」を選んで、決定で決定する。

「予約設定を完了しました」と表示され、メディアレシーバー前面の電源/予約録画/録画ランプがオレンジ色に点灯します。

これで予約完了です！

「重複確認」画面が表示されたときは

重複している内容のメッセージが表示されます。「予約する」を選んで決定すれば、予約できます。正しく録画されるかは、「予約一覧」画面で予約内容を確認してください(☞76ページ)。

開始時刻になると

録画機器の電源が入り、録画が始まります。また、本機は開始時刻の数分前に予約したチャンネルに固定され、他のデジタル放送のチャンネルに切り換わらなくなります。

ご注意

- **メディアレシーバーの電源スイッチで、主電源を切らないでください。**主電源が切れたままだと、予約した時刻になっても電源は入らず、録画が始まりません。予約した番組の開始時刻前には、電源スタンバイにしておいてください。
- AVマウスで録画機器に録画するときは、ビデオのAPC（アダプティブ・ピクチャー・コントロール）機能などが働くと、録画の冒頭が途切れることがあります。

ちょっと一言

録画開始時に本機が電源スタンバイのときは、そのままテレビの画面が出ることなく、デジタルテレビチューナー部の電源が入り、録画が行われます。

録画実行中は

デジタル放送を録画中でも、地上アナログやビデオ入力などの映像を見ることができます。また、メディアレシーバー前面の電源/予約録画/録画ランプが赤色に点灯します。

ご注意

- 次のときは録画が解除されます。
  - 他の予約と重なっているとき（☞80ページ）
  - i.LINKダビング中（☞171ページ）、i.LINK録画中、“メモリースティック”録画中に、予約した番組が始まるとき
- 録画を妨げるようなデジタル放送の操作（例：チャンネル切換、信号切換など）はできません。
- リモコンの電源ボタンで電源スタンバイにしても、録画はそのまま実行されます。
- 接続した他のi.LINK対応機器の電源を入/切したり、接続を外したりすると、画像が乱れたり途切れたりすることがあります。

終了時刻になると

録画が停止し、録画機器の電源が自動的に切れます。

次のページにつづく

録画したい日時を決めて録画予約する［時間指定予約］（つづき）

予約時に録画機器を選ぶには

あらかじめメニューで設定しておけば、予約のたびに選ぶ必要はありません（☞62ページ）。予約するときに録画機器を変更するには次の操作をしてください。

1 **「録画したい日時を決めて録画予約する［時間指定予約］」（☞68ページ）の手順1〜4を行う。**

2 **で「録画機器」欄を選んで、決定で決定する。**

録画機器はi.LINK、AVマウスでつないだ機器から選びます。

ご注意

i.LINK対応機器やAVマウスを本機と正しくつないでいないと（☞244、283ページ）、録画はできません。

3 **で録画する機器を選んで、決定で決定する。**

4 **☞69ページの手順5〜8 を行う。**

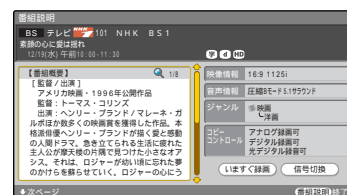
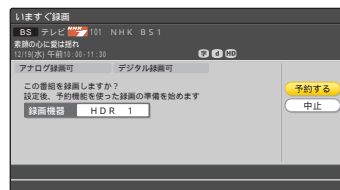
ご注意

- **次の場合は録画予約できません。**
  - すでに予約が20件あるとき（☞76ページ）
  - 視聴予約（☞72ページ）/録画予約の実行中
  - i.LINKダビング中（☞171ページ）、i.LINK録画中、“ メモリースティック ”録画中
  - 地上デジタルで1度もチャンネルスキャンが行われていないとき
- **次の場合は予約できても録画できません。**
  - 未購入のペイ・パー・ビュー（PPV）番組
  - 視聴できないデータサービス
  - コピープロテクションにより録画できない番組
  - 未契約チャンネルの番組
  - 視聴年齢制限つきの番組
- **次の場合はAVマウスで録画できません。**
  - デジタル放送のテレビやラジオと連動しているデータ（予約できても録画されません。）
  - デジタル放送の独立データ
- 時間指定予約をしたときは、番組の内容に関係なく指定した日時に録画を行います。そのため、番組によっては正しく録画されないことがあります。

今見ている番組を録画する［いますぐ録画］

今見ているデジタル放送の番組をその場で録画予約できます。

1 **録画したいデジタル放送の番組を見ているときに番組説明ボタンを押す。**

番組説明が表示されます。

2 **➡で「いますぐ録画」を選んで、決定で決定する。**

他の方法でも表示できます
デジタル放送視聴中にツールから
「いますぐ録画」を選ぶ。
選びかたは☞14ページをご覧ください。

3 **「予約する」が選ばれていることを確認して、決定で決定する。**

これで予約完了です！

録画機器の準備がととのったら、録画が開始され、メディアレシーバー前面の電源/予約録画/録画ランプが赤色に点灯します。

ご注意

- **次の場合は録画できません。**
  - 未購入のペイ・パー・ビュー（PPV）番組
  - 視聴年齢制限を解除していない番組
  - コピープロテクションにより録画できない番組
  - すでに予約が20件あるとき（☞76ページ）
  - 視聴予約（☞72ページ）、録画予約の実行中
  - i.LINKダビング中（☞171ページ）、i.LINK録画中、“メモリースティック”録画中
  - 番組終了まで残り時間が少ないとき
  - 未契約チャンネルの番組
- **次の場合はAVマウスで録画できません。**
  - デジタル放送のテレビやラジオと連動しているデータ（予約できても録画されません。）
  - デジタル放送の独立データ

ちょっと一言

地上アナログの番組は“メモリースティック”に録画できます（☞81ページ）。

「重複確認」画面が表示されたときは

重複している内容のメッセージが表示されます。「予約する」を選んで決定すれば、予約できます。正しく録画されるかは、「予約一覧」画面で予約内容を確認してください（☞76ページ）。

ご注意

AVマウスで録画機器に録画するときは、ビデオのAPC（アダプティブ・ピクチャー・コントロール）機能などが働くと、録画の冒頭が途切れることがあります。

録画を中止するには

予約一覧で、実行中の録画を取り消せます（☞77ページ）。

ちょっと一言

予約一覧では取り消し以外にも、設定内容の変更ができます。

録画実行中は

デジタル放送を録画中でも、地上アナログやビデオ入力などの映像を見ることができます。

ご注意

- 録画を妨げるようなデジタル放送の操作（例：チャンネル切換、信号切換など）はできません。
- 接続した他のi.LINK対応機器の電源を入/切したり、接続を外したりすると、画像が乱れたり途切れたりすることがあります。

終了時刻になると

録画が停止し、録画機器の電源が自動的に切れます。

録画開始時に録画機器を選ぶには

あらかじめメニューで設定しておけば、録画のたびに選ぶ必要はありません（☞62ページ）。録画するときに録画機器を変更するには次の操作をしてください。

1 **「今見ている番組を録画する［いますぐ録画］」（☞70ページ）の手順1～2を行う。**

2 **←で「録画機器」欄を選んで、決定で決定する。**

録画機器はi.LINK、AVマウスでつないだ機器から選びます。

ご注意

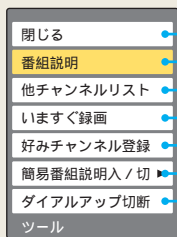
i.LINK対応機器やAVマウスを本機と正しくつないでいないと（☞244、283ページ）、録画はできません。

3 **↕で録画する機器を選んで、決定で決定する。**

4 **→で「予約する」を選んで、決定で決定する。**

番組を予約／録画する

次のページにつづく

今見ている番組を録画する［いますぐ録画］（つづき）

見たい番組を逃さず見る［視聴予約］

デジタル放送の番組を視聴予約しておくと、本機の電源が入った状態で開始時刻になると、予約したデジタル放送のチャンネルに自動的に切り換わります。

視聴予約には、次の3種類があります。

「かんたん視聴予約」：番組表や番組検索から、視聴したい番組を選ぶだけで簡単に予約できる。

「こだわり予約」：お気に入りの番組を繰り返し（毎週、毎日など）予約できる。

「時間指定予約」：チャンネルと録画時間を指定して予約できる。

簡単に視聴予約する［かんたん視聴予約］

1 視聴したい番組を選ぶ。

1 番組表ボタンを押す。

番組表が表示されます。番組表について詳しくは、☞38ページをご覧ください。

他の方法でも表示できます

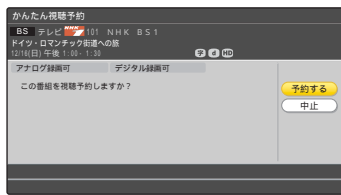
- **メニューから**
  「番組表・予約」→「チャンネル別番組表」を選ぶ。
- **i.LINK Studio 操作画面から**
  「番組表予約」を選ぶ。

選びかたは☞14ページをご覧ください。

2 （上下ボタン）で視聴したい番組を選んで、（決定）で決定する。

サブメニューが表示されます。

例：放送開始前の番組を選んだとき

2 で「かんたん視聴予約」を選んで、決定で決定する。

3 「予約する」が選ばれていることを確認して、決定で決定する。

「予約設定を完了しました」と表示されたあと、番組表に戻り、予約した番組にが表示されます。

これで予約完了です！

4 番組表ボタンを押して、番組表を消す。

「重複確認」画面が表示されたときは

重複している内容のメッセージが表示されます。「予約する」を選んで決定すれば、予約できます。正しく視聴できるかは、「予約一覧」画面で予約内容を確認してください（☞76ページ）。

視聴年齢制限付き番組を選んだときは

「暗証入力」画面が表示されます。①～⑩までの数字ボタンまたは/➡で4桁の暗証番号を入力してください。

予約した時刻になると

本機の電源が入っていれば、予約したデジタル放送のチャンネルに切り換わります。

ご注意

- 次のときは予約が解除されます。
  - ー 他の予約と重なっているとき（☞80ページ）
  - ー i.LINKダビング中（☞171ページ）、i.LINK録画中、“ メモリースティック ”録画中に予約した番組が始まるとき
  - ー 視聴予約実行中に、チャンネル切換や入力切換をしたとき
- 予約開始時刻に本機の電源は自動的に入りません。予約開始時刻までに本機の電源を入れた状態にしてください。電源スタンバイ（リモコンで電源を切ったとき：メディアレシーバー前面のスタンバイ/オフタイマーランプが赤色に点灯）や電源「切」（メディアレシーバーで主電源を切ったとき）のままだと、電源が入らず、予約が取り消されます。

ちょっと一言

映像/音声信号が複数ある番組のときは、視聴中に信号を切り換えてください。

［こだわり予約］から視聴予約する

1 予約したい番組を選ぶ。

1 番組表ボタンを押す。

番組表が表示されます。番組表について詳しくは、☞38ページをご覧ください。

他の方法でも表示できます

- **メニューから**
  「番組表・予約」→「チャンネル別番組表」を選ぶ。
- **i.LINK Studio 操作画面から**
  「番組表予約」を選ぶ。

選びかたは☞14ページをご覧ください。

2 で視聴したい番組を選んで、決定で決定する。

サブメニューが表示されます。

例：放送開始前の番組を選んだとき

番組を予約／録画する

次のページにつづく

見たい番組を逃さず見る [視聴予約]（つづき）

2 で「こだわり予約」を選んで、決定で決定する。

3 で「予約方法」を選んで、決定で決定する。

4 で「視聴」を選んで、決定で決定する。

5 で「予約する」を選んで、決定で決定する。

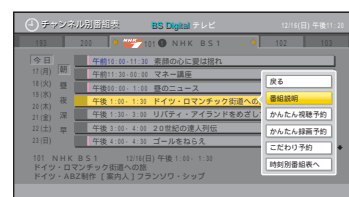
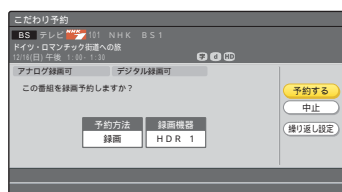
「予約設定を完了しました」と表示されたあと、番組表に戻り、予約した番組にが表示されます。

これで予約完了です！

6 番組表ボタンを押して、番組表を消す。

「重複確認」画面が表示されたときは

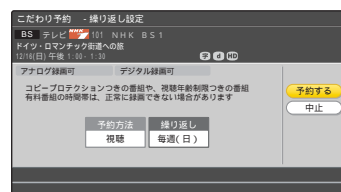
重複している内容のメッセージが表示されます。「予約する」を選んで決定すれば、予約できます。正しく視聴できるかは、「予約一覧」画面で予約内容を確認してください（☞76ページ）。

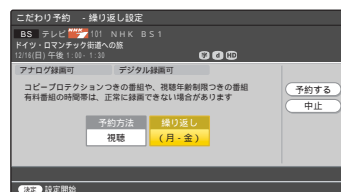
視聴年齢制限付き番組を選んだときは

「暗証入力」画面が表示されます。①～⑩までの数字ボタンまたは/で4桁の暗証番号を入力してください。

くり返して視聴するように設定するには

「こだわり予約」では、違う日の同じ時間帯にくり返して視聴するように設定できます。

1 「[こだわり予約] から視聴予約する」（☞73ページ）の手順1～4を行う。

2 /で「繰り返し設定」を選んで、決定で決定する。

3 で「繰り返し」欄を選んで、決定で決定する。

4 で「毎週（日）」～「毎週（土）」または「(月－金)」、「(月－土)」、「毎日」を選んで、決定で決定する。

5 「[こだわり予約] から視聴予約する」の手順5～6を行う。

予約した時刻になると

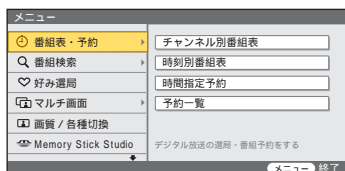
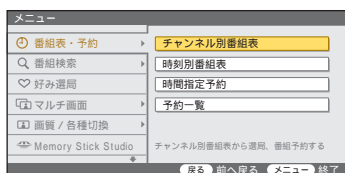
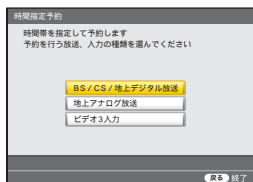
本機の電源が入っていれば、予約したデジタル放送のチャンネルに切り換わります。

ご注意

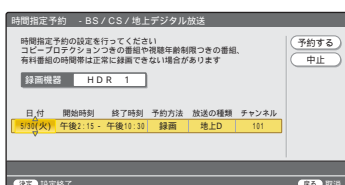
- 次のときは予約が解除されます。
  - 他の予約と重なっているとき（☞80ページ）
  - i.LINKダビング中（☞171ページ）、i.LINK録画中、“メモリースティック”録画中に予約した番組が始まるとき
  - 視聴予約実行中に、チャンネル切換や入力切換をしたとき
- 予約開始時刻に本機の電源は自動的に入りません。予約開始時刻までに本機の電源を入れた状態にしてください。電源スタンバイ（リモコンで電源を切ったとき：メディアレシーバー前面のスタンバイ/オフタイマーランプが赤く点灯）や電源「切」（メディアレシーバーで主電源を切ったとき）のままだと、電源が入らず、予約が取り消されます。

日時を指定して視聴予約する［時間指定予約］

デジタル放送のチャンネルと視聴時間を決めて予約できます。

1 メニューボタンを押して、メニューを出す。

2 で「番組表・予約」を選んで、決定で決定する。

3 で「時間指定予約」を選んで、決定で決定する。

4 で「BS/CS/地上デジタル放送」を選んで、決定で決定する。

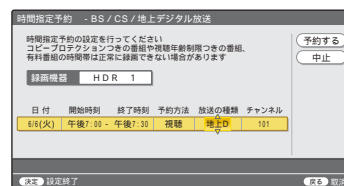
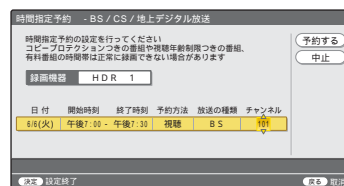
5 日時を設定する。

1 「日付」欄が選ばれていることを確認して、決定で決定する。

2 で視聴する日付を選んで、➡を押す。

3 手順5-**2**をくり返して、開始時刻と終了時刻を設定する。

6 で「視聴」を選んで、➡を押す。

7 チャンネルを設定する。

1 で放送を選んで、➡を押す。

2 でチャンネルを選んで、決定で決定する。

8 ➡で「予約する」を選んで、決定で決定する。

「予約設定を完了しました」と表示されます。

「重複確認」画面が表示されたときは

重複している内容のメッセージが表示されます。「予約する」を選んで決定すれば、予約できます。正しく視聴できるかは、「予約一覧」画面で予約内容を確認してください（☞76ページ）。

予約した時刻になると

本機の電源が入っていれば、予約したデジタル放送のチャンネルに切り換わります。

ご注意

- 次のときは予約が解除されます。
  - 他の予約と重なっているとき（☞80ページ）
  - i.LINKダビング中（☞171ページ）、i.LINK録画中、“メモリースティック”録画中に予約した番組が始まるとき
  - 視聴予約実行中に、チャンネル切換や入力切換をしたとき
- 予約開始時刻に本機の電源は自動的に入りません。予約開始時刻までに本機の電源を入れた状態にしてください。電源スタンバイ（リモコンで電源を切ったとき：メディアレシーバー前面のスタンバイ/オフタイマーランプが赤色に点灯）や電源「切」（メディアレシーバーで主電源を切ったとき）のままだと、電源が入らず、予約が取り消されます。

視聴予約を取り消すには

「予約一覧」画面（☞77ページ）で予約を取り消してください。

予約が正しく実行されるか確認する
[予約一覧ボタン]

「予約一覧」画面について

予約が実行されるごとに「予約一覧」画面が更新されます。実行された予約は、「実行履歴一覧」画面に移り、予約結果を確認できます。

ちょっと一言
「予約一覧」画面では、予約した番組の放送時刻が秒単位まで表示され、秒単位で時刻が重なっていても重複している予約となります。

「予約一覧」画面

予約状況と重複マーク

「実行」：録画/視聴予約実行中。

- ：重複しているがすべて録画/視聴できる。
- ：重複していて録画/視聴できない。
- ：前部分が重複していて途中から録画/視聴できる。
- ：後ろ部分が重複していて途中まで録画/視聴できる。
- ：前後部分が重複していて途中のみ録画/視聴できる。
- ：予約保護されている予約

重複マークの上に がついているときは
繰返し予約と重複していることを示します。

「実行履歴一覧」画面

予約結果マーク

△ ：予約が正しく実行されなかった。

A 予約情報マーク

B 操作タブ
表示画面を切り換えます。
「実行履歴一覧」に「△」が付いているときは、更新した実行履歴の中に正しく実行されなかった予約があることを示します。

C 操作ガイド表示欄
予約一覧を表示中にリモコンを使ってできることをガイド表示します。
青：前ページへ送ります。
赤：次ページへ送ります。

D 録画機器

E カーソル（選ばれているところ）
黄色で表示され、 で移動できます。

F メッセージ表示部
メッセージを表示します。

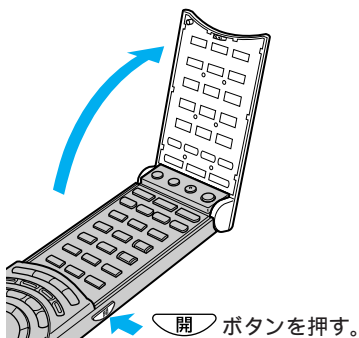
表示マークの意味

- ：録画予約
- ：視聴予約
- ：有料番組の購入あり
- ：“メモリースティック”が録画できない状況
- ：i.LINK機器が録画できない状況

予約一覧で予約を修正/取消する

予約一覧では予約の修正や取り消しができます。録画予約実行中に、途中で録画を解除することもできます。
予約が重なっていたり、連続していると、予約が正しく実行されないことがありますので、予約一覧で確認してください。

ちょっと一言
視聴予約は予約一覧で取り消さなくても、次の場合には自動的に取り消されます。
- 予約した番組の放送開始時に本機の電源が切れているとき
- 予約した番組を視聴中にチャンネル切換や入力切換をしたとき

1 開ボタンを押して、ふたを開ける。

2 リモコンの予約一覧ボタンを押す。

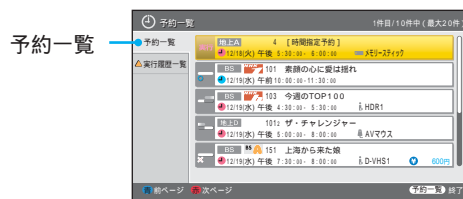
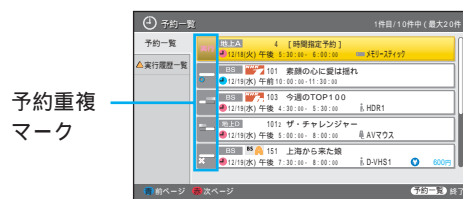
「予約一覧」画面が表示される。

ご注意
Memory Stick Studioのときは、予約一覧ボタンを押しても働きません。

他の方法でも表示できます
- **番組表や番組検索の検索結果表示中にツールから**
  「予約一覧」を選ぶ。
- **メニューから**
  「番組表・予約」→「予約一覧」を選ぶ。

選びかたは☞14ページをご覧ください。

3 画面上で「予約一覧」が選ばれていることを確認して、決定で決定する。

カーソルが右側に移動します。

4 予約が正しく実行されるか確認する。

予約重複マークが表示されているときは
予約時間が重複しているため、正しく実行されない予約があります。
「重複している予約はどうなるの？」（☞80ページ）で確認して、不要な予約を取り消してください。

5 リモコンの予約一覧ボタンを押す。

「予約一覧」画面が消えます。

予約を取り消すには

重複している予約や不要な予約を取り消せます。

1 リモコンの開ボタンを押して、ふたを開ける。

2 リモコンの予約一覧ボタンを押して、予約一覧を出す。

3 画面上で「予約一覧」が選ばれていることを確認して、決定で決定する。

次のページにつづく

番組を予約/録画する

予約が正しく実行されるか確認する［予約一覧ボタン］（つづき）

4 **で取り消したい番組を選んで、決定で決定する。**
サブメニューが表示されます。

5 **で「予約取消」を選んで、決定で決定する。**

6 **◀で「予約取消」を選んで、決定で決定する。**
予約が取り消されます。

7 **リモコンの予約一覧ボタンを押して、予約一覧を消す。**

ご注意
「こだわり予約」や「時間指定予約」(☞65、68、73、75ページ）でくり返し設定をしている番組を取り消すと、2回目以降の予約も取り消されます。

予約した設定内容を修正するには

録画機器や予約時間など、予約した内容を変更できます。

1 **リモコンの開ボタンを押して、ふたを開ける。**

2 **リモコンの予約一覧ボタンを押して、予約一覧を出す。**

3 **画面上で「予約一覧」が選ばれていることを確認して、決定で決定する。**

4 **で変更したい番組を選んで、決定する。**
サブメニューが表示されます。

5 **で「予約修正」を選んで、決定する。**
予約設定を行ったときの画面が表示されます。

6 **表示されている予約画面に従って、設定を変更する。**
予約の設定について詳しくは、☞63、65、68、72、73、75、81ページをご覧ください。

ご注意
実行中の予約は修正できません。

予約の修正を途中でやめるには
手順6で「中止」を選ぶ。

優先する予約を選ぶ

予約を保護するように設定しておけば、他の予約と重複しているときでも、優先的に録画/視聴できます。予約保護を設定できる予約は1つだけです。

ご注意
実行中の予約には、予約保護の設定はできません。

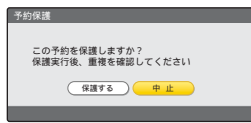
1 **リモコンの開ボタンを押して、ふたを開ける。**

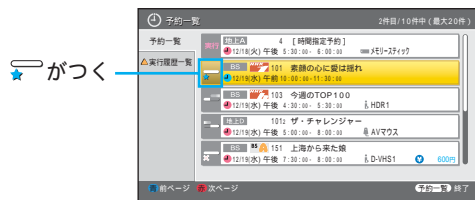
2 **リモコンの予約一覧ボタンを押して、予約一覧を出す。**

3 **画面上で「予約一覧」が選ばれていることを確認して、決定で決定する。**

4 **で予約を優先したい番組を選んで、決定で決定する。**
サブメニューが表示されます。

5 で「予約保護」を選んで、決定で決定する。

「予約保護」画面が表示されます。

6 ◀で「保護する」を選んで、決定で決定する。

「予約一覧」画面に戻り、選んだ番組に★マークが表示されます。

7 保護された予約を確認する。

8 リモコンの予約一覧ボタンを押して、予約一覧を消す。

予約保護を解除するには

手順5で「予約保護取消」を選ぶ。

「予約一覧」画面に戻り、選んだ番組から★マークが消えます。

実行された予約結果を確認する［実行履歴一覧］

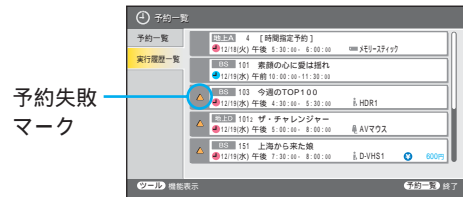
予約が正しく実行されたかどうか確認できます。実行されなかった予約については、その理由もお知らせします。予約確認後は、一覧された項目をまとめて消去できます。

1 リモコンの開ボタンを押して、ふたを開ける。

2 リモコンの予約一覧ボタンを押して、予約一覧を出す。

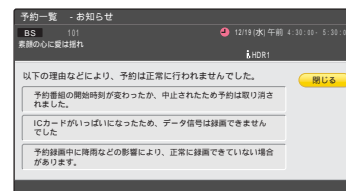
3 で「実行履歴一覧」を選んで、決定で決定する。

実行された予約が一覧表示されます。

「実行履歴一覧」に「△」が付いているときは、実行履歴が更新されています。

正しく予約が実行されていないと

予約自体がキャンセルされたときや予約が正しく実行されなかったときは、画面右の予約結果表示欄に△マークが表示されます。

4 で結果内容を確認したい項目を選んで、決定で決定する。

「予約一覧　－お知らせ」画面に切り換わり、結果内容が表示されます。

5 結果内容を確認し、「閉じる」が選ばれていることを確認して、決定で決定する。

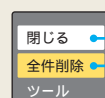
「予約一覧」画面に戻ります。

他の予約の結果を確認するときは

手順4~5をくり返し行ってください。

6 リモコンの予約一覧ボタンを押して、予約一覧を消す。

ツールを使う （☞15ページ）

「実行履歴一覧」画面表示中にツールボタンを押すと…

ツールを消す。

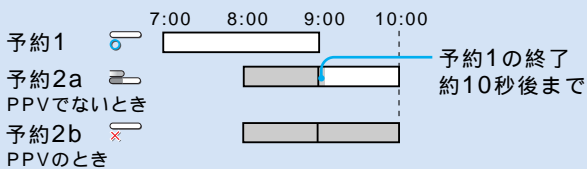
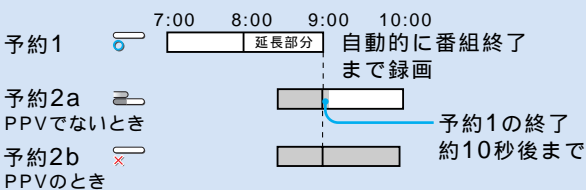
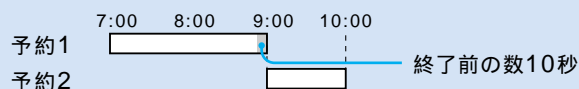
「実行履歴一覧」画面の項目をすべて削除する （☞76ページ）。

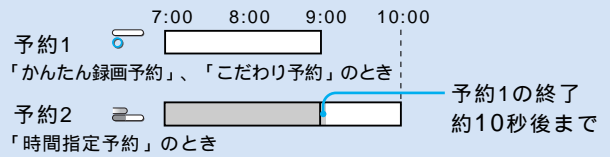
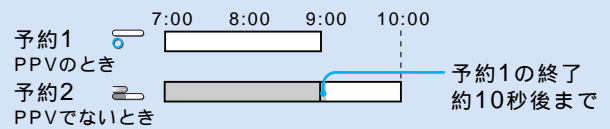
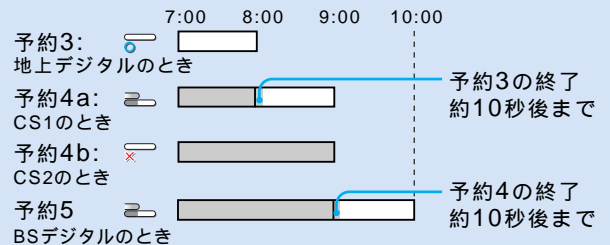
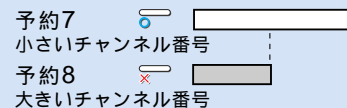
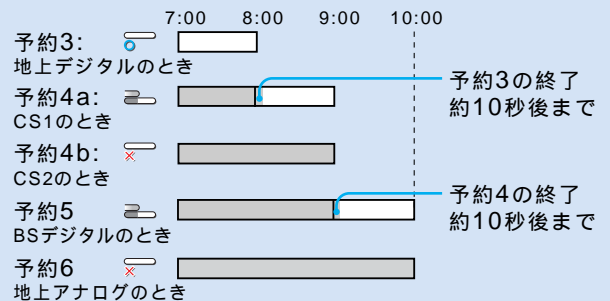
次のページにつづく

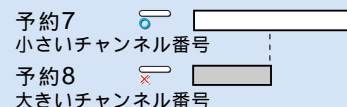
予約が正しく実行されるか確認する［予約一覧ボタン］（つづき）

重複している予約はどうなるの？

- 下の図で、 の部分は実行されません（録画予約のときは録画されません）。
- ペイ・パー・ビュー（PPV）（☞96ページ）は、番組の途中からは録画されず、予約自体が自動的に取り消されます。

放送時刻が重なっているときは？
先に始まる番組（予約1）が優先されます。
あとから始まる番組（予約2a）は、予約1の終了約10秒*1後から録画されます。ただし、ペイ・パー・ビュー（予約2b）は、予約自体が自動的に取り消されます。

前の番組が延長されて、他の予約に重複したときは？
延長された番組（予約1）が自動的に番組終了まで録画（視聴）されます。
延長により重複した番組（予約2a）は、予約1の終了約10秒*1後から録画されます。ただし、ペイ・パー・ビュー（予約2b）は、予約自体が自動的に取り消されます。
「流動編成・イベントリレー対応設定」を「する」に設定していて（☞63ページ）、録画時間が変わり他の予約に重複したときも同じです。

前の予約の終了時刻と、後の予約の開始時刻が同じとき（予約が連続しているとき）は？
録画予約が重複していないため、予約重複マークは表示されません。
ただし、先に始まる番組（予約1）が録画予約のときは、終了前の数10秒*1は録画されません。あとから始まる番組（予約2）にチャンネルが切り換わるためです。

予約保護が設定されている予約と重複したときは？
予約保護の予約が優先して録画（視聴）されます。他の予約が実行中のときも、予約保護の予約を優先します。

開始時刻が同じときは？
その1：「かんたん録画予約」または「こだわり予約」（予約1）が「時間指定予約*2」（予約2）より優先されます。
重なった予約の放送時間が長いとき（予約2）は、予約1の終了約10秒*1後から録画されます。

その2：「かんたん録画予約」または「こだわり予約」のとき
①ペイ・パー・ビュー（予約1）が優先されます。
重なった予約の放送時間が長いとき（予約2）は、予約1の終了約10秒*1後から録画されます。

②地上デジタル、CS1、CS2、BSデジタルの順に優先されます。
重なった予約がすべてペイ・パー・ビュー、あるいはすべてペイ・パー・ビューでないときです。優先順位の低い番組の放送時間が長いとき（予約4a、4b、5）は、優先順位の高い番組（予約3、4a、4b）の終了約10秒*1後から録画されます。

③小さいチャンネル番号が優先されます（予約7）。
重なった予約の両方が同じデジタル放送（BSデジタルとBSデジタルなど）で、両方ともペイ・パー・ビュー、あるいは両方ともペイ・パー・ビューでないときです。

その3：「時間指定予約*2」のとき
①地上デジタル、CS1、CS2、BSデジタル、地上アナログの順に優先されます。
優先順位の低い番組の放送時間が長いとき（予約4a、4b、5、6）は、優先順位の高い番組（予約3、4a、4b、5）の終了約10秒*1後から録画されます。

②小さいチャンネル番号が優先されます（予約7）。
重なった予約の両方が同じ放送（BSデジタルとBSデジタルなど）のときです。

予約7
小さいチャンネル番号
予約8
大きいチャンネル番号

*1 録画する機器を切り換えたときは、時間がかかることがあります。
*2 "メモリースティック"の「日時を決めて録画する」も含まれます。また、未購入のペイ・パー・ビュー（PPV）番組では、予約できても録画できません。

“メモリースティック”に録画する［●M.S.録画ボタン］

“メモリースティック”をお使いになる前に、必ず『“メモリースティック”について』（☞144ページ）と『“メモリースティック”の入れかたと取り出しかた』（☞145ページ）をご覧ください。

録画機器をつないでいなくても、“メモリースティック”に録画制限のない地上アナログやビデオ2、3、4入力の映像を録画できます。録画した映像はクリエや携帯電話などの携帯機器でお楽しみいただくことができ、本機でも再生できます。
録画するときに、画質や音声のモードをMemory Stick Studioの「記録モード」であらかじめ設定しておくことができます。詳しくは、**「記録モードを設定するには」（☞148ページ）をご覧ください。**

ご注意

- あらかじめ、空き容量があり、録画できる状態の“メモリースティック”をメモリースティック挿入口に入れておいてください（☞145ページ）。
- “メモリースティック”の誤消去防止スイッチが「LOCK」になっていないことを確認してください（☞144ページ）。
- “メモリースティック”をパソコンでフォーマットしたときは、正しく動作しないことがあります。本機またはパソコン以外の“メモリースティック”対応機器でフォーマットしてからお使いください。
- 本機で記録する動画は、主に携帯機器での再生を想定しています。本機で再生するときは、記録モードにかかわらず画像が粗くなります。

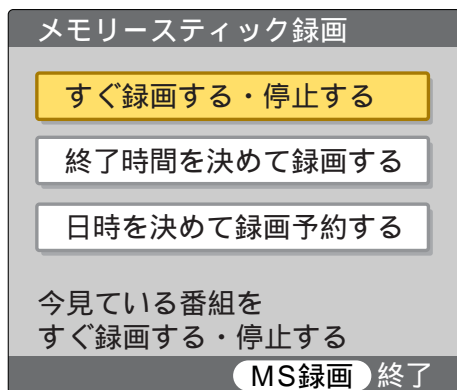
「メモリースティック録画」操作画面を表示する

押す。
（もう1度押すと消える。）

メモリースティック録画

- すぐ録画する・停止する
- 終了時間を決めて録画する
- 日時を決めて録画予約する

今見ている番組を
すぐ録画する・停止する

MS録画 終了

他の方法でも表示できます
Memory Stick Studioトップ画面から
「録画」を選ぶ。
ジョグダイヤルを使って選ぶときは、☞14ページをご覧ください。

「メモリースティック録画」操作画面でできること

項目	説明
「すぐ録画する・停止する」	視聴中の番組をすぐに録画するときや、録画をすぐに停止するときに選びます（☞82ページ）。地上アナログとビデオ2、3入力の映像を録画できます。
「終了時間を決めて録画する」	視聴中の番組の録画を自動的に終了させるときに選びます（☞83ページ）。地上アナログとビデオ3入力の映像を録画できます。
「日時を決めて録画予約する」	番組の放送時間に合わせて録画予約するときに選びます（☞84ページ）。地上アナログとビデオ3入力の映像を録画できます。

本機で“メモリースティック”に記録した映像は、ソニー製パーソナルエンターテインメントオーガナイザー クリエや携帯電話などの携帯機器で再生できます。

- クリエの対象機種については、CLIE〈クリエ〉の取扱説明書またはサポートページをご覧ください。
  http://www.nccl.sony.co.jp/download/C-W014-003-01/index.html
- 携帯電話の対象機種については、携帯電話の取扱説明書またはソニーエリクソンのホームページをご覧ください。
  http://www.sonyericsson.co.jp/product/index.html

番組を予約／録画する

次のページにつづく

“ メモリースティック ”に録画する［●M.S.録画ボタン］（つづき）

ご注意

- “ メモリースティック ”への録画は、最大2時間までです。2時間たつと、自動的に停止します。
- 「終了時間を決めて録画する」と「日時を決めて録画予約する」は、デジタル放送の受信設定をしていないと設定できません。本機の時間情報は、デジタル放送から取得するためです。
- 録画中はMemory Stick Studioボタンは使えません。

見ながらすぐ録画する/停止する

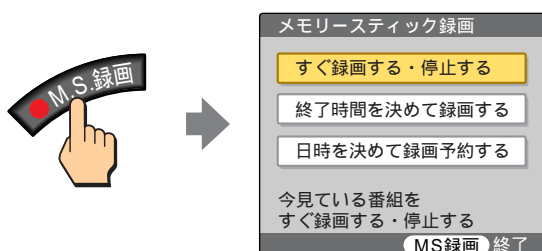
1 “ メモリースティック ”をメモリースティック挿入口に入れる。

“ メモリースティック ”を正しく入れてください（☞145ページ）。

ご注意

- 誤消去防止スイッチが「LOCK」になっていないことを確認してください（☞144ページ）。
- “ メモリースティック ”に空き容量があることを確認してください（☞146、150ページ）。

2 ●M.S.録画ボタンを押す。

「メモリースティック録画」操作画面が表示されます。

3 （上下ボタン）で「すぐ録画する・停止する」を選んで、（決定ボタン）で決定する。

録画が始まります。

他の方法でもできます

地上アナログ、ビデオ2、3、4入力視聴中にツールから「すぐ録画・停止する」を選ぶ。
選びかたは☞14ページをご覧ください。

ご注意

- すぐ録画実行中にチャンネル切換や入力切換の操作をすると、録画停止を確認する画面が表示されます。
  “ メモリースティック ”で録画を続けるときは←/→で「中止」を選んで、（決定ボタン）で決定してください。
- 本機の電源を切ると録画は中止されます。
- 次のときは録画できません。
  - 地上アナログ、ビデオ2、3、4入力以外を視聴中
  - i.LINKダビング中（☞171ページ）、i.LINK録画中、AVマウス録画中
  - “ メモリースティック ”録画予約実行中
  - “ メモリースティック ”再生/フォーマット中

録画を停止するには

途中で録画を止めるときは、以下の操作を行ってください。

1 ●M.S.録画ボタンを押す。

2 （上下ボタン）で「すぐ録画する・停止する」を選んで、（決定ボタン）で決定する。

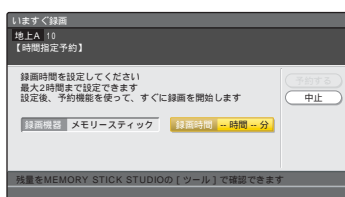
録画した動画を再生するには

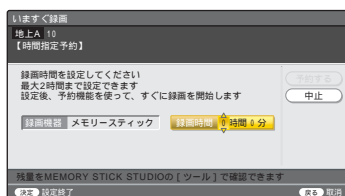
Memory Stick Studio「動画を楽しむ［ムービープレーヤー］」（☞153ページ）をご覧ください。ファイル名を確認するときは☞145ページをご覧ください。

終了時間を決めて録画する

地上アナログとビデオ3入力の視聴中の番組を、終了時間を決めて自動的に録画を終了させるときは、以下の操作を行ってください。

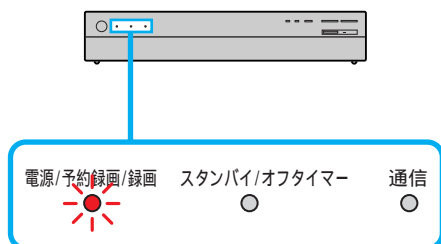
1 **「見ながらすぐ録画する/停止する」（☞82ページ）の手順1〜2を行う。**

2 **[▲▼]で「終了時間を決めて録画する」を選んで、[決定]で決定する。**

3 **終了時間を設定する。**

1 **「録画時間」が選ばれていることを確認して、[決定]で決定する。**

2 **[▲▼]で時間を設定して、➡を押す。**

3 **[▲▼]で分を設定して、[決定]で決定する。**

4 **➡で「予約する」を選んで、[決定]で決定する。**

録画が始まり、メディアレシーバー前面の電源/予約録画/録画ランプが赤色に点灯します。

「時刻情報が取得できないため予約できません 予約するにはデジタル放送を受信できるようにしてください」と表示されたときは

デジタル放送を受信していないと、時刻情報が取得できないため、時間を指定する録画はできません。デジタル放送の受信設定をするか（☞219ページ）、または「見ながらすぐ録画する/停止する」（☞82ページ）で録画してください。

「重複確認」画面が表示されたときは

重複している内容のメッセージが表示されます。「予約する」を選んで決定すれば、録画できます。正しく録画されるかは、「予約一覧」画面で予約内容を確認してください（☞76ページ）。

ご注意

- 次のときは録画が解除されます。
  - 他の予約と重なっているとき（☞80ページ）
  - i.LINKダビング中（☞171ページ）、i.LINK録画中、“メモリースティック”録画中に予約した番組が始まるとき
- 次のときは録画できません。
  - 地上アナログ、ビデオ3入力以外を視聴中
  - すでに予約が20件あるとき（☞76ページ）
  - 視聴予約（☞72ページ）/録画予約の実行中
  - i.LINKダビング中（☞171ページ）、i.LINK録画中、“メモリースティック”録画中

録画を途中で止めるには

予約一覧で、実行中の録画を取り消してください。操作について詳しくは、「予約を取り消すには」（☞77ページ）をご覧ください。

録画した動画を再生するには

Memory Stick Studioの「動画を楽しむ［ムービープレーヤー］」（☞153ページ）をご覧ください。ファイル名を確認するときは☞145ページをご覧ください。

次のページにつづく

“メモリースティック”に録画する［●M.S.録画ボタン］（つづき）

録画したい日時を決めて録画予約する

録画したい時間を指定して、地上アナログとビデオ3入力の映像を録画予約できます。

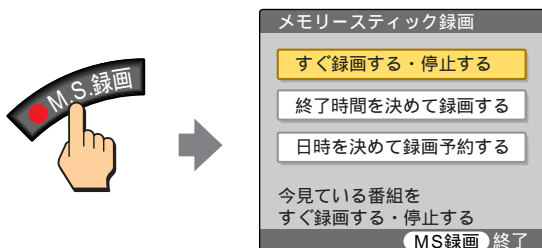
1 “メモリースティック”をメモリースティック挿入口に入れる。

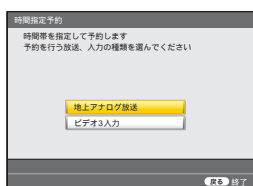
“メモリースティック”を正しく入れてください（☞145ページ）。

ご注意

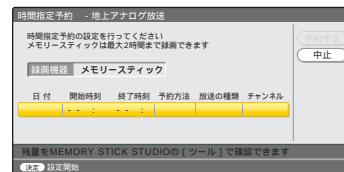
- 誤消去防止スイッチが「LOCK」になっていないことを確認してください（☞144ページ）。
- “メモリースティック”に空き容量があることを確認してください（☞146、150ページ）。

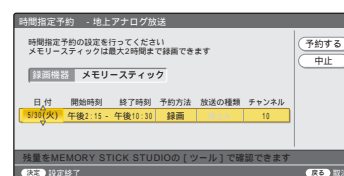
2 ●M.S.録画ボタンを押す。

「メモリースティック録画」操作画面が表示されます。

他の方法でも表示できます
Memory Stick Studio**トップ画面から**
「録画」を選ぶ。
ジョグダイヤルを使って選ぶときは、☞14ページをご覧ください。

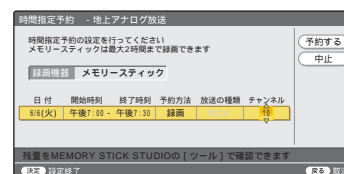
3 で「日時を決めて録画予約する」を選んで、決定で決定する。

他の方法でも表示できます
メニューから
「番組表・予約」→「時間指定予約」を選ぶ。
選びかたは☞14ページをご覧ください。

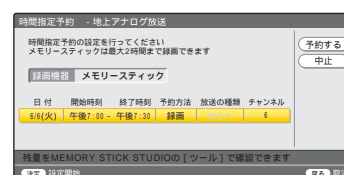
4 で「地上アナログ放送」または「ビデオ3入力」を選んで、決定で決定する。

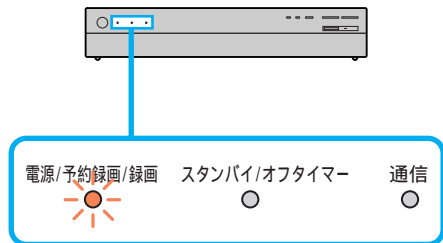
例：地上アナログ放送を選んだとき

5 日時を設定する。

1 日付欄が選ばれていることを確認して決定で決定する。

2 で録画する日付を選んで、➡を押す。

3 手順5-2をくり返して、開始時刻と終了時刻を設定する。

6 で「録画」を選んで、➡を押す。

ビデオ3入力の映像を録画するときは、手順8に進んでください。

7 で「チャンネル」を選んで、決定で決定する。

8 ➡で「予約する」を選んで、決定で決定する。

「予約設定を完了しました」のメッセージが表示され、メディアレシーバー前面の電源/予約録画/録画ランプがオレンジ色に点灯します。

ご注意

- **次のときは録画予約できません。**
  - すでに予約が20件あるとき（☞76ページ）
  - 視聴予約（☞72ページ）/録画予約の実行中
  - i.LINKダビング中（☞171ページ）、i.LINK録画中、“メモリースティック”録画中
- 録画したいチャンネルは、チャンネルスキャンで自動設定したチャンネル（☞217ページ）を選んでください。「チャンネル表示を書き換えるには」（☞249ページ）で書き換えたチャンネルを選ぶと、正しいチャンネルが録画できません。

「時刻情報が取得できないため予約できません 予約するにはデジタル放送を受信できるようにしてください」と表示されたときは

デジタル放送を受信していないと、時刻情報が取得できないため、時間を指定する録画はできません。デジタル放送の受信設定をするか（☞219ページ）、または「見ながらすぐ録画する/停止する」（☞82ページ）で録画してください。

「重複確認」画面が表示されたときは

重複している内容のメッセージが表示されます。「予約する」を選んで決定すれば、録画できます。正しく録画されるかは、「予約一覧」画面で予約内容を確認してください（☞76ページ）。

開始時刻になると

開始時刻の少し前から録画が始まります。

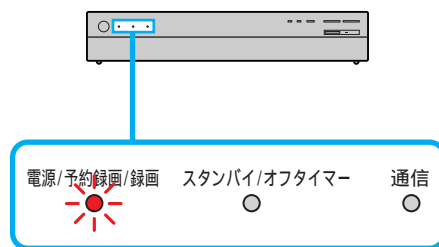
ご注意

- **メディアレシーバーの電源スイッチで、主電源を切らないでください。** 主電源が切れたままだと、予約した時刻になっても電源は入らず、録画が始まりません。予約した番組の開始時刻前には、必ず、主電源を入れておいてください。
- 次のときは録画が解除されます。
  - 他の予約と重なっているとき（☞80ページ）
  - i.LINKダビング中（☞171ページ）、i.LINK録画中、“メモリースティック”録画中に予約した番組が始まるとき

ちょっと一言

- 録画開始時に本機が電源スタンバイのときは、そのままテレビの画面が出ることなく、テレビチューナー部の電源が入り、録画が行われます。
- 録画開始時に“メモリースティック”の操作（プロテクト、フォーマット、ファイル削除など）をしていると、録画予約が取り消されることがあります。

録画実行中は

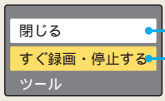
録画中でも、他の放送や入力を切り換えて、映像を見ることができます。また、メディアレシーバー前面の電源/予約録画/録画ランプが赤色に点灯します。

終了時刻になると

録画が停止します。

予約を取り消したり録画を途中で止めるには

予約一覧で、予約を取り消してください。操作について詳しくは、「予約を取り消すには」（☞77ページ）をご覧ください。

録画した動画を再生するには

Memory Stick Studioの「動画を楽しむ［ムービープレーヤー］」（☞153ページ）をご覧ください。ファイル名を確認するときは☞145ページをご覧ください。

“ メモリースティック ” に静止画を保存する

地上アナログやビデオ2、3、4入力の映像を見ているときに、残しておきたい場面を静止させて、“ メモリースティック ”に保存できます。Memory Stick Studioで設定できる画像サイズによって、“ メモリースティック ”に保存できる静止画の枚数が異なります。**設定のしかたについて詳しくは、「記録モードを設定するには」（☞148ページ）をご覧ください。**

ご注意

- 次の場合は保存できません。
  - “ メモリースティック ”録画/再生中およびフォーマット中
  - “ メモリースティック ”が破損しているとき
  - 地上アナログとビデオ2、3、4入力以外でメモした画面
- “ メモリースティック ”で保存できる状態になるまで少し時間がかかることがあります。

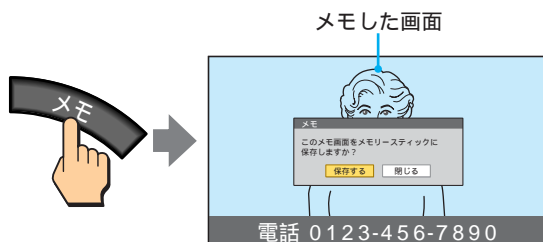
メモした画面を保存する ［メモボタン］

1 “ メモリースティック ”をメモリースティック挿入口に入れる。

“ メモリースティック ”を正しく入れてください（☞145ページ）。

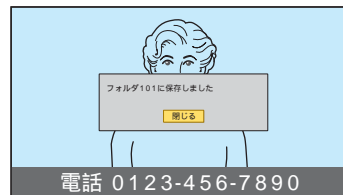
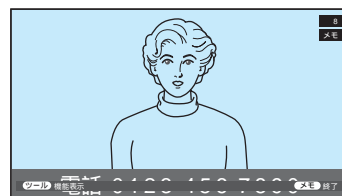
ご注意

- 誤消去防止スイッチが「LOCK」になっていないことを確認してください（☞144ページ）。
- “ メモリースティック ”に空き容量があることを確認してください（☞146、150ページ）。

2 記録したい画像が表示されたときにメモボタンを押す。

ちょっと一言

- メモした画面を保存しないときは「閉じる」を選ぶと、メモ画面が消えます。
- メモ画面を消しても、ツールからメモした画面を保存できます。

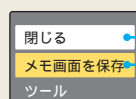
3 「保存する」が選ばれていることを確認して、決定で決定する。

「メモリースティックに保存中です」とメッセージが表示され、正しく保存されると、保存先のフォルダ名が表示されます。

4 「閉じる」が選ばれていることを確認して、決定で決定する。

5 メモボタンを押して、終了する。

保存した静止画を見るには

Memory Stick Studioの「静止画を楽しむ」（☞151ページ）をご覧ください。ファイル名を確認するときは☞145ページをご覧ください。

ツールを使う（☞15ページ）

メモした画面を表示中にツールボタンを押すと…

閉じる：ツールを消す。
メモ画面を保存：地上アナログとビデオ2、3、4入力のメモした画面を“ メモリースティック ”に保存する。

録画制約について

AVマウスを使った録画予約についてのご注意

あらかじめ録画機器側で録画できる状態に設定し、下記をご確認のうえ、本機で録画予約を設定してください。

- 録画機器側で録画モード（標準/3倍など）を選ぶ。
- フォーマットの必要なディスクメディア（DVD-RW、DVD-RAMなど）をフォーマットする。
- 録画機器側で設定した録画予約を解除する。
- DVDレコーダーなどで、録画ボタンを2回押さないと録画を始めない機器は、1回押せば録画を始めるように設定する。
- シンクロ録画など、外部入力端子に信号が入力されると自動的に録画を始める機能がある録画機器は、その機能を解除する。
- 録画機器が複合機のときは、録画メディア（ハードディスクまたはDVD-Rなど）を選ぶ。

i.LINKでデジタル放送を録画するときの録画制限（コピープロテクション）

放送局が番組によって、次のように設定して、信号を送っています。「番組説明」画面（☞36ページ）の番組情報欄で「コピーコントロール」情報を確認してください。また、**本機はDTLAのコピープロテクション技術に対応しています（☞284ページ）。**

● デジタル録画不可

デジタルハイビジョン信号HD・標準テレビ信号SDのどちらもデジタル録画できません。ただし、番組によっては、本機につないだビデオでアナログ録画できます。

● デジタル録画可・デジタル録画可＊

録画した番組を、さらにデジタルで録画・再生できます。
また、デジタル録画可＊のときは、録画する機器によっては2回目以降のデジタル録画・再生ができないことがあります。

● デジタル録画1回可（コピーワンス）

デジタル録画できますが、デジタル録画した番組をさらにデジタル録画することはできません。番組によっては有料となることがあります。

i.LINKでデジタル録画するときは

本機は、DTLAのコピープロテクション技術に対応しています。したがって、コピーを許可されていない番組は録画することはできません。
コピープロテクションについて詳しくは、☞284ページをご覧ください。

本機では次のようなメッセージが表示されます。

「コピープロテクションにより録画はできません」とメッセージが表示されたときは
録画できない番組です。「予約方法」は「視聴」に固定され、視聴予約のみできます。

「コピープロテクションによりi.LINKでの録画予約はできません」と表示されたときは
i.LINKでデジタル録画できない番組です。「AVマウス録画」を選べば、他の録画機器に録画できます。

録画制約について（つづき）

AVマウスで録画するときの録画制限

本機は、録画防止機能（コピープロテクション）が付いています。そのため、番組によっては、正常な画像で録画できなかったり、録画したものを正常な画像で再生できなかったりするものがあります。
本製品は、著作権保護技術を採用しており、マクロビジョン社及びその他の著作権利者が保有する米国特許及びその他の知的財産権によって保護されています。この著作権保護技術の使用は、マクロビジョン社の許可が必要で、また、マクロビジョン社の許可がない限り家庭用及びその他の一部の鑑賞用の使用に制限されています。分解したり、改造することも禁じられています。

また、デジタル放送を映像/音声コードでハードディスクレコーダーやDVDレコーダーにデジタル録画するときも制限されることがありますが、VHSビデオで録画できる場合があります。

本機では次のようなメッセージが表示されます。

「コピープロテクションにより録画はできません」とメッセージが表示されたときは
録画できない番組です。「予約方法」は「視聴」に固定され、視聴予約のみできます。

「コピープロテクションによりVHS以外には録画できません」と表示されたときは
AVマウスの設定がビデオ以外の機器になっています。ビデオをつないで、AVマウスの設定をビデオにしてください（☞244ページ）。
ハードディスクレコーダーやDVDレコーダーなどでは録画できません。

“ メモリースティック ”で録画するときの録画制限

本機は、地上アナログ放送とビデオ2、3、4入力の映像を“ メモリースティック ”に録画、または静止画として保存できます。ただし、ビデオ入力からの信号で、著作権保護対応のものは録画も保存もできません。

本機では次のようなメッセージが表示されます。

「この信号は録画（または保存）できません」とメッセージが表示されたときは
録画または保存できない映像です。

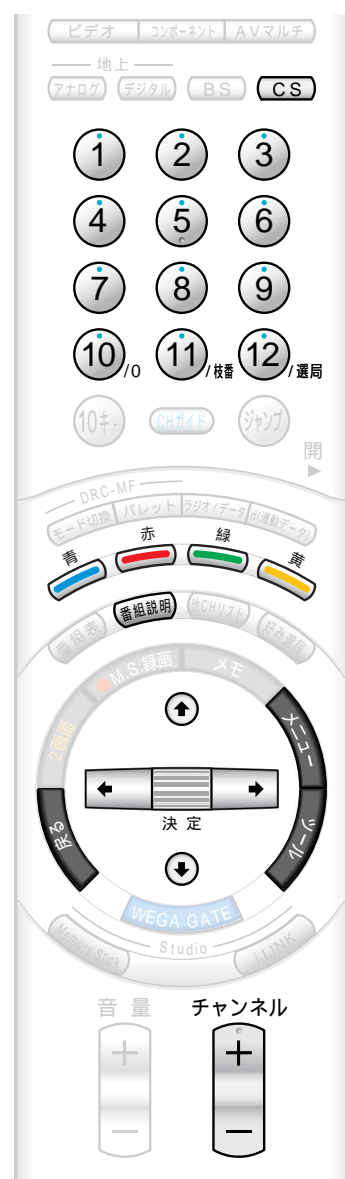
ご注意

下記のような信号を“ メモリースティック ”に記録しようとした場合にも、正しく記録できないことがあります。
- 一部のゲーム映像
- ビデオやDVDなどの早送り、巻戻し、一時停止、停止中などの画面

著作権保護対応の番組を録画するときの録画制限

著作権保護対応の番組では、録画を1回のみ許可（コピーワンス）されている画像などコピー制御信号が含まれている場合は、録画機器によっては録画できないことがあります。
また、ペイ・パー・ビュー（PPV）や録画禁止の番組では、著作権保護情報のデータを確認するため、番組開始から数分程度、黒い画面が録画されることがあります。野球延長などにより番組開始時間に変更があった場合も、開始時間変更情報のデータを確認するため、同様に番組開始から数分程度、黒い画面が録画されることがあります。

デジタル放送のその他の機能

ここでは、デジタル放送特有の多彩な機能（マルチ放送や信号切換、字幕放送、有料番組の購入、お知らせを見るなど）の操作について説明しています。
また、データ放送で通信するときに登録しておいて発呼する方法や、ブックマークの付けかた、ソフトウエアキーボードの使いかたも説明しています。

このイラストは、リモコンのジョグダイヤルの上下回転操作を表します。

このイラストは、リモコンのジョグダイヤルを押しこんで決定する操作を表します。

1つの放送局での マルチ放送について

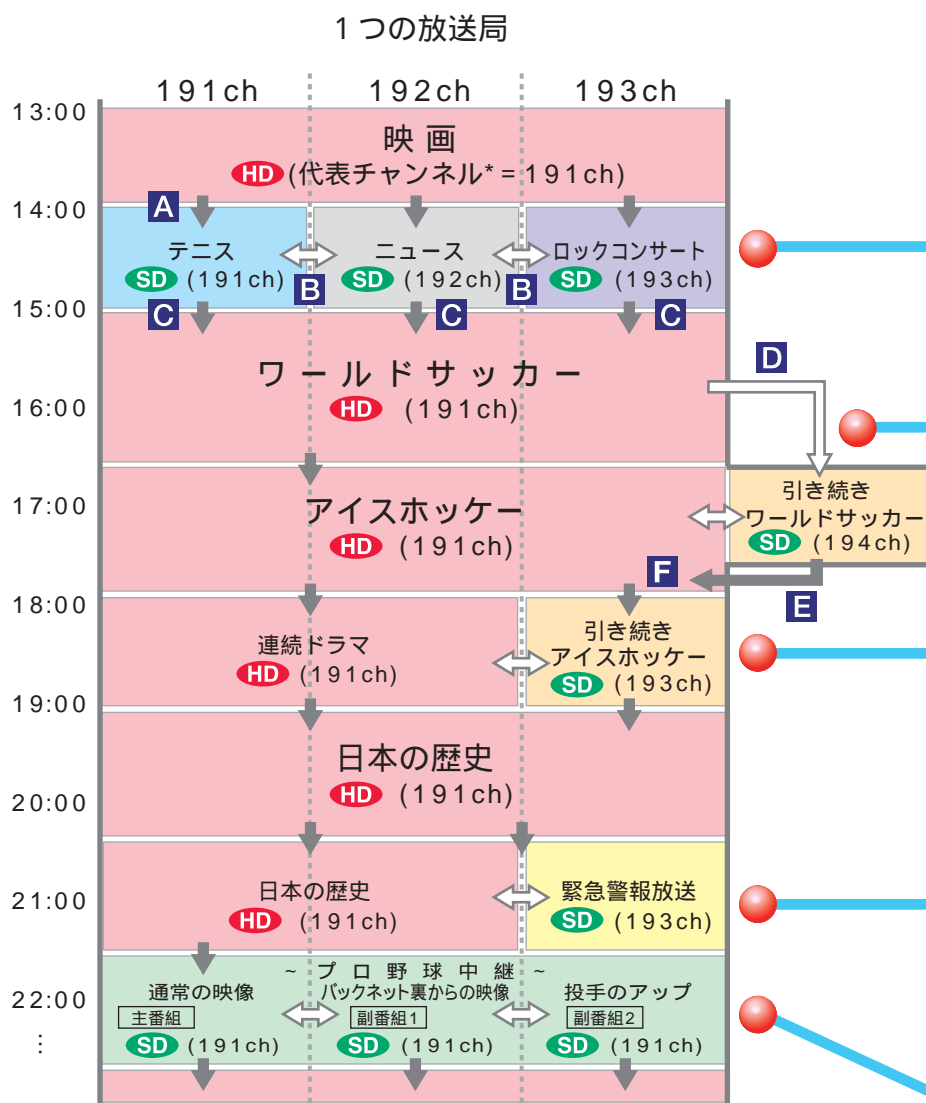
地上デジタルとBSデジタルでは、1つの放送局が、デジタルハイビジョン信号HDの1チャンネル放送と、標準テレビ信号SDの複数チャンネル(2〜5チャンネル)放送を、下の図のように時間帯によって切り換えるマルチ放送とがあります。

それぞれのチャンネル（191ch、192ch、193ch）で同じ番組が放送されます（イベント共有）。時刻別番組表（☞39ページ）を見るときや、チャンネル+/−ボタンでチャンネルを選ぶときは、代表チャンネルのみが表示されます。

HD デジタルハイビジョン信号

SD 標準テレビ信号

➡ 自動的に切り換わる

⇨ 手動で切り換える

A マルチチャンネル放送開始
…HDからSDに変わり、それぞれのチャンネル（191ch、192ch、193ch）で別々の番組を放送します。

B マルチチャンネル放送中の選局
…チャンネル+/−ボタンを押して、見たいチャンネルに切り換えます。

C マルチチャンネル放送終了
…14：00から192chや193chを見ていたときは、代表チャンネルの191chに切り換わらないまま、見ていたチャンネル（192chや193ch）のまま引き続き、そのあとの番組（ワールドサッカーや連続ドラマ）をご覧いただけることもあります。

D 臨時放送開始
…中継延長になりHDからSDに変わり、引き続き放送します。ご覧になるときは、数字ボタンで3桁のチャンネル番号を入力して、臨時放送のチャンネル（上の例では194ch）に切り換えます。

E 臨時放送終了
…代表チャンネルへ自動的に移行します。

F イベントリレー
…イベントリレーが開始される前にお知らせが表示されます。「選局する」を選ぶと、時間になると自動的に切り換わります。

上記の番組はフィクションであり、実際の放送局での放送内容とは関係ありません。

マルチ放送には次のような種類があります

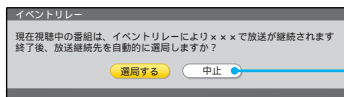
複数のチャンネルで違う番組を同時に放送［マルチチャンネル放送］A～C

左の例のように、同じ放送局の別々のチャンネルで、テニス、ニュース、ロックコンサートなどのようにそれぞれ違う番組を同時間帯に放送します。

延長した番組を最後まで放送［臨時放送］

左の例のように、サッカー中継が予定放送時間内に終わらないときに、同じ放送局の別チャンネルで引き続き試合終了まで放送し、元のチャンネルでは予定どおり、後番組の連続ドラマを放送します。

他のチャンネルで引き続き放送［イベントリレー］

放送中の番組が終了したあと別チャンネルで引き続き放送を行うときは、お知らせが表示されます。見るときは、「選局する」を選んでください。時間になると自動的に切り換わります。

放送局からイベントリレーのお知らせが表示される。表示を消すときは「中止」を選ぶ。

地震などの災害時に特別番組を放送［緊急警報放送］

警戒警報や津波警報が発令されたときなどは、別チャンネルで緊急警報放送を行っていることの案内が表示されます。見るときは、「選局する」を選んでください。

さまざまな角度から番組を放送［マルチビュー放送］

左の例のように、プロ野球中継で、同じチャンネルのまま、最大3方向（通常の映像、バックネット裏からの映像、投手のアップ）の画面を、映像切換ボタンで切り換えて見ることができます（☞92ページ）。

雨天など受信状態が悪いときの放送［降雨対応放送］

お買い上げ時は、「降雨対応放送に切り換わりました」と表示され、画質や音質が通常放送に比べ低下した状態で引き続き受信するように設定されています。

降雨対応放送についてのちょっと一言

- 降雨時「受信できません　大雨・大雪やアンテナの調整ズレなどの場合もあります」と表示されて、映像や音声が出なくなる場合は、受信中の放送が降雨対応でないためか、降雨対応放送で対応できない気象状況となっているためです。
- 天候回復後、自動的に通常の放送に戻ります。
- 「セットアップ」メニューで「降雨対応放送受信」を「切」にすると、降雨対応放送に切り換わりません。
  「セットアップ」→「デジタル放送設定」→「受信設定」→「BS/CS設定」→「降雨対応放送受信」→「切」を選ぶ。
  選びかたは☞14ページをご覧ください。

ご注意

- 臨時放送のチャンネルはチャンネル＋/－ボタンでは選べません。
- 「チャンネル＋/－ボタンや番組表で選べるチャンネルを変更する」（☞251ページ）で、選べないように設定したチャンネルは選べません。

マルチビュー放送や第2映像などを見る

[映像切換ボタン]

第2映像など映像信号が複数ある番組のとき

映像信号の数は番組ごとに異なります（☞93ページ）。

映像切換

押すたびに、切り換わる。

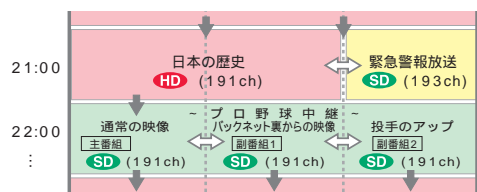
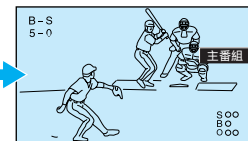
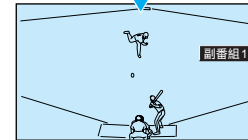
第1映像

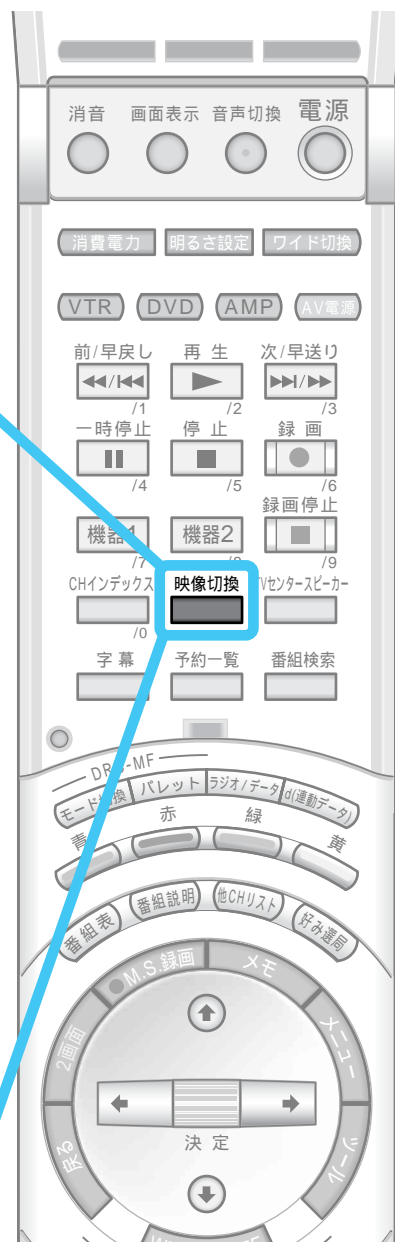
第2映像

第3映像

開を押して、ふたを開ける。

マルチビュー放送のとき

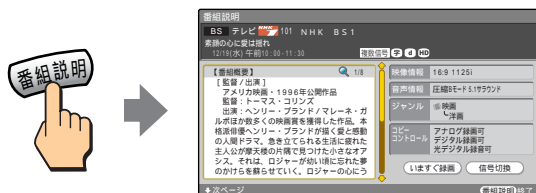
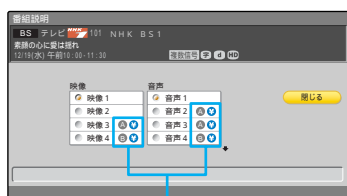
マルチビュー放送は、プロ野球中継の番組などで、最大3つの映像（下の図参照）を同じチャンネルで切り換えて楽しめます。また、放送が始まると、「マルチビュー放送中」などの案内が出ます。

マルチビュー放送MV

マルチビュー放送を行っているときは

- 画面表示ボタンを押すと、「主番組」「副番組1」「副番組2」の1つが表示される。
- 番組表（☞38ページ）や番組説明（☞36ページ）でMVと表示される。

第2映像や第2音声などを選ぶ［信号切換］

番組によっては、第2映像や第2音声など複数の映像/音声信号の中から視聴したい信号を選べます。
映像切換ボタン（☞92ページ）や音声切換ボタン（☞138ページ）でも切り換えられます。

ご注意

- 切り換えられる信号がないときは切り換わりません。
- 予約した録画の実行中は切り換わりません。

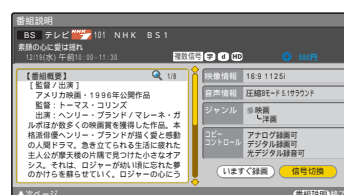
1 番組説明ボタンを押す。

2 ➡で「信号切換」を選んで、決定で決定する。

マーク表示について

¥：信号を切り換えたときは、購入が必要となることがあります（☞96ページ）。
済：購入手続きが終わると、¥が済に変わります。
Ⓐ～Ⓕ：映像信号を購入すると、自動的に同じマークの付いた音声信号がセットで購入されます。同様に音声信号を購入すると、自動的に同じマークの付いた映像信号がセットで購入されます。

3 ⬆⬇/⬅/➡で切り換えたい信号を選んで、決定で決定する。

選んだ信号（第2映像や第2音声など）に切り換わります。

4 ➡で「閉じる」を選んで、決定で決定する。

「番組説明」画面に戻ります。

5 番組説明ボタンを押す。

視聴中の番組に戻ります。

ご注意

- チャンネルを切り換えたときは、第1音声に切り換わります。
- 切り換えた信号（例：第2音声に設定したとき）の番組が終了し、次の番組にも同じ信号（この例では第2音声）があるときは、引き続きその信号を受信します。
  次の番組では第2音声が購入対象（¥マークが表示される）になる場合があります。このときは、上記の手順に沿って、他の購入対象でない信号（例えば第1音声）を選んでください（第2音声を購入して引き続き視聴することもできます）。

字幕放送や文字スーパーを見る [字幕ボタン]

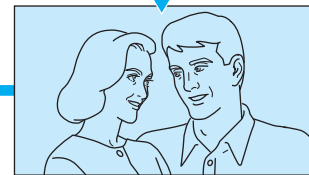
字幕放送や文字スーパーは最大2言語の放送が行われます。
字幕や文字スーパーを消したり、言語を切り換えたりできます。

字幕放送：映画やドラマなどの字幕
文字スーパー：臨時ニュースなど

ご注意

- デジタル放送/ビデオ出力端子からは、字幕放送の字幕や文字スーパーは出力されないため、ビデオへは録画できません。
- メニューで「切」を選んでも、放送局側で字幕や文字スーパーを消せない設定にしている番組もあります。

ちょっと一言
字幕あり/なしに関わらず、「第1言語」、「第2言語」または「切」に切り換えられます。
1言語しか放送されていないときは、「第2言語」に切り換えても同じ言語が表示されます。

字幕を表示する

字幕放送を行っているか確認するには

字幕放送を行っているときは、画面表示ボタンを押すと画面右上に「字幕あり」と表示されます。
お買い上げ時は、字幕放送の字幕の表示は「切」に設定されています。

他の方法でも表示できます
「セットアップ」メニューから
「セットアップ」→「デジタル放送設定」→「表示設定」→「字幕入/切」→「第1言語」または「第2言語」を選ぶ。
選びかたは☞14ページをご覧ください。

文字スーパーの言語を切り換える

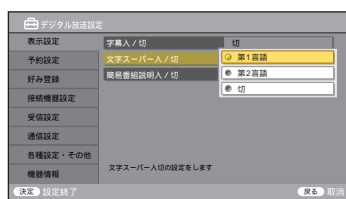
お買い上げ時は、文字スーパーがあるときには「第1言語」が自動的に表示されるように設定されています。

1 **メニューボタンを押す。**

2 **で「セットアップ」を選んで、決定で決定する。**

3 **で「デジタル放送設定」を選んで、決定で決定する。**

4 **で「表示設定」を選んで、決定で決定する。**

5 **で「文字スーパー入/切」を選んで、決定で決定する。**

6 **で「第1言語」または「第2言語」、「切」を選んで、決定で決定する。**

7 **戻るボタンをくり返し押して、設定画面を消す。**

ペイ・パー・ビュー（PPV）を見る

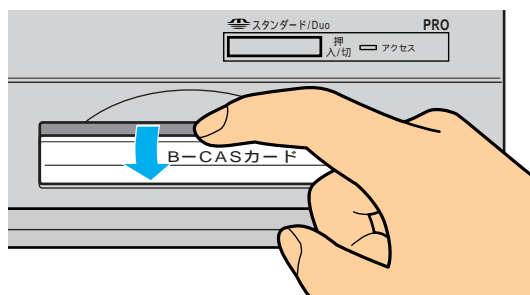
ペイ・パー・ビュー（PPV：PAY PER VIEW）とは、「見るたびに支払う」の意味で、番組単位で随時、視聴購入できる有料番組です。ペイ・パー・ビュー（PPV）には、購入前に内容を確認（プレビュー：事前視聴）できる番組もあります。

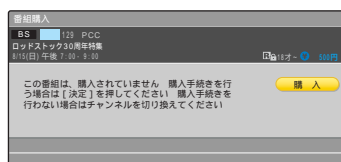
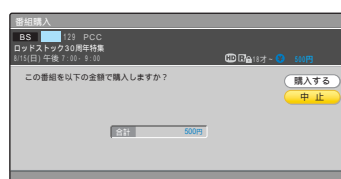
ペイ・パー・ビュー（PPV）の購入前に下記の準備をしてください。

1 電話回線につなぐ（☞202ページ）。

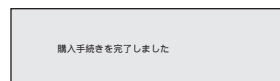
電話回線につなぐ。

2 B-CASカードを入れる（☞225ページ）。

スタンダード/Duo　PRO　押 入/切　アクセス　B－CASカード

加入申し込みが別途必要になる放送局もあります。

1 PPV番組を選ぶ。

2 「購入」が選ばれていることを確認して、（決定）で決定する。

3 購入手続きを行う。

購入するときは

（↕）で「購入する」を選んで、（決定）で決定する。購入したPPV番組が映ります。

購入をやめるときは

（↕）で「中止」を選んで、（決定）で決定する。

ちょっと一言

コピープロテクションがかかった番組のときは、メッセージを確認した上で購入してください。

ご注意

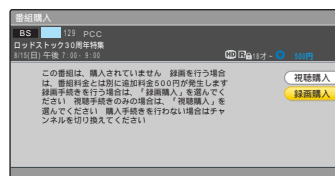
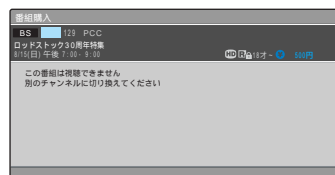
購入操作の途中に他のチャンネルを選ぶと、購入は中止されます。この場合は、手順1から操作し直してください。

プレビューについて

- PPV番組により見られる回数、時間が異なります。プレビューが終了しても、購入操作は引き続き行えます。
- プレビューを見たあと、購入をやめるときは、チャンネルを変えてください。

こんなメッセージが表示されたら

録画に別料金がかかるときは

録画有料番組となります。

視聴できない番組のときは

見るだけのときは

（↕）で「視聴購入」を選んで、（決定）で決定する。

録画するときは

（↕）で「録画購入」を選んで、（決定）で決定する。
録画防止信号が解除され、本機のi.LINK端子につないだハードディスクレコーダーやD-VHSビデオ、デジタル放送/ビデオ出力端子につないだ録画機器で録画できるようになります。

「ICカードのデータが一杯になったので購入できません　電話線をつないだ後カードを抜き差しすると購入できるようになります」

購入額がカードの上限金額を越えています。
また、番組の購入可能件数を越えたときにも、この表示が出ます。
電話回線をつないでください。

「購入時間が過ぎているため購入できません」

番組によっては購入可能時間が決まっているため購入できない場合があります。

録画防止機能について

i.LINKでデジタル録画するときは

本機は、DTLAのコピープロテクション技術に対応しています。したがって、コピーを許可されていない番組は録画することはできません。
コピープロテクションについて詳しくは、☞87、284ページをご覧ください。

ビデオなどにアナログ録画するときは

本機は、録画防止機能（コピープロテクション）が付いています。そのため、番組によっては、正常な画像で録画できなかったり、録画したものを正常な画像で再生できなかったりするものがあります。
本製品は、著作権保護技術を採用しており、マクロビジョン社及びその他の著作権利者が保有する米国特許及びその他の知的財産権によって保護されています。この著作権保護技術の使用は、マクロビジョン社の許可が必要で、また、マクロビジョン社の許可がない限り家庭用及びその他の一部の鑑賞用の使用に制限されています。分解したり、改造することも禁じられています。

音声について

メディアレシーバー後面の光デジタル音声出力端子からの信号を、正しく録音できない番組があります。ご注意ください。

追加信号について

映像/音声を選ぶ画面で、追加したい信号を選んで番組を楽しめます。
なお、¥マークの付いた映像、音声などを選ぶと、選んだ分の追加料金が発生します。
また、Ⓐ～Ⓕマークの付いた信号を購入すると、自動的に同じマークの付いた他の信号がセットで購入されます。

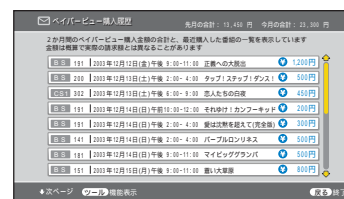
ペイ・パー・ビュー（PPV）の購入概算額を見るには

先月分と今月分の購入概算額と最近購入した番組の一覧を確認できます。正確な購入合計額については、ご覧になっている各放送局のカスタマーセンターへお問い合わせください（☞227ページ）。

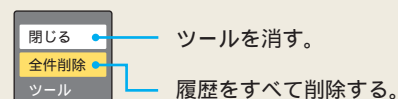
1 **メニューボタンを押して、メニューを出す。**

2 **で「お知らせ」を選んで、で決定する。**

3 **で「ペイパービュー購入履歴」を選んで、で決定する。**

購入したPPV番組の前月分と今月分の概算金額が表示されます。
更新されていれば、「ペイパービュー購入履歴」の右横に「更新」と表示されています。

4 **戻るボタンを押して、終了する。**

ツールを使う（☞15ページ）

ペイパービュー購入履歴表示中にツールボタンを押すと…

文字を入力する［ソフトウェアキーボード］

ソフトウェアキーボードを表示して、画面上で文字や記号を入力できます。

ソフトウェアキーボードを表示する

ソフトウェアキーボードは、次のときに自動的に表示されます。

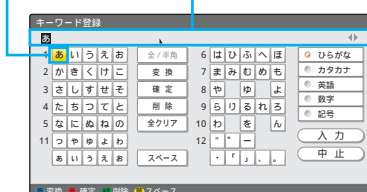
- 「番組検索」でキーワードを入力するとき（☞51ページ）
- 新しいキーワードを登録するとき（☞49ページ）
- 「セットアップ」→「デジタル放送設定」→「通信設定」で「接続ID」や「接続パスワード」を入力するとき（☞233ページ）
  半角の英語/数字/記号入力のみ使用できます。
- 「セットアップ」→「デジタル放送設定」→「通信設定」で「プロキシサーバー」を入力するとき（☞236、241ページ）
  半角の英語/数字/記号入力のみ使用できます。
- デジタル放送のデータで、文字や数字を入力するとき（☞30ページ）

文字や記号を入力する

例：番組検索でキーワード「愛」を入力する

1 **「［かんたんキーワード検索］に、よく使うキーワードをあらかじめ登録する」（☞49ページ）の手順1〜3を行う。**

2 **[▲▼]/↑/↓/←/→で、フォーカスを「あ」に移動して、[決定]で決定する。**

入力文字表示エリアに「あ」と表示されます。

3 **[▲▼]/↑/↓/←/→で、フォーカスを「い」に移動して、[決定]で決定する。**

入力文字表示エリアに「あい」と表示されます。

4 **[▲▼]/↑/↓/←/→で、フォーカスを「変換」ボタンに移動して、[決定]で決定する。**

5 **「愛」が表示されるまで、くり返し[▲▼]/↑/↓ボタンを押す。**

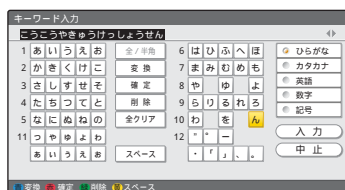
6 **「確定」ボタンが選ばれていることを確認して、[決定]で決定する。**

反転文字から通常の文字に変わります。

7 **[▲▼]/↑/↓/←/→で、フォーカスを「入力」ボタンに移動して、[決定]で決定する。**

ソフトウェアキーボードが消えて、キーワード「愛」が表示されます。

長い文を漢字に変換するには

例：「こうこうやきゅうけっしょうせん」

1 **/↑/↓/←/→で、フォーカスを「変換」ボタンに移動して、（決定）で決定する。**

文節ごとに漢字に変換されます。

孝行やきゅうけっしょうせん

2 **正しい漢字が表示されるまで、くり返し/↑/↓を押す。**

高校やきゅうけっしょうせん

3 **「確定」ボタンが選ばれていることを確認して、（決定）で決定する。**

次の文節が変換されます。

高校野球けっしょうせん

4 **手順2、3をくり返す。**

文節の長さを変えたいときは

←/→ボタンを押す。

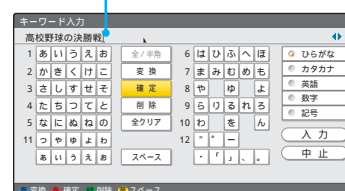
入力した文字を修正するには

入力文字表示エリアに表示されている文字を修正できます。

文字を削除する

例：「高校野球の決勝戦」から「の」を削除する

1 **/↑/↓/←/→で、フォーカスを入力文字表示エリアに移動する。**

入力文字表示エリア

2 **←/→で、カーソルを削除する文字の左側に移動する。**

高校野球の決勝戦

カーソルが右端にあるときは、カーソルの左側の文字が削除されます。

3 **/↑/↓/←/→で、フォーカスを「削除」ボタンに移動して、（決定）で決定する。**

高校野球決勝戦

文字を挿入する

例：「高校野球決勝戦」で「決勝戦」の前に「の」を挿入する

1 **/↑/↓/←/→で、フォーカスを入力文字表示エリアに移動する。**

2 **←/→で、カーソルを文字を入れたい位置に移動する。**

高校野球決勝戦

3 **/↑/↓/←/→で、フォーカスを挿入する文字ボタンに移動して、（決定）で決定する。**

4 **/↑/↓/←/→で、フォーカスを「確定」ボタンに移動して、（決定）で決定する。**

高校野球の決勝戦

次のページにつづく

文字を入力する [ソフトウェアキーボード](つづき)

ソフトウェアキーボードで使えるリモコンのボタン

ソフトウェアキーボードを表示しているときに、リモコンの数字ボタンを使ったほうが簡単に操作できることがあります。

例：数字ボタンで「夢」を入力する

ソフトウェアキーボードの文字ボタンの行の左端に表示されている数字を見て、数字ボタンを押します。

1 **「文字や記号を入力する」(☞98ページ) の手順1を行う。**

2 **数字ボタンの「8」を2回押して、決定で決定する。**
入力文字表示エリアに「ゆ」と表示されます。

3 **数字ボタンの「7」を4回押して、決定で決定する。**
入力文字表示エリアに「ゆめ」と表示されます。

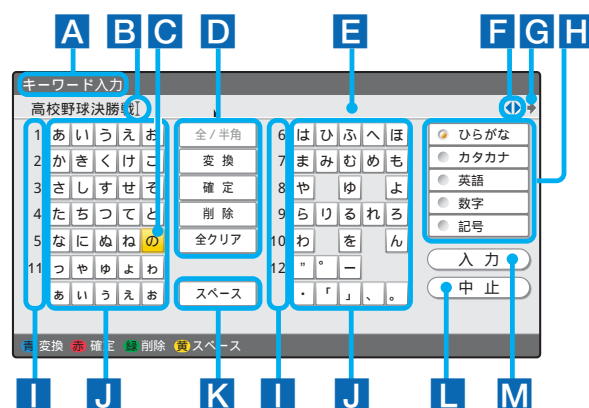
4 **青ボタンを押して、で「夢」を選ぶ。**

5 **赤ボタンを押す。**

6 **☞98ページの手順7を行う。**

ボタン	説明
青	**「ひらがな」入力、「カタカナ」入力のときは** 入力した文字を漢字に変換します。 「変換」ボタンと同じ働き。 **「英語」入力、「記号」入力のときは** 全角文字と半角文字を切り換えます。 「全/半角」ボタンと同じ働き。
赤	**「ひらがな」入力、「カタカナ」入力のときは** 変換した文字を確定します。 「確定」ボタンと同じ働き。
緑	カーソルの右側の文字を削除します。 ただし、カーソルが右端にあるときは、左側の文字を削除します。 「削除」ボタンと同じ働き。
黄	カーソルの位置にスペース（空白）を入力します。「スペース」ボタンと同じ働き。
① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫	キーボードの文字ボタンの行の左端に表示されている数字を見て、数字ボタンで文字を入力します。

「ソフトウェアキーボード」画面について

ソフトウェアキーボード

A 入力する設定項目

B カーソル

C フォーカス

D 編集用ボタン
「全／半角」：英語や記号の全角、半角を切り換える。
「変換」：入力した文字を漢字に変換する。
「確定」：文字を確定する。
「削除」：カーソルの右側の文字を削除する。ただし、カーソルが右端にあるときは、左側の文字を削除する。
「全クリア」：入力文字表示エリアにある文字をすべて削除する。

E 入力文字表示エリア
入力中の文字が表示されます。
◣の位置までの確定後の文字が、キーワードなどとして設定されます。◣を超えたときは、確定時に文字列の後が削除されます。

F ◀ ▶マーク
入力文字表示エリアでカーソルを移動できるときに表示されます。

G ←/→マーク
入力された文字が入力文字表示エリアに表示しきれないときに表示されます。カーソルを移動すると残りの文字が表示されます。

H 入力できる文字の種類を変えて、ソフトウェアキーボードを表示します。

I リモコンの数字ボタンを押すと、同じ数字の行にフォーカスが移動します。さらにくり返し押すとフォーカスが右に移動します。

J 文字ボタン
文字や記号を入力します。

K 「スペース」ボタン
スペース（空白）を入力します。

L 「中止」ボタン
文字入力を中止して元の画面に戻ります。入力文字表示エリアに表示されている文字は設定されません。

M 「入力」ボタン
入力した文字を確定してソフトウェアキーボードを消します。

放送局と情報をやりとりする [登録発呼]

データ放送で、クイズ番組に解答を送ったり、アンケートに投票するなど放送局と通信して楽しむときに、回線が混んでいて通信できないことがあります。そのようなときは登録しておくと、あとで発信できます。また、発呼受付時間帯以外のものは予約しておくと、発呼予定日時に自動的に発信されます。
番組によっては登録発呼ができないものもあります。
あらかじめ「データ放送のためのネットワークを設定する」を行ってください（☞231ページ）。

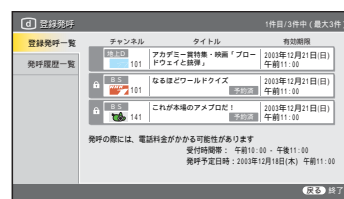
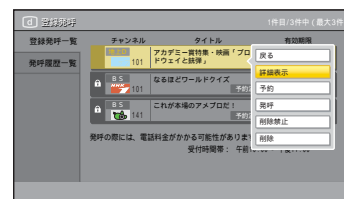
発呼を登録するには

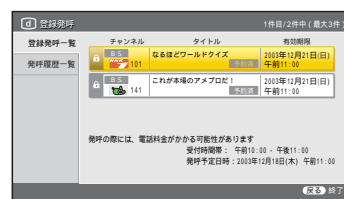
データ放送で発呼登録ができることが表示されたときに登録します。
登録後に、「登録発呼一覧」画面を表示すると、登録した内容を確認できます。

登録した発呼を実行する

1 メニューボタンを押す。

2 で「データ放送補助」を選んで、決定で決定する。
「データ放送補助」はを下に回すと表示されます。

3 で「登録発呼」を選んで、決定で決定する。

4 ➡/で発呼する番組を選んで、決定で決定する。
サブメニューが表示されます。

5 で「発呼」を選んで、決定で決定する。

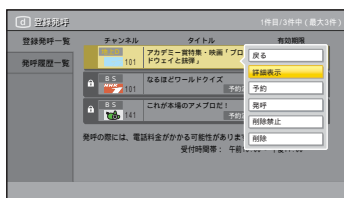
6 「発呼する」が選ばれていることを確認して、決定で決定する。
発呼が終わると、発呼した項目が登録発呼一覧から削除され、発呼履歴へ移動します。

放送局と情報をやりとりする [登録発呼]（つづき）

7 **戻るボタンを押して、「登録発呼一覧」画面を消す。**

発呼を予約するには

予約しておくと、発呼予定日時に自動的に発呼されます。

1 **「登録した発呼を実行する」(☞101ページ)の手順1〜3を行って「登録発呼一覧」画面を出す。**

2 **➡/で予約したい番組を選んで、決定で決定する。**

サブメニューが表示されます。

3 **で「予約」を選んで、決定で決定する。**

4 **戻るボタンを押して、「登録発呼一覧」画面を消す。**

予約発呼が行われるときは予約発呼を実行するメッセージが表示されます。

ご注意

メディアレシーバーの電源スイッチで電源を切っているときは、発呼を予約しても発呼できません。

サブメニューからできること

サブメニューは「登録発呼一覧」画面で、で番組を選んで、決定で決定すると表示できます。

項目	できること
「戻る」	サブメニューを消して、他の番組を選べます。
「詳細表示」	詳細情報を見ることができます(☞103ページ)。
「発呼」または	発呼受付期間中の番組は、すぐに発呼します（☞101ページ)。
「発呼中止」	発呼中は発呼を取り消せます。
「予約」または	発呼受付開始前の番組は、発呼の予約ができます。
「予約取消」	予約済みの番組は、予約を取り消せます。
「削除禁止」または	項目の削除を禁止します。有効期限が切れても、削除できません。
「削除禁止解除」	すでに🔒マークのついているものは、削除禁止を解除します。
「削除」	登録発呼一覧から削除します。

発呼履歴を見るには

発呼、予約発呼の結果を確認できます。
「登録発呼一覧」画面で、/⬅で「発呼履歴一覧」を選びます。
「発呼履歴一覧」画面が表示されます。

ツールを使う（☞15ページ）

「発呼履歴一覧」画面表示中にツールボタンを押すと…

- 閉じる：ツールを消す。
- 全件削除：「発呼履歴一覧」画面に表示されている発呼をすべて削除する。

「登録発呼一覧」画面について

内容に変更があったときのみ更新されます。

「発呼履歴一覧」画面について

内容に変更があったときのみ更新されます。

青：前ページへ切り換えます。
赤：次ページへ切り換えます。

「登録発呼 ― 詳細表示」画面について

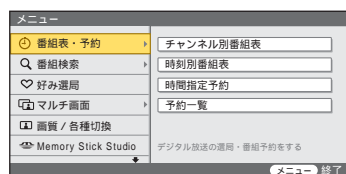
お気に入りのデータ放送を登録する［ブックマーク］

データ放送によってはブックマークを登録できます。お気に入りのデータ放送を登録しておくと、「ブックマーク一覧」画面で選ぶだけで切り換えられます。

ブックマークを登録するには

データ放送上の「お気に入りに追加する」などの項目を選びます。

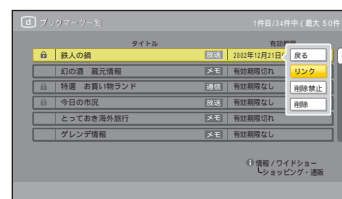
登録したデータ放送などにリンクする

1 **メニューボタンを押す。**

2 **で「データ放送補助」を選んで、決定で決定する。**

「データ放送補助」はを下に回すと表示されます。

3 **で「ブックマーク一覧」を選んで、決定で決定する。**

4 **でリンク先を選んで、決定で決定する。**

サブメニューが表示されます。

5 **で「リンク」を選んで、決定で決定する。**

「ブックマーク一覧」画面が消えて、データ放送の画面に切り換わります。

ご注意

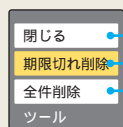
「メモ」を選んだときは「リンク」は選べません。

サブメニューからできること

サブメニューは「ブックマーク一覧」画面で、リンク先を選ぶと表示できます。

項目	できること
「戻る」	サブメニューを消して、他のリンク先を選べます。
「リンク」	選んだデータ放送に切り換わります。
「削除禁止」または「削除禁止解除」	削除できないようにします。すでにマークのついているものは、削除禁止を解除します。
「削除」	ブックマーク一覧から削除します。

ツールを使う（☞15ページ）

「ブックマーク一覧」画面表示中にツールボタンを押すと

「ブックマーク一覧」画面について

操作ガイド表示欄
ブックマーク一覧を表示中にリモコンを使ってできることをガイド表示します。
青：前ページへ切り換えます。
赤：次ページへ切り換えます。

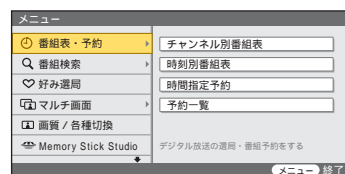
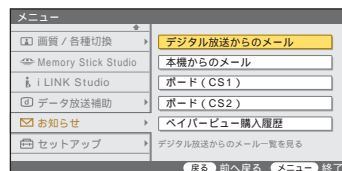
放送局からのお知らせを見る［メール・ボード］

お客様に宛てた、放送局や本機からのお知らせ（メール）や、110度CSデジタルの利用者全員へ共通のお知らせ、番組案内など（ボード）を見ることができます。

1 ボードを見るときは、CSボタンを押して、CS1またはCS2に切り換える。

メールを見るときは、この操作は不要です。

2 メニューボタンを押す。

3 ↕で「お知らせ」を選んで、決定で決定する。

次のページにつづく

放送局からのお知らせを見る［メール・ボード］（つづき）

4 で「デジタル放送からのメール」、「本機からのメール」、「ボード（CS1）」または「ボード（CS2）」を選んで、決定で決定する。

「デジタル放送からのメール」または「本機からのメール」を選んだときは

メールを一覧表示します。
「デジタル放送からのメール」は合計31通まで、「本機からのメール」は10通まで保管します。

操作ガイド表示欄
リモコンを使ってできることをガイド表示します。
青：前ページへ切り換えます。
赤：次ページへ切り換えます。

メールマークの意味

（既読）：すでに読んだメール
（未読）：まだ読んでいないメール
：本機からのメール
地上D：地上デジタルからのメール
BS：BSデジタルからのメール
CS1：CS1からのメール
CS2：CS2からのメール

ご注意

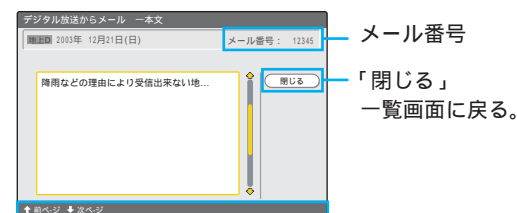
- 既読、古いメールから順に削除され、新しいメールを追加します。既読メールがないときは、未読メールの古い順から削除されます。
- i.LINKダビング（☞171ページ）についてのメールは、次のダビングを実行すると、未読であっても削除されます。
- メールはお客様自身で削除できません。

「ボード（CS1）」または「ボード（CS2）」を選んだときは

ボードを一覧表示します。

操作ガイド表示欄
リモコンを使ってできることをガイド表示します。
青：前ページへ切り換えます。
赤：次ページへ切り換えます。

5 で見たいメールまたはボードを選んで、決定で決定する。

例：メールを選んだとき

操作ガイド表示欄
リモコンを使ってできることをガイド表示します。
↑：前ページへ切り換えます。
↓：次ページへ切り換えます。

6 読み終えたら→で「閉じる」を選んで、決定で決定する。

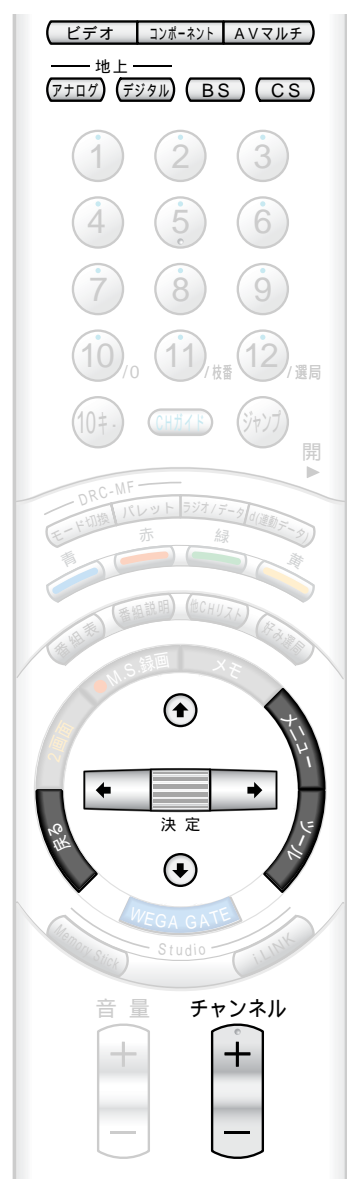
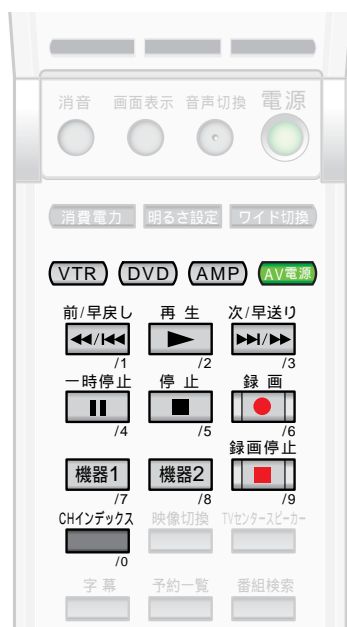
7 戻るボタンを押して、一覧画面を消す。

テレビにつないだ機器の映像を見る

この章では、本機につないだ機器の映像・音声を本機で視聴したり、本機のリモコンで他機器を操作する説明をしています。

本機をお使いになる前に、「接続」（☞195、261ページ）と「受信設定」（☞211ページ）を行ってください。

このイラストは、リモコンのジョグダイヤルの上下回転操作を表します。

決定

このイラストは、リモコンのジョグダイヤルを押しこんで決定する操作を表します。

ビデオやDVDなどの映像を見る

接続のしかたについては、☞267、271、272ページをご覧ください。また、i.LINK端子につないだ機器については、「i.LINKで操作する［i.LINK Studio］」（☞159ページ）をご覧ください。

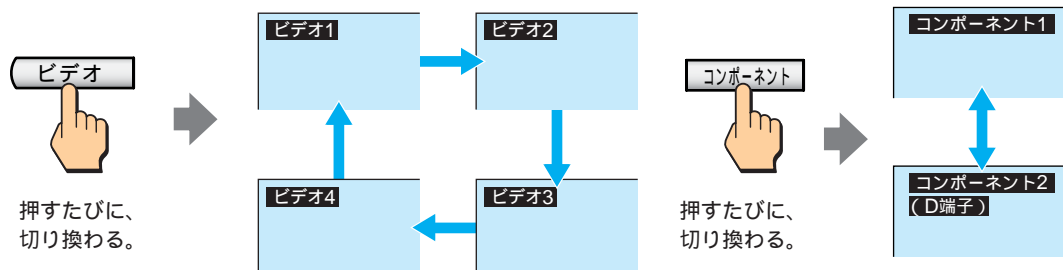
ビデオやDVDなどの映像を見る

つないだ機器の取扱説明書もご覧ください。

押すたびに、切り換わる。

コンポーネント

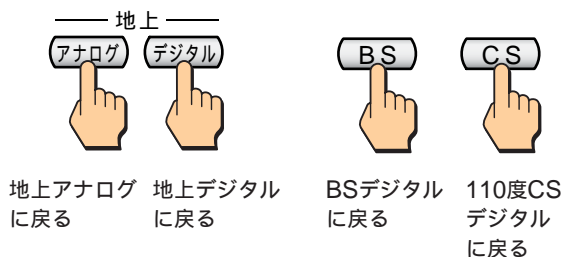
押すたびに、切り換わる。

コンポーネント1

コンポーネント2（D端子）

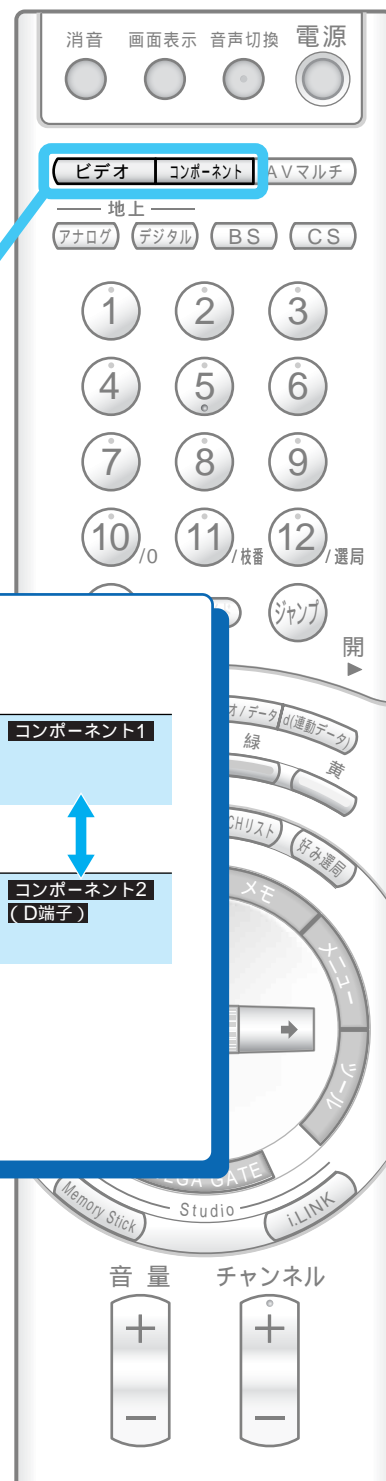
ちょっと一言

S2映像端子につないでいるときは、「Sビデオ1」～「Sビデオ4」と表示されます。

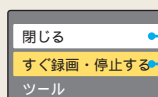
放送の画面に戻すには

地上アナログに戻る　地上デジタルに戻る　BSデジタルに戻る　110度CSデジタルに戻る

ちょっと一言

- 本機につないだ機器の映像を見ているときに、チャンネル＋/－ボタンを押すと最後に見ていたチャンネルになります。
- メディアレシーバーの入力切換ボタンをくり返し押しても、次のように切り換えられます。

最後に見ていたチャンネル → ビデオ1 → ビデオ2 → ビデオ3
↑　↓
AVマルチY/CB/CR　ビデオ4
↑　↓
AVマルチRGB←コンポーネント2（D端子）←コンポーネント1

ツールを使う（☞15ページ）

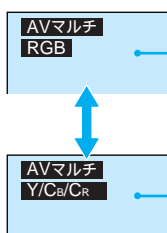
ビデオ2、3、4入力の映像を視聴中にツールボタンを押すと…

閉じる：ツールを消す。

すぐ録画・停止する：視聴中の映像を“メモリースティック”に録画する（☞81ページ）。

“ プレイステーション 2 ” などを楽しむ

“ プレイステーション 2 ”などを楽しむ

“ プレイステーション 2 ”、
“ プレイステーション ”(PS one) および
“ プレイステーション ”の取扱説明書もご覧ください。

押すたびに、
切り換わる。

- **“ プレイステーション ”(PS one) と “ プレイステーション ”のときに選ぶ。**
- **“ プレイステーション 2 ”側のシステム設定画面で、「コンポーネント映像出力」を「RGB」に設定したときに選ぶ。**

“ プレイステーション 2 ”側のシステム設定画面で、「コンポーネント映像出力」を「Y CB/PB CR/PR」に設定したときに選ぶ。

ビデオ入力端子につないだときは

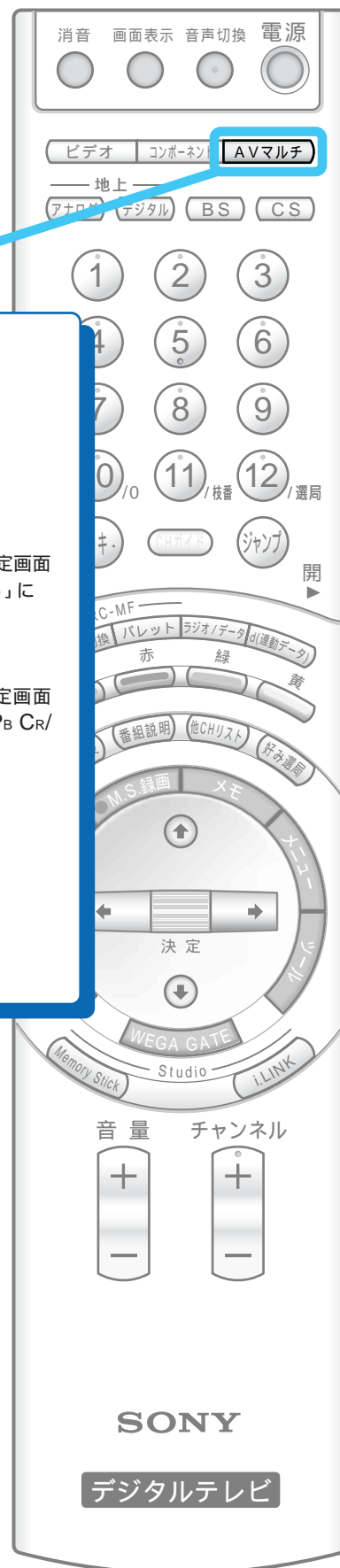
“ プレイステーション 2 ”などの映像が出るまで、ビデオボタンをくり返し押す。

ご注意

- “ プレイステーション 2 ”で映像が乱れたり、正しく表示されないときは、“ プレイステーション 2 ”側の設定に本機側のAVマルチ入力を合わせてください。
- つないだ機器の映像によっては、DRC-MFパレットやDRC-MFモード切換（☞122、123ページ）が働かないことがあります。
- ゲームソフトによっては、動きの早いシーンなどで反応が遅くなることがあります。

対応ソフトウェアについて

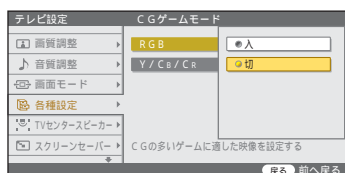
詳しくは、各ソフトウェアの説明書をご覧ください。

- 電子的なライフルやガン（銃）でテレビ画面を標的にして楽しむシューティングゲームなどは、その機能を使えないことがあります。
- 将来の“ プレイステーション 2 ”用の高解像度ゲームソフトなどには、本機は対応していません。
- “ プレイステーション ”(PS one) や“ プレイステーション ”用のゲームソフトによっては、CGゲームモード（☞110ページ）を切り換えられないことがあります。
- ソフトウェアの信号によって、AVマルチRGBとAVマルチY/CB/CRの映像信号に適さないものがあります。

次のページにつづく

“ プレイステーション 2 ”などを楽しむ（つづき）

CG*ゲームモードの設定をするには（AVマルチ入力のみ）

* コンピューター・グラフィックスの略です。

1. メニューボタンを押して、メニューを出す。
2. [上下ボタン]で「セットアップ」を選んで、[決定]で決定する。
3. [上下ボタン]で「テレビ設定」を選んで、[決定]で決定する。
4. [上下ボタン]で「各種設定」を選んで、[決定]で決定する。
5. [上下ボタン]で「CGゲームモード」を選んで、[決定]で決定する。
6. 現在のAVマルチ入力（「RGB」または「Y/CB/CR」）が選ばれていることを確認し、[決定]で決定する。

7. [上下ボタン]で「入」か「切」を選んで、[決定]で決定する。
   「入」：CGの多いゲームに適した映像を楽しめます。
   「切」：DVDの映画などの自然画に適した映像を楽しめます。
8. 戻るボタンをくり返し押して、設定画面を消す。

画面の左右位置を調整するには（AVマルチ入力のみ）

1. メニューボタンを押して、メニューを出す。
2. [上下ボタン]で「セットアップ」を選んで、[決定]で決定する。
3. [上下ボタン]で「テレビ設定」を選んで、[決定]で決定する。
4. [上下ボタン]で「各種設定」を選んで、[決定]で決定する。
5. [上下ボタン]で「AVマルチ画面位置」を選んで、[決定]で決定する。

6. [上下ボタン]で画面の左右位置を調整する。
7. 戻るボタンをくり返し押して、設定画面を消す。

本機のリモコンで他機器を操作する

本機のリモコンで、本機につないだ機器も基本的な操作ができます。あらかじめ機器を登録しておいてください。

本機のリモコンで操作できる機器

- ビデオ
- DVDプレーヤー/DVDレコーダー
- ハードディスクレコーダー・DVDレコーダー複合機
- DVD一体型ビデオ
- ソニー製ハードディスクビデオレコーダー/チャンネルサーバー
- ソニー製ブルーレイディスクレコーダー
- ソニー製AVアンプ

ちょっと一言

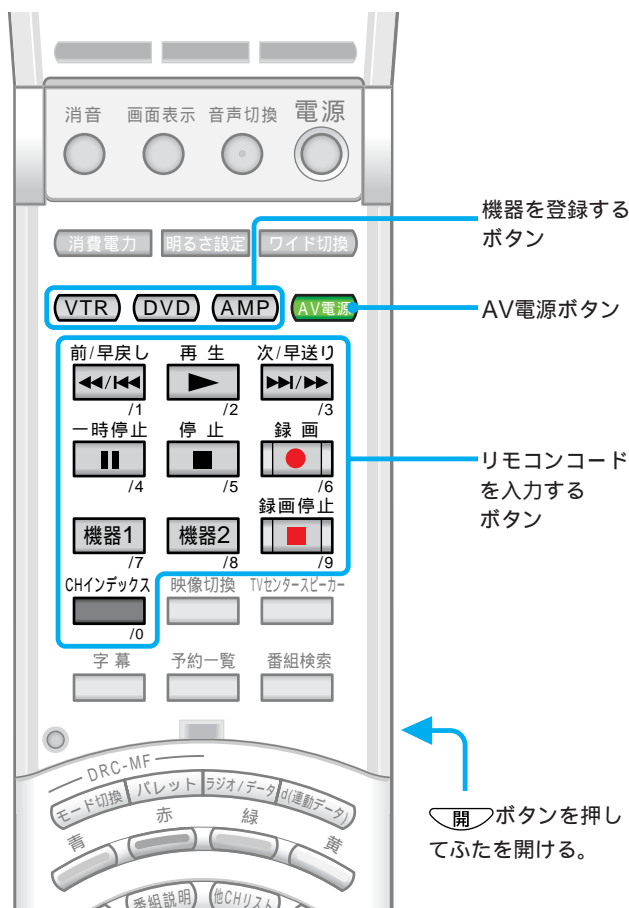
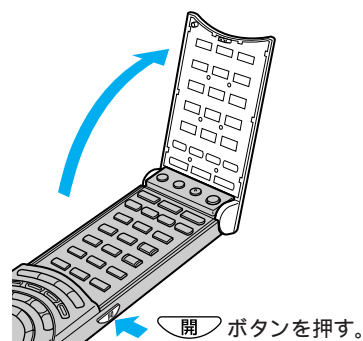
- VTRボタン、DVDボタン、AMPボタンには機器の種類に関わらず、すべての機器を登録できます。

  例：VTRボタンにソニー製のビデオ（リモコンコード001）を設定し、DVDボタンに松下製ビデオ（リモコンコード011）を設定するなど。
- コントロールS入力端子のあるソニー製機器を、メディアレシーバーのコントロールS出力端子につないでいるときは（☞117ページ）、リモコンコードを登録しなくても、機器のリモコンをディスプレイに向けて、機器を操作できます。

本機につないだ機器を登録する

ここでは例として、ビデオとDVD一体型ビデオを登録する手順を説明します。

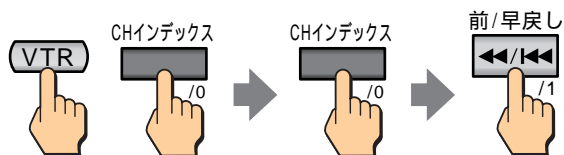
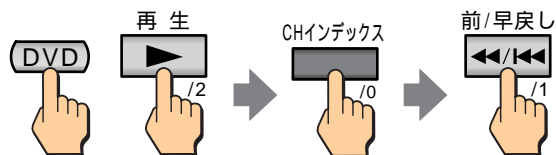
例1：ソニー製ビデオをVTRボタンに登録する

例2：ソニー製DVD一体型ビデオをDVDボタンに登録する

1 **開ボタンを押して、ふたを開ける。**

次のページにつづく

本機のリモコンで他機器を操作する（つづき）

2 リモコンコードを入力する。

リモコンコードは☞113ページの「リモコンコード表」で確認してください。

例1：ソニー製ビデオ（リモコンコード001）

例2：ソニー製DVD一体型ビデオ（リモコンコード201）

リモコンコード表（☞113ページ）にないリモコンコードを入力すると、VTRボタンまたはDVDボタンが2秒間点滅します。手順2をもう1度行って正しいリモコンコードを入力し直してください。

ご注意

VTRボタン、DVDボタン、AMPボタンには機器を1台づつ登録できます。2台目の機器を登録すると、1台目の登録は取り消されます。

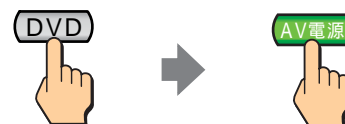
ちょっと一言

リモコンコードを入力するときは、リモコンの前の部分（リモコン発光部）を手で隠すと、間違えてボタンを押しても本機が動作しないので安心です。

3 動作テストをする。

登録した機器の電源が入るか確認して動作テストをします。

例1：ソニー製ビデオ

例2：ソニー製DVD一体型ビデオ

登録する機器のリモコンコードが複数あるときは、手順2と3をくり返して、機器が操作できるまで別のリモコンコードを登録し直してください。

ご注意

ソニー以外のメーカーの複合機器を登録するときは、AV電源ボタンを押す前に機器1ボタンを押さないと電源が入らないものもあります。

リモコンコードを登録しても操作できないときは

リモコンコードを正しく入力していても、機器によっては操作できないものもあります。その様な場合は機器に付属のリモコンで操作してください。

リモコンコード表

メーカー	ビデオ	DVD プレーヤー	DVD一体型 ビデオ	ハードディスクレコーダー・DVD レコーダー複合機/DVDレコーダー
ソニー	001 002 003 004 005 006	101	201	305 306 307 308
松下	010 011 012 013 014	102		401 402 403
東芝	015 016 017 018	103		404 405
日立	019 020 021 022	104	202	
三菱	023 024 025 026	105		
日本ビクター	027 028 029 030 031 032	106	203 204 205 206	
サンヨー	033 034 035 036		207	
アイワ*1	037 038 039 040	107	208	
シャープ	041 042 043	108		
フナイ	044		209	
NEC	045 046 047 048			
パイオニア		109*2 110*2		406 407 408
フィリップス		111		
RCA		112		
デノン		113 114		
ヤマハ		115		
SAMSUNG		116	210	
オンキョー		117		

メーカー	ハードディスクレコーダー	ブルーレイディスクレコーダー	AVアンプ
ソニー	301 302 303 304	501 502 503	601 602 603 604

*1 アイワのリモコンコードを設定しても操作できないときは、ソニーのリモコンコードで登録してください。
*2 これらのDVDプレーヤーを登録するときは、☞112ページの手順3でDVDプレーヤーの電源が入っても、再生などの操作ができないことがあります。そのときは、もう一方のリモコンコードを設定し直してください。

ご注意

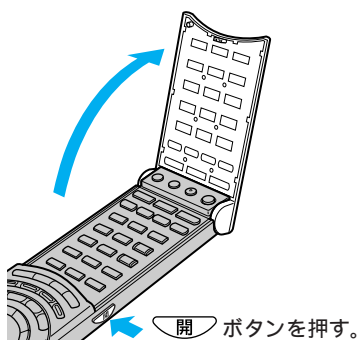
- DVDプレーヤー内蔵のソニー製AVアンプは、機種によってはDVDプレーヤーをDVDボタンに、AVアンプをAMPボタンに別々に登録しなくてはならないものがあります。
- リモコンの電池を取り出したり、電池が寿命になると、設定した内容は消えて、お買い上げ時の設定に戻ります。もう1度設定し直してください。
- メーカーによっては複数のリモコン信号を採用しているため、操作できないことがあります。そのときは、それぞれの機器のリモコンで操作してください。
- 本機のリモコンでは、機器の基本的な操作ができますが、機器によっては操作できない機能があります。そのような場合には機器に付属のリモコンで操作してください。
- 本機のリモコンのボタンに対応する機能が機器にない場合は、そのボタンは働きません。

本機のリモコンで他機器を操作する（つづき）

本機のリモコンで、本機につないだ機器を操作する

1 機器に必要な準備をする。

機器の電源をつなぐなどの準備をしてください。

2 開ボタンを押して、ふたを開ける。

3 操作する機器を登録したボタンを押す。

押したボタンが約30秒間点灯します。
押したボタンが点灯している間のみ、機器を操作でき、機器を操作するたびに、さらに30秒間延長します。

または
または
ボタンが消灯してしまったときは、もう1度ボタンを押す。

ちょっと一言

ボタンが点灯中に次のようにすると、ボタンは消灯します。消灯させることにより、電池の消耗を抑えられます。

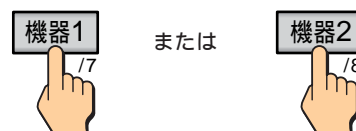
- 点灯中のボタンをもう1度押す
- 機器を操作できるボタン以外のボタンを押す
- リモコンのふたを閉める

DVD一体型ビデオなどの複合機器を操作するときは、

手順4に進んでください。

複合機器以外の機器を操作するときは

手順5に進んでください。

4 機器1ボタンまたは機器2ボタンを押して、操作する機器を切り換える。

または
DVD一体型ビデオのときは

機器1ボタン：ビデオを操作できます。
機器2ボタン：DVDを操作できます。

ハードディスクレコーダー・DVDレコーダー複合機のときは

機器1ボタン：DVDを操作できます。
機器2ボタン：ハードディスクレコーダーを操作できます。

複合機器によっては、機器1または機器2ボタンで操作できる機器が上記と逆になることがあります。

ご注意

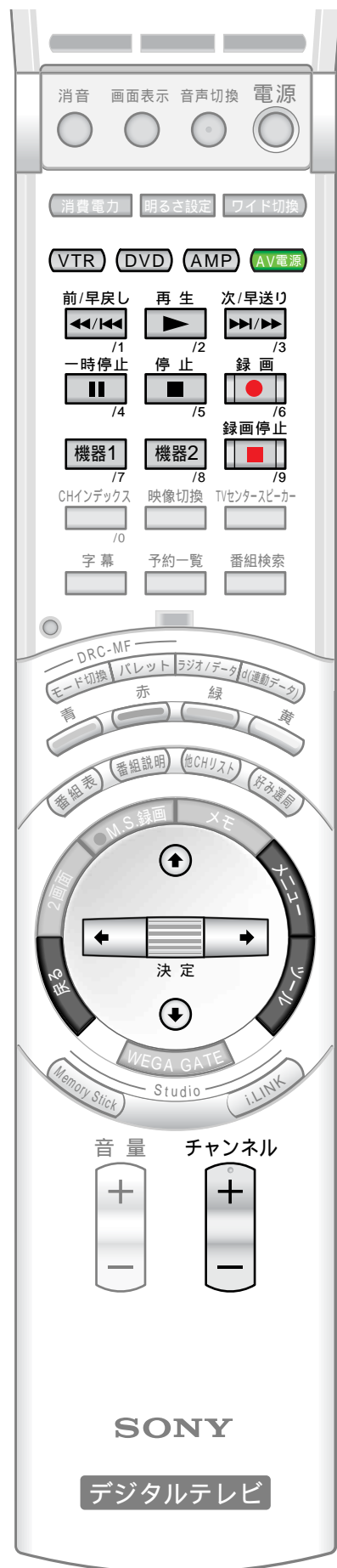
複合機器によっては、機器1または機器2ボタンを押しても、操作できる機器を切り換えられないものがあります。そのような場合は機器に付属のリモコンで操作してください。

5 リモコンを機器に向けて操作する。

機器を登録したボタンが点灯中に操作ができます。

ちょっと一言

操作する機器のコントロールS入力端子とメディアレシーバーのコントロールS出力端子をつないでいるときは（☞117ページ）、リモコンをディスプレイに向けて、機器を操作できます。

機器を操作できるボタン

開 を押して、
ふたを開ける。

機器*を操作できるボタン

ボタン	説明
AV電源	電源を入/切する。
前/早戻し /1	**ビデオのときは** － 停止中に押すと、巻戻しする。 － 再生中に長押しすると、押している間巻戻し再生をする。 **DVD、ハードディスクレコーダーのときは** － 停止中に押すと、前方向の頭出しをする。 － 再生中に長押しすると、押している間早戻し再生をする。 － 再生中に短く押すと、前方向の頭出しをする。
	再生する。
次/早送り /3	**ビデオのときは** － 停止中に押すと、早送りする。 － 再生中に長押しすると、押している間早送り再生をする。 **DVD、ハードディスクレコーダーのときは** － 停止中に押すと、後方向の頭出しをする。 － 再生中に長押しすると、押している間早送り再生をする。 － 再生中に短く押すと、後方向の頭出しをする。
	一時停止する。
	再生、早送り、早戻しを停止する。
	録画する。
	録画を停止する。
	ビデオ、ハードディスクレコーダーのときは ビデオ、ハードディスクレコーダーに内蔵されているテレビチューナーのチャンネルを切り換える。

* ビデオ、DVDプレーヤー/レコーダー、DVD一体型ビデオ、ハードディスクレコーダー・DVDレコーダー複合機、ソニー製ハードディスクレコーダー/チャンネルサーバー、ソニー製ブルーレイディスクレコーダー

次のページにつづく

本機のリモコンで他機器を操作する（つづき）

ソニー製のハードディスクレコーダー、チャンネルサーバー、ブルーレイディスクレコーダーのときは

さらに以下のボタンが使えます。

ボタン	説明
	メニューのある機器では、メニューを表示する/消す。
	ツールのある機器では、ツールを表示する/消す。
	1つ前の画面に戻る。
	メニューやツールのある機器では、メニューやツールの項目を選んだり、決定したりする。

AVアンプを操作できるボタン

ボタン	説明
	↑/↓で音量を調節する。でもできる。 →で消音にする。 ←でファンクションを切り換える。

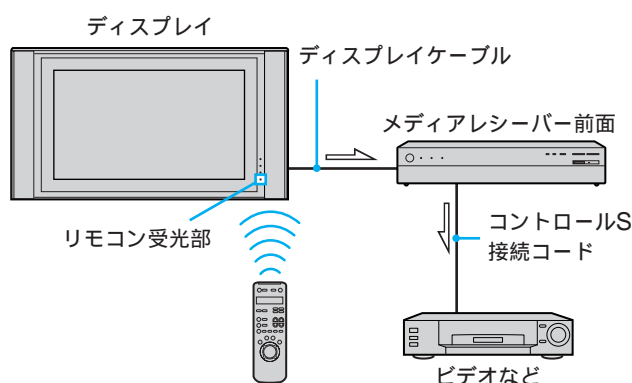
ご注意

DVDボタン、VTRボタン、AMPボタンが点灯中のとき、操作する機器に次のボタンが割り当てられているときは、テレビを操作することはできません。

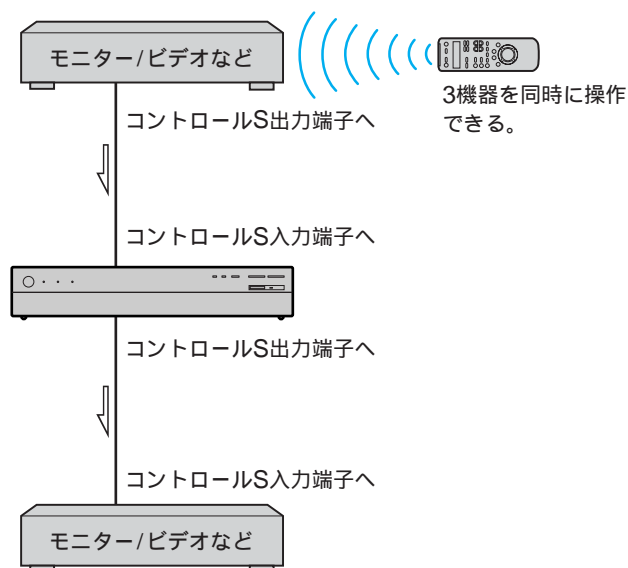
－ チャンネル＋/－ボタン
－ メニューボタン
－ ツールボタン
－ 戻るボタン
－ 決定/↑/↓/←/→

コントロールSで他機器を操作する

ビデオなどを遠くから操作する

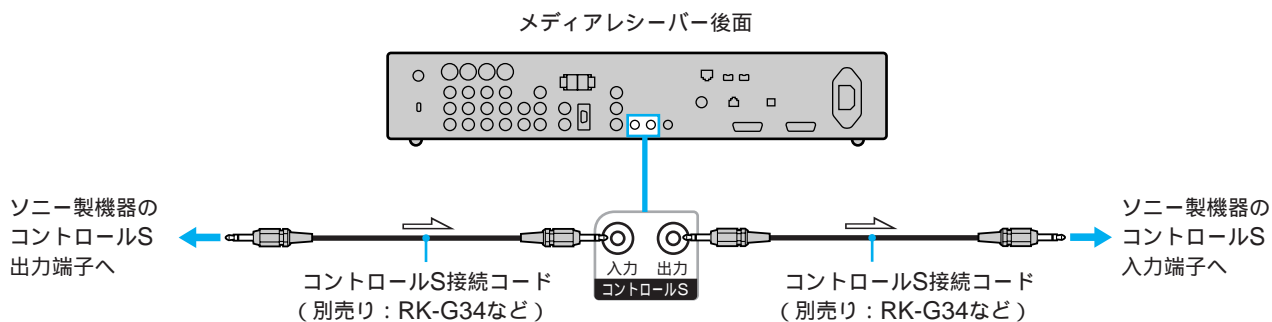
コントロールS入力端子のあるソニー製の機器をディスプレイから離れた場所に設置したときなどは、メディアレシーバーのコントロールS出力端子とつないでおけば、機器のリモコンをディスプレイに向けて、機器を操作できます。

：信号の流れ

複数の機器を同時に操作する

コントロールS端子のあるソニー製のモニターなどを何台もつないで、同時に操作できます。

：信号の流れ

ご注意

- コントロールSで操作できるのはソニー製の機器のみです。
- メディアレシーバーの電源スイッチで電源を切っているときは、コントロールSで機器を操作することはできません。
- コントロールS接続コードとAVマウスを同時につなぐと、どちらかが動作しなくなる場合があります。そのときは、使わないほうを取りはずしてください。

コントロールS接続コードでソニー製機器をつなぐ

映　像

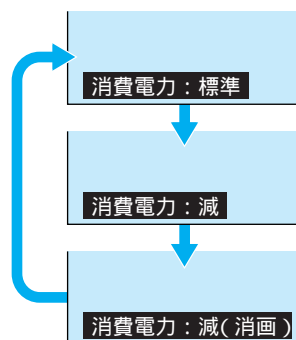
ここでは、画質や画面のサイズ/位置の調整と、節電したり、画面の焼き付きや残像を軽減したり、ワイド画面や2画面で楽しむ操作を説明しています。

このイラストは、リモコンのジョグダイヤルの上下回転操作を表します。

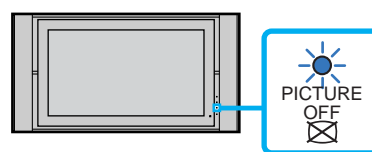
このイラストは、リモコンのジョグダイヤルを押しこんで決定する操作を表します。

映像を調整する

節電しながら見る/音だけを楽しむ［消費電力ボタン］

1回押すと現在の設定が表示され、そのあと押すたびに切り換わる。

ちょっと一言
- 「消費電力：減」で電源を切ると、次に電源を入れても「消費電力：減」のままになります。
- 消画にしたままで電源を切ると、次に電源を入れたときは「消費電力：標準」に戻ります。
- 画質調整（☞124ページ）で「ピクチャー」や「明るさ」を上げると、「消費電力：減」でも画面の明るさや節電効果が変わらない場合があります。

消画にすると

ディスプレイ前面のPICTURE OFF⊠ランプが点灯し、画面が黒くなり、やがて画面表示が消えます。

消画を解除するには

電源、音量＋/−、消音または音声切換以外のボタンを押す。

他の方法でも切り換えられます
「セットアップ」メニューから

「セットアップ」→「テレビ設定」→「各種設定」→「消費電力」を選ぶ。
選びかたは☞14ページをご覧ください。

「消費電力：減」のときにさらに節電するには

「セットアップ」メニューの「消費電力減レベル」を「大」にしてください。
「セットアップ」→「テレビ設定」→「各種設定」→「消費電力減レベル」→「大」を選ぶ。
選びかたは☞14ページをご覧ください。

長時間操作しないときに自動的に電源を切るには

「セットアップ」メニューの「無操作電源オフ」を「1時間」または「2時間」、「3時間」にしてください。
「セットアップ」→「テレビ設定」→「各種設定」→「無操作電源オフ」を選ぶ。
選びかたは☞14ページをご覧ください。

ちょっと一言

省電力のため、地上アナログ放送終了後、または放送のないチャンネルにしたままにすると、オートシャットオフ機能により自動的に電源スタンバイになります。放送局の信号によっては「オートシャットオフ」機能が働かないことがあります。デジタル放送のときは、「オートシャットオフ」機能は働きません。

部屋の明るさに合った映像を選ぶ［明るさ設定ボタン］

放送や入力などで別々に設定できます。
通常は「ホーム」をおすすめします。
また、「ホーム」と「AVプロ」を選べば、より細かい調整もできます（☞124ページ）。

1回押すと現在の設定が表示され、そのあと押すたびに切り換わる。

映像の輪郭とコントラストを最大限に上げたメリハリの非常に強い映像（お買い上げ時の設定）。

ご家庭での使用に合わせた標準的な映像。

輪郭強調とコントラストを抑え、DRC（☞122ページ）の性能をより引き出した、オリジナルにできるかぎり忠実な映像。

他の方法でも切り換えられます

メニューから

「画質/各種切換」→「明るさ設定」を選ぶ。
選びかたは☞14ページをご覧ください。

開 を押して、ふたを開ける。

映像

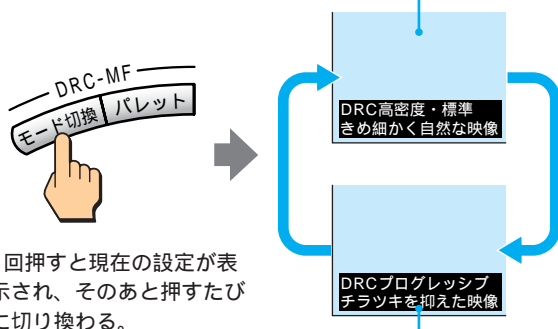
次のページにつづく

映像を調整する（つづき）

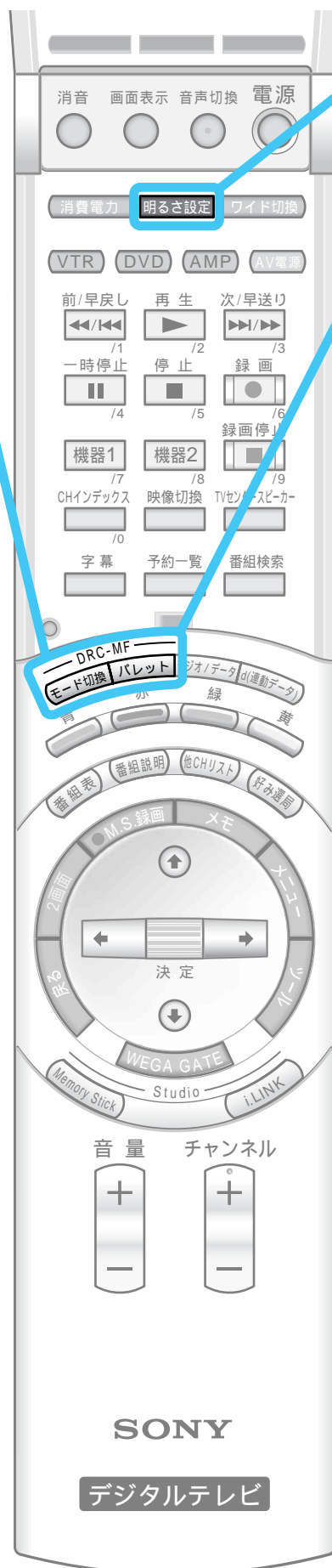
映像に合ったリアル高画質で見る［DRC-MFモード切換ボタン］

信号や入力によらず、共通の設定となります。
通常はお買い上げ時の設定「DRC高密度・標準」のままでご覧ください。

DRC高密度・標準
地上アナログやビデオ、デジタル放送の525i（480i）標準テレビ信号 SD など、一般的な映像のとき。

1回押すと現在の設定が表示され、そのあと押すたびに切り換わる。

DRCプログレッシブ*1
文字や画像、細かい横線が多い映像で、部分的な映像のゆれやチラツキが気になるとき。

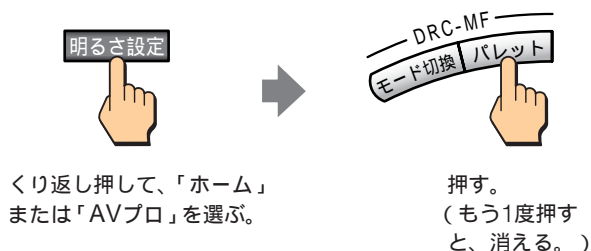
他の方法でも切り換えられます
メニューから
「画質/各種切換」→「DRC-MFモード切換」を選ぶ。
選びかたは☞14ページをご覧ください。

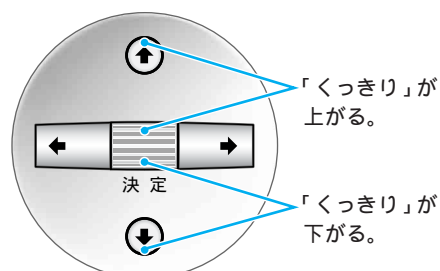
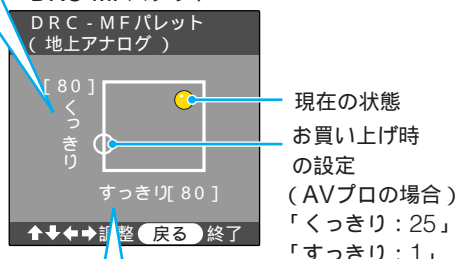
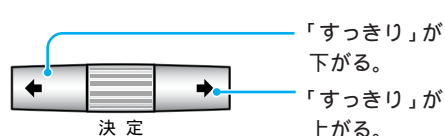
*1 DRCプログレッシブとは、DRCというソニー独自のアルゴリズムを持ったデバイスへの表現方法です。

開 を押して、ふたを開ける。

映像に合った好みの画質に調整する［DRC-MFパレットボタン］

明るさ設定ボタンで「ホーム」または「AVプロ」を選ぶと、調整できます。
入力や明るさの設定などで別々に設定できます。

くり返し押して、「ホーム」または「AVプロ」を選ぶ。

押す。
（もう1度押すと、消える。）

ちょっと一言

- お買い上げ時は、受信状態の良い地上アナログに適した位置に設定されています。
- 受信状態の悪い地上アナログやレンタルビデオなどノイズが多いときは、「すっきり」を上げてください。
- DVDなどノイズが少ないときは、「すっきり」が「1」のままで充分に高画質に楽しめます。

他の方法でも切り換えられます

メニューから

「画質/各種切換」→「DRC-MFパレット」を選ぶ。
選びかたは☞14ページをご覧ください。

DRC-MFって何？

本機搭載の高画質回路（デジタル・リアリティー・クリエーション：マルチ・ファンクション）で、地上アナログやビデオ、デジタル放送の525i（480i）*1標準テレビ信号SDをきめ細かくて質感のあるリアルな画質にします。
デジタルハイビジョン信号HDなど、525i（480i）以外の信号では働きません。

ご注意

以下のときは、DRC-MFモード切換やDRC-MFパレットの調整はできません。

- 525i（480i）*1 SD以外の信号のとき
- 2画面
- CHインデックス
- メモした画面
- AVマルチ入力でCGゲームモード（☞110ページ）が「入」のとき
- Memory Stick Studio（☞143ページ）
- デジタル放送のラジオ、データ

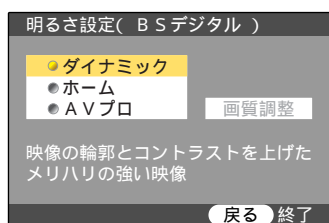
*1 詳しくは、「デジタル放送の画質について」（☞135ページ）をご覧ください。

次のページにつづく

映像を調整する（つづき）

より細かく画質を調整する

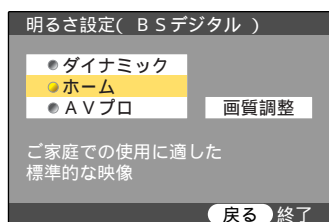
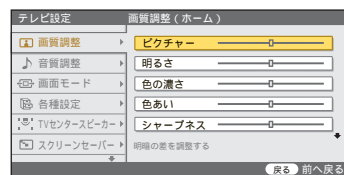
放送や入力ごとに、別々に設定できます。

1 メニューボタンを押す。

2 （上下ボタン）で「画質／各種切換」を選んで、（決定）で決定する。

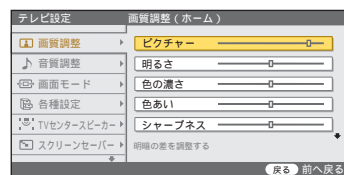
3 （上下ボタン）で「明るさ設定」を選んで、（決定）で決定する。

4 （上下ボタン）で「ホーム」または「AVプロ」を選んで、（決定）で決定する。

5 ➡で「画質調整」を選んで、（決定）で決定する。

6 （上下ボタン）で調整したい項目を選んで、（決定）で決定する。

ちょっと一言

調整バーの横に表示される数値も調整の目安になります。

7 （上下ボタン）/⬅/➡で調整して、（決定）で決定する。

8 他の項目を調整するときは、手順6と7をくり返す。

9 戻るボタンをくり返し押して、設定画面を消す。

「ホーム」と「AVプロ」両方で調整できる項目

項目	◆を押すか ▲▼を下に回すと	◆を押すか ▲▼を上に回すと
ピクチャー	明暗の差が小さくなる	明暗の差が大きくなる
明るさ	暗くなる	明るくなる
色の濃さ	薄くなる	濃くなる
色あい	赤みがかる	緑がかる
シャープネス	映像の輪郭が柔らかくなる	映像の輪郭がくっきりする

項目	説明
マイルド	輪郭強調を抑えて、デジタルノイズを軽減する

「AVプロ」でのみ調整できる項目

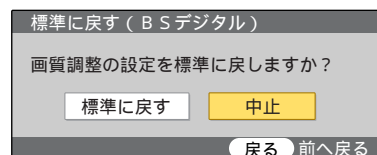
▲▼を下に回すと、以下の項目が調整できます。

項目	説明
NR(ノイズリダクション)*1	**通常は「切」(お買い上げ時の設定)にしておいてください*2。** **「弱」、「中」、「強」**:映像のざらつきや色ノイズを軽減する(ゴーストなど電波障害は軽減されない)。 **「切」**(お買い上げ時の設定):元の映像信号(処理していないオリジナル信号)の状態を確認するときなどに選ぶ。ただし、映像のざらつきや色ノイズが強調されたり、色にじみが出ることがある。
色温度	「4(高)」から「1(低)」にしていくと赤みがかった暖かみのある色調になる。
色温度調整	色温度を色ごとに細かく調整する。
H(ハイパー)ホワイト	白の鮮明さを強調する。
ディテール強調	映像の微細な部分を強調する。
色補正	美しく健康的な肌色を再現する。
黒補正	黒を強調してコントラストを強くする。
ガンマ補正	映像の明暗部分のバランスを調整する。

*1 Memory Stick Studio(☞143ページ)のとき「NR(ノイズリダクション)」は調整できません。

*2 オリジナル映像の種類によっては、「弱」または「中」、「強」のほうが、きれいに見えることがあります。ただし、予約したデジタル放送の録画実行中(☞63、65、68、70ページ)は、設定を変えると、i.LINK端子やデジタル放送/ビデオ出力端子からの出力信号にノイズが出ることがあるため、切り換えないでください。

お買い上げ時の状態に戻すには

「より細かく画質を調整する」(☞124ページ)の手順6で「標準に戻す」を選んだあとで、「標準に戻す」を選ぶ。

マス目状に映る画像を修正するには[BNR(ブロックノイズリダクション)]

マス目状に画面が乱れるときに補正し、ノイズを軽減します。
525iの信号を受信しているときに働きます。信号について詳しくは、「デジタル放送の画質について」(☞135ページ)をご覧ください。

1 **メニューボタンを押して、メニューを出す。**

2 **▲▼で「画質/各種切換」を選んで、(決定)で決定する。**

3 **▲▼で「ブロックノイズリダクション」を選んで、(決定)で決定する。**

4 **▲▼で「弱」または「強」を選んで、(決定)で決定する。**

5 **戻るボタンを押して、設定画面を消す。**

次のページにつづく

映像

映画フィルムをより忠実に再現するには

メニューの「シネマドライブ」を「オート」にすると、映画フィルムをより忠実でなめらかな動きのある映像に再現します。これは、映画フィルムの信号の規則性を自動的に識別し、最適な信号処理を行うためです。

ちょっと一言

シネマドライブは525i*1と1125i*1の信号のときに働きます。

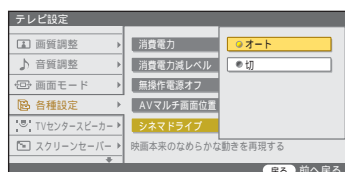
*1 信号について詳しくは、「デジタル放送の画質について」（☞135ページ）をご覧ください。

1 メニューボタンを押して、メニューを出す。

2 で「セットアップ」を選んで、決定で決定する。

3 で「テレビ設定」を選んで、決定で決定する。

4 で「各種設定」を選んで、決定で決定する。

5 で「シネマドライブ」を選んで、決定で決定する。

6 で「オート」か「切」を選んで、決定で決定する。

「オート」：映画フィルムをより忠実に再現します。

「切」：シネマドライブを解除します。

7 戻るボタンをくり返し押して、設定画面を消す。

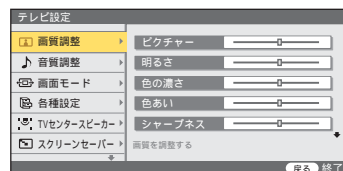
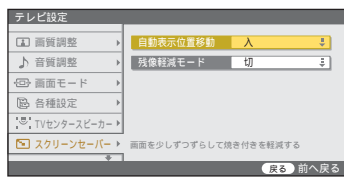
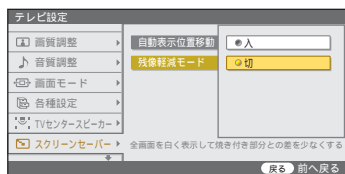
画面の焼き付きや残像を軽減する［スクリーンセーバー］

一定時間同じ画面を表示し続けると、画面の一部に焼き付き（残像）が発生することがあります。

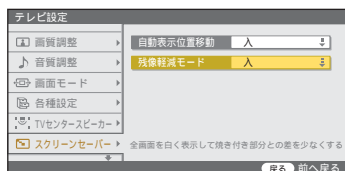
下記の操作を行って、画面の焼き付きの発生を軽減したり、1度焼き付いてしまった残像を軽減したりしてください。

1 メニューボタンを押す。

2 で「セットアップ」を選んで、決定で決定する。

3 で「テレビ設定」を選んで、決定で決定する。

4 で「スクリーンセーバー」を選んで、決定で決定する。

5 で「自動表示位置移動」または「残像軽減モード」を選んで、決定で決定する。

「自動表示位置移動」： 画面表示の位置を少しずつずらして焼き付きの発生を軽減する。

「残像軽減モード」：全画面を白く表示して、すでに焼き付きが発生している部分との差を小さくする。

6 で「入」を選んで、決定で決定する。

7 戻るボタンをくり返し押して、設定画面を消す。

手順5で「残像軽減モード」を選んだときは画面全体が白くなり、約30分後に自動的に通常の画面に戻ります。

「残像軽減モード」をやめて通常の画面に戻すには

電源、音量＋/－、消音または音声切換ボタン以外のボタンを押す。

さらに焼き付きを軽減したいときは

「残像軽減モード」をくり返し行ってください。ただし、焼き付きは完全には消えません。

ちょっと一言

「自動表示位置移動：入」のときに画面表示の移動が気になるときは手順5で「自動表示位置移動」を選び、手順6で「切」を選んでください。

お買い上げ時は「自動表示位置移動：入」に設定されています。

画面の焼き付きや残像についてのご注意

下記のような画像を画面上に一定時間表示し続けると、部分的に焼き付きや残像が発生することがあります。特に「ダイナミック」（☞121ページ）などの高輝度な映像では起こりやすくなります。これは、プラズマディスプレイの特性上起こるものであり、下記の「焼き付きや残像を軽減させるために」を行うことにより、焼き付きや残像を軽減できます。

焼き付きや残像が発生しやすい画像

- 上下に帯が表示されるワイド画像（レターボックス映像）
- 画面横縦比4:3の画像
- デジタル放送や本機につないだ機器の画面表示（チャンネル番号やメニュー画面など）
- ゲーム機器の画像、DVDのメニュー画面
- 文字放送などの画像

焼き付きや残像を軽減させるために

Ⓐ **画面表示を消す。**
画面表示ボタンを押して、画面表示を消してください。本機につないだ機器の画面表示を消すときは、つないだ機器側で画面表示を消してください。詳しくは、つないだ機器の取扱説明書をご覧ください。

Ⓑ **画面いっぱいに映像を映す。**
画面モードを「ワイドズーム」や「フル」（☞128ページ）に切り換えて、映像を表示すると、画面の焼き付きや残像を軽減できます。

ワイド画面で楽しむ

自動でワイド画面を楽しむ［オートワイド］

デジタルハイビジョン放送HDは

オリジナルの画像を活かして、高画質のままワイド画面いっぱいの放送を楽しめます。

他の放送や映像は

☞130ページのように、本機が最適な画面モードを選び、横縦比16:9のワイド画面いっぱいに自動的に拡大します。

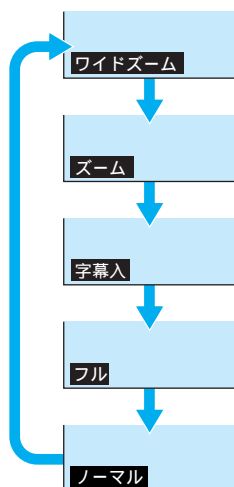
画面モードが自動的に切り換わるのは？

- 識別制御信号（☞131ページ）のある画像を受信して、信号に応じた画面モードに自動的に切り換わるためです。
- オートワイド「2」のときは、CMが入ったり番組が変わったりするときなどに、画面サイズが変わって不自然に見えたり、変わるまでに数秒間かかったりすることがあります。番組に最適な画面を本機が判断しているためです。

開を押して、ふたを開ける。

手動でワイド画面を切り換える［ワイド切換ボタン］

好きな画面モードを手動でも選べます。
また、電波の受信状態が悪いときや暗い映像のときは、オートワイドが正しく働かないことがあります。このときも、手動で画面モードを切り換えてください。

1回押すと、最適な画面モード（☞130ページ）ですばやく表示する*。
そのあと、押すたびに画面モードが変わる。

他の方法でも切り換えられます

メニューから

「画質/各種切換」→「ワイド切換」を選ぶ。
選びかたは☞14ページをご覧ください。

ちょっと一言

- 手動で画面モードを固定して楽しむときは、あらかじめ、オートワイドを切っておいてください（☞131ページ）。
- ワイド切換ボタンで切り換えたあとは、☞130ページの表のようにならないことがあります。
- オートワイドのときにワイド切換ボタンを1回押すと、オートワイド「1」、「2」の設定に従って、オートワイドが働き続けます。
  その後、くり返し押すと、次のようになります。
  - 識別制御信号のある映像を受信すると、信号に応じた画面モードに切り換わります。
  - 識別制御信号のない映像は、オートワイド「2」でも、オートワイドが働かなくなります。
- Memory Stick Studioのときは、ワイド切換ボタンを押しても働きません。

* オートワイド「2」で「4:3映像」を「ノーマル」に設定すると（☞131ページ）、4:3映像はワイド画面にならずに、横縦比4:3の映像のままになります。

ワイド画面の上下位置/縦サイズを調整する

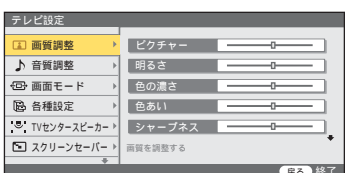
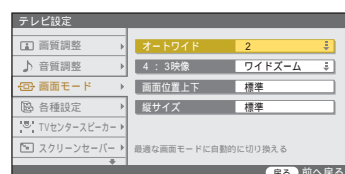
ワイド画像で次のようなときは、画面位置の上下や縦サイズを、画面モード（☞130ページ）ごとに調整できます。

- 「ワイドズーム」や「ズーム」で画面を見やすい位置にしたいとき
- 「字幕入」で字幕が画面に入りきらないとき

「フル」と「ノーマル」の画面モードでは調整できません。

1 調整したい画面を映した状態で、メニューボタンを押す。

2 で「セットアップ」を選んで、決定で決定する。

3 で「テレビ設定」を選んで、決定で決定する。

4 で「画面モード」を選んで、決定で決定する。

5 で調整したい項目を選んで、決定で決定する。

画面の上下位置を調整するときは

で「画面位置上下」を選んで、決定で決定する。

サイズを調整するときは

で「縦サイズ」を選んで、決定で決定する。

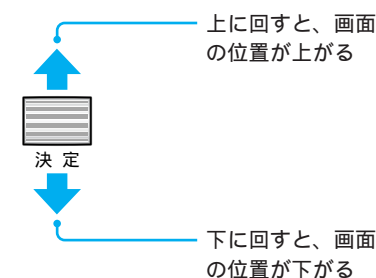
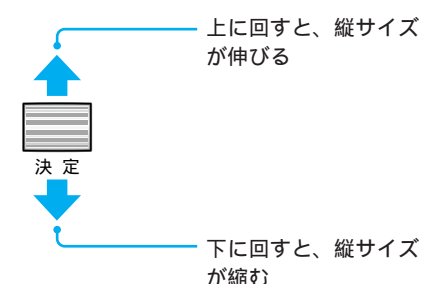
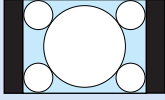
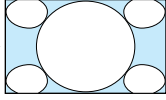
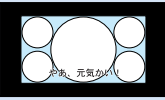
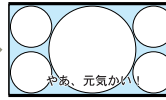
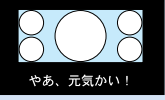
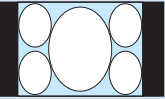
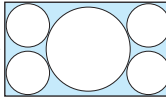
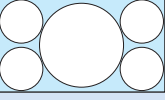
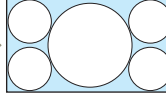
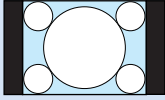
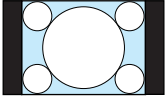
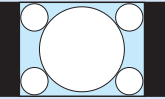
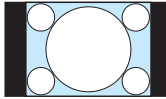
6 で調整して、決定で決定する。

画面の上下位置を調整するときは

縦サイズを調整するときは

7 戻るボタンをくり返し押して、設定画面を消す。

映像

次のページにつづく

オートワイドの働きかた

オートワイドには、「1」と「2」があります（違いについては次ページをご覧ください）。下の例は、オートワイド「2」で、「4:3映像」を「ワイドズーム」に設定しているときです。

オリジナルの映像（映像の種類）	画面モード	オートワイドの映像
地上アナログ 通常のテレビ（地上アナログ）放送（横縦比4:3） デジタル放送 標準テレビ信号 SD の4:3映像*1 外部入力 識別制御信号が入っていない横縦比4:3の映像		オリジナルの映像を違和感少なく画面いっぱいに拡大します。
地上アナログ ビスタビジョンなど映像中に字幕が入った 外部入力 横長の映画（横縦比1.85:1）*2 外部入力 横縦比を16:9にする識別制御信号が入ったビデオカメラやDVDソフトなどの映像（ID-1方式やS2方式） デジタル放送 標準テレビ信号 SD のレターボックス4:3映像（画面上下の黒帯を除いた映像部分は16:9）で、識別制御信号（☞131ページ）のあるとき		画面の左右に合わせていっぱいに拡大します。（映像の種類によって、上下に黒い帯が残ることがあります。）
地上アナログ シネマビジョンなど映像の外に字幕のある 外部入力 横長の映画（横縦比2.35:1）*2		画面の左右に合わせていっぱいに拡大しながら、字幕部分だけを圧縮して画面に入れます。
外部入力 横縦比を16:9にする識別制御信号が入ったビデオカメラやDVDソフトなどの映像（ID-1方式やS2方式）		天地はそのままで、左右を画面いっぱいに引き伸ばします。
デジタル放送 デジタルハイビジョン信号 HD *3または標準テレビ信号 SD の16:9映像		オリジナルの映像を16:9で画面いっぱいに表示します。
デジタル放送 デジタルハイビジョン信号 HD *3または標準テレビ信号 SD のサイドパネル16:9映像（画面左右の黒帯を除いた映像部分は4:3） 外部入力 Memory Stick Studio		オリジナルの映像を拡大せずに、横縦比4:3のままの映像にします。
地上アナログ デジタル放送 「セットアップ」メニューで、「オートワイド」を「2」、「4:3映像」を「ノーマル」に設定したとき（☞131ページ）（デジタルハイビジョン信号 HD *3を除くすべての映像） 外部入力 横縦比を4:3にする識別制御信号が入ったテレビ放送、ビデオカメラやDVDソフトなどの映像（ID-1方式やS2方式）*4		オリジナルの映像を拡大せずに、横縦比4:3のままの映像にします。

*1 オートワイド「2」のときは、これら「4:3映像」を「ワイドズーム」のかわりに「ノーマル」にも設定できます。また、オートワイド「1」のときは、通常のテレビ放送はワイド切換ボタンで選んだ画面モードに、標準テレビ信号 SD は「ノーマル」になります。また、画面によっては横長の黒帯が残ることがあります。

*2 オートワイド「1」のときは、ワイド切換ボタンで選んだ画面モードになります。

*3 デジタルハイビジョン信号 HD は「フル」に固定されて、手動で画面モードを切り換えられません。

*4 オートワイド「2」のときは、これら「4:3映像」を「ノーマル」のかわりに「ワイドズーム」にも設定できます。また、オートワイド「1」のときは、「ノーマル」になります。

ご注意

デジタル放送のときは、放送局から送られる信号によって、画面モードを切り換えられないことがあります。

オートワイド「1」

デジタル放送では、映像を判別するための識別制御信号が、映像信号に重なって送られています。また、ビデオカメラなど一部のビデオ機器でも同様の識別制御信号が出力されています。

識別制御信号が放送局から送られているときのみ、**最適な画面モードに自動的に切り換えます。**識別制御信号が送られていないときは、画面モードを手動で選べます。

オートワイド「2」

識別制御信号の有無に関係なく、ワイド画面いっぱいに映るよう、最適な画面モードに自動的に切り換えます。

識別制御信号とは

オリジナル映像の横縦比をテレビで忠実に再現するためのコントロール信号です。この信号を含んだ映像には、次のものがあります。

－デジタル放送の標準テレビ信号 SD

－横縦比情報の入ったビデオカメラなどの記録映像（ID-1方式やS2方式）

－D4映像入力端子からの横縦比情報の入った映像

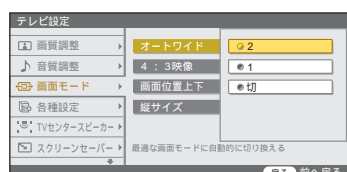
オートワイドを設定する/切る

1 **メニューボタンを押して、メニューを出す。**

2 **で「セットアップ」を選んで、で決定する。**

3 **で「テレビ設定」を選んで、で決定する。**

4 **で「画面モード」を選んで、で決定する。**

5 **で「オートワイド」を選んで、で決定する。**

6 **オートワイドを切るときは**

で「切」を選んで、で決定する（手順10へ進んでください）。

オートワイドを「1」に設定するときは

で「1」を選んで、で決定する（手順10へ進んでください）。

オートワイドを「2」に設定するときは

で「2」を選んで、で決定する。

7 **戻るボタンを押す。**

8 **オートワイド「2」のときは、で「4:3映像」を選んで、で決定する。**

9 **で「ノーマル」か「ワイドズーム」を選んで、で決定する。**

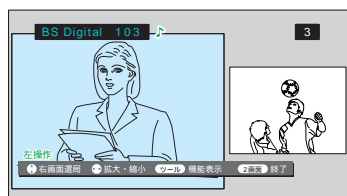
10 **戻るボタンをくり返し押して、設定画面を消す。**

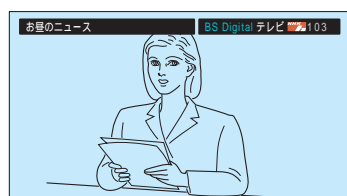
ワイド画面についてのご注意

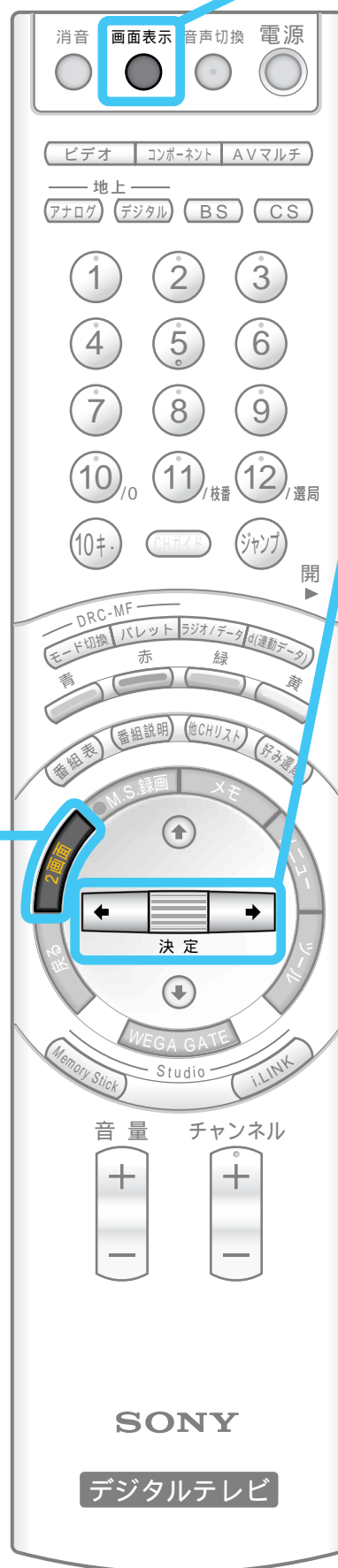
- 本機は、各種の画面モード切り換え機能を備えています。テレビ番組などソフトの映像比率と異なるモードを選択されますと、オリジナルの映像とは見え方に差が出ます。この点にご留意の上、画面モードをお選びください。
- 本機を営利目的、または公衆に視聴させることを目的として喫茶店、ホテルなどに置き、画面モード切り換え機能等を利用して画面の圧縮や引き伸ばし等を行いますと、著作権法上で保護されている著作者の権利を侵害する恐れがありますので、ご注意願います。
- ワイド映像でない従来の4:3の映像を、ワイドズームモードを利用してテレビの画面いっぱいに表示してご覧になると、周辺画像が一部見えなくなったり変形して見えたりします。制作者の意図を尊重したオリジナルな映像はノーマルモードでご覧になれます。
- オリジナル映像のサイズや種類によっては、画面の上下が欠けたり、字幕が入りきらないことがあります。このときは、画面位置上下や縦サイズを調整してください（☞129ページ）。ただし、画面モードが「フル」と「ノーマル」のときは調整できません。

2画面で見る

2画面で別々の画面を見る

押す。
見ていた番組が左画面となった2画面になる。

♪が表示された画面の音声が、スピーカーから聞こえる。

もう1度押すと、操作画面の1画面に戻る。

2画面の画面サイズを変えたり、チャンネルや入力を1画面のときと同じ操作で選べる画面（操作画面）を切り換えたりできます（☞133ページ）。

他の方法でも表示できます
メニューから
「マルチ画面」→「2画面入/切」を選ぶ。
選びかたは☞14ページをご覧ください。

2画面での便利な機能

画面サイズを変える*

大きくしたい側の←/→を押し続け、希望のサイズになったら指を離します。

右画面を大きくするときは、右向きの→を押し続ける。

左画面を大きくするときは、左向きの←を押し続ける。

ちょっと一言

変えた画面サイズは本機が記憶するため、再び2画面にしたときは以前のサイズで表示されます。

操作画面を確認する*

1画面のときと同じ操作で、チャンネルや入力を選んだりできる画面が、「操作画面」です。

画面表示

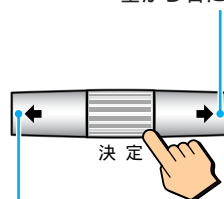
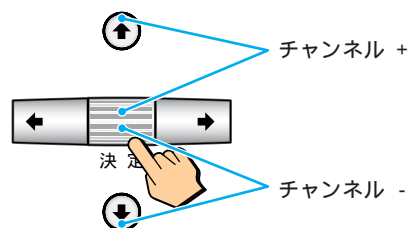
押す。

左が操作画面のとき（左操作）

右が操作画面のとき（右操作）

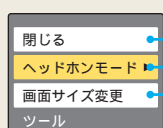
操作画面を切り換えるには

操作画面と逆向きの←/→を押す。

操作画面と同じ向きの←/→を押すと、画面サイズが切り換わってしまいます。

操作画面でない画面のチャンネルを切り換えるには

* VTRまたはDVD、AMPボタンが点灯中（☞111ページ）は、↑/↓/←/→を押しても操作できません。

ツールを使う（☞15ページ）

（☞15ページ）

2画面表示中にツールボタンを押すと…

「ヘッドホンモード」について

「ヘッドホンモード1」：お買い上げ時の設定。ヘッドホンをつなぐと、スピーカーの音声が出なくなり、操作画面の音声がヘッドホンで聞けます。

「ヘッドホンモード2」：操作画面に関係なく、スピーカーとヘッドホンで別々の音声を固定して聞けます。

「画面サイズ変更」について

ツールで「画面サイズ変更」をするときは、操作画面を切り換えずに画面サイズを変更できます。

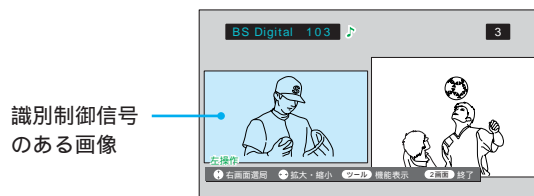
次のページにつづく

2画面で見る（つづき）

2画面についてのご注意

- 次のときは2画面になりません
  - CHインデックスのとき
  - メモ画面のとき
  - Memory Stick Studioのとき
  - TVセンタースピーカーにしているとき
  - 録画実行中（i.LINK、AVマウス、"メモリースティック"）
- 2画面中は次のことはできません
  - 地上アナログで同じチャンネルを選択する
  - デジタル放送同士を選択する
  - デジタル放送とi.LINKの組み合わせ
  - 同じ入力の組み合わせ
  - コンポーネント、AVマルチは右画面に表示できません
  - i.LINK Studioボタンは押しても効きません
  - CHインデックス、メモボタンは押しても効きません
  - TVセンタースピーカーボタンは押しても効きません
- その他
  - 2画面中に録画が開始されると、2画面を終了します
  - ワイド切換はできません
  - データ放送（データ、ラジオ）では、番組によっては映像が表示されません

画質やワイド画面について

- 左右別々の回路で信号処理しているため、映像や音質などに多少の差があります。
- オートワイド機能は働きません。識別制御信号のある画像のみ判別してワイド画像のまま表示されます。

メディアレシーバー後面の端子から出力される信号について

端子名	出力される信号
デジタル放送/ビデオ出力端子	左画面の映像と音声を出力する*1。
音声出力端子（5kΩ）（固定）	スピーカーから聞こえる音声を出力する*2。
光デジタル音声出力端子	左画面の音声を出力する*1。右画面がデジタル放送のテレビのときは、その音声を出力する。

*1 「コンポーネント1」や「コンポーネント2（D端子）」入力の映像信号は出力しません。

*2 ヘッドホンをつなぐと、音声が出力されなくなります。2画面で「ヘッドホンモード2」にしているとき（☞133ページ）はスピーカーから聞こえている音声が出力されます。カセットデッキなど録音機器をつないでいるときは、ご注意ください。

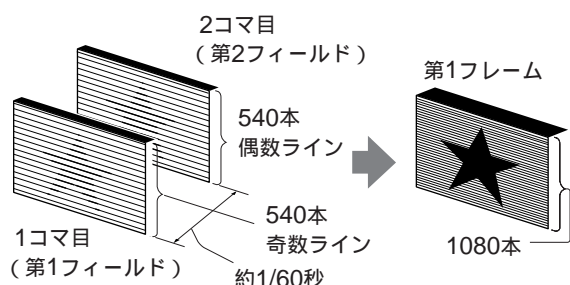
ヘッドホンモードについてのご注意

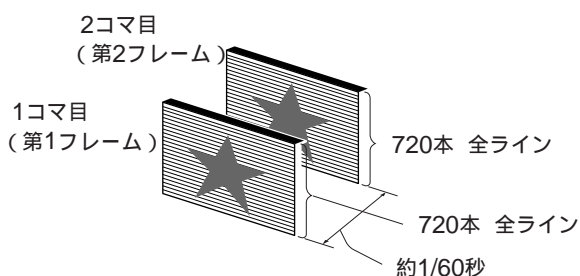
- ヘッドホンモード「2」に設定して1度2画面モードを終了して、再度2画面モードにすると、ヘッドホンモードは「1」に戻ります。
- ヘッドホンを抜くと、「ヘッドホンモード」の設定によって、次の音声がスピーカーから出ます。
  - 「1」のとき：ヘッドホンで聞いていた音声
  - 「2」のとき：そのままのスピーカーの音声

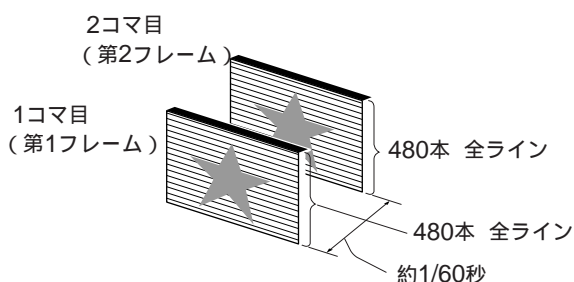
デジタル放送の画質について

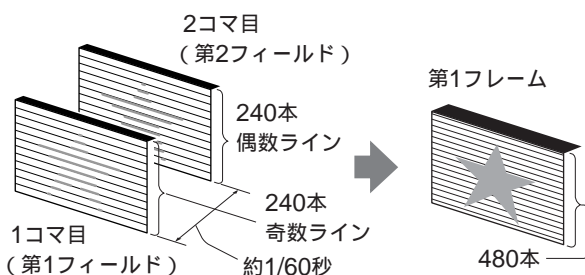
デジタル放送には、高画質のデジタルハイビジョン信号 HD と、地上アナログと同等の画質の標準テレビ信号 SD の2種類があります。
それぞれの放送に2つずつ、以下のように**全部で4種類の画像方式があります。**
本機では、すべての画像方式を受信できます。

映像

1125i（1080i）の デジタルハイビジョン信号 HD

1125本（1080本）の走査線*を約1/60秒ごとに奇数ラインと偶数ラインを交互に流す（飛び越し走査：インターレース方式*）画像方式。

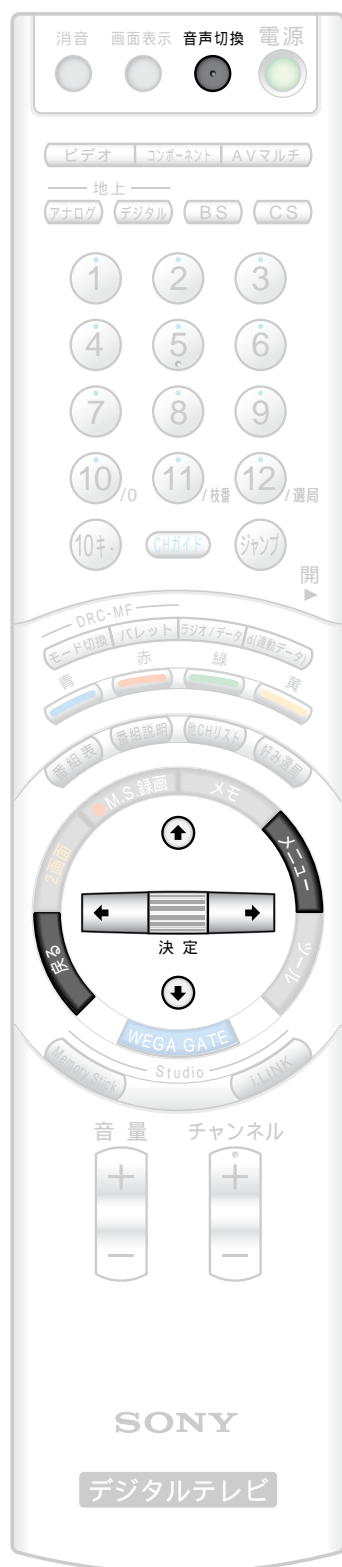
750p（720p）の デジタルハイビジョン信号 HD

750本（720本）全部の走査線を順番どおりに描く（順次走査：プログレッシブ方式*）画像方式。画面や文字のちらつきが少ないため、静止画放送に適しています。

525p（480p）の 標準テレビ信号 SD

525本（480本）全部の走査線を順番どおりに描く（プログレッシブ方式*）画像方式。画面や文字のちらつきが少なくなります。

525i（480i）の 標準テレビ信号 SD

525本（480本）の走査線を約1/60秒ごとに奇数ラインと偶数ラインを交互に流す（インターレース方式*）画像方式。地上アナログやBSアナログと同等の解像度です。

iはインターレース（飛び越し走査）、pはプログレッシブ（順次走査）の略。（　）内は有効走査線数*で数えたときの別称です。
* の詳しい説明は、用語集（☞319ページ）をご覧ください。

音　声

ここでは、二か国語番組や二重音声番組の音声を切り換えたり、音声信号を切り換えたり、音質調整をする操作について説明しています。

このイラストは、リモコンのジョグダイヤルの上下回転操作を表します。

決定 このイラストは、リモコンのジョグダイヤルを押しこんで決定する操作を表します。

音声を切り換える
[音声切換ボタン]

二重音声番組のとき

例：「主/副」を選んだとき

押すたびに、切り換わる。

左スピーカー（主音声）

右スピーカー（副音声）

画面表示	左スピーカーの音声	右スピーカーの音声
主	両方とも主音声	
副	両方とも副音声	
主/副	主音声	副音声

音声信号が複数ある番組（デジタル放送）のとき

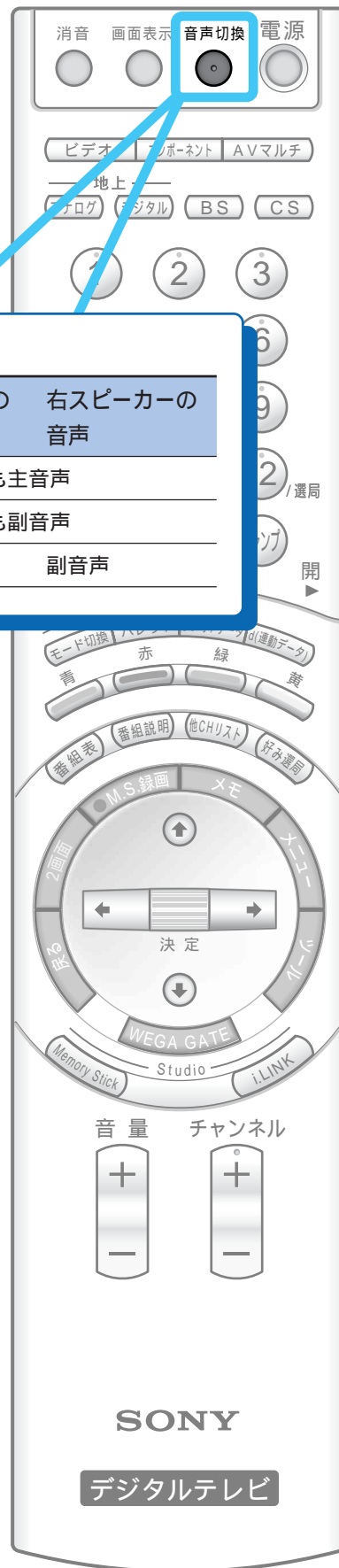
音声信号の数は番組ごとに異なります（☞93ページ）。

本機の両方のスピーカーから選んだ音声が出る。

ご注意

二重音声放送や第2音声などがないときは、切り換わりません。

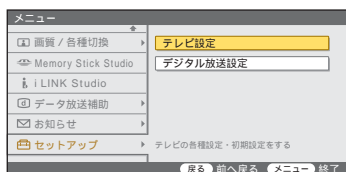
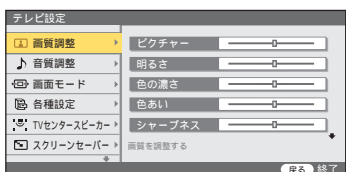
ちょっと一言

2画面のときは、操作画面の音声が切り換わります。

音質を調整する

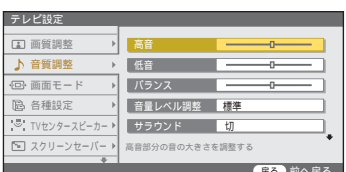
放送や入力ごとに、別々に設定できます。

ご注意

ヘッドホンの音質調整はできません。ヘッドホンの音で調整すると、実際には、ヘッドホンを抜いたときに出るスピーカーからの音が調整されます。

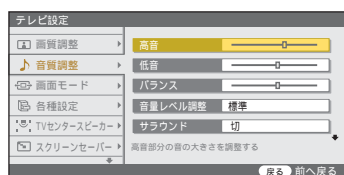
1 メニューボタンを押す。

2 ↕で「セットアップ」を選んで、決定で決定する。

3 ↕で「テレビ設定」を選んで、決定で決定する。

4 ↕で「音質調整」を選んで、決定で決定する。

5 ↕で調整したい項目を選んで、決定で決定する。

ちょっと一言

調整バーの横に表示される数値も調整の目安になります。

6 ↕/←/→で調整して、決定で決定する。

7 他の項目を調整するときは、手順5と6をくり返す。

8 戻るボタンをくり返し押して、設定画面を消す。

音声

次のページにつづく

音質を調整する（つづき）

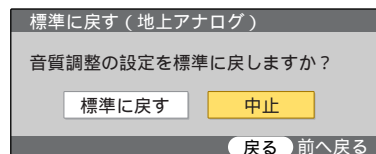
調整する項目の説明

項目	説明
高音	◀を押すか▲▼を下に回すと低くなり、▶を押すか▲▼を上に回すと高くなる。
低音	◀を押すか▲▼を下に回すと低くなり、▶を押すか▲▼を上に回すと高くなる。
バランス	◀を押すか▲▼を下に回すと左側の音が大きくなり、▶を押すか▲▼を上に回すと右側の音が大きくなる。
音量レベル調整	放送や入力端子ごとにつないだ機器の音量のレベルを調整する。 詳しくは、右の「放送や入力端子ごとの音量差が気になるときは」をご覧ください。
サラウンド*1	**「TruSurround(トゥルーサラウンド)*2 5.1」**：5.1ch(チャンネル)などデジタル放送のサラウンド音声は、本機の左右のスピーカーで立体感にあふれ、動きのある音声を仮想的に再現する（TruSurround(トゥルーサラウンド) 5.1ch(チャンネル)）。 **「TruSurround(トゥルーサラウンド)」**：TruSurround(トゥルーサラウンド)の搭載により、通常のステレオ放送でも、本機の左右のスピーカーから映画館にいるような、臨場感あふれる音を再現する。 **「切」**：5.1ch(チャンネル)などデジタル放送のサラウンド音声は、通常のステレオ音声（2ch）に変換して再現する。 それ以外の放送は、オリジナル音声をそのまま再現する。
音質モード	**「ダイナミック」**：重低音を響かせながら、高音も通るように、明瞭感あふれるメリハリのきいた音質。映画やロックコンサート、モータースポーツ番組など、迫力ある映像や音声の番組向き。 **「ナチュラル」**：オリジナルの音源を活かし、全音域がバランスよく自然に広がっていく音質。クラシック音楽や自然ドキュメンタリーなどの番組向き。

*1 TVセンタースピーカー（☞181ページ）にしているときは、設定できません。

*2 TruSurround、SRSと(●)記号はSRS Labs,Inc.の商標です。TruSurround技術はSRS Labs,Inc.からのライセンスに基づき製品化されています。

お買い上げ時の状態に戻すには

「音質を調整する」（☞139ページ）の手順5で「標準に戻す」を選んだあとで、「標準に戻す」を選ぶ。

放送や入力端子ごとの音量差が気になるときは

放送システムの異なる地上アナログからBSデジタルなどに放送を切り換えたときや、音声の入力レベルの異なる機器に入力を切り換えたとき、音量の差を感じることがあります。その場合には、放送や入力端子ごとに、「音量レベル調整」で調節してください。音量+/−ボタンで音量を調節しても、設定した放送や入力端子ごとの音量レベルは変わりません。ただし、AVマルチ（RGB）入力とAVマルチ（Y/CB/CR）入力は同じ設定になります。

1 **音量レベルを設定したい放送や入力に切り換える。**

2 **メニューボタンを押して、メニューを出す。**

3 **▲▼で「セットアップ」を選んで、決定で決定する。**

4 **▲▼で「テレビ設定」を選んで、決定で決定する。**

5 **▲▼で「音質調整」を選んで、決定で決定する。**

6 **▲▼で「音量レベル調整」を選んで、決定で決定する。**

7 **▲▼で調整して、決定で決定する。**
「−3」〜「+3」の範囲で設定できます。

8 **戻るボタンをくり返し押して、設定画面を消す。**

VHF/UHFのステレオ放送で雑音が気になるときは

音声をモノラルにして、チャンネルごとに雑音を軽減できます。

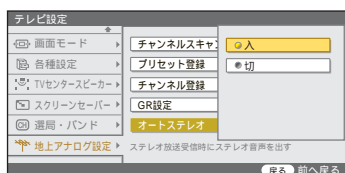
1 **雑音の多いチャンネルを映した状態で、メニューボタンを押して、メニューを出す。**

2 **で「セットアップ」を選んで、決定で決定する。**

3 **で「テレビ設定」を選んで、決定で決定する。**

4 **で「地上アナログ設定」を選んで、決定で決定する。**

5 **で「オートステレオ」を選んで、決定で決定する。**

6 **で「切」にして、決定で決定する。**

7 **戻るボタンをくり返し押して、設定画面を消す。**

デジタル放送の音声について

デジタル放送には、次のような音声モードがあります。

モノラル
通常のニュース放送などに使われています。

ステレオ
音楽番組などに使われています。

サラウンド（☞140ページ）
映画などに使われています。

圧縮Bモード
CDと同等の高音質になります。モノラルやステレオ、サラウンドが圧縮Bモードで送信されるときは「番組説明」画面に「圧縮Bモード」と表示されます。

また、上記の音声の他にも、二か国語番組などの二重音声や、音声信号が複数ある番組の第2音声などがあります。
詳しくは、☞93、138ページをご覧ください。

次のページにつづく

デジタル放送の音声について（つづき）

本機のスピーカーで音声を聞くとき

5.1ch（チャンネル）サラウンドなどの音声は、通常のステレオ放送（2ch）に変換されます。
メディアレシーバー後面の音声出力端子（5kΩ）（固定）やデジタル放送/ビデオ出力端子からも下の表の本機のスピーカーと同じように音声が出力されます。

（L：左フロント、R：右フロント、RL：左リア、RR：右リア、C：センター）

「番組説明」画面（☞36ページ）での表示	左スピーカーの音声	右スピーカーの音声
モノラル	モノラル	モノラル
ステレオ*1	ステレオ（L）	ステレオ（R）
3/1サラウンド*2 3/2サラウンド*2 5.1サラウンド*2	ステレオ（L+RL+C）	ステレオ（R+RR+C）

*1「セットアップ」メニューで「サラウンド」を「TruSurround」にしているとき（☞140ページ）は、映画館にいるような臨場感あふれる音声を再現します。
*2「セットアップ」メニューで「サラウンド」を「TruSurround 5.1」にしているとき（☞140ページ）は、5.1chサラウンドなどの音声を、本機の左右スピーカーで仮想的に再現します。どのサラウンド信号を送信するかは、放送局側が決定するため、本機側では好みのサラウンド信号に切り換えられません。

メディアレシーバー後面の光デジタル音声出力端子から出力される信号について（☞278ページ）

光デジタル入力対応のオーディオ機器に接続すると、デジタル放送の高音質な音声を楽しめます。
「セットアップ」メニューで「光デジタル出力設定」を設定してください（☞279ページ）。

AAC対応AVアンプなどをつないでいるときは

「セットアップ」メニューで「光デジタル出力設定」を「オート」（お買い上げ時の設定）に設定してください（☞279ページ）。
「セットアップ」→「デジタル放送設定」→「接続機器設定」→「光デジタル出力設定」→「オート」を選ぶ。
選びかたは☞14ページをご覧ください。

放送の種類	メディアレシーバー後面の光デジタル出力端子から出力する信号
デジタル放送の音声	AAC音声（デジタル放送用音声方式）がそのまま出力されます。
地上アナログやビデオ機器などからのアナログ音声	PCM音声（2ch）のデジタル信号に変換して出力されます。

AACに対応していないAVアンプやサンプリングレートコンバーター内蔵のMDデッキなどをつないでいるときは

「セットアップ」メニューで「光デジタル出力設定」を「PCM」に設定してください（☞279ページ）。
「セットアップ」→「デジタル放送設定」→「接続機器設定」→「光デジタル出力設定」→「PCM」を選ぶ。
選びかたは☞14ページをご覧ください。
デジタル放送の音声も、地上アナログやビデオ機器などからのアナログ音声もすべて、PCM音声（2ch）のデジタル信号に変換して出力されます。

オーディオ機器につないだスピーカーで音声を聞くときは

- 「セットアップ」メニューで「スピーカー」を「切」にしてください。本機での音量調節に関係なく、本機のスピーカーから音声が出なくなります。
  「セットアップ」→「テレビ設定」→「各種設定」→「スピーカー」→「切」を選ぶ。
  選びかたは☞14ページをご覧ください。
- センタースピーカーのかわりに本機のスピーカーでセンター音声を聞くときは、「センター音声を高品質で楽しむ」（☞186ページ）をご覧ください。

“ メモリースティック ” を楽しむ

[Memory Stick Studio]
（メモリー スティック スタジオ）

ここでは、“ メモリースティック ”に記録されている静止画や動画を再生するなどの操作を説明しています。

このイラストは、リモコンのジョグダイヤルの上下回転操作を表します。

決定 このイラストは、リモコンのジョグダイヤルを押しこんで決定する操作を表します。

“ メモリースティック ” について

別売りの“ メモリースティック ”(“Memory Stick”)は小さくて軽いのに、フロッピーディスクより大容量のIC記録メディアです。
“ メモリースティック ”に画像を記録、編集した機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

ちょっと一言

“ メモリースティック ”、“ メモリースティック PRO ”、“ メモリースティック デュオ ”、 、MEMORY STICK PRO およびMEMORY STICK DUO は、ソニー株式会社の商標です。

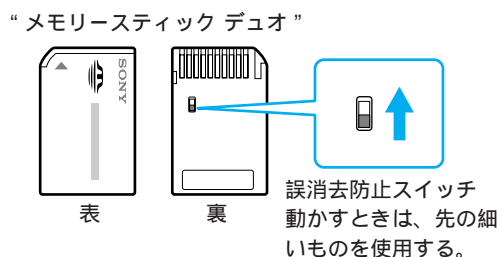
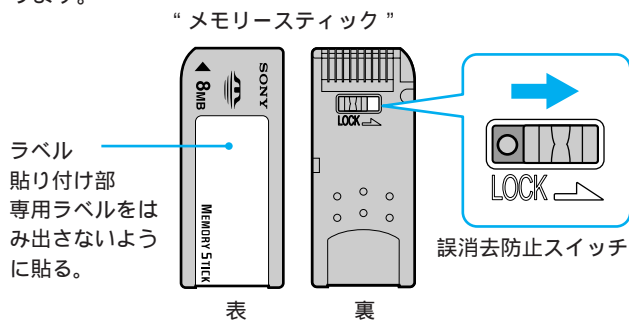
ご注意

- お使いの“ メモリースティック ”によって、データの読み込み速度が異なります。
- パソコンでフォーマット（初期化）した“ メモリースティック ”は本機では使用できない場合があります。

“ メモリースティック ”、“ メモリースティック PRO ”および“ メモリースティック デュオ ”についてのご注意

記録されている静止画・動画を誤って消さないためには

誤消去防止スイッチをスライドさせて、「LOCK」にしてください。ただし、画像の回転（☞151ページ）は、できなくなります。

“ メモリースティック ”

“ メモリースティック デュオ ”

以下の場合、静止画や動画のファイルが破壊されることがあります

破壊された場合の内容の補償については、ご容赦ください。大切なデータは、バックアップを取っておくことをおすすめします。

- データの読み込み中、書き込み中（アクセスランプが点滅中）に、“ メモリースティック ”を取り出したり、本機の電源を切ったりした場合
- 静電気や電気的ノイズの影響を受ける場所で使った場合

取り扱いについて

以下のことをお守りください。

- 持ち運びや保管の際は、“ メモリースティック ”を付属の収納ケースに入れる
- 端子部に触れたり、金属を接触させせない
- 強い衝撃を与えたり、曲げたり、落としたりしない
- 分解や改造をしない
- 水にぬらさない

使用場所について

以下の場所での使用や保存は避けてください。

- 高温になった車の中や炎天下など気温の高い場所
- 直射日光のあたる場所
- 湿気の多い場所や腐食性のものがある場所

以下の場合、“ メモリースティック ”が壊れたり、メディアレシーバーのメモリースティック挿入口が破損することがあります

- “ メモリースティック ”のメモエリアに強い圧力で書き込みをした場合
- 逆向きに無理に入れた場合

著作権について

本機で記録した静止画や動画および音楽などの第三者の著作物は、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できませんのでご注意ください。

記録内容の補償について

本機を使用中、不具合により記録されなかった場合の内容の補償については、ご容赦ください。

メモリースティック対応表

メモリースティックの種類	記録/再生
“ メモリースティック ” “ メモリースティック ”（メモリーセレクト機能付） “ メモリースティック デュオ ”	○
“ メモリースティック ”（マジックゲート/高速データ転送対応） “ メモリースティック デュオ ”（マジックゲート/高速データ転送対応）	○*1、*2
マジックゲート メモリースティック マジックゲート メモリースティック デュオ	○*1
メモリースティック PRO メモリースティック PRO デュオ	○*1、*2

*1 マジックゲート機能が必要なデータの記録/再生はできません。
*2 パラレルインターフェースを利用した高速データ転送に対応しておりません。

ちょっと一言

- 本機では、1GBまでの“ メモリースティック ”で動作を確認しています。
- すべてのメモリースティック・メディアの動作を保証するものではありません。

本機で再生できるファイル（静止画と動画）について

以下のファイルが再生できます。
- 本機で記録した静止画や動画
- デジタルスチルカメラやデジタルビデオカメラレコーダーなどの“メモリースティック”対応機器でJPEG*1形式で記録された静止画
- ソニー製の機器で録画された以下のMPEG1*2形式の動画
  - MPEG MOVIE
  - MPEG MOVIE AD/EX/HQ/HQX/CV
  - VAIO Giga Pocket MPEG1（ビデオCD相当）
- 「モバイルムービー」機器*3対応の動画
  - QuickTime形式*4

ちょっと一言

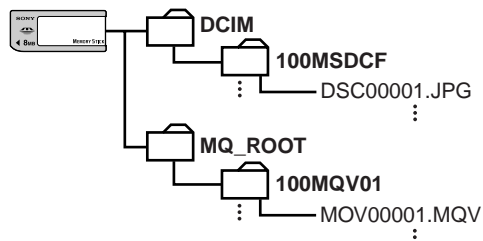
本機で記録した動画は、「モバイルムービー」機器で再生できます。

本機で表示できるファイルの名前について

拡張子が「JPG」（静止画）、「MPG」「MQV」（動画）のファイルのみ表示できます。

ファイル名の例　DSC00001.JPG
ファイル名　拡張子

シームレス表示では、上記の拡張子を持ったファイルのうち、DCF*5準拠のファイルと、モバイルムービー対応の動画ファイルのみ表示します。ファイル名、フォルダ名を変更したときは、シームレス表示で表示できないことがあります。この場合は、フォルダ別表示に切り換えて、対象フォルダを選んでください。

シームレス表示で表示されるファイルの例

ご注意
- 日本語など、DOS形式以外のフォルダ名、ファイル名は、正常に表示されないことがあります。
- 再生できる静止画の画像サイズは、16×16ドットから4096×4096ドットまでです。

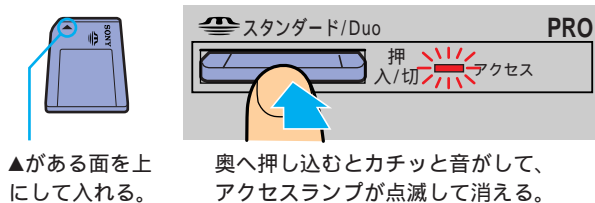
*1 デジタルスチルカメラなどで採用されている、静止画像を圧縮する代表的な方式です。この方式を決定した団体（Joint Photographic Experts Group）の名前がそのまま使われています。
*2 デジタルスチルカメラなどで採用されている、カラー動画を圧縮する代表的な方式です。MPEGとは、国際標準化機構（ISO）のワーキンググループ（Motion Picture Experts Group）の名前がそのまま使われています。
*3「モバイルムービー」機器を使うと、“メモリースティック”に録画した動画を外に持ち出して、好きな場所で見て楽しむことができます。「モバイルムービー」機器で取り扱う動画ファイルには、QuickTimeファイル形式を使用しています。詳しくは、モバイルムービーのインターネット上のサポートページhttp://www.sony.jp/products/mm/をご覧ください。
*4 QuickTime形式のうち拡張子が「MQV」のファイルのみ再生可能です。
*5（社）電子情報技術産業協会にて制定された統一規格“Design rules for Camera File systems”のことです。

“メモリースティック”の入れかたと取り出しかた

“メモリースティック”の入れかた

“メモリースティック”を本機前面のメモリースティック挿入口にカチッと音がするまでしっかり入れる。

▲がある面を上にして入れる。

奥へ押し込むとカチッと音がして、アクセスランプが点滅して消える。

ちょっと一言

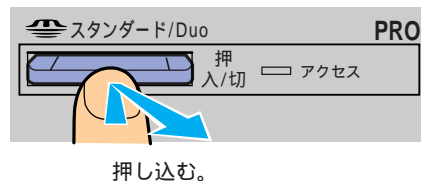
“メモリースティック デュオ”を本機で使うときは、メモリースティック デュオアダプターをつけずにそのまま挿入してください。

ご注意
- 逆向きに無理に入れると、メモリースティック挿入口が破損することがあります。
- メモリースティック挿入口には“メモリースティック”以外のものを入れないでください。故障の原因となります。

“メモリースティック”の取り出しかた

アクセスランプが点滅していないことを確認して、“メモリースティック”を1度奥へ押し込む。

アクセスランプ（赤色に点滅していないことを確認）

押し込む。

“メモリースティック”が出てきます。

ご注意
- “メモリースティック”を取り出すとき、奥に押し込んでから急に指を離さないでください。“メモリースティック”が飛び出すことがあります。
- 以下の場合、“メモリースティック”が破損する場合があります。
  - アクセスランプが赤色に点滅中や、画面に「アクセス中...お待ちください」または「アクセス中」と表示されているときに、テレビの電源を切る、または“メモリースティック”を抜く。
  - “メモリースティック”を無理に引き抜く（本機のメモリースティック挿入口も破損する場合があります）。

Memory Stick Studioトップ画面で一覧表示して見る

Memory Stick Studioトップ画面は、“メモリースティック”を使ってできるすべての操作入口です。“メモリースティック”に保存した静止画や動画データを本機の画面に大きく表示して楽しめます。
“メモリースティック”の録画については、『“メモリースティック”に録画する』(☞81ページ)をご覧ください。

Memory Stick Studioトップ画面を表示する

Memory Stick Studio

押す。
(もう1度押すと消える。)

ご注意
“メモリースティック”録画中に押しても、Memory Stick Studioトップ画面は表示されません。

A「フィルタ」ボタン
サムネイルで一覧表示されるファイルの種類を選びます(☞147ページ)。

B「フォルダ選択」ボタン
表示モードの設定や、サムネイルで表示されるフォルダを選びます(☞148ページ)。

C サムネイル*
静止画や動画が20枚表示される。
* 一覧表示するために縮小した画像をサムネイルといいます。

D スクロールバー
ファイルが21枚以上あるときは➡でスクロールバーを選んで、を回して表示します。

E 情報欄
カーソルで選んでいる静止画・動画の情報。
「No」:順番/総枚数
「ファイル」:ファイル名と保存形式
「サイズ」:解像度
「日時」:撮影/更新日時

F 操作ガイド表示欄
Memory Stick Studioトップ画面を表示中に、リモコンを使ってできることをガイド表示します。

G メッセージ表示部
エラーメッセージなどを表示します。

H 録画残り時間
“メモリースティック”の残り容量に対する録画可能な時間の目安を表示します。

I「●録画」ボタン
最後に見ていた地上アナログのチャンネルに切り換わり、「メモリースティック録画」操作画面が表示され、3種類の録画が選べます(☞81、149ページ)。

J「記録モード」ボタン
静止画や動画に関する記録の設定をします(☞148ページ)。

画面上のボタンや項目を選ぶには
/⬅/➡で選んで、で決定します。

他の方法でも表示できます
メニューから
「Memory Stick Studio」を選ぶ。
選びかたは☞14ページをご覧ください。

表示マークの意味

ファイル属性（サムネイルの下に表示されます）

🎞 ：動画ファイル
O┳ ：プロテクト（保護）
+□ ：関連ファイル

+□（関連ファイル）について
「表示モード」が「シームレス」のときのみ表示されます。サムネイルに表示されているファイルの他に、ファイル名の下4桁が同じファイルが存在し、それらが表示されていないことを示しています。

ご注意

+□の表示されているファイルを削除すると、他の関連ファイルも削除されます。

表示できないファイル（画像データの代わりに表示されます）

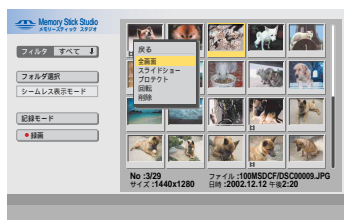
? ：対応できない圧縮形式のファイル
? ：サムネイルデータは存在しているがDCF準拠でないファイル
⚡ ：静止画・動画データが壊れている
⚡ ：サムネイルデータが壊れている*

* サムネイルデータが壊れていても、再生できることがあります。

Memory Stick Studioトップ画面の一覧表示から画像を選ぶと

Memory Stick Studioトップ画面で、一覧表示から静止画や動画の画像を選ぶと、サブメニューが表示されます。

1 ➡を押して、一覧表示へカーソルを移動する。

2 ⬍/⬅/➡で画像を選んで、決定で決定する。
サブメニューが表示されます。

静止画を選んだとき

動画を選んだとき

3 ⬍で項目を選んで、決定で決定する。

サブメニューからできること

項目	できること
「全画面」*1	静止画を画面に大きく表示します（☞151ページ）。
「ムービープレーヤー」*2	ムービープレーヤーを表示します（☞153ページ）。
「スライドショー」	選んだ静止画または動画からスライドショーを始めます（☞156ページ）。
「プロテクト」/「プロテクト解除」	削除したり回転させたりできないようにします。プロテクトされているときはプロテクトを解除します。
「回転」*1	静止画を回転させます（☞151ページ）。
「削除」	選んだ静止画や動画を削除します。

*1 静止画を選んだときのみ表示されます。
*2 動画を選んだときのみ表示されます。

ご注意

- プロテクトした画像をパソコンなどで見ると、属性が「読み取り専用」になります。
- 「表示モード」を「シームレス」に設定しているとき（☞148ページ）は、選んだ画像を削除すると、関連ファイルも削除されます。
- 画像を削除するときは、情報欄の内容を確認してから行ってください。
- プロテクトされている画像は、回転と削除ができません。プロテクトを解除してから行ってください。
- “ メモリースティック ”の誤消去防止スイッチが「LOCK」になっているときは、画像を削除することができません。

一覧表示する画像の種類を選ぶときは[フィルタ]

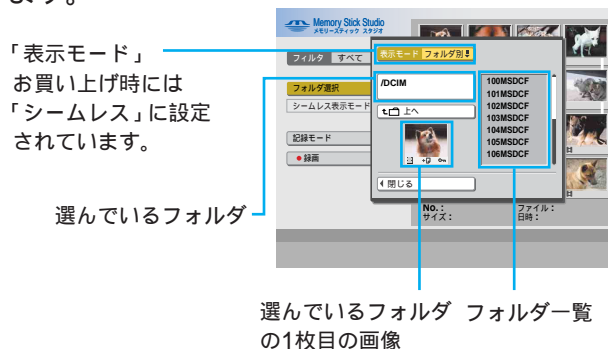
Memory Stick Studioトップ画面で「フィルタ」ボタンを選ぶと、サムネイルで一覧表示する画像の種類を設定できます。

項目	表示される画像の種類
「すべて」	すべての画像を表示します。
「静止画」	静止画のみ表示します。
「動画」	動画のみ表示します。

次のページにつづく

メモリー スティック スタジオ
Memory Stick Studioトップ画面で一覧表示して見る（つづき）

一覧表示する画像のフォルダを選ぶときは[フォルダ選択]

Memory Stick Studioトップ画面で「フォルダ選択」ボタンを選ぶと、次の画面が表示されます。

ちょっと一言

複数の画像をまとめて入れた電子上の入れ物をフォルダといいます。フォルダには静止画や動画の他に、さらにいくつかのフォルダが含まれていることがあります。フォルダの階層がいくつもある場合は、1つ上の階層へ移動する「上へ」を選んでください。

1 で「表示モード」を選んで、で決定する。

2 で「フォルダ別」または「シームレス」を選んで、で決定する。

項目	説明
シームレス	各フォルダ内にある、静止画・動画ファイルをまとめて一覧表示します。最大2000枚まで表示できます。
フォルダ別	ファイルがまとめられているフォルダごとに表示します。下の階層を表示するには、でフォルダを選んで、で決定する。上の階層を表示するには、「上へ」を選んで決定する。

「シームレス」を選んだときは

手順5へ進んでください。

3 ➡を押して、フォルダ一覧を選ぶ。
で「上へ」を選んで、で決定すると、1つ上の階層を一覧できます。

4 で画面に一覧表示するフォルダを選んで、で決定する。

5 で「閉じる」を選んで、で決定する。

記録モードを設定するには

本機で“メモリースティック”に記録するときの画質などをお好みにあわせて設定できます。

1 で「記録モード」を選んで、で決定する。

2 で設定する項目を選んで、で決定する。

3 で記録モードを選んで、で決定する。

4 で「閉じる」を選んで、で決定する。

「記録モード」からできること

項目	説明
画像サイズ	静止画を記録するときの画素数を設定する（☞86ページ）。 VGA（お買上げ時の設定）：携帯電話やPDAで再生するときに適した画素数で記録できます（128MBで約3200枚）。 HD：本機やパソコンで再生するときに適した画素数で記録できます（128MBで約1250枚）。
音声	ステレオ放送や二重音声放送を録画するときの音声を設定する。 L/R（お買い上げ時の設定）：オリジナルの音声をそのまま録画します。 L：左音声または主音声のみを録画します。 R：右音声または副音声のみを録画します。
画質	録画するときの画質を設定する。 高画質になるほど使う容量が大きくなります。 **高画質**：128MBで約30分間記録できます。 画サイズ　320×240 ビットレート（動画）　384 kbps ビットレート（音声）　128 kbps **標準**（お買い上げ時の設定）： 128MBで約60分間記録できます。 画サイズ　320×240 ビットレート（動画）　216 kbps ビットレート（音声）　64 kbps **長時間**：画質を下げて長く録画するときに選ぶ。128MBで約130分間記録できます。 画サイズ　176×144 ビットレート（動画）　64 kbps ビットレート（音声）　64 kbps
アスペクト	録画するときの画面のアスペクト（横縦比）を設定する。 **オート**（お買い上げ時の設定）：本機が自動的にID1信号を検出して最適なアスペクトを選びます。 **ノーマル固定**：オリジナルのアスペクトのまま記録します。 **V圧縮固定**：ビデオカメラなどで縦長に記録されていた映像を上下黒帯をつけて16:9映像として記録します。 入力信号　記録信号

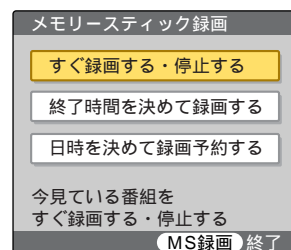
“メモリースティック”に録画するには

Memory Stick Studioトップ画面で「●録画」を選びます。「メモリースティック録画」操作画面が表示され、地上アナログやビデオ2、3、4入力の映像を“メモリースティック”に録画できます。
録画するときに、画質や音声のモードをMemory Stick Studioの「記録モード」であらかじめ設定しておくことができます。**詳しくは、「記録モードを設定するには」（☞148ページ）をご覧ください。**

ちょっと一言

“メモリースティック”の録画操作は、リモコンの●M.S.録画ボタンからもできます。操作について詳しくは、『“メモリースティック”に録画する［●M.S.録画ボタン］』（☞81ページ）をご覧ください。

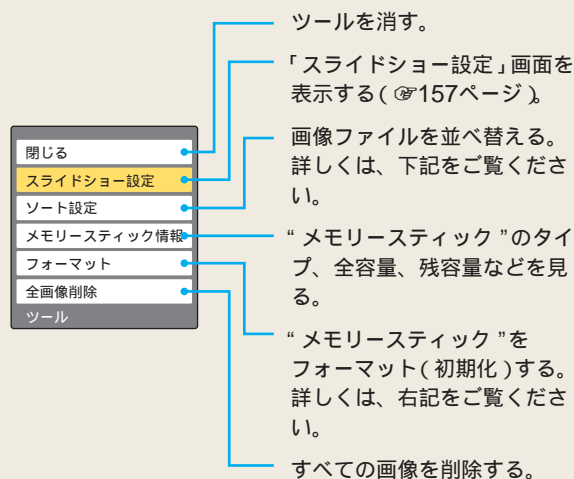
1 で「●録画」を選んで、決定で決定する。

「メモリースティック録画」操作画面が表示されます。画質については、「記録モードを設定するには」（☞148ページ）であらかじめ選んでください。

2 で録画方法を選んで、決定で決定する。

それぞれの録画方法と操作について詳しくは、『“メモリースティック”に録画する』（☞81ページ）をご覧ください。

ご注意

- 記録モード「画質：長時間」としたときは、黒枠がつきます。
- 記録モード「アスペクト：ノーマル固定」としたときは、ID1方式の信号を録画すると、縦長になることがあります。
- 記録モード「音声：L/R」で2か国語放送を録画したときは、ムービープレーヤー（☞153ページ）で再生時にツールで「音声切換」を選べば、主/副/主副の音声を楽しめます。

Memory Stick Studioトップ画面で一覧表示して見る（つづき）

「ソート設定」について

“メモリースティック”保存されている画像を2000枚まで並べ替えて表示できます。「表示モード」を「シームレス」に設定しているときは、「ソート設定」はできません。

項目	並べ替えの順序
「名前昇順 A→Z」	画像ファイル名のAから順に並べる。
「名前降順 Z→A」	画像ファイル名のZから順に並べる。
「日時昇順 1→9」	更新日時の古い画像ファイルから並べる。
「日時降順 9→1」	更新日時の新しい画像ファイルから並べる。

ご注意

パソコンで加工した画像は、撮影日時ではなく更新した日時が表示される場合があります。

「フォーマット」について

“メモリースティック”内のデータすべてをフォーマット（初期化）します。

すばやく“メモリースティック”画像を削除したいときや、何らかの理由で録画/再生できなくなった“メモリースティック”を記録できるようにするときに、フォーマット（初期化）してください。

ご注意

- フォーマットすると“メモリースティック”に記録されているデータはすべて削除されます。本機で表示されないデータも削除されます。1度削除されたデータは元に戻すことはできないため、注意して行ってください。
- フォーマット中は、他の操作ができません。
- フォーマット中に予約録画が始まるときは、予約が取り消されます。

「全画像削除」のご注意

「表示モード」を「シームレス」に設定しているときは、“メモリースティック”に記録されているすべての画像を削除するため、削除完了までに時間がかかり、削除中は他の操作ができません。

静止画を楽しむ

本機*や他の録画機器で“ メモリースティック ”に記録した静止画を画面全体に表示して見ることができます。

* 本機では地上アナログとビデオ2、3、4入力の映像を静止して“ メモリースティック ”に記録できます。メモ画面の記録について詳しくは、「“ メモリースティック ”に静止画を保存する」（☞86ページ）をご覧ください。

1 “ メモリースティック ”をメモリースティック挿入口に入れる。

“ メモリースティック ”を正しく入れてください（☞145ページ）。

2 Memory Stick Studioボタンを押して、Memory Stick Studioトップ画面を表示する。

3 ⬍/⇦/⇨で見たい静止画を選んで、決定で決定する。

サブメニューが表示されます。

4 ⬍で「全画面」を選んで、決定で決定する。

選んだ静止画が画面上に大きく表示されます。

引き続き前後の画像を見るときは⇦/⇨を押してください。

ご注意

- “ メモリースティック ”の静止画を見ているときは、本機のスピーカーからは音声は出力されません。音量+/−ボタンで音量を調節しないでください。
- 静止画によっては、全画面で表示すると画像が粗くなります。また、サイズによっては大きく表示されません。
- 画像によっては、全画面で表示すると読み込みに時間がかかるものがあります。

静止画の向きを変えて見る

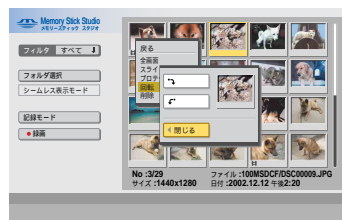
一覧表示で選んだサムネイルの静止画を、左回りまたは右回りに90度ずつ回転させて見ることができます。

1 Memory Stick Studioボタンを押して、Memory Stick Studioトップ画面を表示する。

2 ⬍/⇦/⇨でMemory Stick Studioトップ画面の静止画を選んで、決定で決定する。

サブメニューが表示されます。

3 ⬍で「回転」を選んで、決定で決定する。

「回転」画面が表示されます。

次のページにつづく

静止画を楽しむ（つづき）

4 **で「↶」または「↷」を選んで、で決定する。**

決定するごとに、選んだ方向に90度ずつ回転します。

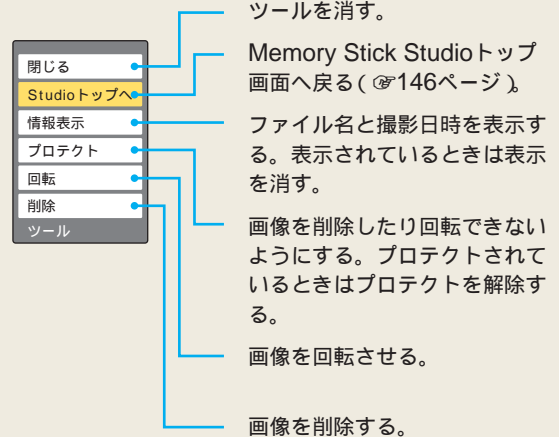
5 **で「閉じる」を選んで、で決定する。**

回転させた状態で、静止画が保存し直されます。

全画面表示した静止画を回転させるときは

静止画を全画面表示しているときに、ツールボタンを押す。ツールから「回転」を選ぶと、手順3の「回転」画面が表示されます。

ご注意

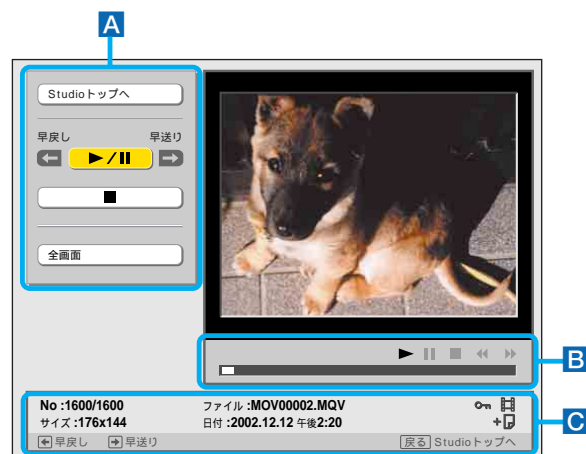
- 回転させられる画像は静止画のみです。
- プロテクトされている静止画は、回転させることができません。が表示されているかどうかを確認してください。回転させたいときは、プロテクトを解除してから操作してください（☞147ページ）。
- “メモリースティック”の誤消去防止スイッチが「LOCK」になっているときは静止画を回転させることはできません。

ご注意

- プロテクトした画像をパソコンなどで見ると、属性が「読み取り専用」になります。
- 「表示モード」を「シームレス」に設定しているとき（☞148ページ）は、選んだ画像を削除すると、関連ファイルも削除されます。
- 画像を削除するときは、情報欄の内容を確認してから行ってください。
- プロテクトされている画像は（☞147ページ）、削除することができません。プロテクトを解除してから行ってください。
- “メモリースティック”の誤消去防止スイッチが「LOCK」になっているときは、画像を削除することができません。

動画を楽しむ ［ムービープレーヤー］

本機*や他のデジタルビデオカメラレコーダー、PDAなどで“メモリースティック”に録画/撮影した動画を再生できます。

* 本機では地上アナログとビデオ2、3、4入力の映像を“メモリースティック”に録画できます。録画について詳しくは、「“メモリースティック”に録画する」（☞81ページ）をご覧ください。

ムービープレーヤー

A 操作ボタン
リモコンのⒺで選んで、決定で決定します。➡（早送り）/⬅（早戻し）は、リモコンの←/→を押して、操作します。

B 動作状態表示部
ムービープレーヤーの動作状態を表示します。

C 情報表示部
再生中の画像情報を表示します。

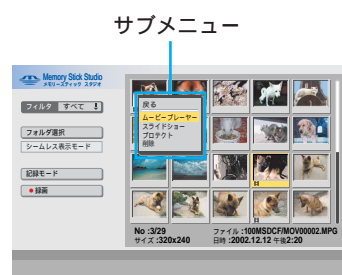
1 “メモリースティック”をメモリースティック挿入口に入れる。

“メモリースティック”を正しく入れてください（☞145ページ）。

2 Memory Stick Studioボタンを押して、Memory Stick Studioトップ画面を表示する。

3 ↕/←/→で見たい動画を選んで、決定で決定する。

サブメニューが表示されます。

サブメニュー

4 ↕で「ムービープレーヤー」を選んで、決定で決定する。

ムービープレーヤーが表示されます。

5 ↕で「►/II」を選んで、決定で決定する。

動画の再生が始まります。再生が終わると、動画のはじめに戻って止まります。

再生を途中でやめるときは

↕で「■」を選んで、決定で決定する。

“メモリースティック”を楽しむ［Memory Stick Studio］

次のページにつづく

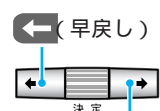
動画を楽しむ [ムービープレーヤー]（つづき）

ムービープレーヤーで動画を操作するには

↕/←/→でムービープレーヤー画面の項目を選んで、決定で決定する。

項目	動作
「Studioトップへ」	Memory Stick Studioトップ画面に戻る。
▶/II	再生する。再生中に選ぶと、一時停止する。
■	再生を停止する。
「全画面」	画面上に大きくしたサイズで再生する。リモコンのボタンで動画を操作できます。

リモコンでの操作

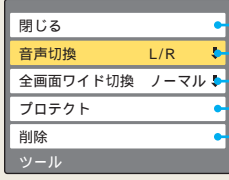
リモコンのボタン	動作
	停止中にリモコンの←を押すと、前の画像に戻る*。再生中に←を押すと、再生中の動画が早戻しされる。 押し続けると、高速で早戻りします。
	停止中にリモコンの→を押すと、次の画像に進む*。再生中に→を押すと、再生中の動画が早送りされる。押し続けると、高速で早送りします。

* 停止中にリモコンの←（⇐）/→（⇒）で別の動画に移るときは、読み込みに時間がかかることがあります。その間は「Studioトップへ」ボタンが点灯して、読み込み中になり、決定で決定すると、Memory Stick Studioトップ画面に戻ります。

ご注意

- 動画サイズが小さいときは、「全画面」を選んでも画面上に大きく表示されません。
- 本機で記録する動画は、主に携帯機器での再生を想定しています。本機で再生するときは、記録モードにかかわらず画像が粗くなります。
- 2時間を超える動画は再生できないことがあります。

全画面で表示中に動画を操作するには

リモコンのボタンで操作します。

ボタン	動作
再生 ►/2	再生する。
停止 ■/5	再生を停止して、ムービープレーヤーに戻る。
前/早戻し *2 ◄◄/I◄◄ /1	停止中に押すと前の画像に戻る*1。再生中に押すと、再生中の動画が早戻しされる。
次/早送り *2 ►►I/►► /3	停止中に押すと次の画像に進む*1。再生中に押すと、再生中の動画が早送りされる。
一時停止 II /4	一時停止する。
	ムービープレーヤーに戻り、再生を続けます。

*1 停止中にリモコンの前/早戻し/次/早送りを押して、別の動画に移るときは、読み込みに時間がかかることがあります。その間は画面上の「Studioトップへ」ボタンが点灯して、読み込み中になり、決定で決定すると、Memory Stick Studioトップ画面に戻ります。

*2 ↓/→（早送り）または↑/←（早戻し）を押してもできます。

ツールを使う（☞15ページ）

「音声切換」について

ツールの「音声切換」で選べる音声は下記の表のようになります。

項目	ステレオのとき	二重音声のとき
「L/R」	左右両方の音声	主音声と副音声
「L」	左音声	主音声
「R」	右音声	副音声

ご注意

動画に音声が含まれていないときは「音声切換」は選べません。

「全画面ワイド切換」について

全画面で再生するときに動画の画面の横縦比が正しく表示されるように、設定します。

「ノーマル」：横縦比4:3の映像のとき

「フル」：横縦比16:9の映像のとき

ご注意

リモコンのワイド切換ボタンを押しても、切り換えられません。

静止画や動画を自動で送りながら見る［スライドショー］

“ メモリースティック ”に記録されている静止画・動画を自動的に順番に表示します。
静止画だけを自動表示させたいときは、あらかじめMemory Stick Studioトップ画面で、「フィルタ」の設定を「静止画」にしておいてください（☞147ページ）。

1 “ メモリースティック ”をメモリースティック挿入口に入れる。

“ メモリースティック ”を正しく入れてください（☞145ページ）。

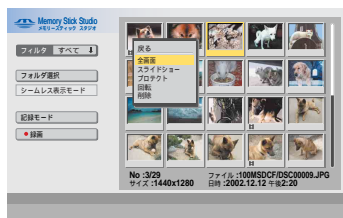
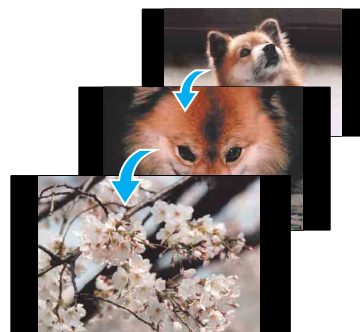
2 Memory Stick Studioボタンを押して、「Memory Stick Studio」トップ画面を表示する。

3 ▲▼/◀/▶でスライドショーを始める画像を選んで、決定で決定する。

サブメニューが表示されます。

静止画を選んだとき

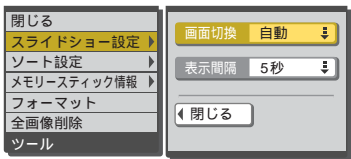
動画を選んだとき

4 ▲▼で「スライドショー」を選んで、決定で決定する。

スライドショーが始まります。
動画は自動的に再生され、再生が終わると次の画像に移ります。

ちょっと一言

スライドショーの静止画・動画の表示順は、Memory Stick Studioトップ画面の一覧表示順と同じです。この表示順は、「ソート設定」（☞150ページ）で設定できます。

スライドショーを終了するには

戻るボタンを押す、または決定で決定する。

ご注意

- 「スライドショー設定」の「画面切換」を「手動」に設定したときは、静止画・動画は自動的に送られません。「スライドショーを手動で操作するには」（☞157ページ）をご覧ください。
- 「スライドショー設定」の「画面切換」を「自動」に設定したときは、ムービープレーヤー（☞153ページ）は表示されません。
- ツールは「画面切換」を「自動」に設定しているときは、使えません。

スライドショーを設定するには（スライドショー設定）

Memory Stick Studioトップ画面を表示中にツールボタンを押して、ツールから「スライドショー設定」を選ぶと、スライドショーを設定できます。スライドショーを手動で操作したり、表示間隔を変更したりできます。

1 **Memory Stick Studioボタンを押して、Memory Stick Studioトップ画面を表示する。**

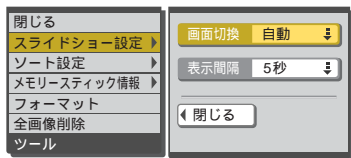
2 **ツールボタンを押す。**
ツールが表示されます（☞158ページ）。

3 **で「スライドショー設定」を選んで、決定で決定する。**

4 **で設定したい項目を選んで、決定で決定する。**

5 **で設定を選んで、決定で決定する。**

6 **で「閉じる」を選んで、決定で決定する。**
この操作をくり返して、「ツール」画面を消します。

「スライドショー設定」からできること

項目	できること
「画面切換」	スライドショーに表示される画像の画面切換を設定します。 **「自動」**（お買い上げ時の設定）：スライドショーの画像を自動的に送ります。 **「手動」**：スライドショーの画像を手動で操作できます。操作のしかたについては、下記をご覧ください。
「表示間隔」*	静止画像1枚ごとの表示間隔を、下記の中から設定します。 **「5秒」**（お買い上げ時の設定）/ **「10秒」** / **「30秒」** / **「1分」** / **「5分」**
「閉じる」	「スライドショー設定」を閉じます。

* 「画面切換」を「自動」に設定しているときのみ、設定できます。

ご注意

- 動画は、設定した「表示間隔」にかかわらず、すべて再生します。再生が終わると次の画像を表示します。
- 「スライドショー設定」の「表示間隔」で設定できる時間はおおよその目安であり、画像サイズが大きいときは、表示に時間がかかるため、設定どおりにならないことがあります。

スライドショーを手動で操作するには

1 **Memory Stick Studioボタンを押して、Memory Stick Studioトップ画面を表示する。**

2 **ツールボタンを押す。**
ツールが表示されます（☞158ページ）。

3 **で「スライドショー設定」を選んで、決定で決定する。**

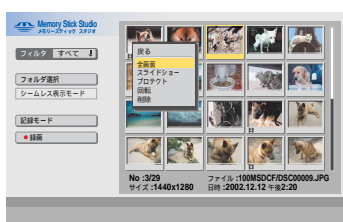
4 **で「画面切換」を選んで、決定で決定する。**

5 **で「手動」を選んで、決定で決定する。**

次のページにつづく

静止画や動画を自動で送りながら見る［スライドショー］（つづき）

6 **で「閉じる」を選んで、決定で決定する。**
この操作をくり返して、「ツール」画面を消します。

7 **/←/→でスライドショーを始める画像を選んで、決定で決定する。**
サブメニューが表示されます。

静止画を選んだとき

動画を選んだとき

8 **で「スライドショー」を選んで、決定で決定する。**

9 **←（前へ）または→（次へ）をくり返し押して、画像を切り換えます。**

動画に切り換わったときは

ムービープレーヤーが表示されます。動画は、ムービープレーヤーを使って操作します。操作のしかたについては、「動画を楽しむ」(☞153ページ）をご覧ください。

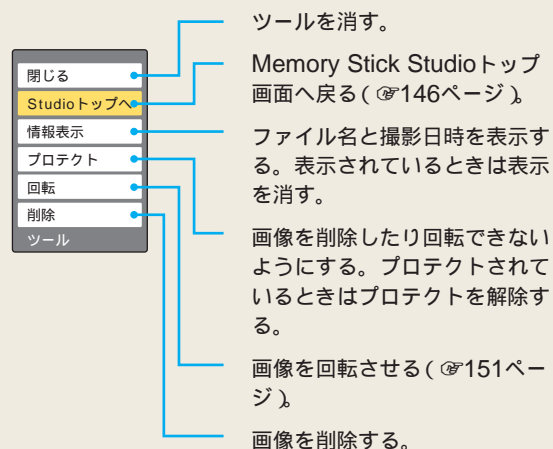
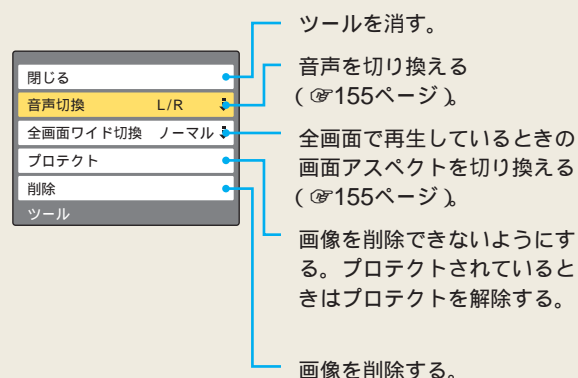
スライドショーを終了するには

静止画を表示中は、ツールから「Studioトップへ」を選びます。
ムービープレーヤーを表示中は、画面上から「Studioトップへ」を選びます。

ご注意

- 「スライドショー設定」の「画面切換」を「自動」に設定したときは、ムービープレーヤー（☞153ページ）は表示されません。
- ツールは「画面切換」を「自動」に設定しているときは、使えません。

ツールを使う（☞15ページ）

スライドショーで静止画表示中にツールボタンを押すと…

スライドショーでムービープレーヤー表示中にツールボタンを押すと…

ご注意

- ツールは「画面切換」を「自動」に設定しているときは、使えません。
- プロテクトした画像をパソコンなどで見ると、属性が「読み取り専用」になります。
- 「表示モード」を「シームレス」に設定しているとき（☞148ページ）は、選んだ画像を削除すると、関連ファイルも削除されます。
- 画像を削除するときは、情報欄の内容を確認してから行ってください。
- プロテクトされている画像は（☞147ページ）、削除することができません。プロテクトを解除してから行ってください。
- "メモリースティック"の誤消去防止スイッチが「LOCK」になっているときは、画像を削除することができません。

- このイラストは、リモコンのジョグダイヤルの上下回転操作を表します。
- 決定 このイラストは、リモコンのジョグダイヤルを押しこんで決定する操作を表します。

i.LINK（アイリンク）で操作する [i.LINK（アイリンク） Studio（スタジオ）]

ここでは、本機のi.LINK操作画面を使って、デジタル放送を録画やダビングしたり、録画した映像を再生する操作およびi.LINK機器の設定について説明しています。

本機でi.LINK操作できる機器について

本機では、次のi.LINK対応機器を操作できます（2004年9月現在）。
あらかじめ、「i.LINKでの接続」（☞283ページ）を行ってください。

ハードディスクレコーダー
ソニー製ハードディスクレコーダーVRP-T1/VRP-T3/VRP-T5*1などです。
*1 ソニー製のデジタル レコーディング ハードディスクドライブ（Digital Recording HDD）のことです。

D-VHSビデオ
2004年9月現在推奨機種
日本ビクター製デジタルハイビジョンビデオHM-DHX1/HM-DHS1/HM-DHX2、HM-DH35000（生産完了品）です。
この製品に関するお問い合わせ
日本ビクター株式会社
お客様ご相談センター
TEL. 0120-282-817（フリーダイヤル）
携帯電話やPHSなどから
東京：TEL. 03-5684-9311
大阪：TEL. 06-6765-4161
受付時間：月～金曜日 9:00～17:00（祝祭日を除く）

ご注意
上記推奨機種以外のD-VHSビデオを本機につないでも、正しく動作しない場合があります。

デジタルビデオカメラレコーダー*2
ソニー製MICROMV方式デジタルビデオカメラレコーダーやソニー製DV方式デジタルビデオカメラレコーダー、ソニー製DVデッキなどです。
*2 ソニー製デジタルビデオカメラーレコーダーDCR-VX1000はお使いになれません。

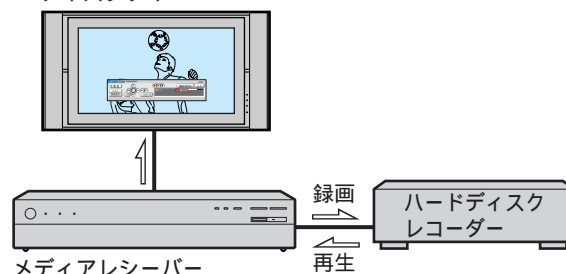
本機が対応していないi.LINK対応機器

次のi.LINK対応機器は、本機が対応していないため、つながないでください。
ーパソコン
ーMDデッキ

ハードディスクレコーダー

「i.LINK Studio」操作画面（☞162ページ）では、**「HDR」**と表示されます。

なお、i.LINK端子のないソニー製ハードディスクビデオレコーダーClip-Onなどは、i.LINK対応機器でないため、つなげません。

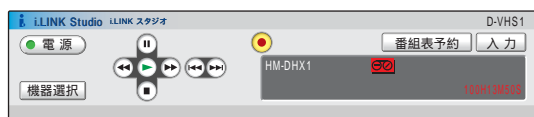
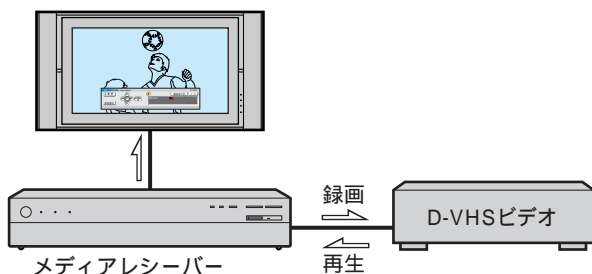
押す。
（もう1度押すと消える。）

：映像・音声信号の流れ

D-VHS

「i.LINK Studio」操作画面（☞163ページ）では、**「D-VHS」**と表示されます。

ご注意

- D-VHSビデオによっては、本機の操作画面で操作できないことがあります。
- D-VHSビデオによっては、放送を録画できないことがあります。
- ソニー製D-VHSビデオデッキSLD-DC1は、本機の操作画面で操作できますが、デジタルハイビジョン信号 HD は録画できません。

押す。
（もう1度押すと消える。）

：映像・音声信号の流れ

デジタルビデオカメラレコーダー

「i.LINK Studio」操作画面（☞164ページ）では、**「CAM」**と表示されます。

押す。
（もう1度押すと消える。）

：映像・音声信号の流れ

次のページにつづく

ハードディスクレコーダーの操作画面について（HDR）

「i.LINK Studio」（HDR）操作画面

A 「電源」ボタン

ハードディスクレコーダーの電源を入/切します（電源が入っているときは、左のランプが緑色に点灯します）。

ソニー製ハードディスクレコーダーVRP-T1/VRP-T3/VRP-T5をお使いのときは

リモコンまたはメディアレシーバーの電源スイッチで電源を切ると、約10分後にハードディスクレコーダーVRP-T1/VRP-T3/VRP-T5の電源も自動的に切れます。

ただし、録画実行中は、リモコンの電源ボタンで電源スタンバイにしても、ハードディスクレコーダーVRP-T1/VRP-T3/VRP-T5の電源は切れません。

B 「リスト」ボタン

LINC中のハードディスクレコーダーに録画された番組のリストを表示します（☞167ページ）。

C 「機器選択」ボタン

「接続機器選択」画面に切り換え、接続（LINC）機器を選びます。

D 操作ボタン

接続機器を操作するときに使います。

/↑/↓/←/→で選んで、決定で決定します。

また、リモコンでも操作できます。

操作	操作画面上のボタン	リモコンのボタン
録画	●	録画 *1
録画一時停止	Ⅱ	一時停止 *1
録画停止	■	録画停止 *1
再生	▶	再生
再生停止	■	停止
再生一時停止	Ⅱ	一時停止
早送り再生	▶▶	次/早送り *2（押し続ける）
早戻し再生	◀◀	前/早戻し *2（押し続ける）
次の番組の前回再生した位置から再生	▶▶I *2	次/早送り
今の番組を頭出し	I◀◀ *2、*3	前/早戻し
10分早送り	+10分 *2	−
10分早戻し	−10分 *2	−
30秒早送り	+30秒 *2	−

*1 リモコンのボタンの録画操作は、操作画面表示中のみできます。録画を押すと、操作画面が自動的に表示されます。

*2 停止中に押すと、その位置から再生を始めます。

*3 番組再生開始直後に押すと、その前の番組の前回再生した位置から再生します。

E ハードディスクレコーダーの製品名

F 「番組表予約」ボタン

チャンネル別番組表を表示して録画予約の設定に進めます（☞171ページ）。

G 「入力」ボタン

ハードディスクレコーダーが再生以外に出力するチューナーなどの映像を見るときに使います。

ソニー製ハードディスクレコーダーVRP-T1/VRP-T3/VRP-T5をお使いのときは

再生以外に出力するチューナーはありません。

H 接続機器表示

現在LINCしている機器が表示されます。

I ハードディスクレコーダーの残り容量

残 60%

空容量　記録済容量

J 録画時間

録画開始からの位置を表示します。

0H00M00S

時間　分　秒

K 再生経過時間/総時間

番組ごとの再生開始からの時間と総時間を表示します。

L ハードディスクレコーダーの状態

- ：停止時
- （回転）：録画時
- （点滅）：録画一時停止時
- （回転）：再生時
- （点滅）：再生一時停止時
- ：録画/再生同時動作中
- 表示無し：電源が入っていない

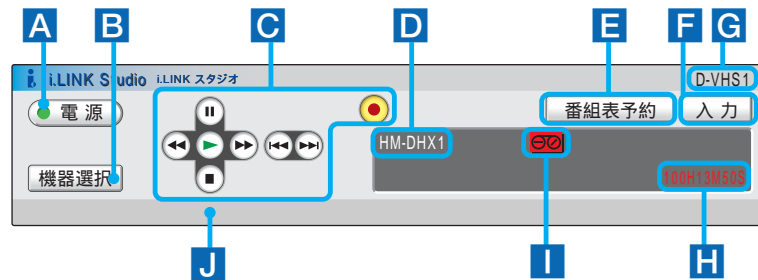
M 現在再生している番組の再生位置

始　終

再生位置

N メッセージ表示部

D-VHSの操作画面について（D-VHS）

「i.LINK Studio」（D-VHS）操作画面

A 「電源」ボタン
D-VHSビデオの電源を入/切します（電源が入っているときは、左のランプが緑色に点灯します）。

B 「機器選択」ボタン
「接続機器選択」画面に切り換え、接続（LINC）機器を選びます。

C 操作ボタン
接続機器を操作するときに使います。
/↑/↓/←/→で選んで、で決定します。
また、リモコンでも操作できます。

操作	操作画面上のボタン	リモコンのボタン
録画	●	録画 *1
再生	▶	再生
停止	■	停止
一時停止	❚❚	一時停止
早送り再生	▶▶ *2	次/早送り *2（押し続ける）
早戻し再生	◀◀ *2	前/早戻し *2（押し続ける）
早送り（停止中）	▶▶	次/早送り
早戻し（停止中）	◀◀	前/早戻し
次の番組を頭出し	▶▶❙	次/早送り
今の番組を頭出し	❙◀◀ *3	前/早戻し *3

*1 リモコンのボタンの録画操作は、操作画面表示中のみできます。を押すと、操作画面が自動的に表示されます。
*2 押しても映像がすぐに出ないことがあります。
*3 番組再生開始直後に押すと、ひとつ前の番組の頭出しになります。また、D-VHSビデオの機種によっては正しく動作しないことがあります。

D D-VHSビデオの製品名

E 「番組表予約」ボタン
チャンネル別番組表を表示して録画予約の設定に進めます（☞171ページ）。

F 「入力」ボタン
D-VHSビデオが再生以外に出力するチューナーなどの映像を見るときに使います（選局すると解除されます）。

G 接続機器表示
現在LINCしている機器が表示されます。

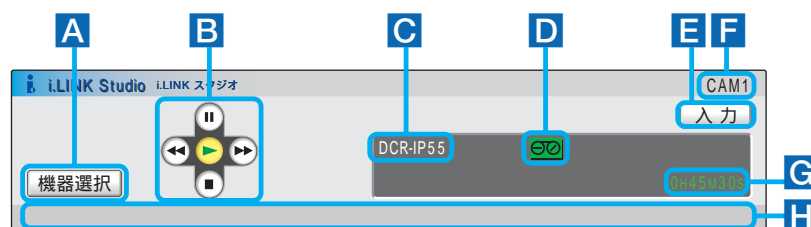
H 録画、再生経過時間
0H00M00S
時間　分　秒

I D-VHSビデオの状態
：停止時
（回転）：録画時
（点滅）：録画一時停止時
（回転）：再生時
（点滅）：再生一時停止時
表示無し　：テープが入っていない

J メッセージ表示部

次のページにつづく

本機でi.LINK操作できる機器について（つづき）

デジタルビデオカメラレコーダーの操作画面について（CAM）

A 「機器選択」ボタン
「接続機器選択」画面に切り換え、接続（LINC）機器を選びます。

B 操作ボタン
接続機器を操作するときに使います。
/↑/↓/←/→で選んで、決定で決定します。
また、リモコンでも操作できます。

操作	操作画面上のボタン	リモコンのボタン
再生	▶	再生
再生停止	■	停止
再生一時停止	II	一時停止
早送り再生	▶▶	次/早送り（押し続ける）
早戻し再生	◀◀	前/早戻し（押し続ける）
早送り（停止中）	▶▶	次/早送り
早戻し（停止中）	◀◀	前/早戻し

C デジタルビデオカメラレコーダーの製品名

D デジタルビデオカメラレコーダーの状態
（白）：停止時
（緑）（回転）：再生時
（緑）（点滅）：再生一時停止時
（赤）：録画時
（橙）（点滅）：録画一時停止時
表示無し：LINCしているデジタルビデオカメラレコーダーの電源が入っていないとき、または、デジタルビデオカメラレコーダーにカセットテープが入っていないとき

E 「入力」ボタン
デジタルビデオカメラレコーダーが映している映像を本機で見ることができます。
デジタルビデオカメラレコーダーで撮影中は、その映像が本機の画面に表示されます。本機のデジタル放送を録画しているのではありません。

F 接続機器を表示
現在LINCしている機器が表示されます。

G 再生経過時間
0H00M00S
時間　分　秒

H メッセージ表示部

i.LINKでデジタル再生する

本機の「i.LINK Studio」操作画面で、再生の操作ができます。
あらかじめ、i.LINK対応機器の接続と設定を行っておいてください（☞176、283ページ）。

ご注意

“メモリースティック”録画中は「i.LINK Studio」操作画面は表示されません。

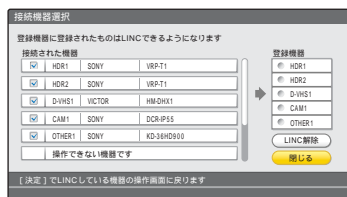
ハードディスクレコーダーやD-VHSで再生する [i.LINK Studioボタン]

「i.LINK Studio」操作画面を使って、デジタル録画した番組を再生します。
また、ハードディスクレコーダーの「再生リスト」画面から番組を選んで、再生できます。

1 i.LINK Studioボタンを押す。

「i.LINK Studio」操作画面が表示されます。

2 再生する機器を選ぶ。

1 「機器選択」ボタンが選ばれていることを確認して、決定で決定する。

「接続機器選択」画面が表示されます。

2 上下でLINC*したい（操作したい）「HDR」または「D-VHS」を1台選んで、決定で決定する。

「LINC中です」と表示され、選んだ「HDR」または「D-VHS」に●が付きます。
すでにLINC中のときは、「LINC中です」は表示されません。

* LINCについて詳しくは、「i.LINK（アイリンク）について」（☞284ページ）をご覧ください。

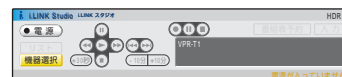
6台以上のi.LINK対応機器をつないでいて、使おうとしている機器が表示されていないときは
登録機器を変更してください（☞176ページ）。

3 上下で「閉じる」を選んで、決定で決定する。

選んだ機器の「i.LINK Studio」操作画面が表示されます。

HDR操作画面

D-VHS操作画面

次のページにつづく

i.LINKでデジタル再生する（つづき）

3 **で「電源」ボタンを選んで、決定で決定する。**

LINCした機器の電源が入り、●が付きます。

HDR操作画面

D-VHS操作画面

「電源」ボタン
電源が入ると緑色に点灯します。

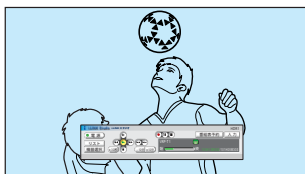
D-VHSで
電源を入れても◎◎マークが表示されてないときは
D-VHSビデオのテープが正しく入っていません。確認してください。

すでに「電源」ボタンに●が付いていたときは

この操作は必要ありません。次に進んでください。

4 **/←/→で▶（再生）ボタンを選んで、決定で決定する。**

録画した番組があれば、再生が始まります。

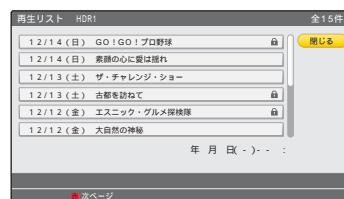
再生中の操作については☞162、163ページをご覧ください。

ちょっと一言
再生中に番組説明ボタンを押すと、「番組説明」画面が表示されます。ただし、「サービスタイプ」や「コピーコントロール」などの番組情報は表示されません。

「i.LINK Studio」操作画面を消すときは

もう1度、i.LINK Studioボタンを押す。

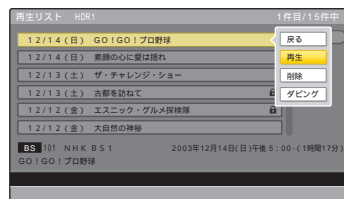
ハードディスクレコーダーに録画した番組のリストからデジタル再生するときは

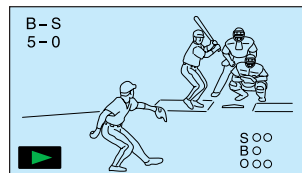
1 **「ハードディスクレコーダーやD-VHSで再生する［i.LINK Studioボタン］」（☞165ページ）の手順1〜3を行う。**

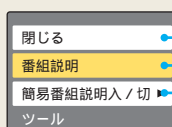
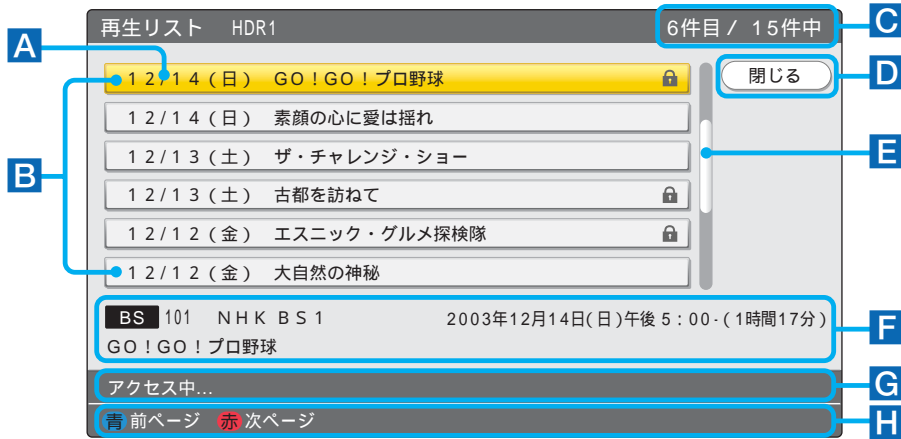
2 **で「リスト」ボタンを選んで、決定で決定する。**

「再生リスト」画面

「再生リスト」画面について詳しくは、☞167ページをご覧ください。

3 **←/で再生したい番組を選んで、決定で決定する。**

サブメニューが表示されます。

4 **で「再生」を選んで、決定で決定する。**

選んだ番組が前回再生した位置から始まり、▶マークが約3秒間表示されます。

ツールを使う（☞15ページ）

i.LINKで再生中にツールボタンを押すと…

「再生リスト」画面について（HDR）

A カーソル（選ばれているところ）
黄色で表示され、リモコンの で移動できます。

B 番組のタイトルと放送日
リモコンの で前後の番組を表示できます。
：削除禁止にしている番組

C 録画件数
カーソルで選んでいる項目の順番と総件数を表示します。
「閉じる」にカーソルがあるときは、総件数のみ表示します。

D 「閉じる」ボタン
ハードディスクレコーダー（HDR）の「i.LINK Studio」操作画面に戻ります。

E スクロールバー
カーソルで選ばれている番組の全体件数に対する位置を示します。

F 番組情報欄
（カーソル）で選んでいる番組の情報です。

G メッセージ表示部

H 操作ガイド表示欄
再生リスト表示中にリモコンを使ってできることをガイド表示します。

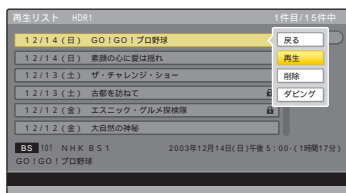
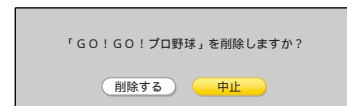
ハードディスクレコーダーのリストから不要な番組を削除するには

1 **「ハードディスクレコーダーやD-VHSで再生する［i.LINK Studioボタン］」（☞165ページ）の手順1～3を行う。**

2 **で「リスト」ボタンを選んで、決定で決定する。**
「再生リスト」画面が表示されます。

ご注意
- 録画中は、「リスト」ボタンを選んでも「再生リスト」画面を表示できません。
- 再生中は「再生リスト」画面を表示できますが、削除の操作はできません。

3 **◀/で削除したい番組を選んで、決定で決定する。**
サブメニューが表示されます。

4 **で「削除」を選んで、決定で決定する。**

5 **◀で「削除する」を選んで、決定で決定する。**
「再生リスト」画面に戻り、リストから番組が削除されます。

6 **▶で「閉じる」ボタンを選んで、決定で決定する。**
「i.LINK Studio」（HDR）操作画面に戻ります。

7 **i.LINK Studioボタンを押して、「i.LINK Studio」（HDR）操作画面を消す。**

ご注意
「再生リスト」画面表示中に予約が実行されると、自動的に「再生リスト」画面は終了し操作できません。

次のページにつづく

i.LINKでデジタル再生する（つづき）

デジタルビデオカメラレコーダーの映像を再生する［i.LINK Studioボタン］

デジタルビデオカメラレコーダーなどに録画された映像を本機でデジタル再生できます。
本機で受信中のデジタル放送は、i.LINK接続しても上記の機器にデジタル録画できません。

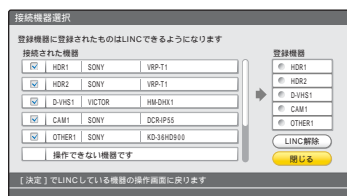
1 デジタルビデオカメラレコーダーの電源スイッチをビデオモードにする。

2 i.LINK Studioボタンを押す。

「i.LINK Studio」操作画面が表示されます。

3 再生する機器を選ぶ。

1 「機器選択」ボタンが選ばれていることを確認して、決定で決定する。

「接続機器選択」画面が表示されます。

2 でLINC*したい（操作したい）「CAM」を1台選んで、決定で決定する。

「LINC中です」と表示され、選んだ「CAM」に●が付きます。
すでにLINC中のときは、「LINC中です」は表示されません。

* LINCについて詳しくは、「i.LINK（アイリンク）について」（☞284ページ）をご覧ください。

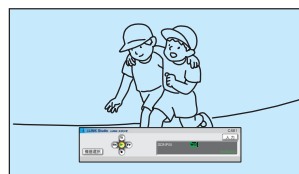
6台以上のi.LINK対応機器をつないでいて、使おうとしている機器が表示されていないときは
登録機器を変更してください（☞176ページ）。

3 で「閉じる」を選んで、決定で決定する。

選んだ機器の「i.LINK Studio」操作画面が表示されます。

が表示されないときは
デジタルビデオカメラレコーダーのカセットが正しく入っているかを確認してください。

4 /←/→で▶（再生）ボタンを選んで、決定で決定する。

再生が始まります。
再生中の操作については☞164ページをご覧ください。

「i.LINK Studio」操作画面を消すときは

もう1度、i.LINK Studioボタンを押す。

i.LINKでデジタル録画する

本機の「i.LINK Studio」操作画面で、録画の操作ができます。
あらかじめ、i.LINK対応機器の接続と設定を行っておいてください（☞176、283ページ）。

ご注意

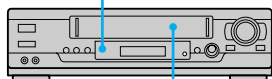
“メモリースティック”録画中および録画予約実行中は、「i.LINK Studio」操作画面は表示されません。

ハードディスクレコーダーやD-VHSで録画する [i.LINK Studioボタン]

「i.LINK Studio」操作画面（☞162、163ページ）を使って、受信中のデジタル放送をハードディスクレコーダーやD-VHSビデオにデジタル録画します。

- 地上アナログは録画できません。
- デジタル放送を録画予約するときは、☞63、65、68、70ページをご覧ください。
- デジタル放送は、つないだ機器によっては録画できないことがあります。

D-VHSビデオを操作する前に、D-VHSビデオの準備をしてください。

録画モード
HS/STD/LS3モードなど
詳しくは、D-VHSビデオの取扱説明書をご覧ください。

録画したい部分までテープを頭出しする。

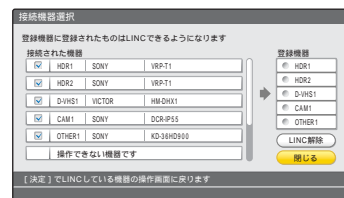
つめの付いたD-VHSテープを入れる。
VHSテープにはデジタル録画できません。

1 録画したいデジタル放送のチャンネルを選ぶ。

詳しくは☞22、26ページをご覧ください。

2 i.LINK Studioボタンを押す。

「i.LINK Studio」操作画面が表示されます。

3 録画する機器を選ぶ。

1 「機器選択」ボタンが選ばれていることを確認して、決定で決定する。

「接続機器選択」画面が表示されます。

2 ↕でLINC*したい（操作したい）「HDR」または「D-VHS」を1台選んで、決定で決定する。

「LINC中です」と表示され、選んだ「HDR」または「D-VHS」に●が付きます。
すでにLINC中のときは、「LINC中です」は表示されません。

* LINCについて詳しくは、「i.LINK（アイリンク）について」（☞284ページ）をご覧ください。

6台以上のi.LINK対応機器をつないでいて、使おうとしている機器が表示されていないときは
登録機器を変更してください（☞176ページ）。

次のページにつづく

i.LINKでデジタル録画する（つづき）

3 **で「閉じる」を選んで、決定で決定する。**

選んだ機器の「i.LINK Studio」操作画面が表示されます。

HDR操作画面

D-VHS操作画面

4 **で「電源」ボタンを選んで、決定で決定する。**

LINCした機器の電源が入り、●が付きます。

HDR操作画面

D-VHS操作画面

「電源」ボタン
電源が入ると緑色に点灯します。

D-VHSで
電源を入れても⊘⊖マークが表示されていないときは
D-VHSビデオのテープが正しく入っていません。確認してください。

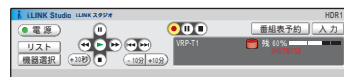
すでに「電源」ボタンに●が付いていたときは

この操作は必要ありません。次に進んでください。

5 **/←/→で●（録画）ボタンを選んで、決定で決定する。**

録画が始まります。

録画中の操作については☞162、163ページをご覧ください。

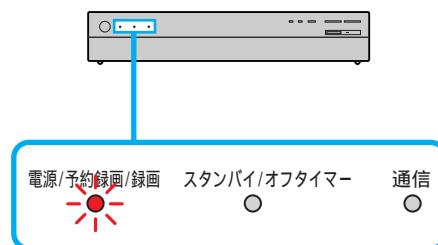
HDR操作画面

D-VHS操作画面

HDRで
「ディスクがいっぱいです」と表示されるときは
ハードディスクレコーダーに空き容量がありません。不要な番組を削除してください（☞167ページ）。

D-VHSで
「テープが入っていません」、「録画できません」、「デジタル録画できないテープです」と表示されるときは
D-VHSビデオに、つめの付いた、デジタル録画用のテープを入れてください。

「コピープロテクションにより録画できません」と表示されるときは
録画できない番組です。

録画実行中は

地上アナログやビデオ入力などの映像を見ることができます。また、メディアレシーバー前面の電源/予約録画/録画ランプが赤色に点灯します。

録画中のご注意

- デジタル放送の操作（例：デジタル放送のチャンネル切換など）はできません。
- リモコンやメディアレシーバーの電源スイッチで、電源を切らないでください。
- i.LINK対応機器のケーブルを抜き差ししたり、つないでいるi.LINK対応機器の電源を入/切したりしないでください。

録画を途中でやめるときは

HDR操作画面のとき

➡で■（録画停止）ボタンを選んで、決定で決定する。

D-VHS操作画面のとき

⬅/⬇で■（停止）ボタンを選んで、決定で決定する。

「i.LINK Studio」操作画面を消すときは

i.LINK Studioボタンを押す。

「i.LINK Studio」操作画面から録画予約するときは

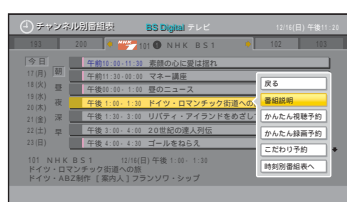
1 「ハードディスクレコーダーやD-VHSで録画する［i.LINK Studioボタン］」（☞169ページ）の手順1～4を行う。

HDR操作画面

D-VHS操作画面

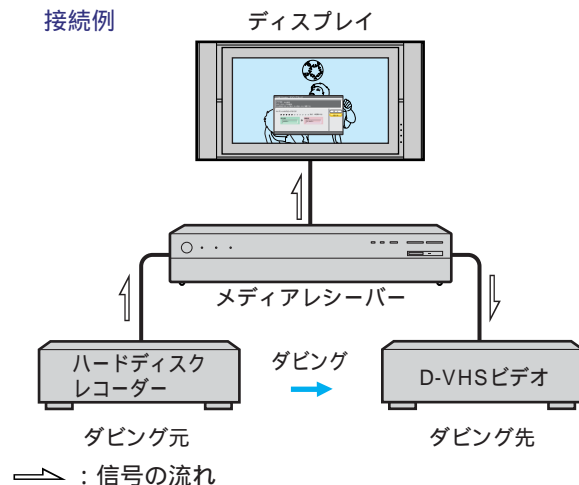
2 ⬆⬇/⬅/➡で「番組表予約」ボタンを選んで、決定で決定する。

3 ⬆⬇で録画予約したい番組を選んで、決定で決定する。

サブメニューが表示されます。

4 録画予約の方法を選んで、決定で決定する。

録画予約の操作の詳しくは、☞63、65ページをご覧ください。

ハードディスクレコーダーからD-VHSにダビングする

本機のi.LINK操作画面で、ハードディスクレコーダーの「再生リスト」画面にある番組を、D-VHSビデオにダビングできます。
あらかじめ、ハードディスクレコーダーとD-VHSビデオの接続と設定、D-VHSテープの頭出しをしておいてください（☞176、286、287ページ）。

ご注意

- ダビングができるのは、ハードディスクレコーダーからD-VHSへのみです。
- コピープロテクション（☞87、284ページ）が設定されている地上デジタルやBSデジタル、110度CSデジタル放送の番組は、ダビングできません。
- 録画予約実行中、"メモリースティック"録画中、i.LINK録画中は、ダビングできません。
- ダビング中に予約した番組が始まったときは、その予約は取り消されます。ダビングを始める前に、「予約一覧」画面（☞76ページ）で予約の状況を確認してください。
- VHSテープには、デジタル録画できません。
- D-VHSビデオにオートリンク機能があるときは「切」にしておいてください。

1 i.LINK Studioボタンを押す。

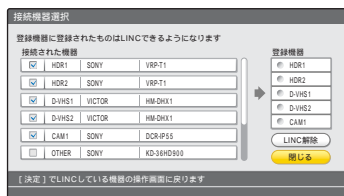
「i.LINK Studio」操作画面が表示されます。

次のページにつづく

ハードディスクレコーダーから D-VHSにダビングする（つづき）

2 ダビングしたい番組が録画されている「HDR」を選ぶ。

1 「機器選択」ボタンが選ばれていることを確認して、決定で決定する。

「接続機器選択」画面が表示されます。

2 でLINC*したい（操作したい）「HDR」を1台選んで、決定で決定する。

「LINC中です」と表示され、選んだ「HDR」に●が付きます。

すでにLINC中のときは、「LINC中です」は表示されません。

* LINCについて詳しくは、「i.LINK（アイリンク）について」（☞284ページ）をご覧ください。

6台以上のi.LINK対応機器をつないでいて、使おうとしている機器が表示されていないときは

登録機器を変更してください（☞176ページ）。

3 で「閉じる」を選んで、決定で決定する。

選んだ機器の「i.LINK Studio」操作画面が表示されます。

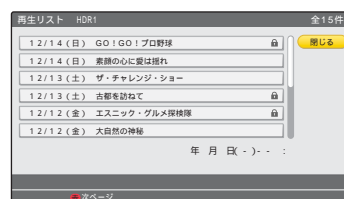
3 で「電源」ボタンを選んで、決定で決定する。

LINCした機器の電源が入り、●が付きます。

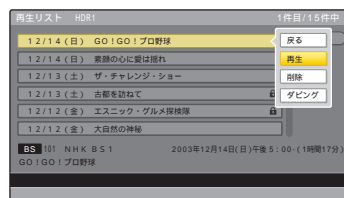
「電源」ボタン

電源が入ると緑色に点灯します。

4 ダビングする番組を選ぶ。

1 で「リスト」ボタンを選んで、決定で決定する。

「再生リスト」画面が表示されます。

2 ◀/でダビングしたい番組を選んで、決定で決定する。

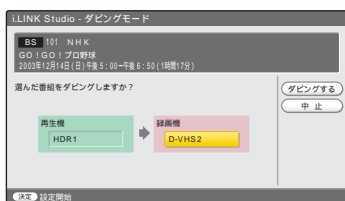
サブメニューが表示されます。

3 で「ダビング」を選んで、決定で決定する。

「ダビングモード」画面が表示されます。

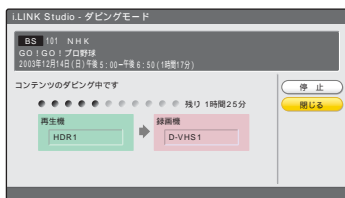
「予約が入っています　ダビング中に始まった予約は取り消されます　選んだ番組をダビングしますか？」と表示されたときは

「予約一覧」画面（☞76ページ）で予約状況を確認してください。

5 ダビング先の機器を選ぶ。

1 で「録画機」を選んで、決定で決定する。

2 で録画する「D-VHS」を選んで、決定で決定する。

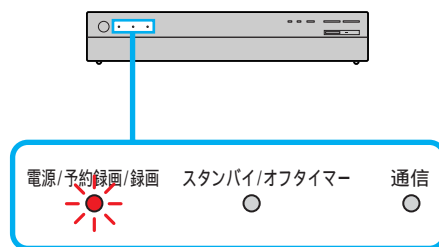
6 で「ダビングする」を選んで、決定で決定する。

「ダビングできるか確認中です」とメッセージが表示されたあと、ダビングが始まり、「ダビングモード」実行画面が表示されます。

「操作できる録画機が1台もありません」と表示されたときは
録画するD-VHSビデオを登録してください（☞176ページ）。

「XXXに入っているテープはデジタル録画できないテープです」または「XXXにテープが入っていません」と表示されたときは
つめの折れていない、デジタル録画用のテープを入れてください。

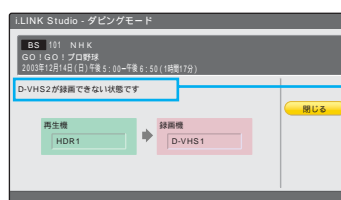
i.LINK再生中の番組を選んだときは
番組の先頭に戻ってダビングが始まります。

ダビング中は

地上アナログやデジタル放送、本機につないだ機器の映像を見ることができます。
また、メディアレシーバー前面の電源/予約録画/録画ランプが赤色に点灯します。

ダビング中のご注意
メディアレシーバーの電源スイッチで、主電源を切らないでください。
電源スタンバイ（スタンバイ/オフタイマーランプが赤色に点灯）のときは、ダビングはそのまま実行されます。

「ダビングモード」実行画面を消すには
で「閉じる」ボタンを選んで決定で決定するか、チャンネルを切り換えます。
「ダビングモード」実行画面を表示するときは、もう1度i.LINK Studioボタンを押します。

ダビング中にダビングが中断されたときは

「ダビングモード」画面表示中は、画面にエラーメッセージが表示され、キャンセルメールが発行されます。「ダビングモード」画面を表示していなかったときは、ダビングが正しく実行されたかをメール（☞105ページ）で確認してください。

ダビングが終了すると

「再生リスト」画面に戻ります。

引き続き他の番組をダビングするときは
「ハードディスクレコーダーからD-VHSにダビングする」（☞172ページ）の手順4-2〜6を行ってください。

「i.LINK Studio」操作画面を消すときは
もう1度、i.LINK Studioボタンを押してください。

ハードディスクレコーダーから D-VHSにダビングする（つづき）

ダビングを途中で止めるときは

1 で「停止」を選んで、で決定する。

「ダビングを停止しますか？」と確認のメッセージが表示されます。

2 で「停止する」を選んで、で決定する。

ダビングが中止され、ダビング停止処理を行ったあと、「再生リスト」画面が表示されます。

映像や音声だけをやりとりする [i.LINK Studioボタン]

「i.LINK Studio」操作画面で「OTHER」と表示されるi.LINK機器は、本機で録画や再生の操作はできませんが、映像や音声の信号を送受信することができます。その他の操作は、i.LINK機器側で行ってください。

ご注意

“メモリースティック”録画中は「i.LINK Studio」操作画面は表示されません。

1 i.LINK Studioボタンを押す。

2 機器を選ぶ。

1 「機器選択」ボタンが選ばれていることを確認して、で決定する。

「接続機器選択」画面が表示されます。

2 でLINCしたい（操作したい）「OTHER」*を1台選んで、で決定する。

「LINC中です」と表示されて、選んだ「OTHER」にが付きます。

すでにLINC中のとき、「LINC中です」は表示されません。

* ハードディスクレコーダーと、デジタルビデオカメラレコーダー、D-VHSビデオ以外で本機とLINCできるi.LINK対応機器は、すべて「OTHER」と表示されます。

6台以上のi.LINK対応機器をつないでいて、使おうとしている機器が表示されていないときは

登録機器を変更してください（☞176ページ）。

3 ▲▼で「閉じる」を選んで、決定で決定する。

「i.LINK Studio」操作画面に戻り、画面右上に「OTHER」と表示されます。

3 ←/→で「出力」または「入力」を選んで、決定で決定する。

i.LINK対応機器との間で、デジタル信号の入出力ができるようになります。

ご注意

一部のi.LINK対応機器は、「OTHER」と表示されて本機とLINCできても、デジタル信号が正しくやりとりできない場合があります。つないだi.LINK対応機器の取扱説明書をご確認ください。

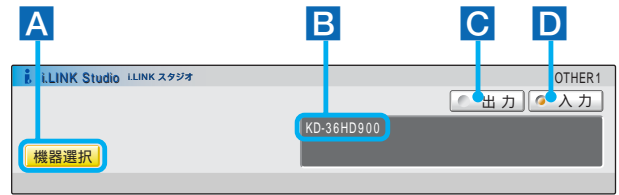
「i.LINK Studio」操作画面を消すときは

もう1度i.LINK Studioボタンを押す。

本機が対応していないi.LINK対応機器のときは

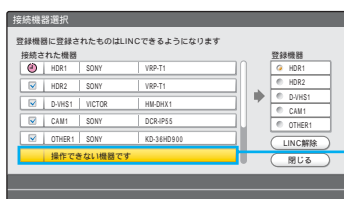
「操作できない機器です」というメッセージが表示されます。本機では、操作できません。**つないだi.LINK対応機器の取扱説明書をご確認ください。**

「接続機器選択」画面

その他のi.LINK機器の操作画面について（OTHER）

A 「機器選択」ボタン
「接続機器選択」画面に切り換え、接続（LINC）機器を選びます。

B i.LINK対応機器の製品名

C 「出力」ボタン
本機で視聴中のデジタル放送のデータをi.LINK機器へ出力します。

D 「入力」ボタン
チューナー搭載のハードディスクレコーダーやD-VHSビデオとLINCしているときは、チューナーからの映像や音声を受信します。デジタルビデオカメラレコーダーとLINCしているときは、映している映像を見ることができます。

i.LINK対応機器の設定をする

本機にi.LINK機器をつなぐと、機器の情報を認識し接続機器のリストに記録されます。はじめにつないだi.LINK機器5台までは、本機から操作できる機器として自動登録され、6台以上つないでいるときは、必要に応じて登録変更できます。
また、i.LINK機器のLINCを一時的に解除することもできます。

ご注意

“メモリースティック”録画中、および録画予約実行中は「i.LINK Studio」操作画面は表示されません。

i.LINK機器の登録を変更する［登録変更］

本機につないだ6台目以降のi.LINK機器を本機で操作するときは、すでに登録されている機器と入れ換えてください。

ご注意

つないだi.LINK機器が5台以内のときは、この操作はできません。

ここでは例として、「CAM2」のかわりに、ハードディスクレコーダーを登録します。

1 i.LINK対応機器の電源を切る。

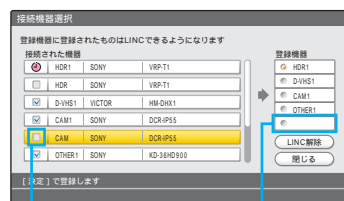
2 i.LINK Studioボタンを押す。

「i.LINK Studio」操作画面が表示されます。

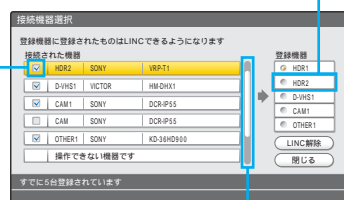
3 で「機器選択」ボタンを選んで、決定で決定する。

「接続機器選択」画面が表示されます。

「接続機器選択」画面について詳しくは、**☞178ページをご覧ください。**

4 ←/で「接続された機器」のリストから入れ換えたい機器を選んで、決定で決定する。

ご注意

現在LINC中および録画予約されている機器（マーク）は、入れ換えられません。

5 で新たに登録したい機器（ここでは未登録の「HDR」）を選んで、決定で決定する。

ご注意

「操作できない機器です」と表示されるi.LINK対応機器は登録できません。

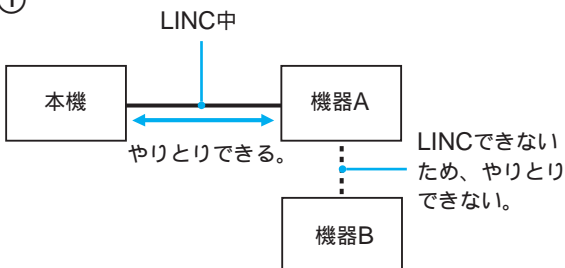
6 で「閉じる」ボタンを選んで、で決定する。

「i.LINK Studio」操作画面に戻ります。

7 i.LINK Studioボタンを押して、「i.LINK Studio」操作画面を消す。

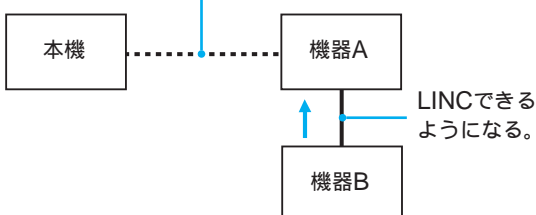
LINC中のi.LINK対応機器をいったん解除するときは[LINC解除]

下の図①で、本機とLINC中の「機器A」は、本機とだけ、デジタル信号のやりとりができます。

図①

「機器B」が「機器A」とやりとりする（図②）ためには、本機と「機器A」間のLINCを停止する必要があります。

メディアレシーバーの電源スイッチで主電源を切るか、電源スタンバイ（メディアレシーバー前面のスタンバイ/オフタイマーランプが赤色に点灯）にする、または以下の手順を行ってください。

図②

「LINC解除」をするか、本機の主電源を切る、または電源スタンバイにする。

ご注意

i.LINK対応機器の録画予約終了後は、予約したi.LINK対応機器がLINCされたままになる場合があります。

1 LINCしているi.LINK対応機器の動作を停止させる。

2 i.LINK Studioボタンを押す。

「i.LINK Studio」操作画面が表示されます。

3 で「機器選択」ボタンを選んで、で決定する。

「接続機器選択」画面が表示されます。

「接続機器選択」画面について詳しくは、☞178ページをご覧ください。

4 で「LINC解除」ボタンを選んで、で決定する。

LINCしていたi.LINK対応機器のが消えて、LINCが解除されます。

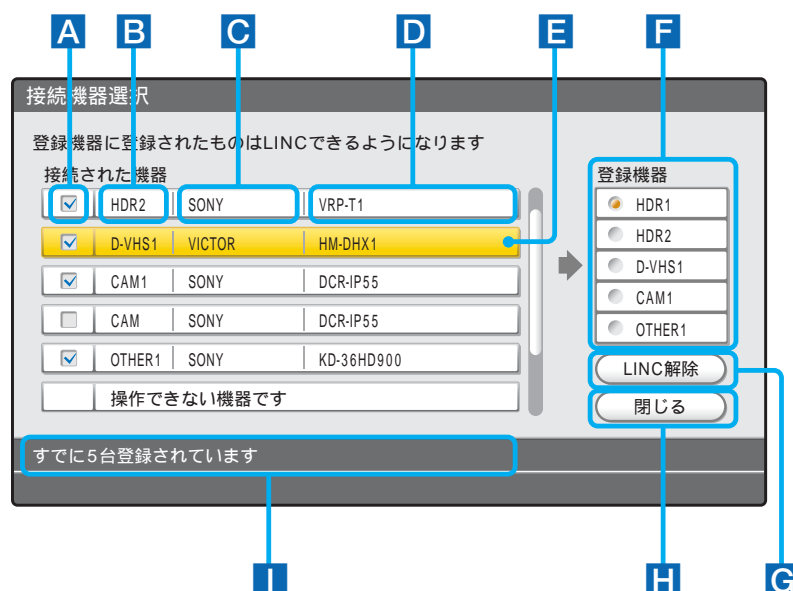
5 で「閉じる」ボタンを選んで、で決定する。

「i.LINK Studio」操作画面に戻ります。

6 i.LINK Studioボタンを押して、「i.LINK Studio」操作画面を消す。

次のページにつづく

i.LINK対応機器の設定をする（つづき）

「接続機器選択」画面について

A i.LINK対応機器の登録状況

☐ ：未登録のi.LINK対応機器

☑ ：登録中のi.LINK対応機器（5台まで登録できます）

◷ ：録画予約されているi.LINK対応機器（「接続機器」リストから登録を削除できません。）

B i.LINK対応機器の登録名

つないだ機器の登録名として、本機が決めた名前です。

C メーカー名

D 製品名

E カーソル（選ばれているところ）

黄色で表示され、リモコンの▲▼/◀/▶で移動させて、i.LINK対応機器を選びます。

F 「登録機器」リスト

i.LINK操作画面から操作できるi.LINK対応機器を表示します。つないだ順に5台まで自動的に登録されます。

接続機器の右の数字は、同じHDRやD-VHS、CAMの中で何番目につないだ機器かを示します。HDR、D-VHS、CAM、OTHERの順に表示します。

● ：現在LINC中のi.LINK対応機器

HDR ：ハードディスクレコーダー（☞162ページ）

D-VHS ：D-VHSビデオ（☞163ページ）

CAM ：MICROMV方式デジタルビデオカメラレコーダーまたはDV方式デジタルビデオカメラレコーダー、DVデッキ（☞164ページ）

OTHER：上記以外のi.LINK対応機器（☞175ページ）

G 「LINC解除」ボタン

LINC中のi.LINK対応機器をいったん解除します（☞177ページ）。

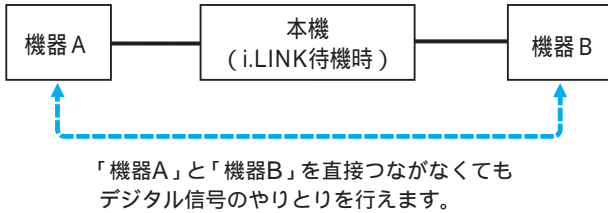
H 「閉じる」ボタン

「接続機器選択」画面を閉じます。

I メッセージ表示欄

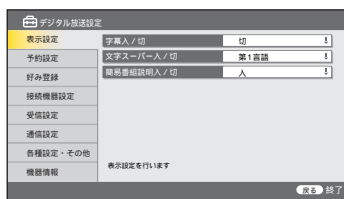
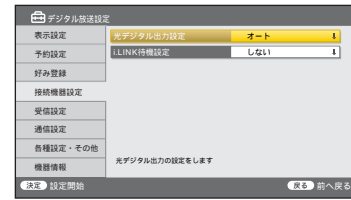
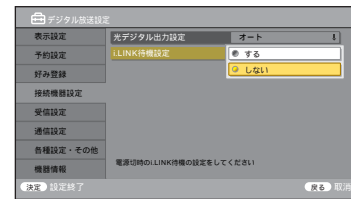
カーソルで選択しているi.LINK対応機器や操作ボタンの操作ガイドやエラーメッセージを表示します。

電源スタンバイ時に本機を中継してデジタル信号のやりとりをするには [i.LINK待機設定]

本機の電源スタンバイ時（メディアレシーバー前面のスタンバイ/オフタイマーランプが赤色に点灯）でも、「機器A」と「機器B」が本機を中継してデジタル信号のやりとりを行えるように設定できます。

「機器A」と「機器B」を直接つながなくてもデジタル信号のやりとりを行えます。

1 メニューボタンを押す。

2 で「セットアップ」を選んで、決定で決定する。

3 で「デジタル放送設定」を選んで、決定で決定する。

4 で「接続機器設定」を選んで、決定で決定する。

5 で「i.LINK待機設定」を選んで、決定で決定する。

6 で「する」を選んで、決定で決定する。

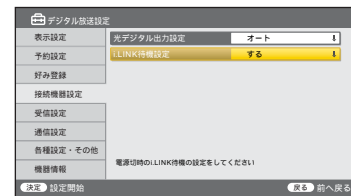
「する」：本機が電源スタンバイ時でも、本機を中継してデジタル信号のやりとりを行えます。
「しない」設定よりも、電源スタンバイ時の消費電力が上がります。

「しない」（お買い上げ時の設定）：本機が電源スタンバイ時は、本機を中継してデジタル信号のやりとりを行えません。

7 戻るボタンをくり返し押して、設定画面を消す。

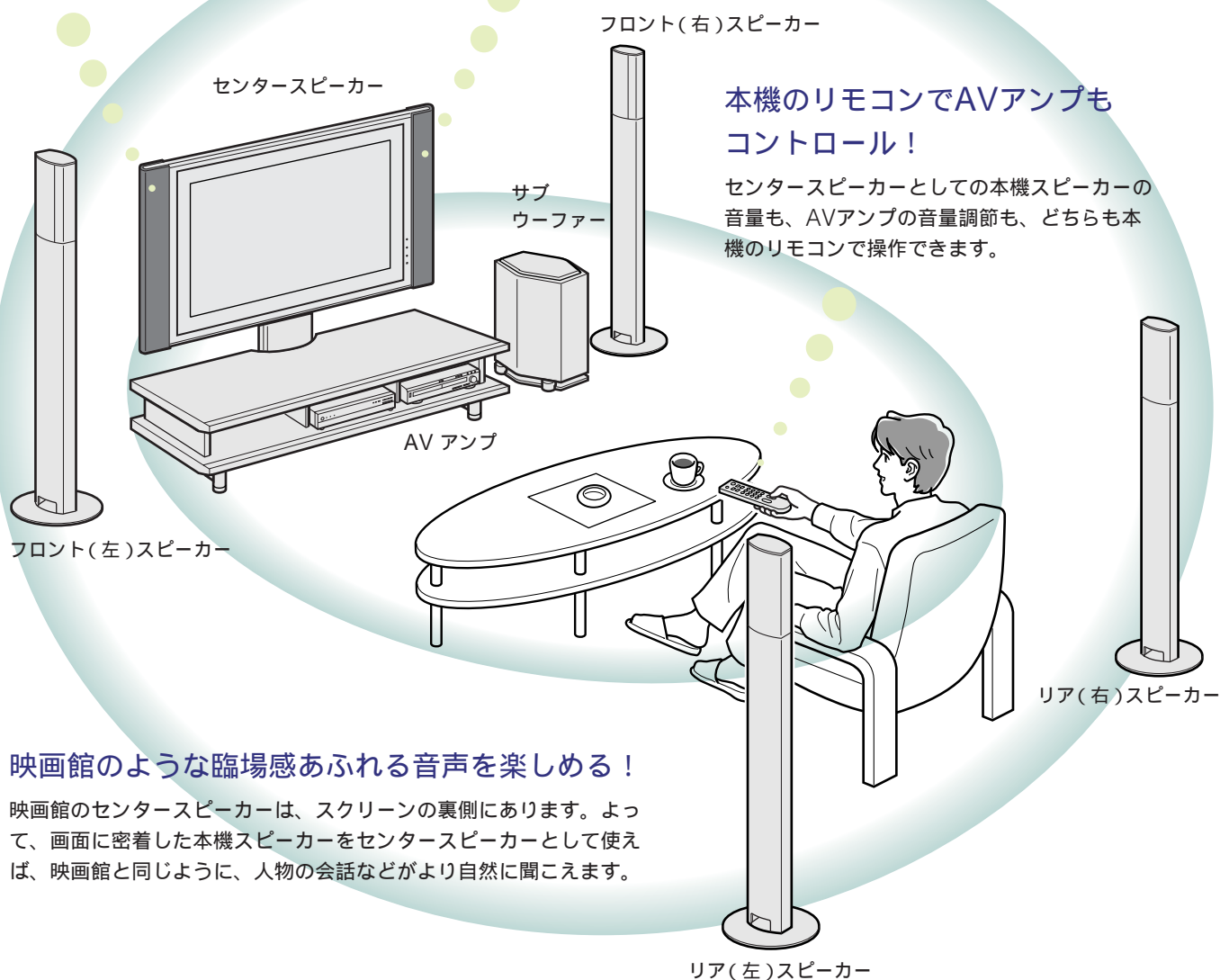
TV（テレビ）センタースピーカー

ここでは、5.1chサラウンド音声などを聞くときに、テレビのスピーカーをセンタースピーカーとして使用して、センター音声を高音質で楽しむための接続や設定、操作を説明しています。

このイラストは、リモコンのジョグダイヤルの上下回転操作を表します。

このイラストは、リモコンのジョグダイヤルを押しこんで決定する操作を表します。

TVセンタースピーカーについて

5.1chの高品質な音声を楽しめる！

デジタル放送やAVアンプなどからのセンター音声出力を、メディアレシーバーのセンター入力端子につなげば、5.1chサラウンドなどのセンター音声を本機の高音質スピーカーシステムで楽しめます。

本機のリモコンでAVアンプもコントロール！

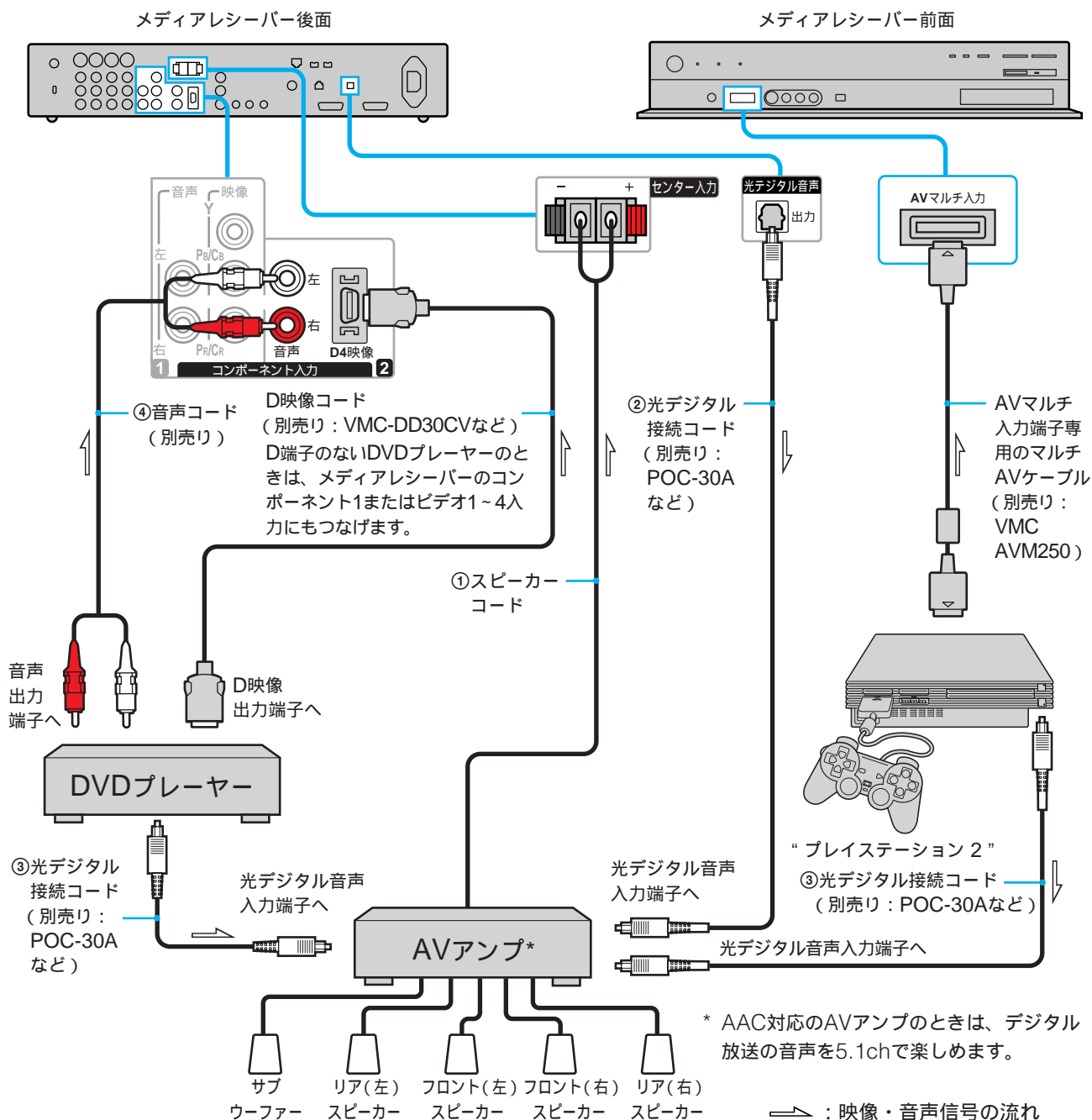
センタースピーカーとしての本機スピーカーの音量も、AVアンプの音量調節も、どちらも本機のリモコンで操作できます。

映画館のような臨場感あふれる音声を楽しめる！

映画館のセンタースピーカーは、スクリーンの裏側にあります。よって、画面に密着した本機スピーカーをセンタースピーカーとして使えば、映画館と同じように、人物の会話などがより自然に聞こえます。

TVセンタースピーカーにAVアンプをつなぐ

AVアンプのセンタースピーカー出力を、本機のセンター入力端子につないで、本機のスピーカーでセンター音声を楽しむための接続です。

センター入力端子にAVアンプをつなぐ

① **AVアンプから出力されるセンター音声を本機のスピーカーで聞くための接続。**

ご注意

- 必ずAVアンプの電源を切った状態でつないでください。
- センター入力端子に180W（6Ω）以上は入力しないでください。

② **放送の音声をAVアンプに入力するための接続。**

③ **DVDプレーヤーなどの音声をAVアンプに入力するための接続。**

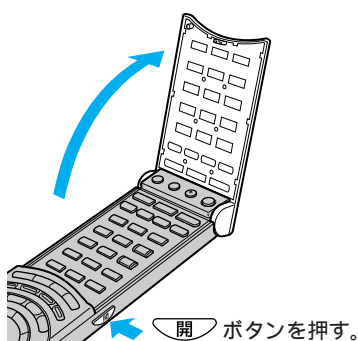
④ **DVDプレーヤーなどの音声を本機で聞くための接続。**
この接続をしないと、TVセンタースピーカーを使わないときに、本機のスピーカーから音声が聞こえなくなります。

本機とDVDプレーヤーや“ プレイステーション 2 ”などの接続について詳しくは、☞271、277ページをご覧ください。

TVセンタースピーカーに AVアンプをつなぐ（つづき）

TVセンタースピーカーとAVアンプの音量バランスを調整するには

TVセンタースピーカーの音量を調節します。1度音量バランスを調整すれば、次にTVセンタースピーカーにしても同じ音量で聞けます。

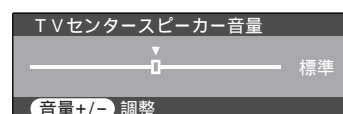
1 **開ボタンを押して、ふたを開ける。**

2 **TVセンタースピーカーボタンをくり返し押して、本機のスピーカーからセンター音声が聞こえるようにする。**

1度押すと、現在の状態が表示され、表示が出ている間にくり返し押すと切り換わります。

3 **AVアンプ側でAVアンプを操作して、センター音声の音量を「0dB」（標準の音量）にする。**

4 **AVアンプ側でAVアンプを操作して、各スピーカーから音声が聞こえるように音量を調節する。**

5 **本機のリモコンの音量＋/－ボタンでセンター音声（本機のスピーカーから聞こえる音声）の音量を「標準」にする。**

聞きやすい音量の数値をメモしておくと便利です。

ちょっと一言

センター音声の音量は、ご覧になる番組やDVDのソフトによって、お好みで微調整してください（☞187ページ）。

光デジタル音声出力端子から出力される信号を設定するには

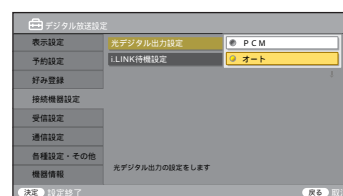
AAC対応AVアンプをつないだときは下記の設定をしてください。

1 **メニューボタンを押して、メニューを出す。**

2 **で「セットアップ」を選んで、決定で決定する。**

3 **で「デジタル放送設定」を選んで、決定で決定する。**

4 **で「接続機器設定」を選んで、決定で決定する。**

5 **で「光デジタル出力設定」を選んで、決定で決定する。**

6 で「オート」を選んで、決定で決定する。

放送の種類	メディアレシーバー後面の光デジタル音声出力端子から出力される信号
デジタル放送の音声	AAC音声（デジタル放送用音声方式）がそのまま出力されます。
地上アナログやビデオ機器などからのアナログ音声	PCM音声（2ch）のデジタル信号に変換して出力されます。

7 戻るボタンをくり返し押して、設定画面を消す。

ご注意

- デジタル放送では、「光デジタル出力設定」を「オート」にすると、光デジタル音声出力からAAC音声が出力されます。AACに対応していないAVアンプやサンプリングレートコンバーター内蔵のMDデッキなどにつなぐときは、必ず「PCM」に設定してください。「オート」のままだと、正しく出力されません。
- 「光デジタル出力設定」を「オート」にして、デジタル放送で二重音声の番組を視聴しているときは、本機のスピーカーからは音声が出力されない場合があります。
- 本機は、録画防止機能（コピープロテクション）が付いています（☞87、284ページ）。そのため、音声に関しても、メディアレシーバー後面の光デジタル音声出力端子からの信号を、録音できない番組があります。
- 光デジタル音声出力端子からは、デジタル放送のデータでの効果音（ピンポンとかブーなど）は出力されません。

センター音声を高品質で楽しむ［TVセンタースピーカーボタン］

TVセンタースピーカーにすると、つないだスピーカーからはそれぞれの音声が出力され、本機のスピーカーからはセンター音声のみが出力されます。

TVセンタースピーカーに切り換える

TVセンタースピーカー

スピーカー：センター

1回押すと現在の設定が表示され、そのあと、もう1回押すと音声が切り換わります。

AVアンプから出力されたセンター音声が、本機のスピーカーから聞こえる。

I know.

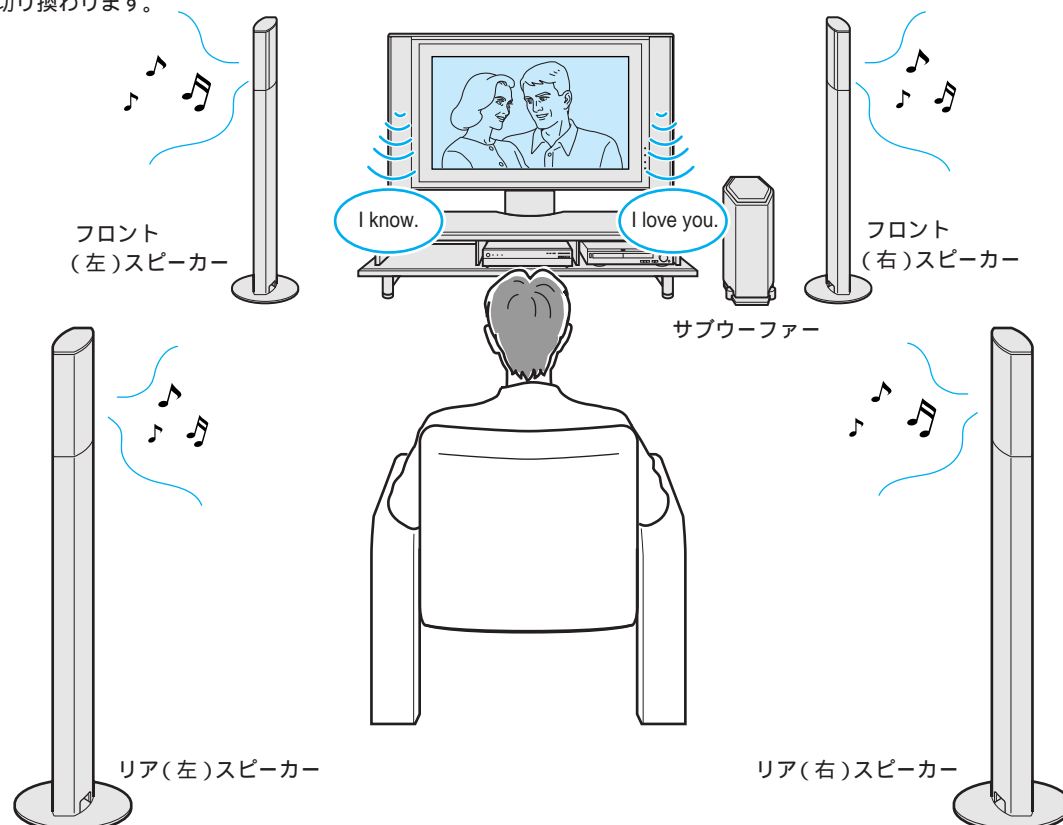
I love you.

フロント（左）スピーカー

フロント（右）スピーカー

サブウーファー

リア（左）スピーカー

リア（右）スピーカー

TVセンタースピーカーをやめて通常の音声にするときは

TVセンタースピーカーボタンを1回押して現在の設定（「スピーカー：センター」）を表示した状態で、もう1回TVセンタースピーカーボタンを押す。

ちょっと一言

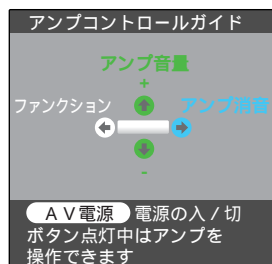
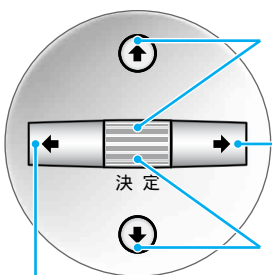
「セットアップ」メニューで「ダイレクト入力切換」（☞188ページ）を「切」以外のいずれかにしているときは、TVセンタースピーカーボタンを押すだけで、設定している放送や入力に自動的に切り換わります。ただし、AVアンプの音声入力切換が必要なこともあります。

ご注意

- 消音ボタンを押しても（☞18 ページ）AVアンプにつないだスピーカーの音声は消せません。本機のスピーカーの音声のみ消せます。
- KDE-P55HX2/P61HX2で、スピーカーをディスプレイから離して設置すると、TVセンタースピーカーは効果的に働きません。

AVアンプ全体の音量を調節する

あらかじめ、リモコンコードを登録しておいてください（☞111ページ）。

リモコンを本機に向けて押す。ボタンが約30秒間点灯する。
（もう1度押すと消える。）

アンプコントロールガイド画面が表示される。

リモコンをAVアンプに向けて押す。AMPボタンが点灯している間に左の操作をする。消灯してしまったときは、もう1度AMPボタンを押す。

ご注意

AVアンプをAMPボタン以外のボタン（VTRボタンまたはDVDボタン）に登録したときは、AMPボタンの代わりにVTRボタンまたはDVDボタンを押してください。

ちょっと一言

AV電源ボタンでAVアンプの電源が入/切でき、←ボタンでAVアンプの音声入力切換ができます。

開を押して、ふたを開ける。

センター音声の音量を調節する

番組やDVDソフトに合わせてお好みで調節できます。
あらかじめ、「TVセンタースピーカーとAVアンプの音量バランスを調整するには」（☞184ページ）を行っておいてください。
リモコンをディスプレイに向けて操作します。

センター音声を高品質で楽しむ［TVセンタースピーカーボタン］（つづき）

音量についてのご注意

下記のようなときは、本機のスピーカーから音声が聞こえなくなります。そのときに**音量＋ボタンで音量を上げすぎると、次に音声が出力されるときに、突然大きな音になることがあります**ので注意してください。

センター入力端子にAVアンプをつないでいないときは

TVセンタースピーカーにすると、本機のスピーカーから音声が聞こえなくなります。

ご注意

- 次のときは、自動的に通常音声に戻ります。
  - 入力を切り換えたとき
  - ヘッドホンをつないだとき
  - 録画が開始されたとき
- 次のときは、TVセンタースピーカーボタンを押しても、TVセンタースピーカーにはなりません。
  - 2画面、CHインデックス、メモした画面を表示しているとき
  - ヘッドホンをつないでいるとき
  - 録画しているとき
- 次のボタンはTVセンタースピーカーのときに働きません。
  - 2画面ボタン
  - メモボタン
  - CHインデックスボタン

TVセンタースピーカーの設定をするには

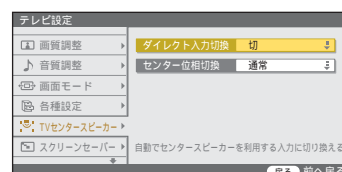
1 **メニューボタンを押して、メニューを出す。**

2 **で「セットアップ」を選んで、決定で決定する。**

3 **で「テレビ設定」を選んで、決定で決定する。**

4 **で「TVセンタースピーカー」を選んで、決定で決定する。**

5 **で設定したい項目を選んで、決定で決定する。**

6 **で設定を選んで、決定で決定する。**

7 **戻るボタンをくり返し押して、設定画面を消す。**

設定する項目の説明

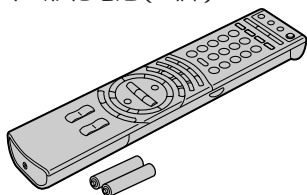
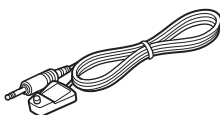
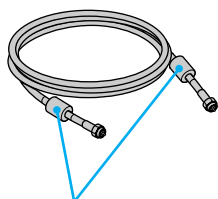
項目	説明
ダイレクト入力切換	TVセンタースピーカーで楽しむ放送や入力を設定する。 **「切」**（お買い上げ時の設定）：TVセンタースピーカーにしたときに入力は切り換わらない。 **「切」以外の項目**：TVセンタースピーカーで楽しむ放送や入力を、1つ選ぶ。TVセンタースピーカーにしたときに、自動的に切り換わるようになる。 **ちょっと一言** AVアンプの音声入力切換が必要なこともあります（☞187ページ）。
センター位相切換	つないだスピーカーの種類や設置場所に合わせて、違和感なく聞こえる音声に切り換える。 **「通常」**：お買い上げ時の設定。 **「反転」**：「通常」の音声に違和感があるとき。

準備の前に

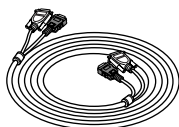
ここでは、本機をお使いいただく前の、付属品の確認や本機の設置、お客様のご登録について説明します。

付属品を確かめる

箱を開けたら、付属品がそろっているか確かめてください。

リモコン（1個）と
単4形乾電池（2個）

AV**マウス（**1.5m**）（**1**本）**

VHF/UHF**用**
アンテナ接続ケーブル
（2.4m**）（**1**本）**

フェライトコアを取りはずさないでください。

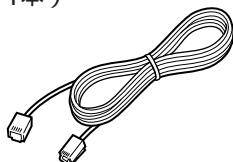
アンテナ変換アダプター（1個）

ディスプレイケーブル
（3.0m**）（**1**本）**

電源コード（2.4m**）（**2**本）**

変換プラグアダプター（2個）

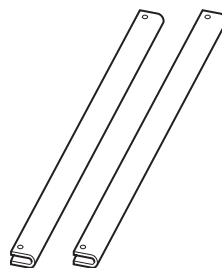
ディスプレイ用
AC**プラグホルダー（**1**個）**

テレホンコード（10m**）（**1**本）**

モジュラーテレホン
コードカプラー（1個）

クリーニングクロス（1枚）

KDE-P55HX2/P61HX2**のみ**

フレーム（2本）

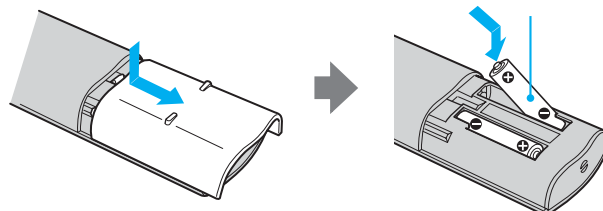
フレーム取り付け用
ネジ（8**本）**

「スピーカーを取りはずす（KDE-P55HX2/P61HX2のみ）」（☞313ページ）をご覧ください。

B-CAS（ビーキャス）**カード**
（デジタル放送用ICカード）と
B-CAS**用ユーザー登録はがき台紙**
取扱説明書
WEGA**〈ベガ〉で楽しもう!**
かんたん選局ガイド
地上デジタル放送・地域別チャンネル割り当て一覧表
ソニーご相談窓口のご案内
ソニー用お客様ご登録カード
安全のために
ソフトウェア使用許諾契約書
（各1部）
保証書（2部）

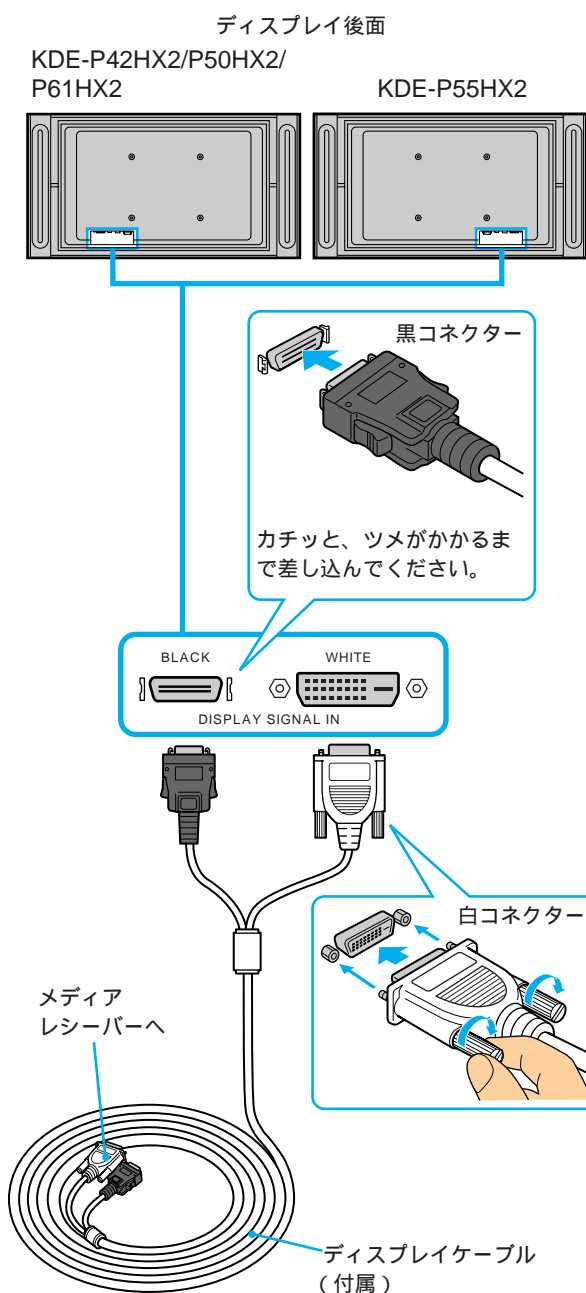
別売りアクセサリーについて

他機との接続（☞261ページ）には、別売りアクセサリーが必要です。
本書記載の別売りアクセサリーは、2003年8月現在のものです。万一、品切れや生産完了のときはご容赦ください。

リモコンに電池を入れるには

必ずイラストのように⊖極側から電池を入れてください。無理に入れたり逆に入れたりすると、ショートの原因になり、発熱することがあります。

本機を設置する

付属のディスプレイケーブルをディスプレイにつなぐ

コネクターのネジは、がたがでない程度に締めてください。過度の締めつけは、ネジの破損の原因となります。

ちょっと一言

実際のディスプレイケーブル（付属）の形状はイラストと異なることがあります。

ディスプレイをスタンドに設置する

必ず下記の別売りスタンドや壁掛けユニットをご使用のうえ、設置してください。

- フローティングスタンド
  KDE-P42HX2/P50HX2：SU-PF1
  KDE-P55HX2/P61HX2：SU-PF1L
- 壁寄せスタンド
  KDE-P42HX2/P50HX2：
  SU-PC1/PC1M/PG1/HXL
  KDE-P55HX2/P61HX2：SU-HXL
- テーブルトップスタンド
  KDE-P42HX2：SU-P42T1/P42T2
  KDE-P50HX2：SU-P50T1/P50T2
  KDE-P55HX2/P61HX2：SU-P50T2
- 壁掛けユニット
  KDE-P42HX2/P50HX2/P55HX2/P61HX2：
  SU-PW2
  KDE-P42HX2/P50HX2：SU-PW1

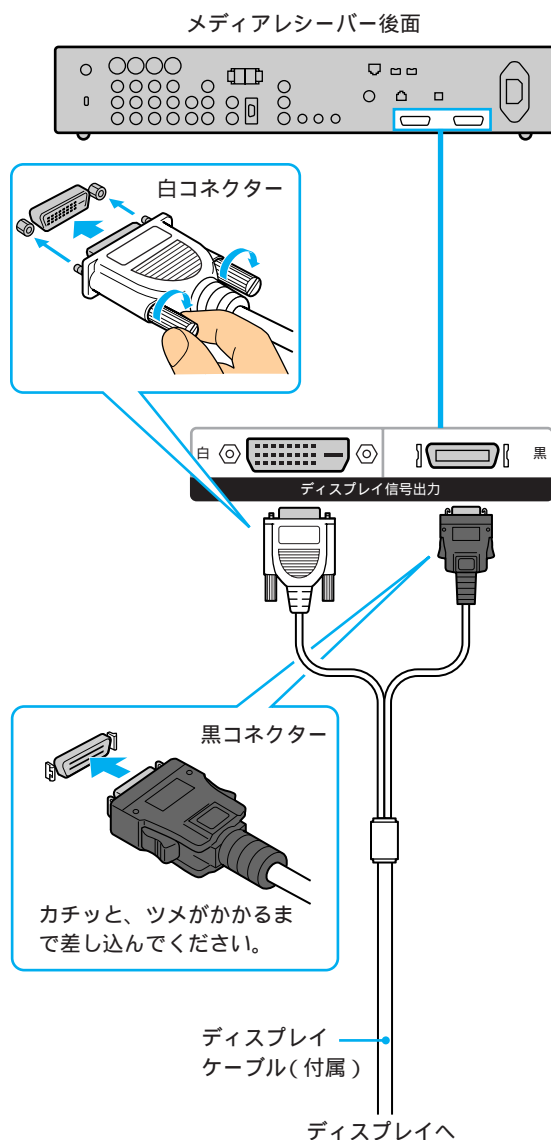
また、スタンドによって設置方法や設置手順が異なります。詳しくは、各スタンドや壁掛けユニットの取扱説明書をご覧になり、正しい手順で設置してください。

スタンドや壁掛けユニットの取り付けはお買い上げ店や工事店にご依頼ください。

スピーカーを取りはずすには（KDE-P55HX2/P61HX2のみ）

KDE-P55HX2/P61HX2はスピーカーを取りはずせます。取りはずしたスピーカーを、別売りのスピーカースタンドSU-PSP1M（KDE-P55HX2用）またはSU-PSP1L（KDE-P61HX2用）に取り付けて、外付けのスピーカーとしても使えます。スピーカーを取りはずしてお使いになりたいときは、ディスプレイをスタンドに設置する前に取りはずしてください。スピーカーの取りはずしについて詳しくは、☞313ページをご覧ください。

付属のディスプレイケーブルをメディアレシーバーにつなぐ

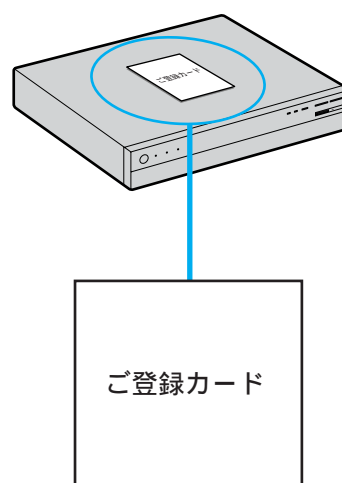
コネクターのネジは、がたがでない程度に締めてください。過度の締めつけは、ネジの破損の原因となります。

ちょっと一言
メディアレシーバーとディスプレイを離して設置するときは、別売りのディスプレイケーブルVMC-P10を使うと10mまで離せます。

ソニー用お客様ご登録カードを登録する

ソニーでは、デジタル放送の環境の変化に対応して、本機内部のソフトウェアの機能改善（バージョンアップ）サービスを行うことがあります。ソニー用お客様ご登録カードは、その際のご連絡を差し上げる際に必要となるため、必要事項を記入し、必ずご返送ください。

ご注意

- 返送していただかないと、バージョンアップのサービスが受けられなくなることがあります。
- 転居されたときは、お手数ですが、「デジタルベガお客様ご登録窓口」まで、忘れずにご連絡ください。

1 **メディアレシーバー上面に貼り付けられている「ソニー用お客様ご登録カード」を取り出す。**

2 「ソニー用お客様ご登録カード」の必要事項を記入し、投函する。

「ご氏名」と「ご住所」、「お電話」を必ずご記入ください。

ソニー用お客様ご登録カードに関するお問い合わせは、
「デジタルベガお客様ご登録窓口」へ

ナビダイヤル　0570-00-3311
（全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます）
携帯電話・PHSでのご利用は　0586-25-6470
受付時間：月～金 9:00～18:00（年末年始祝日を除く）

接　続

ここでは、アンテナや電話回線、電源コードのつなぎかたを説明しています。
他の機器をつないでお使いになるときは、「他機との接続」（☞261ページ）をご覧ください。

接続する前に

ご覧になる放送によって、接続するアンテナが異なります。また、デジタル放送をご覧になるときは、電話回線を接続することをおすすめします。

地上アナログ放送を見たい

地上デジタル放送を見たい

→

準備1：地上波アンテナをつなぐ

地上アナログも地上デジタル*1も、本機に1本のアンテナ線をつなぐだけで、どちらも見ることができます。

*1 地上波アンテナが地上デジタルに対応している必要があります。

BS**デジタル放送**を見たい

110**度**CS**デジタル放送**を見たい

→

準備2：衛星アンテナをつなぐ

BSデジタルも110度CSデジタルも、本機に1本のアンテナ線をつなぐだけで、どちらも見ることができます。

デジタル放送のデータ放送を楽しみたい

→

準備3：電話回線をつなぐ

データ放送のゲームや双方向通信などを楽しめます。

準備1：地上波アンテナをつなぐ

地上アナログまたは地上デジタルをご覧になるときは、地上波アンテナをつないでください。

地上デジタルのアンテナは、これまで使用していた地上アナログのUHF用アンテナを使用できる場合があります。ただし、地域によっては、アンテナの取り換えや方向の変更、ブースター（増幅器）の追加などが必要となることがあります。 詳しくは、お買い上げ店などにご相談ください。

地上波アンテナのつなぎかたは、壁のアンテナ端子の形や使うケーブルによって異なります。下の例から最も近いものを選び、つないでください。いずれにも当てはまらない場合は、お買い上げ店などにご相談ください。

次のページにつづく

準備1：地上波アンテナをつなぐ（つづき）

きれいな画像をお楽しみいただくために

本機には、多くのデジタル回路による新テクノロジーが搭載されています。このため、安定した映像をお楽しみいただくためにはアンテナの接続状態がとても重要です。下記のようにアンテナの接続と設置を確実に行い、電波妨害を受けにくい安定した受信状態を確保してください。

- メディアレシーバー後面のVHF/UHF端子への接続は、必ず付属のアンテナ接続ケーブルを使ってください。
- アンテナ線は他の電源コードや接続ケーブルからできるだけ離してください。
- 室内アンテナは特に電波妨害を受けやすいため、使わないでください。
- 電波の送信元付近の地域では、電波が強いため近隣チャンネルなどの干渉を受けて、画面にノイズが起こることがあります。そのときは、メディアレシーバー後面のアッテネーター（減衰器）のスイッチを「入」にしてください。

アッテネーター

ご注意

- フィーダー線は同軸ケーブルよりも雑音電波などの影響を受けやすいため、信号が劣化します。VHF/UHFをご覧になるときは、同軸ケーブルでつなぐことをおすすめします。
- これまでお使いの、屋外に設置しているUHFアンテナは、劣化することがあります。地上デジタル用に使用する際に、うまく映らなかったり、画面が乱れたりするときは、点検や調整をおすすめします。

地上デジタルのアンテナ工事について

お買い上げ店などにご相談ください。
特に、地上デジタル受信用に地上アナログ受信用とは別のアンテナを設置するときは、お買い上げ店やアンテナ工事業者とご相談の上、VHF/UHFアンテナ混合器をお使いください。

準備2：衛星アンテナをつなぐ

BSデジタルまたは110度CSデジタルをご覧になるときは、衛星アンテナをつないでください。

衛星アンテナをメディアレシーバーに直接つなぎます。衛星アンテナの設置には技術が必要なため、お買い上げ店などに依頼することをおすすめします。
マンションなどの共同受信システムなどVHF/UHF/BS/110度CS混合のときは、☞197ページをご覧ください。
本機の電源コードは、すべての接続が終わってからつないでください。

衛星アンテナへ
防水型コネクター
推奨BS•110度CSデジタルハイビジョンアンテナ
SAN-40BK1
SAN-40B1
SAN-50B1
（いずれも別売り）
サテライト用同軸ケーブル
BS/110度CS IF入力
メディアレシーバー後面
：信号の流れ

BSアナログチューナー内蔵ビデオをお持ちのときは

下記の接続をすると、ビデオのBSアナログチューナーも使えるため、ビデオでBSアナログを裏録画しながら、本機で他のBSデジタルを見ることができます。

衛星アンテナより
サテライト分配器（別売り：EAC-BD12またはEAC-BD13など）
サテライト用同軸ケーブル
BS IF入力端子へ
メディアレシーバーのBS/110度CS IF入力端子へ
BSアナログチューナー内蔵ビデオ

110度CSに対応していない分配器を使ったり、衛星アンテナからビデオを経由してメディアレシーバーのBS/110度CS IF入力端子につないだりしないでください。110度CSを受信できないことがあります。

110度CSデジタルを受信するには

110度CSデジタルに衛星アンテナや分配器、ブースター（増幅器）、および共同受信システムが対応していれば、110度CSデジタル放送を受信できます。対応していない場合もBSデジタルは受信できます。詳しくは、お買い上げ店か、マンション管理会社にお問い合わせください。

ご注意

- **BS/110度CS IF入力端子には、必ずサテライト用同軸ケーブルをつないでください。**BS/110度CS IF入力端子からは衛星アンテナ用の電源（DC 15/11V）が供給されているため、サテライト用同軸ケーブル以外のケーブルをつなぐと、ショートして火災などの原因となります。
- 次のようなときはBSデジタルや110度CSデジタルを受信できなかったり、受信状態が悪かったりしますが、故障ではありません。
  – お住まいの地域またはBSデジタルや110度CSデジタルを送信する放送衛星会社、衛星サービス会社（☞227ページ）の地域が雷雨、強風などの悪天候のとき
  – 衛星アンテナに雪が付着しているとき
  – 強風などでアンテナの向きが変わったとき（衛星アンテナの向きを調整してください。☞223ページ）
- サテライト分配器を使って複数のBS機器をつなぐときは、必ず別売りのEAC-BD12またはEAC-BD13などをお使いください。

準備2：衛星アンテナをつなぐ（つづき）

すでにBSアナログ放送をご覧いただいているときは

お使いの衛星アンテナの向きを変えることなく、そのままBSデジタルもBSアナログもそれぞれに対応したBSチューナーで受信できます。
ただし、一部の衛星アンテナでは、性能の劣化やデジタル化に必要な性能が確保されていないこともあります。受信状況が悪い場合は、衛星アンテナ製造元のお客様窓口や、お買い上げ店などにお問い合わせください。

マンションなどの共同受信システムのときは

壁のアンテナ端子ひとつでBSデジタル、110度CSデジタルと地上波放送を受信できる共同受信システムのときは、 BSデジタル、110度CSデジタルと地上波放送を分波して接続してください。
接続のしかたについて詳しくは、「準備1：地上波アンテナをつなぐ」（☞197ページ）をご覧ください。
また、「セットアップ」メニューで「衛星アンテナ設定」を「切」にしてください（☞222ページ）。
「セットアップ」→「デジタル放送設定」→「受信設定」→「BS/CS設定」→「衛星アンテナ設定」→「切」を選ぶ。
選びかたは☞14ページをご覧ください。

ケーブルテレビに加入されているときは

受信契約をされているケーブルテレビ放送会社に、BSデジタルや110度CSデジタルに対応しているかを確認してください。ケーブルテレビ放送会社が対応していれば、BSデジタル、110度CSデジタルはご覧いただけます。詳しくは、ケーブルテレビ放送会社にお問い合わせください。

デジタルCS放送*を含めた共同受信システムのときは

お住まいのマンションの共同受信システムによって、壁のアンテナ端子への接続のしかたが異なります。マンション管理会社（または管理人や管理組合など）に、共同受信システム方式を確認して、その指示に従って、接続および受信方法の設定（☞222ページ）を行ってください。

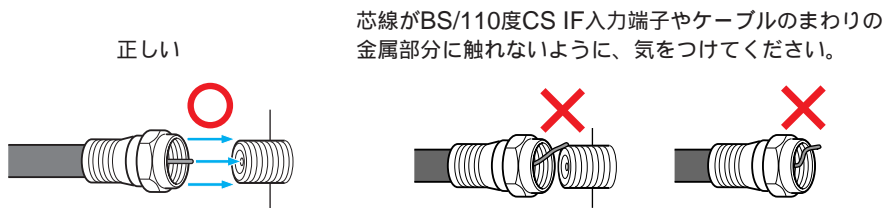
* SKY PerfecTV! のことです。110度CSデジタルではありません。

「取扱説明書をご覧いただき、BSアンテナ電源（コンバーター電源）を確認してください」という表示が出たら

メディアレシーバー前面の電源/予約録画/録画ランプが緑色に点滅して、「衛星アンテナ設定」が自動的に「切」になります。

1　いったんメディアレシーバーの電源スイッチで電源を切る。

2　以下のことを確認する。

- サテライト用同軸ケーブルの芯線が、BS/110度CS IF入力端子やケーブルのまわりの金属部分に触れていないか確認してください。

- サテライト用同軸ケーブルをアンテナコネクターでつないでいるときは、アンテナコネクターの芯線が、BS/110度CS IF入力端子やコネクターのまわりの金属部分に触れていないか確認してください。それでも表示が消えないときは、アンテナコネクターのふたを開けて、内部を確認してください。

3　再び電源を入れたあと、「セットアップ」メニューで「衛星アンテナ設定」を設定する（☞222ページ）。

「セットアップ」→「デジタル放送設定」→「受信設定」→「BS/CS設定」→「衛星アンテナ設定」→「オート」または「入」、「切」を選ぶ。

選びかたは☞14ページをご覧ください。

「オート」または**「入」**：衛星アンテナを本機につないでいるとき。

「切」：マンションなどの共同受信システムのとき。

接続

準備3：電話回線につなぐ

電話回線設定

（☞228ページ）

データ放送（アンケートなどの双方向通信）、B-CASカードの通信などで必要になります。「準備11：電話回線を設定する」（☞228ページ）で必ず設定してください。

プロバイダー契約が必要

ダイヤルアップ設定

☞203ページのA、B、Cのとき

または

ネットワーク設定

☞203ページのD、E、Fのとき

データ放送のコンテンツ*1を放送局などのサーバーからインターネット経由で楽しむときなどに必要になります。

*1 地上デジタル/BSデジタル/110度CSデジタルで運用されています。

データ放送への接続方法を設定するには

上の図のように、お使いの機器や通信環境によって、データ放送への接続方法を設定できます。
詳しくは、「データ放送のためのネットワークを設定する」（☞231ページ）をご覧ください。

以下のようなときは、**メディアレシーバーを電話回線につなぐ必要があります。**

- B-CAS（ビーキャス）カードに記憶された番組購入・契約状況などの情報を、電話回線を通じて定期的に本機から放送局へ自動送信するとき
- ペイ・パー・ビュー（PPV）契約をして、番組などを購入するとき（☞96ページ）
- データ放送を見ているときに、放送局と通信を行うとき（☞28ページ）（通信中は、メディアレシーバー前面の通信ランプが点灯します。）

  また、メディアレシーバー後面のネットワーク端子に常時接続回線をつなげば、地上デジタルのデータ放送はさらに快適に楽しめます。

ご注意

次の電話回線にはつなげません。

- 公衆電話および共同電話、地域集団電話
- 携帯電話およびPHS、自動車電話
- 船舶電話
- 外線に電話するときに、電話番号の頭に「0」または「9」以外の数字を付けるとき

💡ちょっと一言

番組購入・契約状況などの情報の送受信について

- 購入情報などの送受信中には、メディアレシーバー前面の通信ランプが点灯します。
- 本機が電源スタンバイ（メディアレシーバー前面のスタンバイ/オフタイマーランプが赤色に点灯）のまま、自動的に購入情報などを送受信することがあります。
- 購入情報などの送信には、1回あたり約30秒程度かかります。このときは、メディアレシーバー前面の通信ランプが点灯し、電話がかかってきたときは話し中になります。
- 本機が放送局と、購入情報などを送受信しているときは、電話機やファクシミリなど同一回線上の通信機器は使えません。
  その際、一部の通信機器で呼び出し音が鳴ることがあります。このときは、付属のモジュラーテレホンコードカプラーのかわりに、別売りの自動転換機TL-P20C（スタンダードモデル）を使ってください。なお、パソコンなどをお使いの場合は、高速データ通信用自動転換器TL-P21（高速通信対応モデル）をご使用ください。
  また、このときに緊急に電話をかけたいときなどは、メディアレシーバーの電源スイッチを押して主電源を切ってください。
- BSデジタル・110度CSデジタルの放送局へ登録などができないときは、NTTに問い合わせて、「回線ごと非通知設定」を解除してください。
- 電話機やファクシミリを使っているときは、購入情報などの送受信はできません。

電話回線の使用状況に合わせてつなぐ

お住まいの電話回線の状況を右から選んで、つないでください。
また、**壁の電話コンセントがモジュラージャック式でないときは、お買い上げ店や専門業者などにお問い合わせください。**

ご注意

ホームテレホンのときは、壁の電話コンセントがモジュラージャック式でも専門業者による工事が必要です。

💡ちょっと一言

壁の電話コンセントに複数の通信機器をつなぐときは、別売りのテレホンモジュラートリプルアダプターTL-23を使ってください。なお、パソコンなどをお使いの場合は、高速データ通信用自動転換器TL-P31（3口用）を使ってください。

常時接続回線をお使いのときは、メディアレシーバー後面のネットワーク端子につないでデジタル放送のデータ放送との高速通信などさらに快適に楽しめます。

壁の電話コンセントから電話を直接つないでいるとき

☞204ページ A へ

壁の電話コンセントからパソコンなどをつないでいるとき

☞204ページ B へ

ISDN回線を使ってつないでいるとき

☞205ページ C へ

ADSL回線を使ってつないでいるとき

☞206ページ D へ

CATV（ケーブルテレビ）回線を使ってつないでいるとき

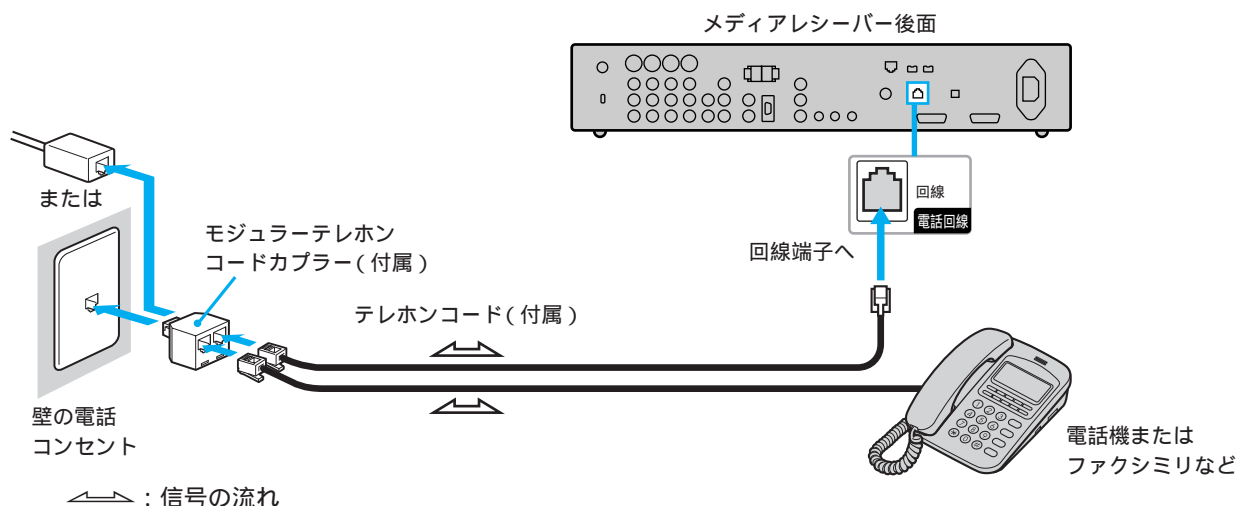
☞207ページ E へ

FTTH（光ファイバー）回線を使ってつないでいるとき

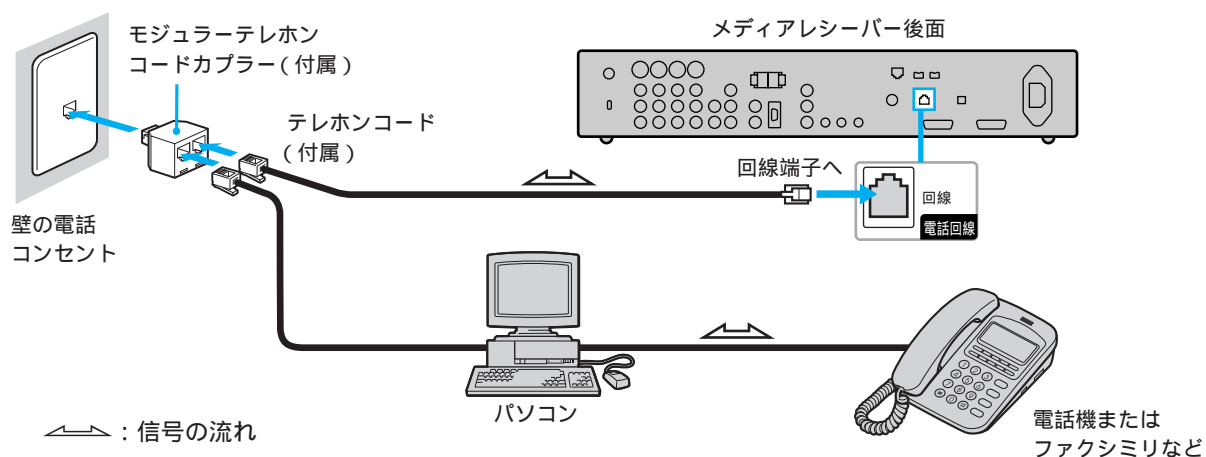
☞208ページ F へ

次のページにつづく

準備3：電話回線につなぐ（つづき）

A 壁の電話コンセントから電話を直接つないでいるとき

ちょっと一言

電話回線の設定も行ってください。設定について詳しくは、「準備11：電話回線を設定する」（☞228ページ）をご覧ください。また、プロバイダーを利用したネットワークの設定が必要なときは、「データ放送のためのネットワークを設定する」（☞231ページ）で、「ダイヤルアップ」も設定してください。

B 壁の電話コンセントからパソコンなどをつないでいるとき

ちょっと一言

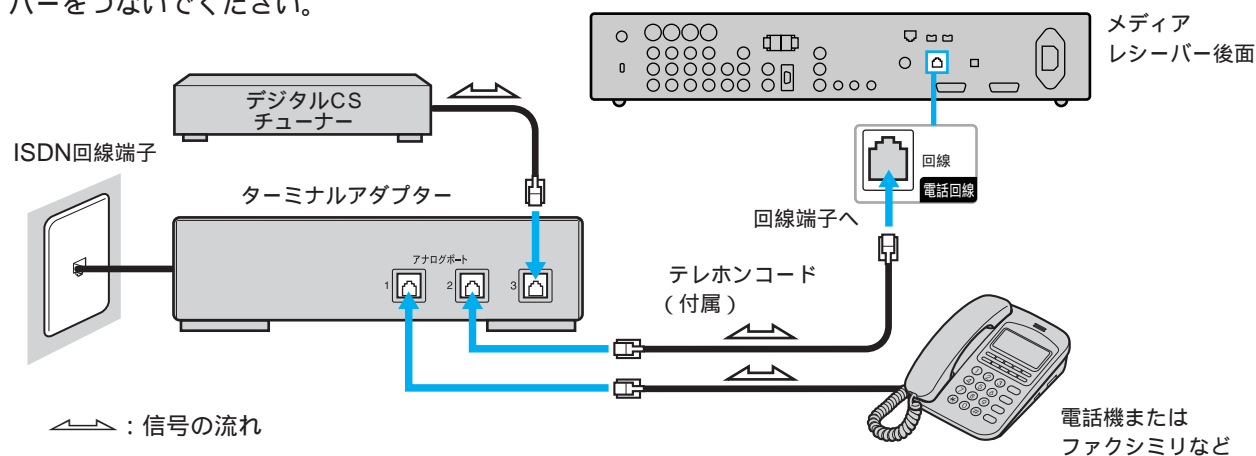
電話回線の設定も行ってください。設定について詳しくは、「準備11：電話回線を設定する」（☞228ページ）をご覧ください。また、プロバイダーを利用したネットワークの設定が必要なときは、「データ放送のためのネットワークを設定する」（☞231ページ）で、「ダイヤルアップ」も設定してください。

ちょっと一言

パソコンなどの通信や、すでに電話機やファクシミリなど通信機器を2台以上電話回線につないでいるときは、接続された通信機器がお互いに影響しあって、通信がうまくできないことがあります。このときは、付属のモジュラーテレホンコードカプラーのかわりに、別売りの高速データ通信用自動転換器TL-P21（2口用）やTL-P31（3口用）を使ってください。

C ISDN回線を使ってつないでいるとき

アナログ接続のときは

お手持ちのターミナルアダプターやダイヤルアップルーターのアナログポートに直接、メディアレシーバーをつないでください。

ご注意

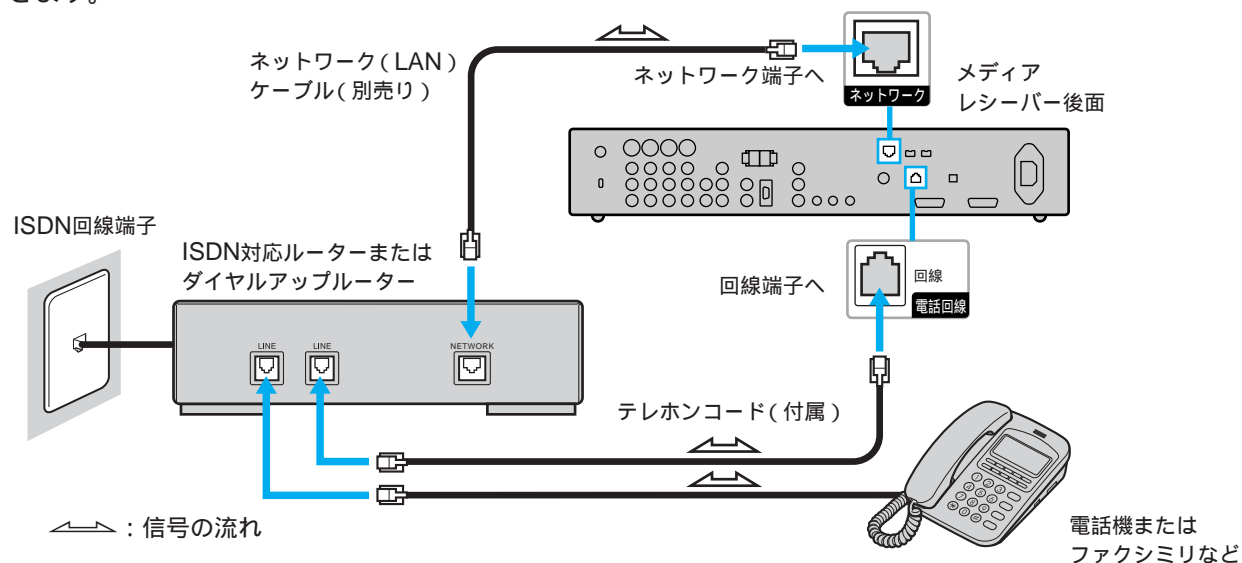
- アナログポートには、付属のモジュラーテレホンコードカプラーをつながないでください。2分配すると、本機が正しく働かないことがあります。
- ISDN回線端子に付属のモジュラーテレホンコードカプラーをつながないでください。無理に押し込むと破損することがあります。
- ターミナルアダプターによっては、うまく通信できないことがあります。詳しくは、ターミナルアダプターの製造元にお問い合わせください。

- 本機の電話回線を「トーン」に設定してください（☞228ページ）。

ちょっと一言

電話回線の設定も行ってください。設定について詳しくは、「準備11：電話回線を設定する」（☞228ページ）をご覧ください。また、プロバイダーを利用したネットワークの設定が必要なときは、「データ放送のためのネットワークを設定する」（☞231ページ）で、「ダイヤルアップ」も設定してください。

デジタル接続のときは

本機とISDN対応ルーターまたはダイヤルアップルーターを、ネットワーク（LAN）ケーブルを使ってつなぎます。

ご注意

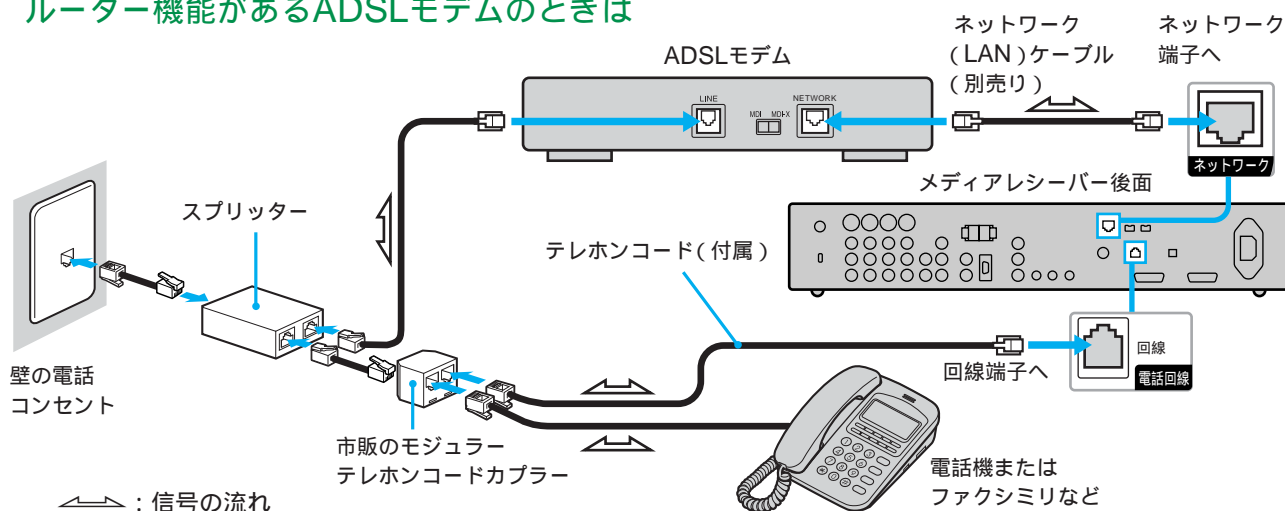
フレッツISDNをご利用のときは、フレッツISDN対応のダイヤルアップルーターをご使用ください。

ちょっと一言

電話回線の設定も行ってください。設定について詳しくは、「準備11：電話回線を設定する」（☞228ページ）をご覧ください。また、「データ放送のためのネットワークを設定する」（☞231ページ）で、「ネットワーク」も設定してください。

次のページにつづく

D ADSL回線を使ってつないでいるとき

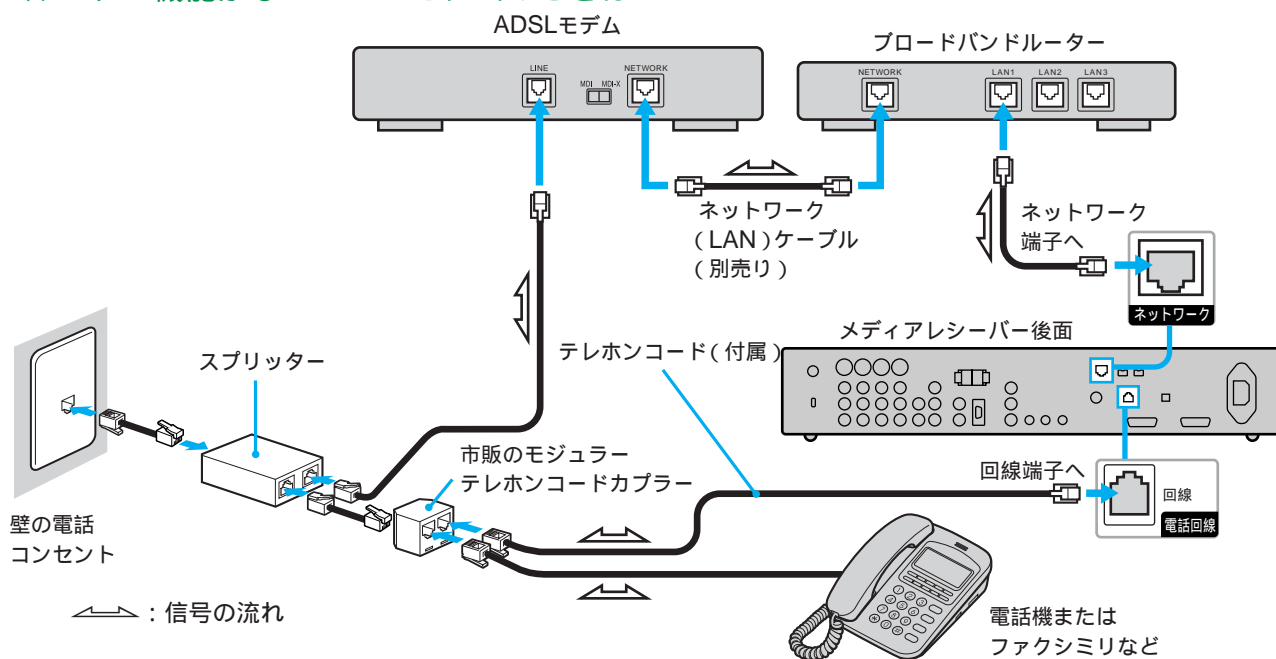
ルーター機能があるADSLモデムのときは

ご注意

ADSLモデムについてご不明な点は、ご利用のADSL回線事業者にお問い合わせください。

ちょっと一言

電話回線の設定も行ってください。設定について詳しくは、「準備11：電話回線を設定する」（☞228ページ）をご覧ください。また、「データ放送のためのネットワークを設定する」（☞231ページ）で、「ネットワーク」も設定してください。

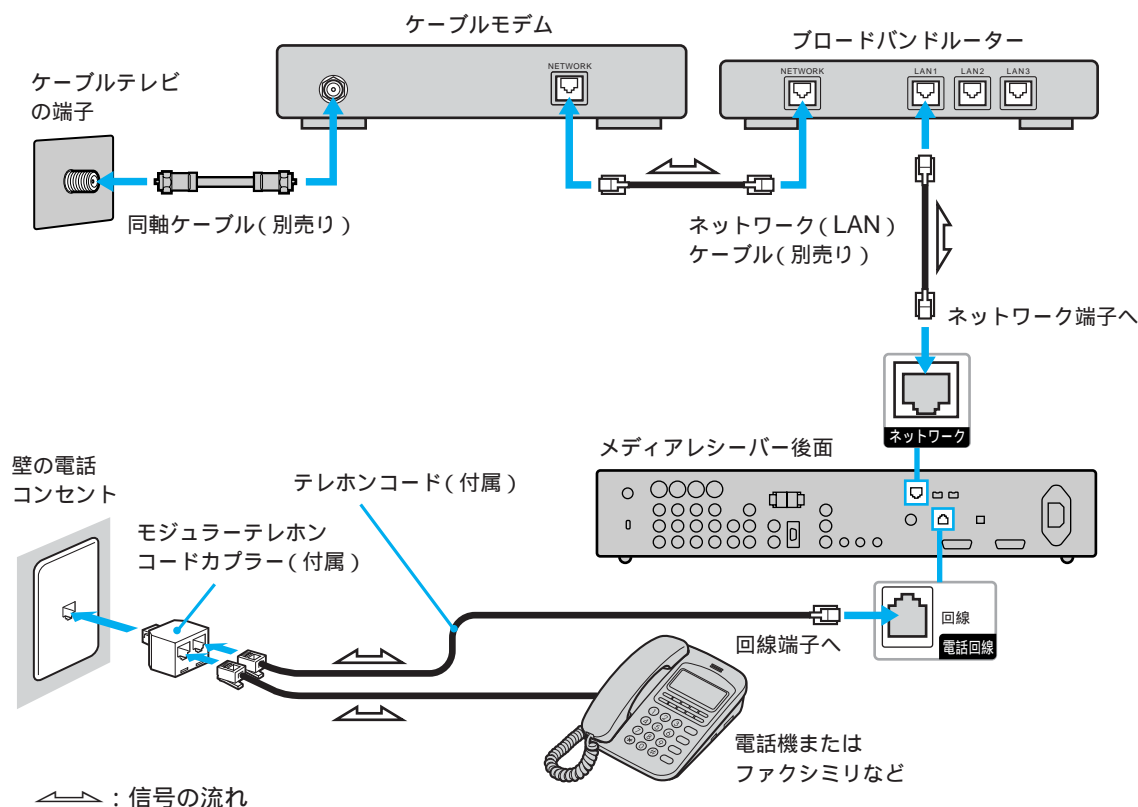
ルーター機能がないADSLモデムのときは

ご注意

契約によっては、本機やパソコンなどの端末を複数台接続できないことがあります。ご利用のADSL回線事業者へご確認ください。

ちょっと一言

電話回線の設定も行ってください。設定について詳しくは、「準備11：電話回線を設定する」（☞228ページ）をご覧ください。また、「データ放送のためのネットワークを設定する」（☞231ページ）で、「ネットワーク」も設定してください。

E CATV（ケーブルテレビ）回線を使ってつないでいるとき

ご注意

契約によっては、本機やパソコンなどの端末を複数台接続できないことがあります。ご利用のケーブルテレビ会社へご確認ください。

ちょっと一言

電話回線の設定も行ってください。設定について詳しくは、「準備11：電話回線を設定する」（☞228ページ）をご覧ください。また、「データ放送のためのネットワークを設定する」（☞231ページ）で、「ネットワーク」も設定してください。

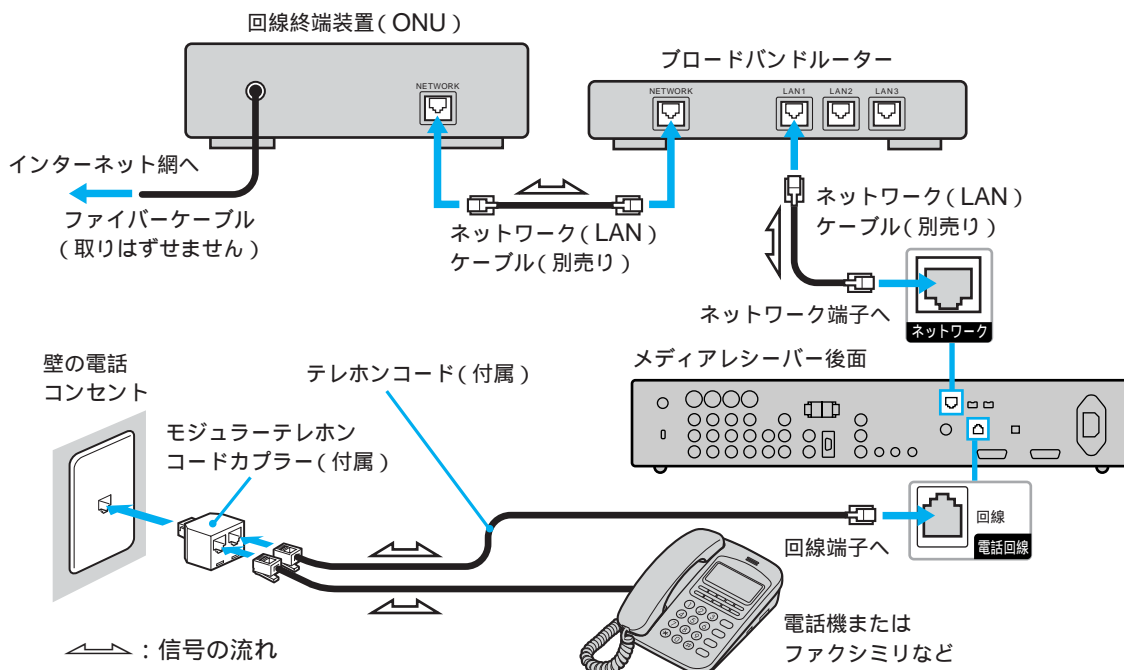
ネットワーク（LAN）ケーブルをお使いになるときは

- ネットワーク（LAN）ケーブルには、ストレートケーブルとクロスケーブルの2種類があります。
  モデムやルーターなどの種類により、使用するケーブルの種類が異なります。詳しくは、モデムやルーターの取扱説明書をご覧ください。
- 100BASE-TX/10BASE-Tタイプのネットワーク（LAN）ケーブルをお使いください。
  詳しくは、モデムやルーターの取扱説明書をご覧ください。

次のページにつづく

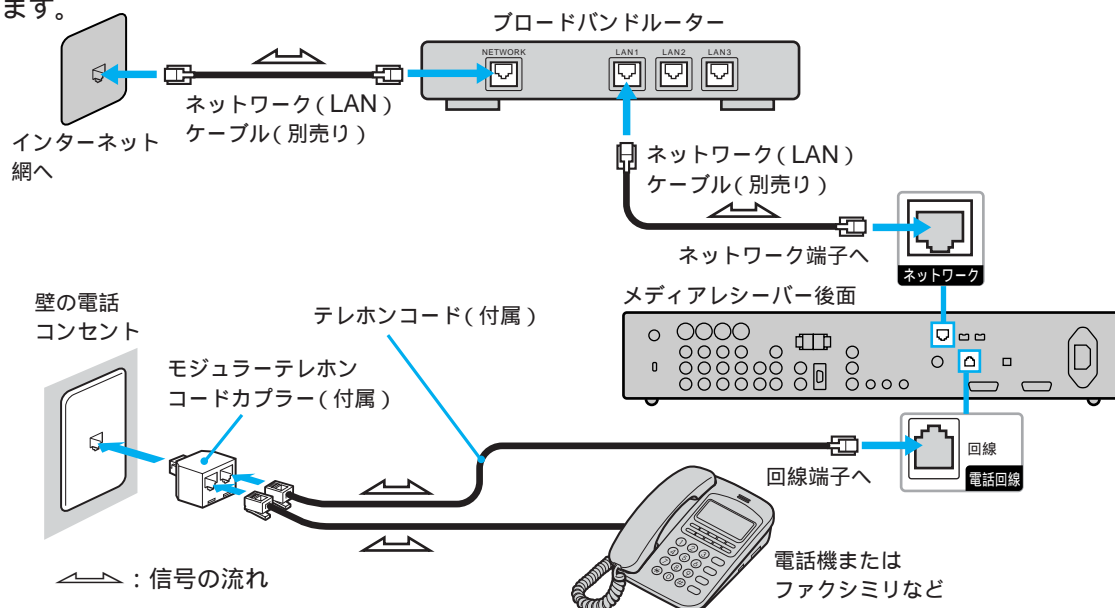
準備3：電話回線につなぐ（つづき）

F FTTH（光ファイバー）回線を使ってつないでいるとき

回線終端装置をお使いのときは

💡ちょっと一言

電話回線の設定も行ってください。設定について詳しくは、「準備11：電話回線を設定する」（☞228ページ）をご覧ください。また、「データ放送のためのネットワークを設定する」（☞231ページ）で、「ネットワーク」も設定してください。

回線終端装置を使わなくてよいときは

マンションタイプなどの共同インターネット回線をお使いの場合は、回線終端装置が必要ないことがあります。

💡ちょっと一言

電話回線の設定も行ってください。設定について詳しくは、「準備11：電話回線を設定する」（☞228ページ）をご覧ください。また、「データ放送のためのネットワークを設定する」（☞231ページ）で、「ネットワーク」も設定してください。

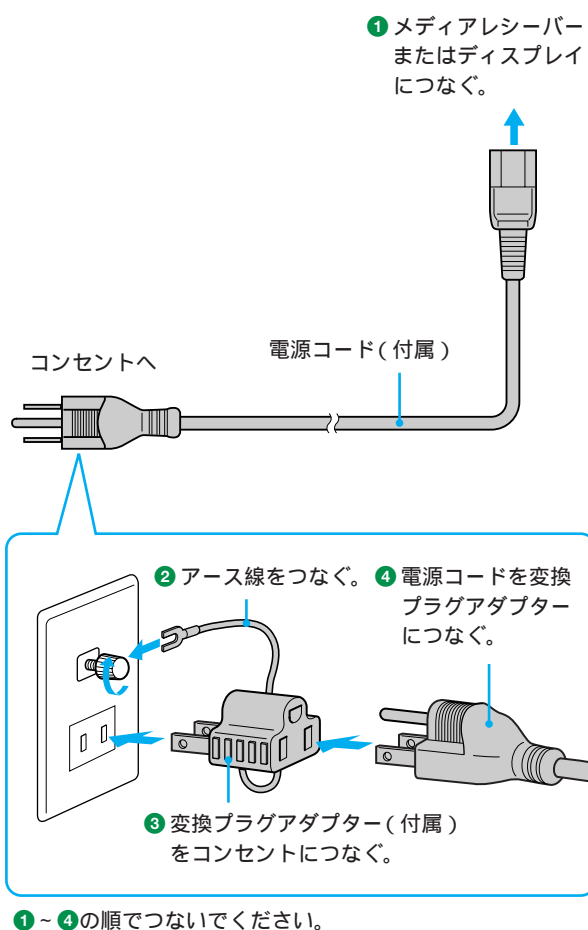
準備4：電源コードとアース線をつなぐ

すべての接続が終わってから、ディスプレイとメディアレシーバーの電源コードをつなぎます。先にディスプレイとメディアレシーバーにつないでからコンセントにつなぎます。
アースをつなぐ前に、変換プラグアダプター（付属）のアース端子の絶縁キャップをはずしてください。

ご注意

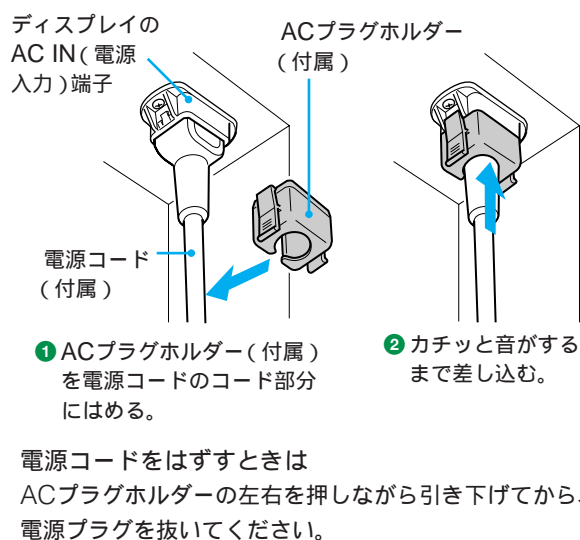
- 変換プラグアダプター（付属）のアース端子から外した絶縁キャップを、幼児が誤って飲み込まないように注意してください。
- 必ず、付属の電源コードをご使用ください。
- 壁のコンセントが2芯専用の場合は、必ずアース工事を行ってから、付属の変換プラグアダプターを使用してアースへ接続してください。
  感電の原因となりますので、アース工事は必ず専門業者にご依頼ください。
- 変換プラグアダプターを使うときは、安全のためコンセントに変換プラグアダプターを差し込む前にアース線をアースへ接続してください。

電源コードとアース線をつなぐ

❶～❹の順でつないでください。

ご注意

- 変換プラグアダプターをコンセントから抜くときは、アース線を最後にはずしてください。
- ビデオなどの機器をつなぐときは、すべての接続が終わってから、電源コードをコンセントにつないでください。

ディスプレイの電源プラグを固定する

電源コードをはずすときは
ACプラグホルダーの左右を押しながら引き下げてから、電源プラグを抜いてください。

受信設定

お買い上げ後、はじめてお使いになるときの初期設定や、テレビを見るために必要な設定を説明しています。
準備11まで終わらせると本機で受信できるすべての放送を見ることができます。

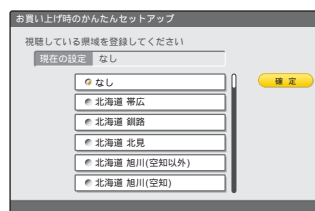
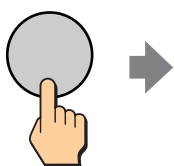
準備5：お買い上げ時の初期設定をする

はじめて本機の電源を入れると、デジタル放送を受信するための初期設定画面が表示されます。
初期設定が終わってから設定を変更したいときは、「セットアップ」メニューで各設定画面を表示して、設定し直してください。
この初期設定はデジタル放送の設定のみとなりますので、地上アナログを見るときは、「準備6：地上アナログ放送のチャンネルを設定する」（☞217ページ）も行ってください。

初期設定をする

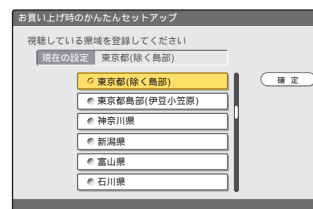
初期設定では、お住まいの地域の設定と、地上デジタルのチャンネルを受信するための自動設定、衛星アンテナの受信レベルの設定を行います。

1　メディアレシーバーの電源スイッチを押す。

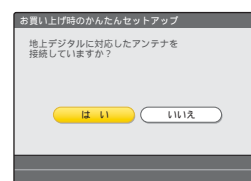
県域設定画面が表示されます。

ちょっと一言

県域設定は「セットアップ」メニューでも設定できます。
「セットアップ」→「デジタル放送設定」→「受信設定」→「地域設定」→「県域設定」を選ぶ。
詳しくは、「引っ越しなどで県域設定を変えたいときは」（☞216ページ）をご覧ください。

2　←/↑↓でお住まいの都道府県名を選んで、決定で決定する。

設定した地域のチャンネルを設定できるようになります。受信できるチャンネルについて詳しくは、同梱の「地上デジタル放送・地域別チャンネル割り当て一覧表」をご覧ください。

ご注意

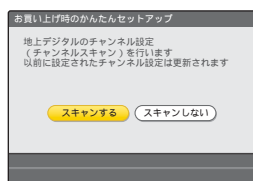
お住まいの地域の設定には、上記の県域設定の他に郵便番号を設定する必要があります。設定のしかたについて詳しくは、「お住まいの地域を設定する」（☞215ページ）をご覧ください。

3　→で「確定」を選んで、決定で決定する。

4　「はい」が選ばれていることを確認して、決定で決定する。

地上デジタルに対応したアンテナをつないでいないときは、「いいえ」を選んで、手順9に進んでください。

5　↑↓/←/→で「UHF」または「CATV」を選んで、決定で決定する。

「UHF」：UHFアンテナをつないでいるときに選ぶ。
「CATV」：ケーブルテレビで地上デジタル放送が配信されているときに選ぶ。

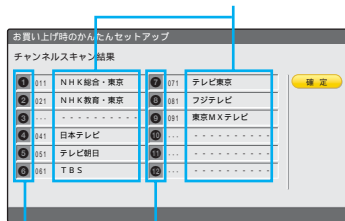
6 ⬍で「確定」を選んで、決定で決定する。

ちょっと一言

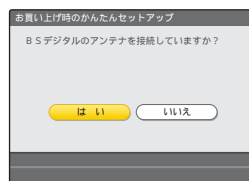
チャンネルスキャンは「セットアップ」メニューでも設定できます。
「セットアップ」→「デジタル放送設定」→「受信設定」→「地上デジタル設定」→「チャンネルスキャン」を選ぶ。
詳しくは、「地上デジタルのチャンネルを自動設定する」（☞219ページ）をご覧ください。

7 「スキャンする」が選ばれていることを確認して、決定で決定する。

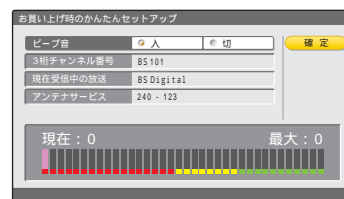
地上デジタルの受信できるチャンネルを自動設定します。

「スキャンしない」を選んだときは、手順9へ進んでください。

チャンネルスキャン中は、電源を切らないでください。
チャンネルスキャンが終わると、下の画面になります。

画面は、手順2で「東京都（除く島部）」を選んだときの一例です。

8 設定されたチャンネルを確認して、決定で決定する。

9 ←/→で「はい」または「いいえ」を選んで、決定で決定する。

「はい」：衛星アンテナを直接つないでいるときに選びます。
「はい」を選んだときは「衛星アンテナレベル」画面が表示されます。

「いいえ」：マンションなどの共同受信システムのときや、BSデジタル、110度CSデジタルを視聴しないときに選びます。
「いいえ」を選んだときは、手順12へ進みます。

ちょっと一言

衛星アンテナレベルは「セットアップ」メニューでも確認できます。
「セットアップ」→「デジタル放送設定」→「受信設定」→「BS/CS設定」→「衛星アンテナレベル」を選ぶ。
詳しくは、「衛星アンテナの向きを調整する」（☞223ページ）をご覧ください。

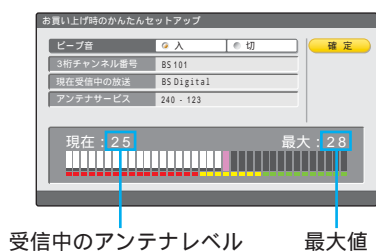
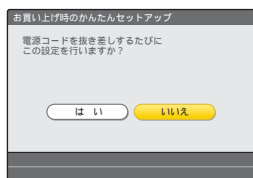
受信設定

次のページにつづく

準備5：お買い上げ時の初期設定をする（つづき）

10 **衛星アンテナを動かして、アンテナレベルを調整する。**

アンテナレベルができるかぎり最大値に近くなるように、アンテナの向きを調整し固定します。

衛星アンテナの向きの調整について詳しくは、「衛星アンテナの向きを調整する」（☞223ページ）をご覧ください。

11 **「確定」が選ばれていることを確認して、決定で決定する。**

12 **「いいえ」が選ばれていることを確認して、決定で決定する。**

電源コードを抜き差ししても初期設定は行いません。

「はい」を選んだときは、電源コードを抜き差しするたびに初期設定を行います。

ケーブルテレビをお使いのときは

1 **メニューボタンを押して、メニューを出す。**

2 **↕で「セットアップ」を選んで、決定で決定する。**

3 **↕で「デジタル放送設定」を選んで、決定で決定する。**

4 **↕で「受信設定」を選んで、決定で決定する。**

5 **↕で「地上デジタル設定」を選んで、決定で決定する。**

6 **↕で「バンド」を選んで、決定で決定する。**

7 **↕で「CATV」を選んで、決定で決定する。**

8 **戻るボタンをくり返し押して、設定画面を消す。**

ちょっと一言

ケーブルテレビの地上アナログのチャンネルを設定するときは☞249ページをご覧ください。

新しい放送局やチャンネルが増えたときに自動的に受信できるようにする

1 **メニューボタンを押して、メニューを出す。**

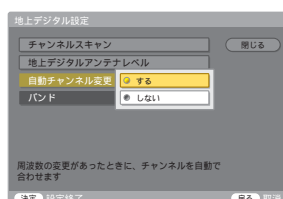
2 **で「セットアップ」を選んで、決定で決定する。**

3 **で「デジタル放送設定」を選んで、決定で決定する。**

4 **で「受信設定」を選んで、決定で決定する。**

5 **で「地上デジタル設定」を選んで、決定で決定する。**

6 **で「自動チャンネル変更」を選んで、決定で決定する。**

7 **で「する」を選んで、決定で決定する。**

8 **戻るボタンをくり返し押して、設定画面を消す。**

お住まいの地域を設定する

デジタル放送では、地域ごとに特有の放送が行われる場合があります。お住まいの地域の放送を受信できるように、地域設定を行っておく必要があります。
お買い上げ時の初期設定で行った県域設定に加えて、郵便番号設定を行ってください。

1 **メニューボタンを押す。**

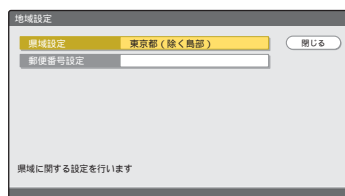
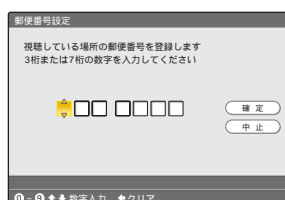
2 **で「セットアップ」を選んで、決定で決定する。**

3 **で「デジタル放送設定」を選んで、決定で決定する。**

4 **で「受信設定」を選んで、決定で決定する。**

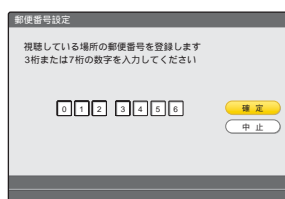
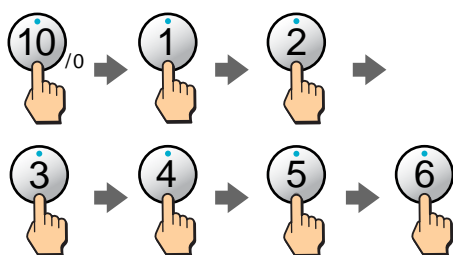
受信設定

準備5：お買い上げ時の初期設定をする（つづき）

5 **[↕]で「地域設定」を選んで、[決定]で決定する。**

6 **[↕]で「郵便番号設定」を選んで、[決定]で決定する。**

7 **①～⑩までの数字ボタンで、お住まいの地域の郵便番号3桁または7桁を入力する。**

「0」を入力するときは、⑩ボタンを押す。

郵便番号を間違えたときは←で戻り、入力し直してください。

例：郵便番号が　012-3456のとき

ご注意

お住まいの地域の郵便番号を正しく入力してください。間違った郵便番号を入れると、お住まいの地域に密着した情報が受信できなかったり、お住まいでない地域の情報を誤って受信してしまいます。

ちょっと一言

郵便番号を入力するときは、リモコンの[↕]/←/→でも行えます。←/→で入力する桁を選び、[↕]で0～9の数字が選べます。→を押すと、数字が決定して次の桁に移動します。訂正するときは←を押して数字を削除します。7桁すべての数字を入力したら、→で「確定」を選んで、[決定]で決定します。

8 **「確定」が選ばれていることを確認して、[決定]で決定する。**

9 **戻るボタンをくり返し押して、設定画面を消す。**

引っ越しなどで県域設定を変えたいときは

お買い上げ時の初期設定で設定した県域設定を変更したいときは、下記の手順で設定し直してください。県域設定に対応したチャンネルが優先的にスキャンされます。

ご注意

県域設定を変更したときは、「地上デジタルのチャンネルを自動設定する」（☞219ページ）で「初期スキャン」を行ってください。

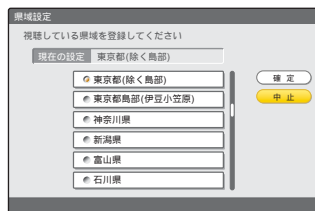
1 **メニューボタンを押して、メニューを出す。**

2 **[↕]で「セットアップ」を選んで、[決定]で決定する。**

3 で「デジタル放送設定」を選んで、決定で決定する。

4 で「受信設定」を選んで、決定で決定する。

5 で「地域設定」を選んで、決定で決定する。

6 で「県域設定」を選んで、決定で決定する。

7 ←/でお住まいの都道府県名を選んで、決定で決定する。

8 →で「確定」を選んで、決定で決定する。

9 戻るボタンをくり返し押して、設定画面を消す。

10 「地上デジタルのチャンネルを自動設定する」(☞219ページ)を行う。

準備6：地上アナログ放送のチャンネルを設定する

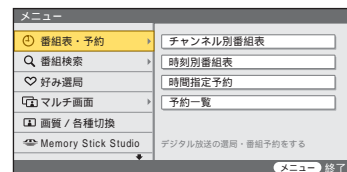
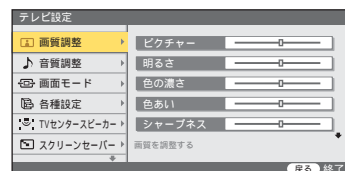
受信できる地上アナログを、①～⑫の数字ボタンに自動的に設定します。地上アナログが放送中の時間帯に行ってください。
自動設定したチャンネルを変更したり、放送のないチャンネルをとばしたりするときは、☞248、251ページをご覧ください。

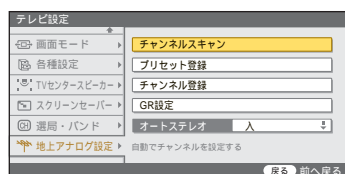
1 地上アナログボタンを押して、メニューボタンを押す。

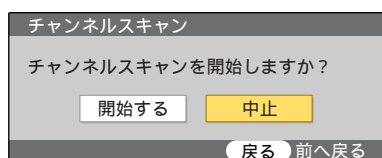
2 で「セットアップ」を選んで、決定で決定する。

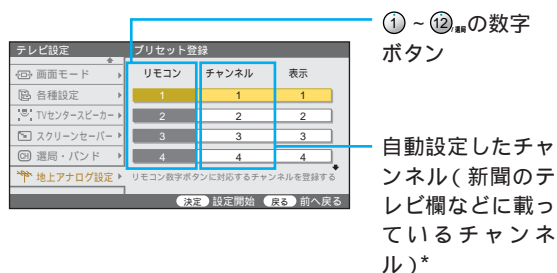
3 で「テレビ設定」を選んで、決定で決定する。

受信設定

次のページにつづく

準備6：地上アナログ放送の チャンネルを設定する（つづき）

4 で「地上アナログ設定」を選んで、決定で決定する。

5 「チャンネルスキャン」が選ばれていることを確認して、決定で決定する。

選ばれていないときは、で「チャンネルスキャン」を選んで、決定で決定する。

6 ←で「開始する」を選んで、決定で決定する。

自動的に設定が始まります。
設定中は、電源を切らないでください。
自動設定し終わると、下のメニューに変わります。

* 地域によっては、これまで見ていたチャンネル番号と異なる場合があります。

7 設定されたチャンネルを確認する。

設定したチャンネルを変更するときは

☞248ページをご覧ください。

ゴーストの少ない映像にしたいときは

☞254ページをご覧ください。

8 戻るボタンをくり返し押して、設定画面を消す。

チャンネル設定を途中でやめるには

手順6で「チャンネルスキャン中です」のメッセージが出ている間に、リモコンのボタンを押す（どのボタンを押しても途中でやめられます）。

ケーブルテレビのときは

「ケーブルテレビの地上アナログのチャンネルを設定するには」（☞249ページ）をご覧ください。

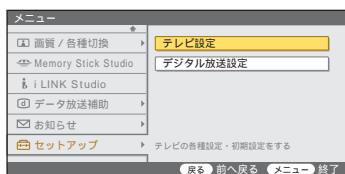
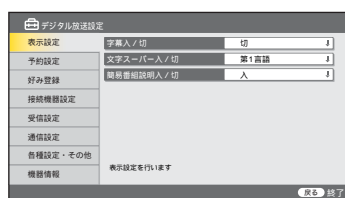
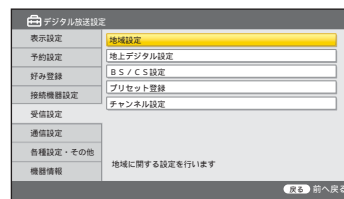
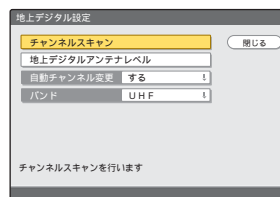
準備7：地上デジタル放送の設定をする

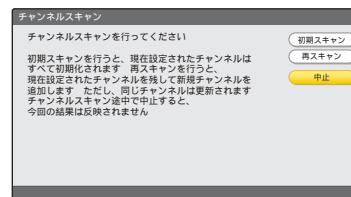
地上デジタルを見るときは、地上デジタルアンテナレベルの確認を行ってください。
また、初期設定で行った地上デジタルのチャンネルを自動設定し直すことができます。

地上デジタルのチャンネルを自動設定する

受信できる地上デジタルを、①～⑫の数字ボタンに自動的に設定します。地上デジタルが放送中の時間帯に行ってください。
初期設定で地上デジタルの自動設定（チャンネルスキャン）（☞212ページ）を行った場合は、この操作は不要です。

1 **地上デジタルボタンを押して、メニューボタンを押す。**

2 **で「セットアップ」を選んで、決定で決定する。**

3 **で「デジタル放送設定」を選んで、決定で決定する。**

4 **で「受信設定」を選んで、決定で決定する。**

5 **で「地上デジタル設定」を選んで、決定で決定する。**

6 **「チャンネルスキャン」が選ばれていることを確認して、決定で決定する。**

選ばれていないときは、で「チャンネルスキャン」を選んで、決定で決定する。

7 **で「初期スキャン」を選んで、決定で決定する。**

自動的に設定が始まります。

チャンネルスキャン中は、電源を切らないでください。
自動設定し終わると、下のメニューに変わります。

次のページにつづく

準備7：地上デジタル放送の設定をする（つづき）

8 **設定されたチャンネルを確認する。**

設定したチャンネルを変更するときは
☞250ページをご覧ください。

9 **「閉じる」が選ばれていることを確認して、決定で決定する。**

10 **戻るボタンをくり返し押して、設定画面を消す。**

新しく受信できるチャンネルを追加したいときは

「地上デジタルのチャンネルを自動設定する」（☞219ページ）の手順7で「再スキャン」を選びます。初期スキャンですでに設定されたチャンネルはそのままで、新しく受信できるチャンネルのみをスキャンして自動設定します。

地上デジタルのアンテナレベルを確認する

中継局などを経由して、地上デジタルの電波を送っているため、ご家庭の屋根などに設置されている、これまでのUHF用地上波アンテナで受信できる場合があります。
受信できないときは、お買い上げ店や工事店に依頼して、アンテナの取り換えや調整を行ってください。
まず、地上デジタルのアンテナ受信レベルを確認してください。

1 **地上デジタルボタンを押す。**

2 **NHKを選局する。**

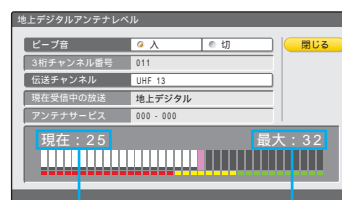
3 **メニューボタンを押して、メニューを出す。**

4 **で「セットアップ」を選んで、決定で決定する。**

5 **で「デジタル放送設定」を選んで、決定で決定する。**

6 **で「受信設定」を選んで、決定で決定する。**

7 **で「地上デジタル設定」を選んで、決定で決定する。**

8 **で「地上デジタルアンテナレベル」を選んで、決定で決定する。**

受信中のアンテナレベル　最大値

9 **アンテナレベルを確認する。**

10 **「閉じる」が選ばれていることを確認して、決定で決定する。**

11 **戻るボタンをくり返し押して、設定画面を消す。**
手順2で選局した地上デジタルテレビの画面が映ります。画面がきれいに映らないときはソニーサービス窓口などにご相談ください。

音を聞いて確認するには

画面で確認できないときに便利です。
地上デジタルアンテナレベル画面で「ビープ音」が「入」になっているときは、音を聞いて確認できます。
ビープ音を消すときは「切」を選んでください。

地上デジタルの番組情報取得について設定する

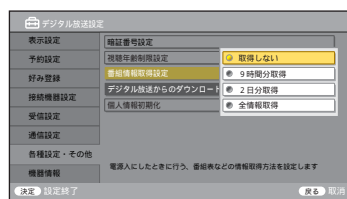
メディアレシーバーの電源スイッチで本機の電源を入れたときに、番組情報を取得するかどうかと、取得する番組情報の量を設定します。番組情報を取得している間は、番組を画面に表示できません。

1 メニューボタンを押して、メニューを出す。

2 で「セットアップ」を選んで、決定で決定する。

3 で「デジタル放送設定」を選んで、決定で決定する。

4 で「各種設定・その他」を選んで、決定で決定する。

5 で「番組情報取得設定」を選んで、決定で決定する。

6 で「取得しない」または「9時間分取得」、「2日分取得」、「全情報取得」を選んで、決定で決定する。

「取得しない」（お買い上げ時の設定）：本機の電源を入れたときには、番組情報を取得しません。

「9時間分取得」：現在から9時間先までの番組情報を取得します。

「2日分取得」：現在から2日先までの番組情報を取得します。

「全情報取得」：現在取得可能な全番組情報を取得します。

7 戻るボタンをくり返し押して、設定画面を消す。

番組情報取得を途中で止めるには

「中止」が選ばれていることを確認して、決定で決定する。

ご注意

- 取得する番組情報が多いほど時間がかかり、その間番組を見ることはできません。
- 地上デジタルを表示している状態で電源を切り、次回電源を入れたときにのみ番組情報を取得します。
- 新しい番組情報がないときは、番組情報を取得しません。

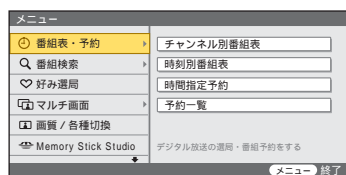
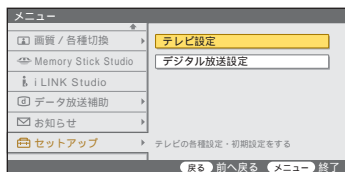
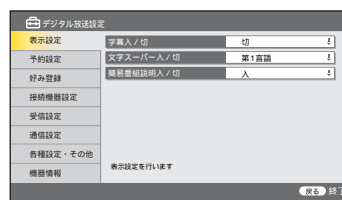
受信設定

準備8：衛星アンテナの設定をする

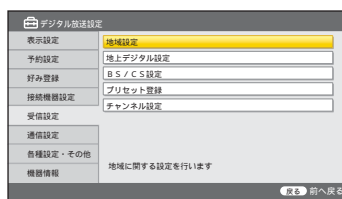
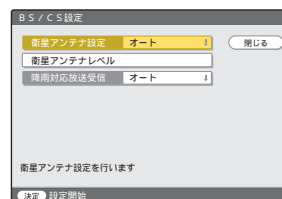
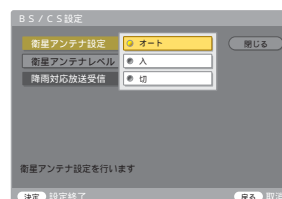
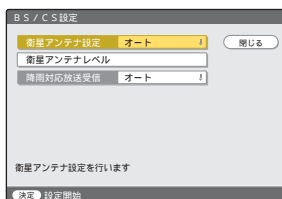
BSデジタルや110度CSデジタルを見るときは、衛星アンテナ電源（コンバーター電源）の設定と、衛星アンテナの向きの調整を行ってください。
また、お住まいの地域に特有の放送を受信するために、地域設定（☞215ページ）も行ってください。

衛星アンテナ電源を設定する

衛星アンテナのつなぎかた（マンションなどの共同受信システムか、メディアレシーバーなどに直接つないでいるかなど）に合わせて、衛星アンテナへの電源供給を設定します。

1 **BSまたはCSボタンを押して、メニューボタンを押す。**

2 **で「セットアップ」を選んで、で決定する。**

3 **で「デジタル放送設定」を選んで、で決定する。**

4 **で「受信設定」を選んで、で決定する。**

5 **で「BS/CS設定」を選んで、で決定する。**

6 **で「衛星アンテナ設定」を選んで、で決定する。**

7 で衛星アンテナへの電源の供給のしかたを選んで、決定で決定する。

マンションなどの共同受信システムのときは

「切」を選んで、決定する。

衛星アンテナをつないでいるときは

「オート」（お買い上げ時の設定）または「入」を選んで、決定する。
BSデジタルが映ったり消えたりするときは「入」を選んでください。

設定	衛星アンテナへの電源供給のしかた
オート（お買い上げ時の設定）	本機の電源が入っているときに、本機が衛星アンテナに電源を供給するかどうかを自動的に判断する。本機の電源が切れているときは供給しない。
入	本機の電源が入っているときはつねに電源を供給する。本機の電源が切れているときは供給しない。
切	電源を供給しない。

ご注意

- 「オート」にしていても、衛星アンテナの電源供給システムによっては、うまく働かないことがあります。このときは「入」にしてください。
- 1本の衛星アンテナに分配器などをつないでBS電波を分け、本機と他のテレビやビデオ機器の両方でBSデジタルを受信できるようにしているときは、本機を「オート」に、他の機器を「入」（または「連動」）にしてください。このようにしないと、本機の電源を切ると他のテレビやビデオ機器から衛星アンテナに電源が供給されないことがあります。他の機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

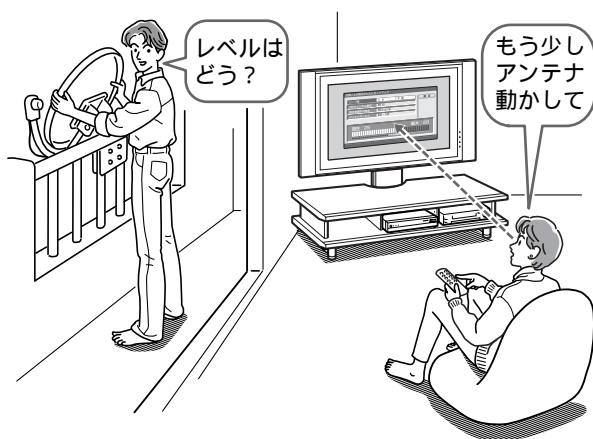
8 戻るボタンをくり返し押して、設定画面を消す。

衛星アンテナの向きを調整する

衛星アンテナを本機に直接つないだときは、アンテナの向きを2人で調整します。1人がテレビ画面のレベル表示を見て、もう1人が衛星アンテナを動かしながら、レベル表示が最大になるように調整します。
向きや角度については、衛星アンテナの取扱説明書もあわせてご覧ください。

一部の衛星アンテナでは、性能の劣化やデジタル化に必要な性能が確保されていないことがあります。受信状況が悪い場合は、衛星アンテナ製造元のお客様窓口や、衛星アンテナを購入したお買い上げ店などにお問い合わせください。

ご注意

「衛星アンテナ設定」が「切」になっているときは、「オート」または「入」にしたあと、メディアレシーバーの電源スイッチで電源を入れ直してください（☞222ページ）。

1 BSボタンを押す。

2 数字ボタンの① *を押して、NHK BS1を選局する。

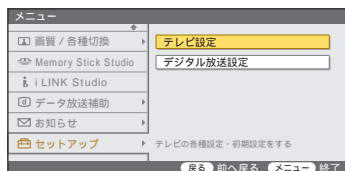
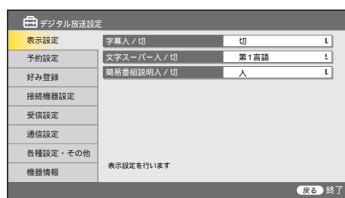
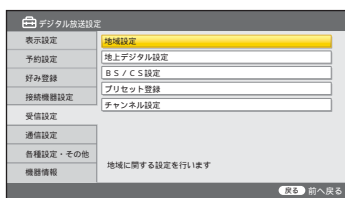
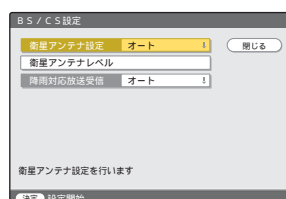
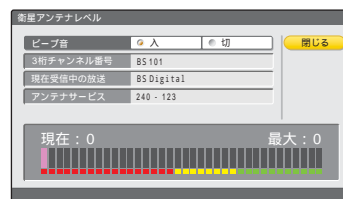
* お買い上げ時は数字ボタンの①を押すと、NHK BS1が映るように設定されています。

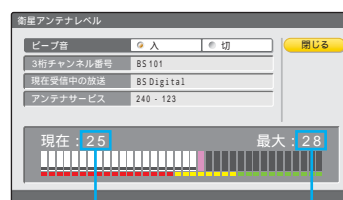
次のページにつづく

受信設定

準備8：衛星アンテナの設定をする（つづき）

3 メニューボタンを押す。

4 で「セットアップ」を選んで、決定で決定する。

5 で「デジタル放送設定」を選んで、決定で決定する。

6 で「受信設定」を選んで、決定で決定する。

7 で「BS/CS設定」を選んで、決定で決定する。

8 で「衛星アンテナレベル」を選んで、決定で決定する。

9 衛星アンテナを動かして、アンテナレベルを調整する。

アンテナレベルが、できるかぎり最大値に近くなるように、アンテナの向きを調整し固定します。

受信中のアンテナレベル　最大値

10 「閉じる」が選ばれていることを確認して、決定で決定する。

11 戻るボタンをくり返し押して、設定画面を消す。

BSテレビ（NHK BS1）の画面が映ります。画面がきれいに映らないときはソニーサービス窓口などにご相談ください。

音を聞いて調整するには

画面で確認できないときに便利です。

1 手順8のあと、←/→で「ビープ音」の「入」を選んで、決定で決定する。

2 手順9で最も高い音階の音になるよう、衛星アンテナを調整する。

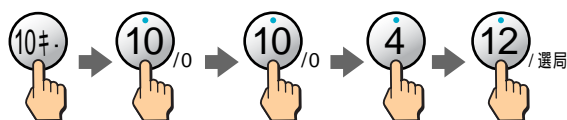
110度CSデジタルのアンテナレベルを確認するには

110度CSデジタルをご覧にならないときは確認する必要はありません。また、BSデジタルを受信できているときは110度CSデジタルのアンテナレベルが低くても、衛星アンテナの向きを調整する必要はありません。

あらかじめ下記を行ってください。

- 「衛星アンテナの向きを調整する」（☞223ページ）を行って、BSデジタルを受信する。
- お使いのアンテナや分配器、ブースター（増幅器）、および共同受信システムが110度CSデジタルに対応していることを確認する。

1 **CSボタンを押して、CS1に切り換える。**

2 **004chに切り換える。**

3 **「衛星アンテナの向きを調整する」（☞224ページ）の手順3〜8を行う。**

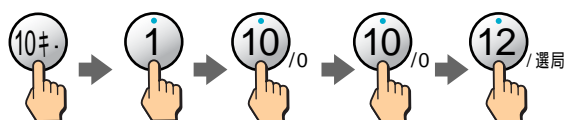
「現在受信中の放送」に「SKY PerfecTV!110 P」と表示されます。

4 **アンテナレベルがBSデジタル（☞224ページ）と同等か確認する。**

SKY PerfecTV!110に視聴申し込みをしていないときは放送は映りませんが、アンテナレベルは確認できます。

5 **←/→で「閉じる」を選んで、決定で決定する。**

6 **CSボタンを押して、CS2に切り換える。**

7 **100chに切り換える。**

「現在受信中の放送」に「SKY PerfecTV!110 S」と表示されます。

8 **手順3〜5をもう1度行う。**

9 **SKY PerfecTV!110の100ch（プロモチャンネル）が映るか確認する。**

ご注意

110度CSデジタルの映らないチャンネルがあるときや、映像が乱れるときは、アンテナや分配器、ブースターなどが110度CSデジタルに対応していないことがあります。詳しくは、お買い上げ店か、マンション管理会社にお問い合わせください。

準備9：B-CAS（ビーキャス）カード（デジタル放送用ICカード）を入れて登録する

B-CAS*カード（デジタル放送用ICカード）はお客様と地上デジタル、BSデジタル、110度CSデジタルの放送局をつなぐカードです。

2004年4月より、B-CASカードを挿入していないと、番組の著作権保護のため、デジタル放送は、スクランブルがかかって視聴することができません。
デジタル放送を視聴するときは、必ず、B-CASカードを挿入してください。

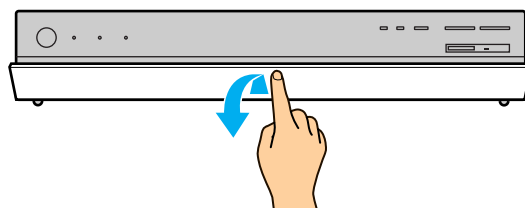
デジタル放送では、このカードを利用したCAS（限定受信システム）が採用されています。
ご登録いただくと各種サービスが利用できるようになります。
B-CASカードをメディアレシーバーに入れたあと、ユーザー登録はがきに必要事項を記入し、投函してください。
また、有料番組やPPV番組（☞96ページ）を見たり、データ放送の双方向サービスを受けたりするときも、B-CASカードを使用します。

* B-CASは（株）ビーエス・コンディショナルアクセスシステムズの略称です。

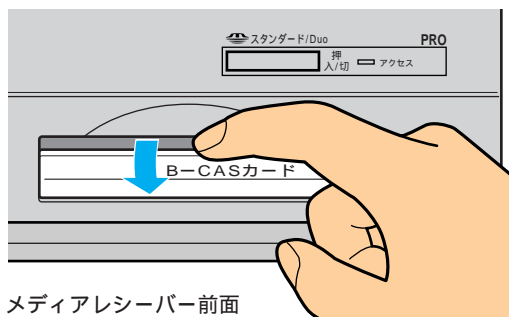
ご注意

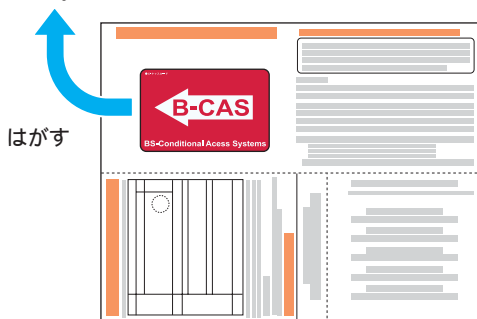
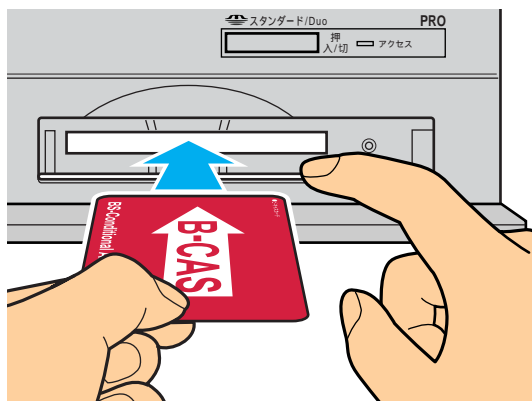
ユーザー登録をしないと、有料番組（☞96ページ）が視聴できなかったり、データ放送の双方向サービスが受けられなかったりします。また、連絡先不明のため、カードの交換や更改などのサービスが受けられません。

1 **メディアレシーバー前面のパネルを開ける。**

受信設定

次のページにつづく

準備9：B-CAS（ビーキャス）カード（デジタル放送用ICカード）を入れて登録する（つづき）

2 **メディアレシーバー前面のB-CASカード挿入口のふたを開ける。**

3 **同封の「ビーキャス（B-CAS）カード使用許諾契約約款」の内容をお読みになり了解された上で、台紙からB-CASカードをはがす。**

B-CAS用ユーザー登録はがき台紙の内容にご不明な点があるときは、B-CASカスタマーセンター（電話番号0570-000-250）へお問い合わせください。

4 **B-CASカードを奥までしっかり挿入する。**

B-CASと書かれた面を上にして、
印刷された矢印の方向に挿入する。

5 **B-CASカード挿入口のふたを閉める。**

押さえている指を離すと、B-CASカード挿入口のふたが自動的に閉まります。

ご注意

ふたが閉まっていることを確認してください。しっかり閉まっていないと、B-CASカードが正しく挿入されているかを本機が判断できないためです。

6 **同梱のB-CAS用ユーザー登録はがきに必要事項を記入し、投函する。**

B-CAS用ユーザー登録はがきの登録作業が終了すると、各種サービスが利用できるようになります。

ご注意

- B-CASユーザー用登録はがき台紙は、大切に保管しておいてください。有料放送に視聴を申し込む（☞227ページ）ときに必要なバーコードシールが付いていたり、B-CASカスタマーセンターへのお問い合わせ先が案内されていたりするためです。
- 転居などの際には、B-CASカスタマーセンターに連絡してください。

ちょっと一言

こんなメッセージが表示されたら...

（ICカードはB-CASカードのことです。）

- 「ICカードとのアクセスが成立しません
  ICカードを抜き差ししても直らない場合はカスタマーセンターへ連絡してください：XXXX」
  → B-CASカードが奥までしっかり入っていない。
  → B-CASカードが前後逆向きに入っている。
  → B-CASカードが表裏逆向きに入っている。
  → B-CASカードが破損している。
  → B-CASカードとは別の種類のカードが入っている。
  → ご覧になっている放送局や110度CSデジタルの衛星サービス会社のカスタマーセンター（☞227ページ）またはB-CASカスタマーセンター（電話番号 0570-000-250）へお問い合わせください。
- 「ICカード挿入口のふたを閉めてください」
  → B-CASカード挿入口のふたが開いている。
- 「ICカードを入れてください」
  → B-CASカードが奥までしっかり入っていない。

準備10：各放送局に視聴を申し込む

加入申し込みが必要な有料BSデジタル放送局と110度CSデジタル衛星サービス会社のカスタマーセンター（お問い合わせ先）一覧

BSデジタルの有料放送や110度CSデジタルを視聴するには、各局へ加入申し込みをして契約する必要があります。
加入申し込み方法はBSデジタル放送局や110度CSデジタル衛星サービス会社により異なります。詳しくは、ご覧になりたい放送局のカスタマーセンターへお問い合わせください。
なお、無料放送でも登録が必要な場合があります。詳しくは、ご覧になりたい放送局へお問い合わせください。
また、B-CASカード（デジタル放送用ICカード）をメディアレシーバーのB-CASカード挿入口に入れて、B-CAS用ユーザー登録はがきを投函してください（☞225ページ）。

ご注意

ユーザー登録はがきをご投函いただかないと、NHK（BS1、BS2、デジタルハイビジョン）を受信するたびに、テレビ画面に連絡をお願いする案内が、自動表示されるようになります。
NHK受信契約のお申し込みや転居のご連絡先：
0120-151515
受付　9：00〜22：00（通話料無料）

http://www.nhk.or.jp/eigyo/

2004年4月現在の電話番号とホームページアドレスです。

有料BSデジタル放送局

放送局	お問い合わせ電話番号/ホームページアドレス
WOWOW	0570-008080 （携帯電話などをお使いの方は、045-683-8080） 受付 9:00〜20:00 http://www.wowow.co.jp/
テレビ放送のみが、視聴申込が必要な有料放送です。ラジオ放送（WOWOW wave：491、492ch）と独立データ放送（WOWOW navi：791、792ch）は無料放送です。	
スター・チャンネルBS	0570-010-110 （携帯電話などをお使いの方は、045-339-1555） 受付 10:00〜20:00 http://www.star-ch.co.jp/
テレビ放送のみが、視聴申込が必要な有料放送です。独立データ放送（800ch）は無料放送です。	

110度CSデジタル衛星サービス会社

110度CS衛星サービス	お問い合わせ電話番号/ホームページアドレス
SKY PerfecTV!110（CS1・CS2）	0570-012-110 （携帯電話などをお使いの方は、045-339-0002） 受付　10:00〜20:00 http://www.skyperfectv110.jp/

ちょっと一言

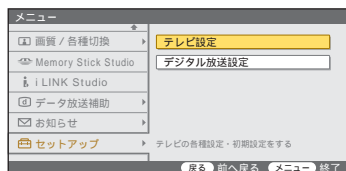
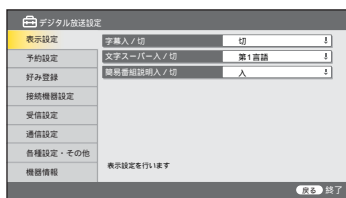
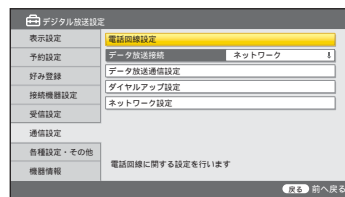
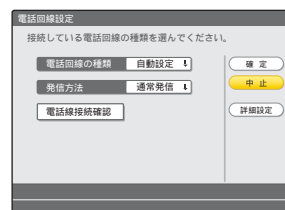
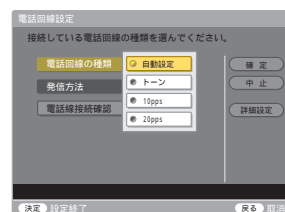
110度CSデジタルの無料放送は、各衛星サービス会社への加入申込みや契約をしなくてもご覧いただけます。受信料は請求されません。

受信設定

準備11：
電話回線を設定する

電話回線の設定と、接続テストを行います。
お買い上げ時は、「自動設定」で「通常発信」の電話回線に設定されています。
必ず電話回線を設定してください。

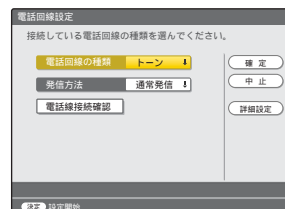
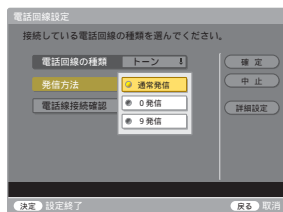
1 メニューボタンを押す。

2 で「セットアップ」を選んで、決定で決定する。

3 で「デジタル放送設定」を選んで、決定で決定する。

4 で「通信設定」を選んで、決定で決定する。

5 で「電話回線設定」を選んで、決定で決定する。

6 ◀/で「電話回線の種類」欄を選んで、決定で決定する。

7 で電話回線の種類を選んで、決定で決定する。

お買い上げ時は、「自動設定」に設定されています。

「自動設定」でうまく通信できないときは
NTTの料金明細書で「プッシュホン回線使用料」が請求されているときは、**「トーン」**を選んでください。
請求されていないときは、**「20pps」または「10pps」**を選んでください。

ISDN回線などによるターミナルアダプターやダイヤルアップルーターを使っているときは
（☞205ページ）
「トーン」を選んでください。

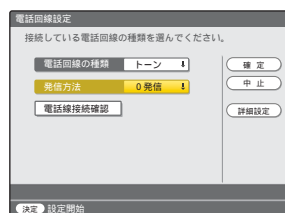
ADSL回線を使っているときは **（☞206ページ）**
「自動設定」（お買い上げ時の設定）のままお使いください。

8 ▲▼で「発信方法」欄を選んで、決定で決定する。

9 ▲▼で発信方法を選んで、決定で決定する。

お買い上げ時は、「通常発信」に設定されています。

外線に電話するときに、相手の電話番号にそのままかけるときは

手順10に進んでください。

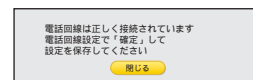
外線に電話するときに、電話番号の前に「0」または「9」を付けるときは

寮や会社、学校、団体、法人などでPBX（交換機）を使い、外線に電話するときに、電話番号の頭に「0」を付ける（0発信）、または「9」を付ける（9発信）場合のみ、次のように設定します。
0発信するとき →「0発信」を選ぶ。
9発信するとき →「9発信」を選ぶ。

ご注意

- 会社や法人などでビジネス回線を使っているときは、本機をつなげません。寮やビルの電話を管理している担当の方に「2線式一般アナログ回線」を依頼してください。通常、ファクシミリはこの回線に接続されています。
- 引っ越しなどで外線に電話する方法が変わったときは、必ず発信方法を設定し直してください。
- デジタル放送の放送局へ登録などができないときは、NTTに問い合わせて、「回線ごと非通知設定」を解除してください。

10 ▲▼で「電話線接続確認」を選んで、決定で決定する。

接続確認が始まります。確認途中で止めるときは、「中止」が選ばれていることを確認して、決定で決定してください。

確認結果が正常のときは、下の画面に変わります。

ご注意

「電話線接続確認」は、メディアレシーバーと電話回線が物理的に接続されてやり取りできるかをテストするもので、実際に電話が放送局へつながるかどうかはテストされていません。
そのため、メディアレシーバーと電話回線が接続されていても電話がつながらないことがあります。
このときは、再び手順7で電話回線の種類（「トーン」や「10pps」、「20pps」）を正しく設定し直してください。

11 「閉じる」が選ばれていることを確認して、決定で決定する。

12 ➡/▲▼で「確定」を選んで、決定で決定する。

13 戻るボタンをくり返し押して、設定画面を消す。

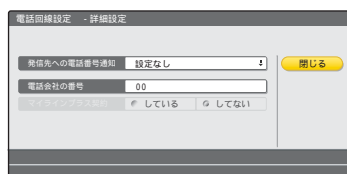
受信設定

準備11：電話回線を設定する（つづき）

電話番号の通知/非通知の設定をするには［詳細設定］

データ放送などでは、メディアレシーバーに接続した電話回線で、放送局と双方向で通信を行う場合があります。電話番号を通知しないで、放送局と通信したいときは、以下の設定を行ってください（マイラインプラスの契約をしていても設定できます）。
データ放送によって、通知しないと双方向通信できないときは、通知する設定に変更してください。

1 「電話回線を設定する」（☞228ページ）の手順1〜5を行う。

2 で「詳細設定」を選んで、決定で決定する。

3 ◀で「発信先への電話番号通知」を選んで、決定で決定する。

4 で「通知しない」、「通知する」または「設定なし」を選んで、決定で決定する。

「通知しない」：電話番号の先頭に「184」を付けて、相手先にこちらの電話番号を知らせません。
「通知する」：電話番号の先頭に「186」を付けて、相手先にこちらの電話番号を知らせます。
「設定なし」：（お買い上げ時の設定）電話番号の先頭に何も付けません。

ご注意
デジタル放送の放送局へ登録などができないときは、NTTに問い合わせて、「回線ごとの非通知設定」を解除してください。

5 ▶で「閉じる」を選んで、決定で決定する。

6 で「確定」を選んで、決定で決定する。

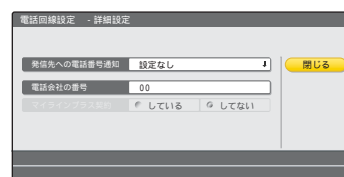
7 戻るボタンをくり返し押して、設定画面を消す。

ご注意
データ放送によっては、設定した内容が取り消されます。

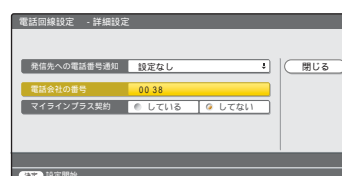
電話会社を指定したりマイラインプラスの契約をしているかどうかを設定するには［詳細設定］

お客様が登録している電話会社以外の特定の電話会社を指定して双方向通信することができます。また、マイラインプラスの契約をしているかどうかも設定できます。

1 「電話回線を設定する」（☞228ページ）の手順1〜5を行う。

2 で「詳細設定」を選んで、決定で決定する。

3 ◀/で「電話会社の番号」欄を選んで、決定で決定する。

4 リモコンの①〜⑩の数字ボタンで変更したい電話会社の番号の下2〜5桁を入力して、決定で決定する。

例：識別番号が「0038」のとき

ちょっと一言
◀を押すと、入力した数値を取り消せます。

ご注意
電話会社の番号を間違えると通信ができなくなりますので、電話会社からの請求書などで確認してください。

5 /←/→で（マイラインプラス契約）「している」または「していない」を選んで、決定で決定する。

6 →で「閉じる」を選んで、決定で決定する。

7 で「確定」を選んで、決定で決定する。

8 戻るボタンをくり返し押して、設定画面を消す。

ご注意

データ放送によっては、マイラインプラスの契約どおりに通信できないことがあります。

データ放送のためのネットワークを設定する

データ放送との通信は、メディアレシーバーを電話回線につなぐとできますが、プロバイダーを利用したネットワークを設定すれば、データ放送をさらに快適に楽しめます。
メディアレシーバー後面のどの端子に接続したかによって、設定が変わります。

電話回線端子にのみ接続したときは（☞203ページのA、B、C）

「データ放送の接続方法を選ぶ」（☞232ページ）で「ダイヤルアップ」を選ぶ。

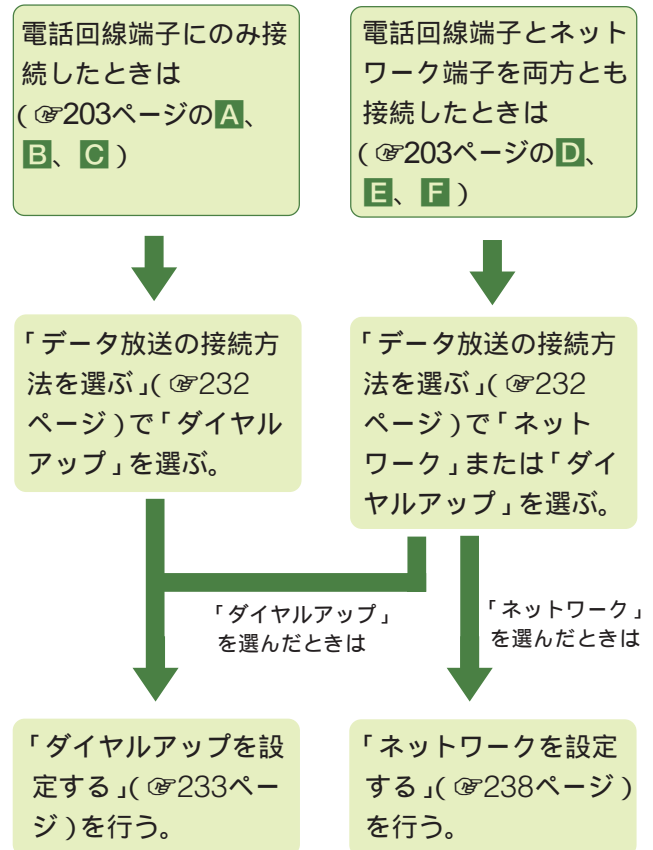
電話回線端子とネットワーク端子を両方とも接続したときは（☞203ページのD、E、F）

「データ放送の接続方法を選ぶ」（☞232ページ）で「ネットワーク」または「ダイヤルアップ」を選ぶ。

「ダイヤルアップ」を選んだときは

「ダイヤルアップを設定する」（☞233ページ）を行う。

「ネットワーク」を選んだときは

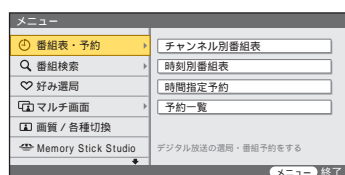
「ネットワークを設定する」（☞238ページ）を行う。

受信設定

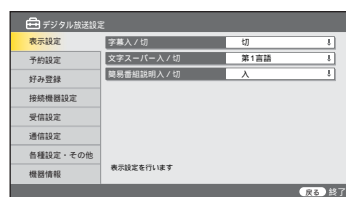
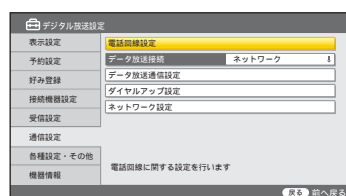
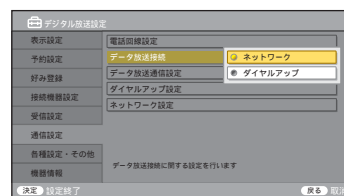
次のページにつづく

データ放送のためのネットワークを設定する（つづき）

データ放送の接続方法を選ぶ

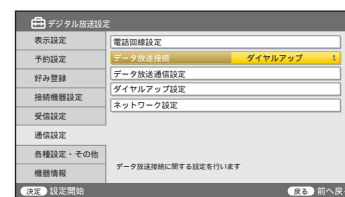
データ放送の通信のためにメディアレシーバー後面のネットワーク端子を使うか、電話回線端子を使うかを設定します。

1 メニューボタンを押す。

2 で「セットアップ」を選んで、決定で決定する。

3 で「デジタル放送設定」を選んで、決定で決定する。

4 で「通信設定」を選んで、決定で決定する。

5 で「データ放送接続」を選んで、決定で決定する。

6 で「ネットワーク」または「ダイヤルアップ」を選んで、決定で決定する。

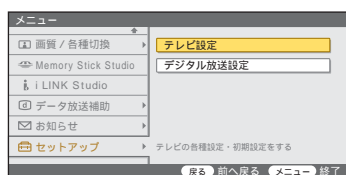
「ネットワーク」*（お買上げ時の設定）：
メディアレシーバー後面のネットワーク端子にADSLモデムやルーターをつないでいるときに選びます。

＊ 一部の放送サービスでは、電話回線の接続も必要になります。

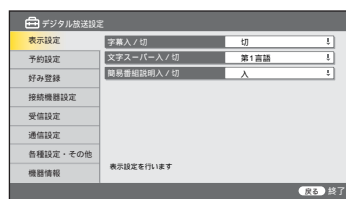
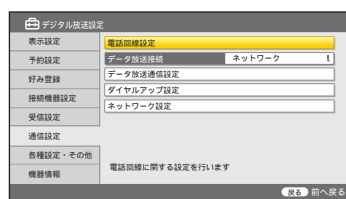
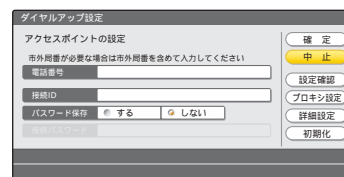
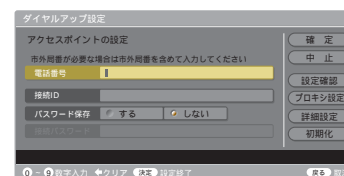
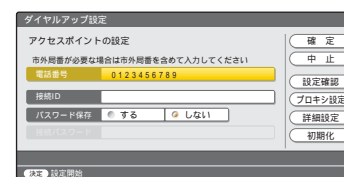
「ダイヤルアップ」：メディアレシーバー後面の電話回線端子を電話コンセントにつないでいるときに選びます。

7 戻るボタンをくり返し押して、設定画面を消す。

ダイヤルアップを設定する

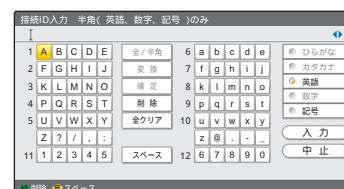
契約しているインターネットプロバイダーを通して通信する場合には、設定する必要があります。
インターネットプロバイダーからの資料などを参考に設定してください。

1 メニューボタンを押す。

2 で「セットアップ」を選んで、決定で決定する。

3 で「デジタル放送設定」を選んで、決定で決定する。

4 で「通信設定」を選んで、決定で決定する。

5 で「ダイヤルアップ設定」を選んで、決定で決定する。

6 ←で「電話番号」欄を選んで、決定で決定する。

7 ①～⑩までの数字ボタンでアクセスポイントの電話番号を入力して、決定で決定する。

ちょっと一言
←を押すと、入力した数値を取り消します。

8 で「接続ID」欄を選んで、決定で決定する。

ソフトウェアキーボード（☞98ページ）が表示されます。

9 ソフトウェアキーボードで接続ID名を入力する。

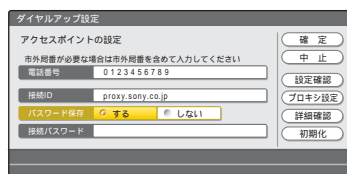
入力のしかたについては、「文字を入力する［ソフトウェアキーボード］」（☞98ページ）をご覧ください。

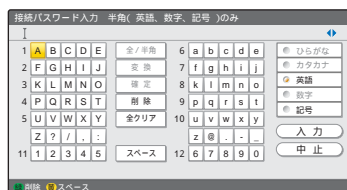
データ放送のためのネットワークを設定する（つづき）

10 **/▲/▼/◀/▶で「入力」を選んで、決定で決定する。**

入力した接続IDが表示されます。
文字数が多くてすべて表示できないときは、接続IDのあとに「…」を表示します。

11 **/◀/▶で（パスワード保存を）「する」または「しない」を選んで、決定で決定する。**

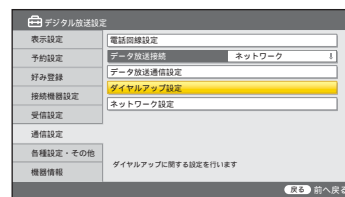
「する」：パスワードを保存します。
「しない」：接続のたびにパスワードを入力する必要があります。「しない」を選んだときは手順15に進んでください。

12 **で「接続パスワード」欄を選んで、決定で決定する。**

ソフトウェアキーボード（☞98ページ）が表示されます。

13 **ソフトウェアキーボードで接続パスワードを入力する。**

入力のしかたについては、「文字を入力する［ソフトウェアキーボード］」（☞98ページ）をご覧ください。

14 **/▲/▼/◀/▶で「入力」を選んで、決定で決定する。**

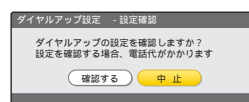
入力したパスワードは、＊マークで表示されます。
文字数が多くてすべて表示できないときは、パスワードのあとに「…」を表示します。

15 **設定内容を確認して、▶で「確定」を選んで、決定で決定する。**

16 **戻るボタンをくり返し押して、設定画面を消す。**

設定したアクセスポイントに接続できるか確認するには

実際に接続をしてみるので、電話料金がかかります。

1 **「ダイヤルアップを設定する」（☞233ページ）の手順1～5を行う。**

2 **で「設定確認」を選んで、決定で決定する。**

3 **←で「確認する」を選んで、〔決定〕で決定する。**

確認しないときは「中止」を選んでください。

ご注意

設定確認するには電話料金がかかります。

「ダイヤルアップを設定する」（☞234ページ）の手順11で（パスワード保存を）「する」に設定したときは、「設定を確認中です」と表示されます。手順8に進んでください。

「ダイヤルアップを設定する」（☞234ページ）の手順11で（パスワード保存を）「しない」に設定したときは、手順4に進んでください。

4 **パスワード欄が選ばれていることを確認して、〔決定〕で決定する。**

ソフトウェアキーボード（☞98ページ）が表示されます。

5 **ソフトウェアキーボードで接続パスワードを入力する。**

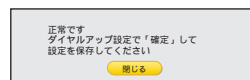
入力のしかたについては、「文字を入力する［ソフトウェアキーボード］」（☞98ページ）をご覧ください。

6 **〔↕〕/↑/↓/←/→で「入力」を選んで、〔決定〕で決定する。**

入力したパスワードは＊マークで表示されます。

文字数が多くてすべて表示できないときは、パスワードのあとに「…」を表示します。

7 **〔↕〕で「確定」を選んで、〔決定〕で決定する。**

正常に接続できると下の画面に変わります。

接続や設定が正しくないときは

診断結果画面にエラー内容や対処方法が表示されます。エラー内容を確認して、接続または設定をし直してください。

8 **結果内容と「閉じる」が選ばれていることを確認して、〔決定〕で決定する。**

9 **設定内容を確認して、〔↕〕で「確定」を選んで、〔決定〕で決定する。**

10 **戻るボタンをくり返し押して、設定画面を消す。**

接続確認を途中で止めるには

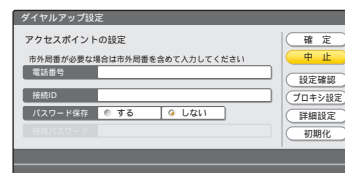
手順7で「設定を確認中です」という表示がでているあいだに「中止」を選ぶ。

お買い上げ時の設定に戻すには

「ダイヤルアップ設定」のすべての項目をお買い上げ時の設定に戻せます。

1 **「ダイヤルアップを設定する」（☞233ページ）の手順1～5を行う。**

2 **〔↕〕で「初期化」を選んで、〔決定〕で決定する。**

すべての項目がお買い上げ時の設定に戻ります。

3 **設定内容を確認して、〔↕〕で「確定」を選んで、〔決定〕で決定する。**

初期化しないときは、「中止」を選んでください。設定画面が消えます。

4 **戻るボタンをくり返し押して、設定画面を消す。**

受信設定

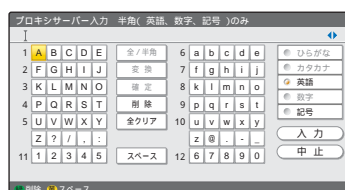
データ放送のためのネットワークを設定する（つづき）

インターネットプロバイダーからプロキシサーバーの指定があるときは

1 「ダイヤルアップを設定する」（☞233ページ）の手順1〜5を行う。

2 で「プロキシ設定」を選んで、[決定]で決定する。

3 ←で（プロキシサーバー使用）「する」を選んで、[決定]で決定する。

4 でプロキシサーバー欄を選んで、[決定]で決定する。

ソフトウェアキーボード（☞98ページ）が表示されます。

5 ソフトウェアキーボードでプロキシサーバー名を入力する。

入力のしかたについては、「文字を入力する［ソフトウェアキーボード］」（☞98ページ）をご覧ください。

6 /↑/↓/←/→で「入力」を選んで、[決定]で決定する。

入力したプロキシサーバー名が表示されます。文字数が多くてすべて表示できないときは、プロキシサーバー名のあとに「…」を表示します。

7 で「ポート」欄を選んで、[決定]で決定する。

8 リモコンの①〜⑩ボタンでポート番号を入力して、[決定]で決定する。

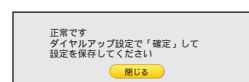
ちょっと一言
←を押すと、入力した数値を取り消せます。

9 →で「閉じる」を選んで、[決定]で決定する。

「ダイヤルアップ設定」画面に戻ります。

10 設定内容を確認して、で「確定」を選んで、[決定]で決定する。

11 必要であれば設定確認を行う。

詳しくは、「設定したアクセスポイントに接続できるか確認するには」（☞234ページ）をご覧ください。
確認結果内容を確認して、「閉じる」を[決定]で決定してください。

12 で「確定」を選んで、[決定]で決定する。

13 戻るボタンをくり返し押して、設定画面を消す。

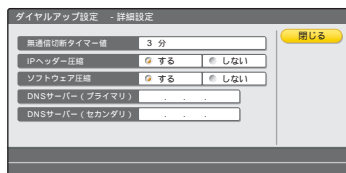
ちょっと一言
ダイヤルアップ設定でのプロキシサーバーの設定は、ネットワーク設定でのプロキシサーバーの設定とは別に管理されます。

さらに細かい設定を行うには

必要に応じて詳細設定をしてください。

1 **「ダイヤルアップを設定する」（☞233ページ）の手順1～5を行う。**

（☞233ページ）

2 **で「詳細設定」を選んで、決定で決定する。**

3 **◀/で設定する項目を選ぶ。**

項目	説明
無通信切断タイマー値	通信の無い状態で何分たつと通信を切断するかを設定する。
IPヘッダー圧縮	**「する」**（お買い上げ時の設定）：IPヘッダーを圧縮して転送効率を高くする。 **「しない」**：IPヘッダーを圧縮しない。
ソフトウェア圧縮	**「する」**（お買い上げ時の設定）：ソフトウェアによるデータを圧縮して転送効率を高くする。 **「しない」**：ソフトウェアによるデータを圧縮しない。
DNSサーバー（プライマリ）（セカンダリ）	ドメイン名をIPアドレスに置き換える機能を持つサーバーで、IPアドレスで特定されている（例：192.168.xxx.xxx）。

＊ DNSサーバーは、「ネームサーバー」、「プライマリDNSサーバー」、「プライマリネームサーバー」、「ドメインネームサーバー」ともいいます。

4 **設定する。**

「無通信切断タイマー値」を設定するときは

で項目を選んで、決定で決定する。
1分～20分の間で設定できます。

「IPヘッダー圧縮」、「ソフトウェア圧縮」を設定するときは

/◀/▶で項目を選んで、決定で決定する。

「DNSサーバー（プライマリ）」、「DNSサーバー（セカンダリ）」を設定するときは

1. で項目を選んで、決定で決定する。
2. ①～⑩の数字ボタンまたはで3桁の数値を入力して、決定で決定する。
3. ▶で右の枠に移動して、決定で決定する。
4. 手順2、3をくり返して、4つの枠に入力する。

ちょっと一言
◀を押すと、入力した数値を取り消せます。

「DNSサーバーアドレス（プライマリまたはセカンダリ）が正しくありません　修正しないで閉じると無効になります」と表示されたときは
入力した設定値が範囲外（256以上）です。設定値を確認して、やり直してください。

5 **▶/で「閉じる」を選んで、決定で決定する。**

6 **必要であれば設定確認を行う。**
詳しくは、「設定したアクセスポイントに接続できるか確認するには」（☞234ページ）をご覧ください。
確認結果内容を確認して、「閉じる」を決定で決定してください。

7 **で「確定」を選んで、決定で決定する。**

8 **戻るボタンをくり返し押して、設定画面を消す。**

受信設定

次のページにつづく

データ放送のためのネットワークを設定する（つづき）

ネットワークを設定する

ネットワークの設定項目について

設定する項目は、状況によって異なります。プロバイダーからの資料などを参考に設定してください。

チェックシート

項目	入力する内容
IPアドレス取得方法	DHCPを利用／固定IPアドレスを指定
IPアドレス	. . .
サブネットマスク	. . .
デフォルトゲートウェイ	. . .
DNS サーバー（プライマリ）	. . .
DNS サーバー（セカンダリ）	. . .
プロキシサーバー	
ポート	

ちょっと一言

- 他人に見られることがないように、チェックシートを複写したうえで各項目を記入し、厳重に保管することをおすすめします。
- 複写した紙に記入しておくと、設定を行うときに便利です。

ご注意

- チェックシートに書き込む内容は、お客さまの個人情報です。取り扱いには充分ご注意ください。
- チェックシートは、将来、再度設定し直さなければならないときなどに活用できますので、必ずご記入ください。

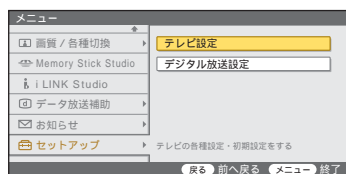
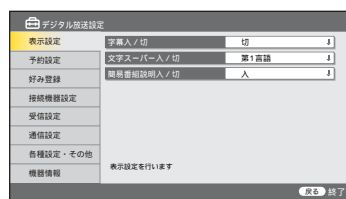
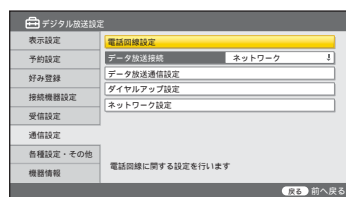
項目	説明
IPアドレス取得方法	ネットワークの接続に必要な設定値を自動的に割り当てるか手動で入力するかを選びます。 **DHCPを利用**（お買い上げ時の設定）： ルーターのDHCPサーバー機能をお使いのときに設定します。IPアドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイ、DNSサーバーの設定がいらず、便利です。 **固定IPアドレスを指定**： DHCPサーバー機能を使わないときに手動で値を設定します。
IPアドレス	ネットワークに接続する機器に割り当てられる固有の番号です。通常は、3桁の数字4組を点で区切った形になっています（例：192.168.xxx.xxx）。
サブネットマスク	ネットワークを区切るために、ネットワークに接続する機器に割り当てるIPアドレスの範囲を限定するしくみです（例：255.255.xxx.xxx）。
デフォルトゲートウェイ	所属するネットワーク外の機器へアクセスするときに使用する「出入り口」の代表となるコンピューターやルーターなどを指定します。IPアドレスで特定されています。
DNS サーバー*（プライマリ） DNS サーバー*（セカンダリ）	ドメイン名をIPアドレスに置き換える機能を持つサーバーで、IPアドレスで特定されています（例：192.168.xxx.xxx）。
プロキシサーバー	お使いのプロバイダーから指定がある場合は設定してください。ブラウザーの代わりに目的のサーバーにアクセスし、ファイヤーウォール（外部からの不正侵入防護壁）を越えてデータを送る中継サーバーのことです。同じデータは高速で転送します（例：proxy.xxx.xxx.xxx）。
ポート	プロキシ用のポート番号です。お使いのプロバイダーから指定がある場合は設定してください（例：xxxx）。

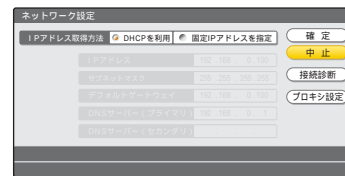
* DNSサーバーは、「ネームサーバー」、「プライマリDNSサーバー」、「プライマリネームサーバー」、「ドメインネームサーバー」ともいいます。

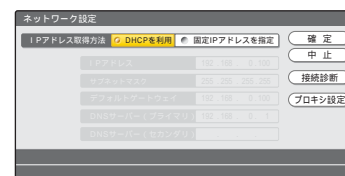
ここではネットワークの設定を自動（DHCP）で割り当てる操作を説明します。
本機をつないだルーターや一部のプロバイダーによっては、ネットワークに必要なIPアドレスなどの設定値を自動的に割り当てます。この方法をDHCP（Dynamic Host Configuration Protocol）といいます。

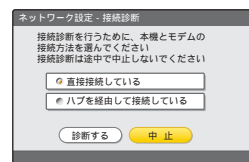
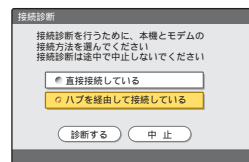
ちょっと一言
お使いのルーターの使用状況にあわせた値やプロバイダーが指定する値があるときは、「ネットワークの設定を手動で入力するときは」（☞240ページ）をご覧ください。

1 メニューボタンを押す。

2 で「セットアップ」を選んで、決定で決定する。

3 で「デジタル放送設定」を選んで、決定で決定する。

4 で「通信設定」を選んで、決定で決定する。

5 で「ネットワーク設定」を選んで、決定で決定する。

6 ◀/で「DHCPを利用」を選んで、決定で決定する。

お買い上げ時の設定は、「DHCPを利用」が選ばれています。
プロキシサーバーの設定があるときは、「プロバイダーからプロキシサーバーの指定があるときは」（☞241ページ）をご覧ください。

7 ▶/で「接続診断」を選んで、決定で決定する。

「接続診断」画面が表示されます。

8 で本機とモデムの接続方法を選んで、決定で決定する。

本機のネットワーク端子に直接モデムをつないでいるときは

「直接接続している」を選ぶ。

本機のネットワーク端子にルーターを経由してモデムをつないでいるときは

「ハブを経由して接続している」を選ぶ。

次のページにつづく

データ放送のためのネットワークを設定する（つづき）

9 **で「診断する」を選んで、で決定する。**

「接続を確認中です」とメッセージが表示され、接続診断が始まります。
診断が終わると、診断結果が表示されます。
設定と接続が正しくされているか確認してください。

接続や設定が正しくないときは

診断結果画面にエラー内容や対処方法が表示されます。エラー内容を確認して、接続または設定をし直してください。

10 **「閉じる」が選ばれていることを確認して、で決定する。**

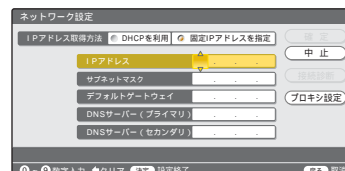
11 **で「確定」を選んで、で決定する。**

12 **戻るボタンをくり返し押して、設定画面を消す。**

ネットワークの設定を手動で入力するときは

1 **「ネットワークを設定する」（☞239ページ）の手順1～5を行う。**

2 **◀で「固定IPアドレスを指定」を選んで、で決定する。**

3 **で手動入力する項目を選んで、で決定する。**

4 **①～⑩の数字ボタンまたはで3桁の数値を入力して、で決定する。**

ちょっと一言
◀を押すと、入力した数値を取り消せます。

5 **▶で右の枠に移動して、で決定する。**

6 **手順4、5をくり返して、4つの枠に入力する。**

「～が入力範囲を超えています」と表示されたときは
入力した設定値が範囲外（256以上）です。設定値を確認して、やり直してください。

7 **他の項目を設定するときは、手順3～6をくり返す。**

8 **必要項目の入力が終わったら、▶/で「接続診断」を選んで、で決定する。**

9 **「ネットワークを設定する」（☞239ページ）の手順8～12を行う。**

プロバイダーからプロキシサーバーの指定があるときは

1 「ネットワークを設定する」（☞239ページ）の手順1～5を行う。

2 で「プロキシ設定」を選んで、決定で決定する。

3 ←で（プロキシサーバー使用）「する」を選んで、決定で決定する。

4 で「プロキシサーバー」を選んで、決定で決定する。
ソフトウェアキーボード（☞98ページ）が表示されます。

5 ソフトウェアキーボードでプロキシサーバー名を入力する。
入力のしかたについては、「文字を入力する［ソフトウェアキーボード］」（☞98ページ）をご覧ください。

6 /↑/↓/←/→で「入力」を選んで、決定で決定する。
入力したプロキシサーバー名が表示されます。

7 で「ポート」欄を選んで、決定で決定する。

8 ①～⑩の数字ボタンでポート番号を入力して、決定で決定する。

ちょっと一言
←を押すと、入力した数値を取り消せます。

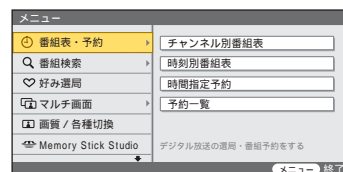
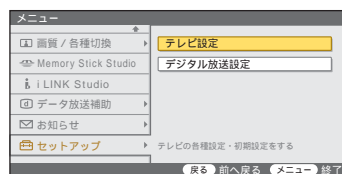
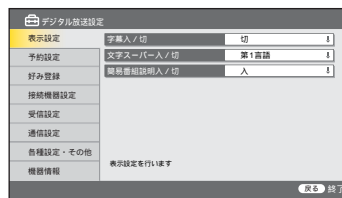
9 →で「閉じる」を選んで、決定で決定する。

10 「ネットワークを設定する」（☞239ページ）の手順7～12を行う。

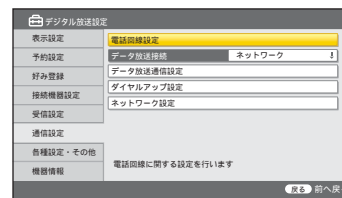
ちょっと一言
ネットワーク設定でのプロキシサーバーの設定は、ダイヤルアップ設定でのプロキシサーバーの設定とは別に管理されます。

データ放送の通信接続を自動にする［データ放送通信設定］

地上デジタルでデータ放送のコンテンツに入るときなど、確認のダイアログが表示されます。これらの確認表示を出さずに、本機が通信の接続を自動的に行うよう設定できます。

1 メニューボタンを押す。

2 で「セットアップ」を選んで、決定で決定する。

3 で「デジタル放送設定」を選んで、決定で決定する。

4 で「通信設定」を選んで、決定で決定する。

5 で「データ放送通信設定」を選んで、決定で決定する。

次のページにつづく

データ放送のためのネットワークを設定する（つづき）

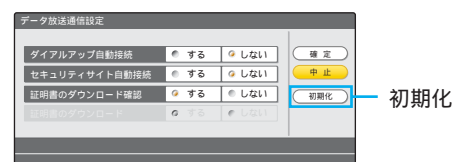
6 **/◀/▶で「する」または「しない」を選んで、決定で決定する。**

設定	説明
ダイヤルアップ自動接続	**「する」**：放送用プロバイダーやインターネットサービスプロバイダーにダイヤルアップで接続するとき、ダイヤルアップ接続の確認ダイアログを表示しないで、自動接続します。 **「しない」**（お買上げ時の設定）：ダイヤルアップ接続の確認ダイアログを表示します。
セキュリティサイト自動接続	**「する」**：セキュリティ保護されたサイトを表示しようとしたときや、セキュリティ保護されていないサイトへ移るとき、確認ダイアログを表示しないで、自動接続します。 **「しない」**（お買上げ時の設定）：セキュリティサイト表示の確認ダイアログを表示します。
証明書のダウンロード確認	**「する」**（お買上げ時の設定）：放送局から新しい証明書が発行されたとき、ダウンロードの確認ダイアログを表示します。 **「しない」**：ダウンロードの確認ダイアログを表示しません。
証明書のダウンロード	**「する」**（お買上げ時の設定）：放送局から発行された新しい証明書を自動的にダウンロードします。 **「しない」**：放送局から新しい証明書が発行されても、ダウンロードしません。

7 **設定内容を確認して、▶で「確定」を選んで、決定で決定する。**

8 **戻るボタンをくり返し押して、設定画面を消す。**

お買上げ時の設定に戻すときは

1 **「データ放送の通信接続を自動にする［データ放送通信設定］」（☞241ページ）の手順1〜5を行う。**

2 **で「初期化」を選んで、決定で決定する。**

3 **設定内容を確認して、で「確定」を選んで、決定で決定する。**

初期化しないときは、「中止」を選んでください。

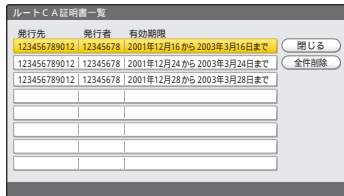
4 **戻るボタンをくり返し押して、設定画面を消す。**

セキュリティ証明書を見るには

1 **「データ放送の通信接続を自動にする［データ放送通信設定］」（☞241ページ）の手順1～3を行う。**

2 **で「機器情報」を選んで、決定で決定する。**

3 **で「ルートCA証明書一覧」または「通信先証明書一覧」を選んで、決定で決定する。**

ちょっと一言
- 通信先証明書はセキュリティサイトを表示しているときに見ることができます。セキュリティサイトを表示しているときは画面右下にが表示されます。
- セキュリティサイトを表示中でも、証明書取得中は通信先証明書を表示できないことがあります。

4 **で見たい証明書を選んで、決定で決定する。**
「ルートCA証明書一覧」を選んだときは、サブメニューが表示されます。「通信先証明書一覧」を選んだときは、サブメニューは表示されず、手順6になります。

5 **で「詳細表示」を選んで、決定で決定する。**

6 **詳細内容を確認し「閉じる」を選んで、決定で決定する。**

7 **戻るボタンをくり返し押して、設定画面を消す。**

「ルートCA証明書一覧」から証明書を削除するには

手順5で「削除」を選ぶ。
選んでいる証明書が削除されます。

「ルートCA証明書一覧」からすべての証明書を削除するには

手順4で、➡で「全件削除」を選んで、決定で決定する。
「証明書一覧」に表示しているすべての証明書が削除されます。

受信設定

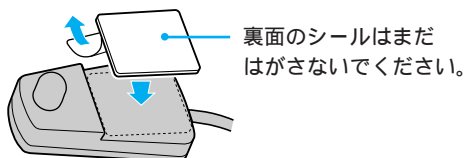
AVマウスを設定する

メディアレシーバー後面のデジタル放送/ビデオ出力端子に録画機器をつないで、デジタル放送を予約録画するときは（☞63、65、68、70ページ）、AVマウスをつないで、設定しておく必要があります。
AVマウスは、本機と連動して録画機器で予約録画できるように信号を出します。そのため、AVマウスから発信される信号を、お手持ちのビデオやDVDレコーダー、ハードディスクレコーダーなどのリモコンコードに合わせて設定します。

ご注意

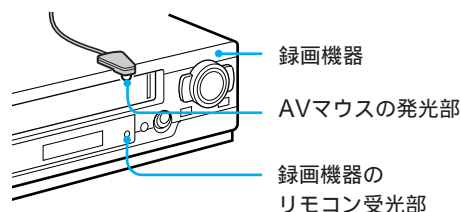
- 次のときはAVマウスは使えないため、取り付ける必要はありません。お手持ちの録画機器の予約機能を使って予約録画してください（☞61ページ）。
  - ビデオ一体型テレビ（テレビデオやビデオコンボなど）のとき
  - AVマウスのリモコンコードで録画機器が操作できないとき（メーカーによっては、本機で操作できないリモコン信号が採用されているためです。）
  - 電源スイッチが入/切の2つの状態切換でなく、入/スタンバイ/切など3つの状態切換になる録画機器のとき
- AVマウスが使えないときは、はずしておいてください。
- 動作テストに1度成功しても、リモコンの受光感度の低い録画機器によっては、AVマウスでの予約録画（☞63、65、68、70ページ）がうまくいかないことがあります。詳しくは、録画機器の取扱説明書をご覧ください。

1 AVマウスを準備する。

1 AVマウスに付属のシールを貼る。
AVマウスに付属のシールのかわりに、市販の両面テープも使えます。

2 AVマウスをメディアレシーバー後面のAVマウス端子につなぐ。
接続のしかたについて詳しくは、「他機との接続」（☞261ページ）をご覧ください。

3 AVマウスの取り付け予定位置を決める。
録画機器の取扱説明書で録画機器のリモコン受光部位置を確認し、受光部の真上にAVマウスを置きます。

ご注意

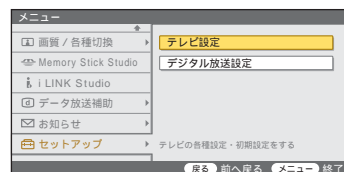
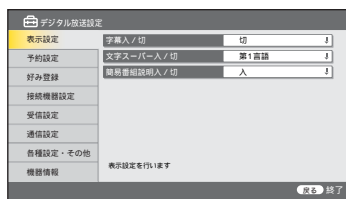
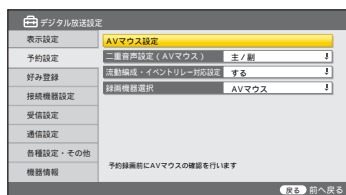
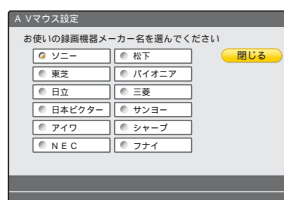
- AVマウス裏面のシールは、まだはがさないでください。
- 取り付け位置によっては、動作しにくい録画機器があります。できるだけ受光部に近い位置に取り付けてください。

ちょっと一言

- AVマウスが録画機器に届かないときは、別売りの接続コード RK-G131（3m）で延長してください。
- ソニー製録画機器のリモコン受光部にはⓇマークが付いています。

4 録画機器の電源を切っておく。

2 リモコンコードを設定する。

1 リモコンのメニューボタンを押す。

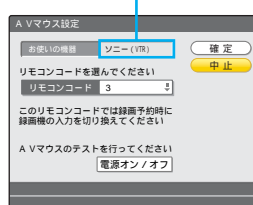
2 ⬍で「セットアップ」を選んで、決定で決定する。

3 [↕]で「デジタル放送設定」を選んで、[決定]で決定する。

4 [↕]で「予約設定」を選んで、[決定]で決定する。

5 [↕]で「AVマウス設定」を選んで、[決定]で決定する。

6 [↕]/←/→でお使いの録画機器のメーカー名を選んで、[決定]で決定する。

「ソニー」または「松下」、「東芝」以外のメーカーを選んだときは、手順2-**8**に進んでください。

例：ソニーを選んだとき

7 [↕]/←/→でお使いの録画機器の種類を選んで、[決定]で決定する。

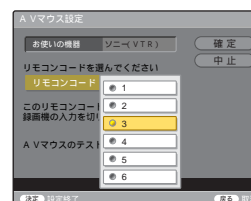
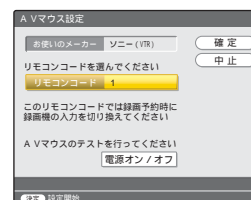
手順2-**6**で「ソニー」または「松下」、「東芝」を選んだときのみ設定します。

例：ソニー製のビデオを選んだとき

録画機器の種類

項目	説明
VTR	ビデオ
DVD・VTR*1	DVD一体型ビデオ
HDD*1	ハードディスクレコーダー
HDD・DVD	ハードディスクレコーダー・DVDレコーダー複合機*2
DVD（1）*1	DVDレコーダー（ハードディスクレコーダー・DVDレコーダー複合機*2）
DVD（2）*1	DVDレコーダー（ハードディスクレコーダー・DVDレコーダー複合機*2）
BD*1	ブルーレイディスクレコーダー

*1 手順2-**6**で「ソニー」を選んだときのみ表示されます。

*2 ハードディスクレコーダー・DVDレコーダー複合機を設定するとき、「HDD・DVD」で設定しても操作できないときは、「DVD（1）」または「DVD（2）」で設定してください。

8 ←で「リモコンコード」欄を選んで、[決定]で決定する。

9 [↕]でリモコンコードを選んで、[決定]で決定する。

「ソニー（VTR）」を登録するときと、ソニー以外のメーカーの録画機器を登録するときは、手順4に進んでください。

ちょっと一言

お買い上げ時は、ソニー（VTR）の3を操作できるように設定されています。

受信設定

次のページにつづく

AVマウスを設定する（つづき）

リモコンコード表

メーカー	リモコンコード
ソニー（VTR）	1　2　3*1 4　5　6
ソニー（DVD・VTR）	1*1
ソニー（HDD）	1*1　2　3
ソニー（HDD・DVD）	1*1
ソニー（DVD（1））	1*1　2　3
ソニー（DVD（2））	1*1　2　3
ソニー（BD）	1*1　2　3
松下（VTR）	1*1　2　3　4　5
松下（HDD・DVD）	1*1　2　3
東芝（VTR）	1*1　2　3　4
東芝（HDD・DVD）	1*1　2
パイオニア（HDD・DVD）	1*1　2　3
日立（VTR）	1*1　2　3
三菱（VTR）	1*1　2　3　4
日本ビクター（VTR）	1*1　2　3　4　5　6
サンヨー（VTR）	1*1　2　3　4
アイワ（VTR）*2	1*1　2　3　4
シャープ（VTR）	1*1　2　3
NEC（VTR）	1*1　2　3　4
フナイ（VTR）	1*1

*1 お買い上げ時の設定。

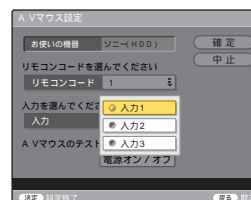
*2 アイワ（VTR）のリモコンコードを設定しても操作できないときは、ソニー（VTR）のリモコンコードで登録してください。

ご注意

お使いの録画機器によってはリモコンコードが設定できないことがあります。

3 録画機器の入力を設定する。

手順2-6で「ソニー」を選び、手順2-7で「HDD」または「HDD・DVD」、「DVD（1）」、「BD」を選んだときのみ設定します。

1 で「入力」を選んで、決定で決定する。

2 で「入力1」～「入力3」*3のいずれかを選んで、決定で決定する。

本機をつないだ入力を選んでください。予約録画開始時に自動的に入力も切り換わります。

*3 手順2-7で「HDD・DVD」または「BD」を選んだときは、「入力3」は表示されません。

4 動作テストをする。

1 で「電源オン／オフ」を選んで、決定で決定する。

AVマウスの動作テストが始まります。

録画機器の電源が自動的に入れば、テストは完了です。手順4-3に進んでください。電源が入らないときは、手順1-3でAVマウスの位置を再確認してから、もう1度手順4-1を行ってください。

2 ビデオにリモコンコードが2個以上あるときは、手順2-8～4-1をくり返して、録画機器を操作できるまで、リモコンコードの設定を変えてテストする。

ちょっと一言

手順2-9で選んだリモコンコードと録画機器のリモコンコードを合わせてください。そのリモコンコードで操作できないときは、本機と録画機器のリモコンコードを変えてください。本機と録画機器のリモコンコードが異なっていても、操作できる場合があります。

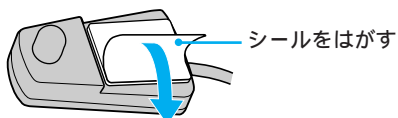
3 「電源オン／オフ」が選ばれていることを確認して、決定で決定する。

録画機器の電源が切れます。

4 ➡で「確定」を選んで、決定で決定する。

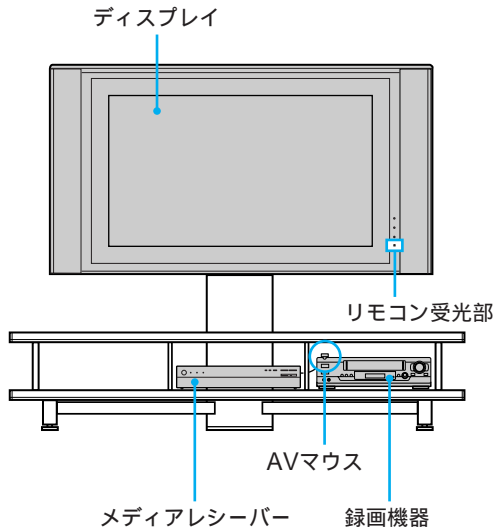
5 戻るボタンをくり返し押して、設定画面を消す。

5 AVマウスを固定する。

1 **動作テストが終わったら、AVマウスの裏面のシールをはがす。**

2 **手順1-3で決めた取り付け予定位置にAVマウスを固定する。**

無料番組などで予約録画できる（☞63、65、68、70ページ）ことを、もう1度確かめてから、使うことをおすすめします。

ご注意

録画機器にほこりが付いていると、きちんと固定できません。録画機器のほこりを取り除いてからAVマウスを固定してください。

ご注意

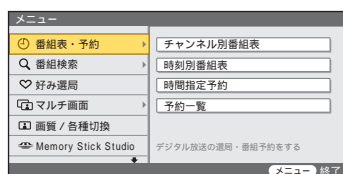
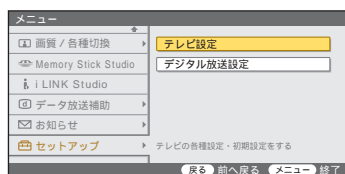
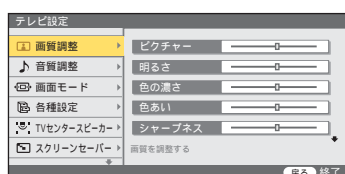
複合機器をつないでいるときは、予約録画する前に、複合機器側で録画する機器を選んでおいてください。

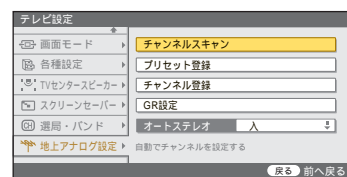
ワンタッチ選局できるチャンネルを変更する

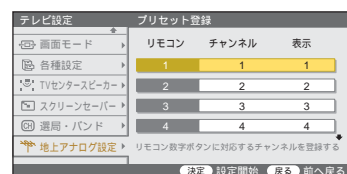
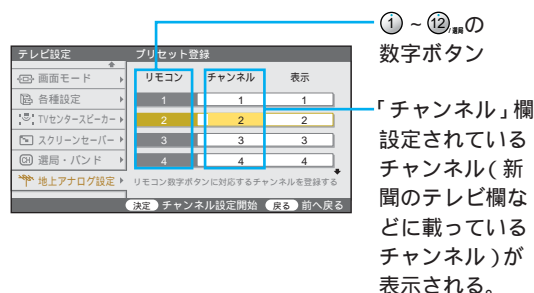
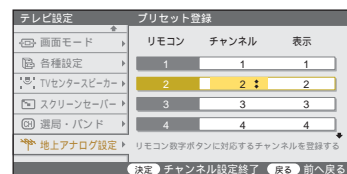
ワンタッチ選局（☞20、22、26ページ）をしたときに切り換わるチャンネルを、放送（地上アナログ、地上デジタル、BSデジタル、110度CSデジタル）ごとに変更できます。
地上アナログと地上デジタルは、あらかじめ自動設定をしておいてください（☞217、219ページ）。

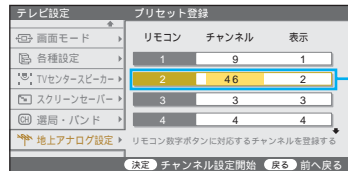
地上アナログのチャンネルを変更する

①～⑫の数字ボタンに登録されたチャンネルを変えたり、表示を書き換えたりできます。

1 **メニューボタンを押す。**

2 **で「セットアップ」を選んで、で決定する。**

3 **で「テレビ設定」を選んで、で決定する。**

4 **で「地上アナログ設定」を選んで、で決定する。**

5 **で「プリセット登録」を選んで、で決定する。**

①～⑫の数字ボタンに登録されたチャンネルとチャンネル表示が一覧表示されます。

6 **で変更したいリモコンの数字ボタンを選んで、で決定する。**

7 **「チャンネル」欄が選ばれていることを確認して、で決定する。**

8 でチャンネルを変更して、決定で決定する。

放送のあるチャンネルのなかから選べます。①〜⑫の数字ボタンを押したとき、ここで選んだチャンネルに切り換わります。

例：②を押して46チャンネルを見たいときは、ここを「46」にする。

9 戻るボタンをくり返し押して、設定画面を消す。

チャンネル表示を書き換えるには

画面に出るチャンネル表示は、新聞のテレビ欄などに載っているチャンネルになっています。これを、好きなチャンネル番号などに書き換えることができます。

1 「地上アナログのチャンネルを変更する」（☞248ページ）の手順1〜6を行う。

2 ➡で「表示」欄を選んで、決定で決定する。

3 で表示を変更して、決定で決定する。

4 戻るボタンをくり返し押して、設定画面を消す。

ご注意

チャンネル表示を書き換えたときは、リモコンの①〜⑫の数字ボタンによるワンタッチ選局時にのみ反映されます。チャンネル＋/－ボタンで選局するときには反映されませんので、ご注意ください。

ケーブルテレビの地上アナログのチャンネルを設定するには

ケーブルテレビ放送会社との受信契約が必要です。なお、ケーブルテレビを受信できない地域もあります。本機では、C13〜C35までの地上アナログのケーブルテレビチャンネルを受信できます。

詳しくは、お近くのケーブルテレビ放送会社にお問い合わせください。

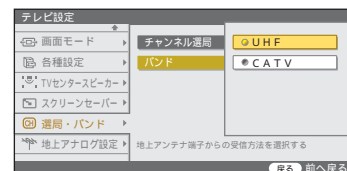
ケーブルテレビの地上デジタルのチャンネルを設定するときは☞214ページをご覧ください。

1 メニューボタンを押して、メニューを出す。

2 で「セットアップ」を選んで、決定で決定する。

3 で「テレビ設定」を選んで、決定で決定する。

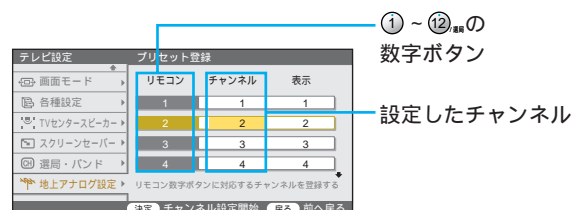
4 で「選局・バンド」を選んで、決定で決定する。

5 で「バンド」を選んで、決定で決定する。

6 で「CATV」を選んで、決定で決定する。

7 戻るボタンを2回押す。

8 で「地上アナログ設定」を選んで、決定で決定する。

9 で「プリセット登録」を選んで、決定で決定する。

次のページにつづく

ワンタッチ選局できるチャンネルを変更する（つづき）

10 でケーブルテレビを映したいリモコンの数字ボタンを選んで、で決定する。

11 「チャンネル」欄が選ばれていることを確認して、で決定する。

12 でケーブルテレビのチャンネルを選んで、で決定する。

ケーブルテレビのチャンネルには、表示の前に「C」がつきます。
例：C24

13 戻るボタンをくり返し押して、設定画面を消す。

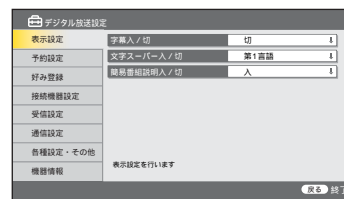
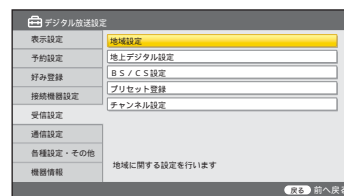
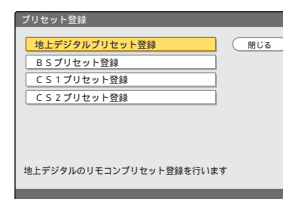
チャンネル表示を書き換えるには
手順11で「表示」欄を選ぶ。

デジタル放送のチャンネルを変更する

地上デジタル、BSデジタル、CS1デジタル、CS2デジタルそれぞれに設定できます。

1 メニューボタンを押す。

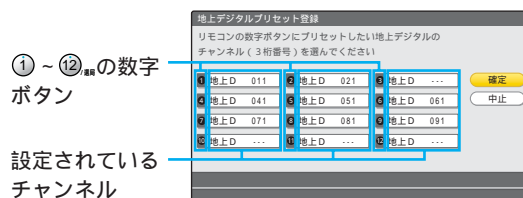
2 で「セットアップ」を選んで、で決定する。

3 で「デジタル放送設定」を選んで、で決定する。

4 で「受信設定」を選んで、で決定する。

5 で「プリセット登録」を選んで、で決定する。

6 で設定したい放送を選んで、で決定する。

①～⑫の数字ボタンに登録されたチャンネルが一覧表示されます。

例：「地上デジタルプリセット登録」を選んだとき

①～⑫の数字ボタン

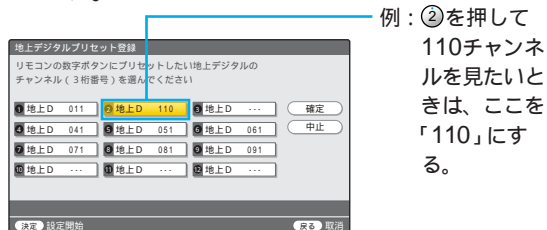
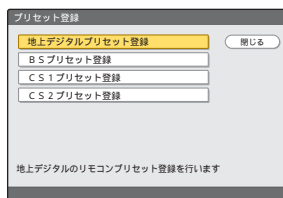
設定されているチャンネル

地上デジタルのチャンネル番号は地域によって異なります。

7 /←/→で変更したいチャンネルを選んで、で決定する。

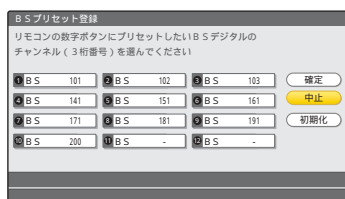
8 で3桁チャンネル番号を変更し、決定で決定する。

放送のあるチャンネルのなかから選べます。①～⑫の数字ボタンを押したとき、ここで選んだチャンネルに切り換わります。

例：②を押して110チャンネルを見たいときは、ここを「110」にする。

9 ➡で「確定」を選んで、決定で決定する。

10 戻るボタンをくり返し押して、設定画面を消す。

BSデジタル、110度CSデジタルのチャンネルをお買い上げ時の設定に戻すには

「デジタル放送のチャンネルを変更する」（☞250ページ）の手順7で、で「初期化」を選んで決定で決定したあとで、で「確定」を選んで決定で決定する。

例：BSデジタル

数字ボタンで選べるすべてのBSデジタルと110度CSデジタルのチャンネルが、お買い上げ時の設定（☞27ページ）に戻ります。

ご注意

地上デジタルのチャンネルはお買い上げ時の設定に戻せません。

チャンネル＋/－ボタンや番組表で選べるチャンネルを変更する

地上アナログ放送のチャンネル

チャンネル＋/－ボタンでチャンネルを選ぶときに、放送のないチャンネルをとばすように設定できます。

デジタル放送のチャンネル

チャンネル＋/－ボタンや番組表、他チャンネルリストで選べるチャンネルを追加したり削除したりできます。

地上アナログのチャンネル登録を変更する

1 メニューボタンを押して、メニューを出す。

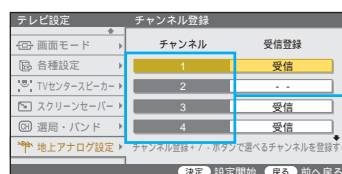
2 で「セットアップ」を選んで、決定で決定する。

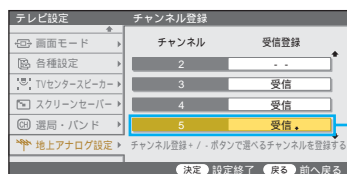
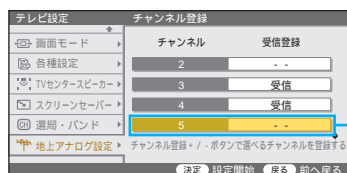
3 で「テレビ設定」を選んで、決定で決定する。

4 で「地上アナログ設定」を選んで、決定で決定する。

5 で「チャンネル登録」を選んで、決定で決定する。

次のページにつづく

受信設定

チャンネル＋/－ボタンや番組表で選べるチャンネルを変更する（つづき）

6 **でとばしたいチャンネルを選んで、決定で決定する。**

7 **で「――」を選んで、決定で決定する。**

8 **戻るボタンをくり返し押して、設定画面を消す。**

ちょっと一言

ケーブルテレビのチャンネルを設定するときは、「セットアップ」メニューで「バンド」を「CATV」に設定したあと、もう1度、チャンネルスキャンしてください（☞217ページ）。

「セットアップ」→「テレビ設定」→「選局・バンド」→「バンド」→「CATV」を選ぶ。

選びかたは☞14ページをご覧ください。

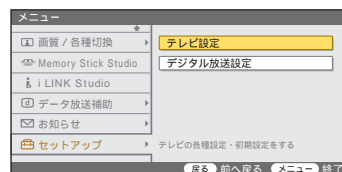
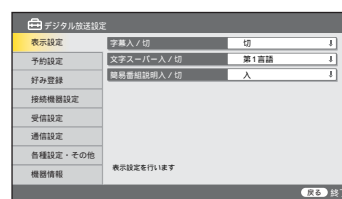
デジタル放送のチャンネル登録を変更する

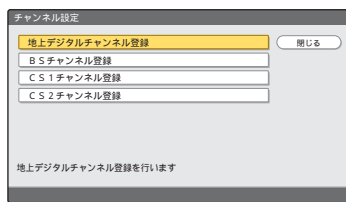
お買い上げ時は、すべてのチャンネル*を選べるように設定されています。

地上デジタルはあらかじめ自動設定（☞219ページ）しておいてください。

* 臨時放送と非対応のチャンネルを除きます。

1 **メニューボタンを押す。**

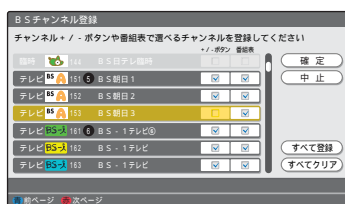
2 **で「セットアップ」を選んで、決定で決定する。**

3 **で「デジタル放送設定」を選んで、決定で決定する。**

4 **で「受信設定」を選んで、決定で決定する。**

5 ▲▼で「チャンネル設定」を選んで、決定で決定する。

6 ▲▼で設定したい放送を選んで、決定で決定する。

例：「BSチャンネル登録」を選んだとき

チャンネル情報欄
放送サービス、チャンネル番号、放送局名などが表示されます。
数字ボタンで選べるチャンネルには、数字ボタンが表示されます。

他の方法でも表示できます
番組表や他チャンネルリストを表示中にツールから
「番組表のチャンネル登録」を選ぶ。
選びかたは☞14ページをご覧ください。

7 ◀/▲▼で変更したいチャンネルを選ぶ。

8 ◀/▶で「＋/－ボタン」チェック欄または「番組表」チェック欄を選んで、決定で決定する。

✓の付いていないチャンネルを選んだときは

選んだチャンネルの□に✓が付き、リモコンのチャンネル＋/－ボタンや番組表などで選べるようになります。

✓の付いているチャンネルを選んだときは

選んだチャンネルの□から✓が消え、リモコンのチャンネル＋/－ボタンや番組表などで選べなくなります。

現在視聴できるデジタル放送のチャンネルをすべて自動登録するときは

「すべて登録」を選び、決定する。
現在視聴できるすべてのチャンネルに✓が付き、リモコンのチャンネル＋/－ボタンや番組表などで選べるようになります。

ご注意

臨時チャンネルと非対応のチャンネルは選べません。

9 ▶で「確定」を選んで、決定で決定する。

10 戻るボタンをくり返し押して、設定画面を消す。

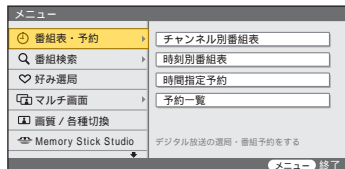
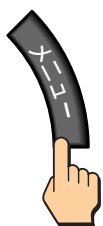
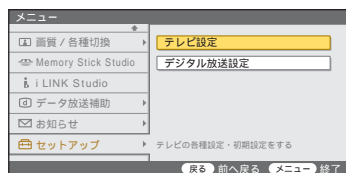
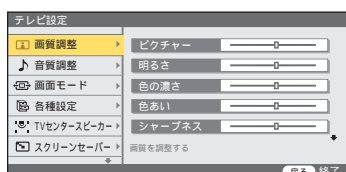
受信設定

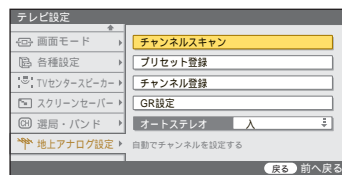
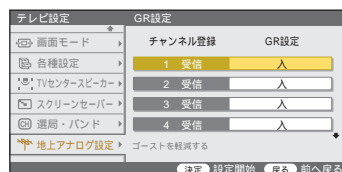
地上アナログ放送をゴーストの少ない映像にする

本機では、建物や地形などによる妨害波で起こるゴーストを、放送局から送信されるゴースト除去基準信号を感知して、少なくする（リダクション）ように、チャンネルごとに設定できます。
「GR」はゴースト・リダクションの略です。

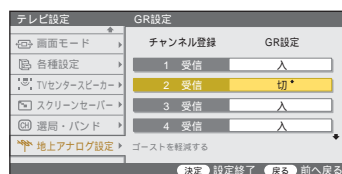
ご注意

- デジタル放送にはゴーストがないので、設定の必要はありません。
- 録画機器の再生映像など、本機につないだ機器の映像に対しては設定できません。

1 メニューボタンを押す。

2 で「セットアップ」を選んで、で決定する。

3 で「テレビ設定」を選んで、で決定する。

4 で「地上アナログ設定」を選んで、で決定する。

5 で「GR設定」を選んで、で決定する。

6 で設定を変えたいチャンネルを選んで、で決定する。

7 で「入」または「切」を選んで、で決定する。

お買い上げ時は「入」に設定されています。

8 複数のチャンネルを設定するときは、手順6と7をくり返す。

9 戻るボタンをくり返し押して、設定画面を消す。

ご注意

- ゴースト・リダクションは、チャンネルを切り換えたあと、数秒してから働き、大きなゴーストから順々に少なくしていきます。このとき、画像が一瞬またたくことがあります。
- 受信している電波が弱いときは、大きなゴーストに働くと別のゴーストが起きることがありますが、徐々に少なくしていきます。
- アンテナの設置や調整のときは「GR」を「切」にすると、ゴーストの少ない方向を確認できます。
- 次のときは効果が充分に出ないため、「GR」を「切」にしてください。
  - ゴーストが大きすぎるとき
  - ゴーストが同時に10波以上起きているとき
  - 飛行機に反射して起きるゴーストなど、一定でないゴーストのとき
  - 室内アンテナなどアンテナの設置や調整が適切に行われていないとき
- 2画面（☞132ページ）のときは左画面のみ、ゴースト・リダクションが働きます。
- Memory Stick Studioでは、ゴースト・リダクションは働きません。

暗証番号や視聴年齢制限を設定する

デジタル放送の視聴年齢制限付き番組（番組表☞38ページや「番組説明」画面☞36ページで🔒のついている番組）を、暗証番号設定すれば視聴できる年齢を制限できます。
お買い上げ時、暗証番号と視聴年齢制限は設定されていません。

ご注意

設定した暗証番号は、忘れないようにしてください。
視聴年齢制限付き番組を見るときに入力が必要です。
万一、忘れたときは、ご覧になりたい放送局のカスタマーセンターへお問い合わせください。

ちょっと一言

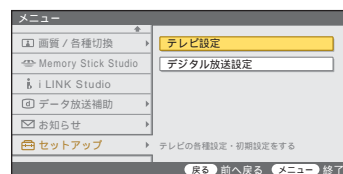
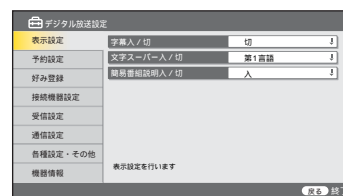
設定した暗証番号を忘れてしまったときは、「個人情報を消去する」（☞259ページ）を行って、新しく設定し直すことができます。ただし、個人情報を消去すると、すべての個人情報が消去されてしまうので、ご注意ください。

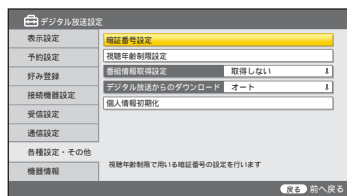
受信設定

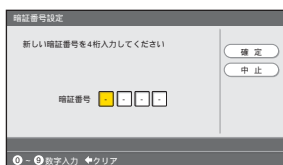
1 メニューボタンを押す。

2 で「セットアップ」を選んで、決定で決定する。

3 で「デジタル放送設定」を選んで、決定で決定する。

次のページにつづく

暗証番号や視聴年齢制限を設定する（つづき）

4 [▲▼]で「各種設定・その他」を選んで、[決定]で決定する。

5 暗証番号を設定する。

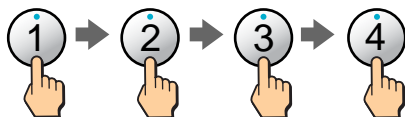
1 [▲▼]で「暗証番号設定」を選んで、[決定]で決定する。

2 ①〜⑩までの数字ボタンで4桁の暗証番号を入力する。

「0」を入力するときは、⑩ボタンを押す。

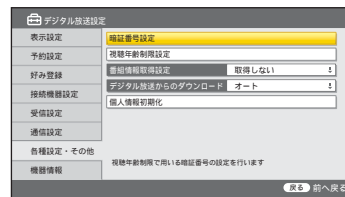
暗証番号を間違えたときは◀で戻り、入力し直してください。

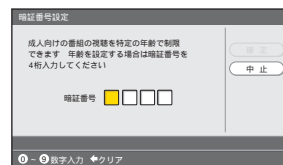
ご注意

設定した暗証番号は、忘れないようにしてください。

例：暗証番号が1234の場合

ちょっと一言

暗証番号を入力するときは、リモコンの[▲▼]/◀/▶ボタンでも行えます。◀/▶で入力する桁を選び、[▲▼]で0〜9の数字が選べます。▶ボタンを押すと、数字が決定して次の桁に移動し、◀ボタンを押すと数字が削除されます。4桁すべての数字を入力したら、▶で「確定」を選んで、[決定]で決定します。

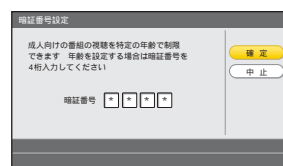
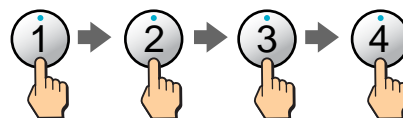
3 「確定」が選ばれていることを確認して、[決定]で決定する。

6 視聴年齢制限を設定する。

1 [▲▼]で「視聴年齢制限設定」を選んで、[決定]で決定する。

2 ①〜⑩までの数字ボタンで、手順5で設定した4桁の暗証番号を入力する。

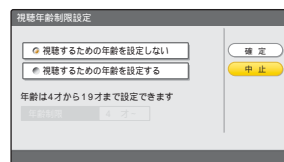
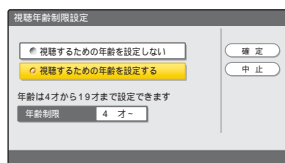
「0」を入力するときは、⑩ボタンを押す。

暗証番号を間違えたときは◀で戻り、入力し直してください。

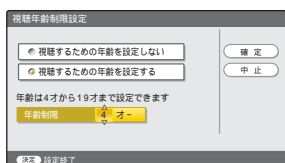
入力された数字は、＊マークで表示されます。

例：暗証番号が1234の場合

ちょっと一言

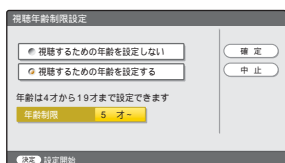
暗証番号を入力するときは、リモコンの[▲▼]/◀/▶ボタンでも行えます。◀/▶で入力する桁を選び、[▲▼]で0〜9の数字が選べます。▶ボタンを押すと、数字が決定して次の桁に移動し、◀ボタンを押すと数字が削除されます。4桁すべての数字を入力したら、▶で「確定」を選んで、[決定]で決定します。

3 「確定」が選ばれていることを確認して、[決定]で決定する。

4 ←/⇕で「視聴するための年齢を設定する」を選んで、決定で決定する。

視聴制限をしないときは

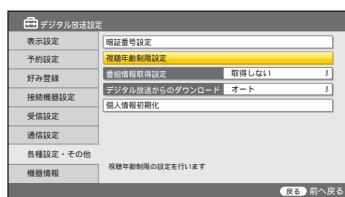
「視聴するための年齢を設定しない」を選ぶ。
視聴年齢制限付き番組でも暗証番号を入力しないで、見ることができます。

5 ⇕で「年齢制限」を選んで、決定で決定する。

6 ⇕で年齢制限を設定して、決定で決定する。

4才～19才で設定できます。

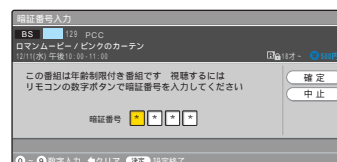
例えば「14才以上」に設定すると、15才から視聴可能な番組を視聴するときに暗証番号の入力が必要です。15才から視聴可能な番組は、「番組説明」画面（☞36ページ）では「🔒15才～（15才以上視聴可能）」と表示されます。

すべての成人向け番組の視聴を制限するときは

「4才以上」などの低い年齢に設定する。
視聴年齢制限付き番組を選ぶと、暗証番号を入力しないと見ることができなくなります。

7 →で「確定」を選んで、決定で決定する。

7 戻るボタンをくり返し押して、設定画面を消す。

視聴年齢制限付き番組を選ぶと

暗証番号入力画面が表示されます。設定した暗証番号を ①～⑩の数字ボタンまたは⇕で入力すると、番組を見ることができます。

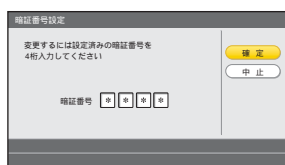
次のページにつづく

暗証番号や視聴年齢制限を設定する（つづき）

暗証番号を変更するには

1 「暗証番号や視聴年齢制限を設定する」（☞255ページ）の手順1〜4を行う。

2 で「暗証番号設定」を選んで、決定で決定する。

3 ①〜⑩までの数字ボタンで変更前の4桁の暗証番号を入力する。

変更前の暗証番号は、＊マークで表示されます。

変更前の暗証番号を忘れたときは、ご覧になりたい放送局のカスタマーセンターへお問い合わせください。

4 「確定」が選ばれていることを確認して、決定で決定する。

5 ①〜⑩までの数字ボタンで好みの数字を入力する。

6 「確定」が選ばれていることを確認して、決定で決定する。

暗証番号が変更されます。

7 戻るボタンをくり返し押して、設定画面を消す。

ちょっと一言

暗証番号を入力するときは、リモコンの/←/→ボタンでも行えます。←/→で入力する桁を選び、で0〜9の数字が選べます。→ボタンを押すと、数字が決定して次の桁に移動し、←ボタンを押すと数字が削除されます。4桁すべての数字を入力したら、→で「確定」を選んで、決定で決定します。

個人情報を消去する

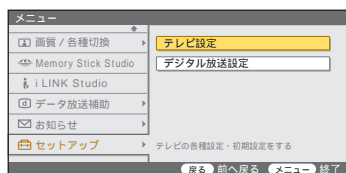
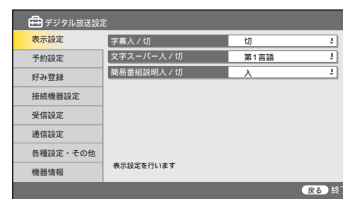
本機を廃棄したり、譲渡したりするときに、個人的な情報を消去できます。消去された項目はお買い上げ時の設定に戻ります。

消去できる内容

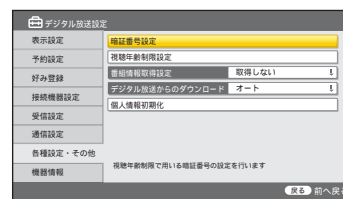
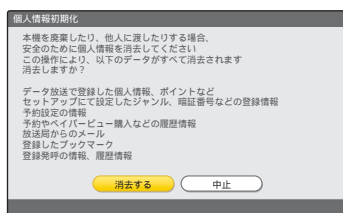
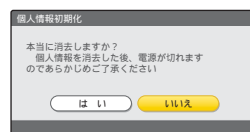
- データ放送で登録した個人情報やポイントなど
- 設定したジャンル、暗証番号・パスワードなどの登録情報
- 予約設定の情報
- 予約やペイ・パー・ビューなどの履歴情報
- 放送局からのメール
- 登録したブックマーク
- 登録発呼の登録・履歴情報

ご注意

個人情報は項目ごとに消去することはできません。1度消去すると、すべての個人情報が消去されます。

1 メニューボタンを押す。

2 ⇕で「セットアップ」を選んで、決定で決定する。

3 ⇕で「デジタル放送設定」を選んで、決定で決定する。

4 ⇕で「各種設定・その他」を選んで、決定で決定する。

5 ⇕で「個人情報初期化」を選んで、決定で決定する。

6 ←で「消去する」を選んで、決定で決定する。

7 本当に消去してよいか確認した上で、←で「はい」を選んで、決定で決定する。

「消去中です」と表示されたあと、電源が切れます。

他機との接続

ビデオやDVDプレーヤー、DVDレコーダー、ハードディスクレコーダーなど、お手持ちの機器を本機につなぐときの説明です。

接続端子の名前とはたらき

☞のページに詳しい説明があります。

1 ヘッドホン端子

ヘッドホンをつなぎます。

2 AVマルチ入力端子（☞183、277ページ）

別売りのAVマルチケーブル（VMC-AVM250）を使って、“ プレイステーション 2 ”などのAVマルチ出力端子につなぎます。

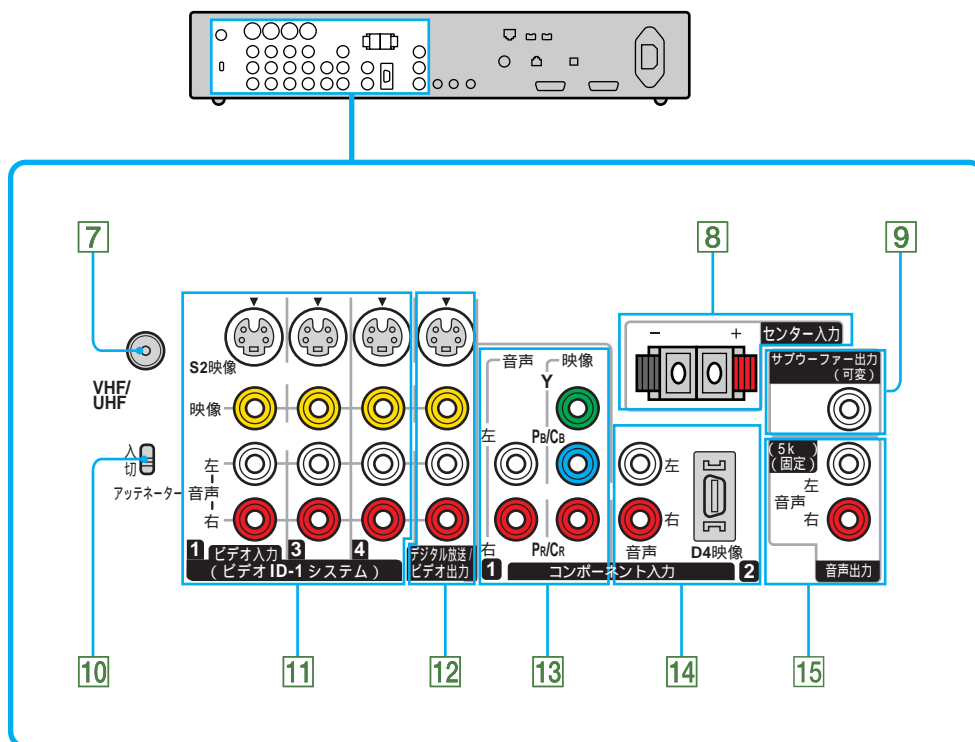
3 ビデオ2入力端子（S2映像/映像/音声）（ビデオID-1システム）（☞278ページ）

テレビゲームやビデオカメラレコーダーなどのビデオ出力端子につなぎます。
視聴中の映像を“ メモリースティック ”に録画でき、メモした画面の保存もできます（☞86ページ）。

4 i.LINK S400（TS/DV/MICROMV）端子（☞288ページ）

MICROMV方式またはDV方式のデジタルビデオカメラレコーダーなどのi.LINK対応機器とつなぎます。
デジタル信号を入出力します。詳しくは、「i.LINKでの接続」（☞283ページ）をご覧ください。

5 “ メモリースティック ”挿入口（☞145ページ）

6 “ メモリースティック ”アクセスランプ（☞145ページ）

☞のページに詳しい説明があります。

7 VHF/UHFアンテナ端子（☞197ページ）

VHF/UHF用のアンテナ接続ケーブルやケーブルテレビのケーブルをつなぎます。

8 センター入力端子（☞183ページ）

AVアンプのセンタースピーカー出力端子につなぎます。

9 サブウーファー出力（可変）端子（☞281ページ）

サブウーファーの入力端子とつなぎます。

10 アッテネーター（減衰器）スイッチ（☞198ページ）

受信している電波が強いときに、抑えるはたらきをします。
電波の送信元付近の地域などでは、電波が強すぎるため、近隣チャンネルなどの干渉を受けて、画面に縞状のノイズが起きることがあります。そのときは、アッテネーター（減衰器）スイッチを「入」にしてください。

11 ビデオ1、3～4入力端子（S2映像/映像/音声）（ビデオID-1システム）（☞268、269、270、272、275、276ページ）

ビデオデッキやレーザーディスクプレーヤー、DVDプレーヤーなどのビデオ機器、およびデジタルCSチューナーなどのビデオ出力端子につなぎます。
ビデオ3入力の映像は“ メモリースティック ”に予約録画でき、ビデオ3、4入力の映像は視聴中の映像の録画やメモした画面の保存もできます（☞86ページ）。

12 デジタル放送/ビデオ出力端子（S2映像/映像/音声）（ビデオID-1システム）（☞268、269、273、274、275、276ページ）

ビデオデッキなどのビデオ入力端子につなぎます。
地上アナログ、地上デジタル、BSデジタル、110度CSデジタル、ビデオ1～4入力*、AVマルチ入力の信号が出力されます。

* ただし、ビデオ1入力の信号については、「セットアップ」メニューで「ビデオ出力設定」を「ビデオ1あり」に設定してください（☞270ページ）。
「セットアップ」→「テレビ設定」→「各種設定」→「ビデオ出力設定」→「ビデオ1あり」を選ぶ。選びかたは☞14ページをご覧ください。

ご注意

- コンポーネント入力端子につないだ機器の映像・音声信号は出力されません。
- “ メモリースティック ”に記録された静止画・動画は出力されません。
- 字幕放送やi.LINKで録画した番組の字幕の映像信号は出力されません。
- デジタル放送のラジオやデータの音声は記録できますが、画像は正しく記録されません。
- i.LINKで録画したデジタル放送のラジオやデータの音声は、記録できますが、画像は正しく記録されません。
- S2映像出力端子からは、デジタル放送の映像とビデオ1～4入力のS2映像入力端子につないだ機器の映像のみが出力されます。

録画実行中（☞65、67、69、71ページ）のご注意

通常は、画面に映っている映像と音声を出力します。
ただし、録画実行中は画面に映っている映像と音声には関係なく、録画しているチャンネルの映像と音声が出力されます。

他機との接続

次のページにつづく

接続端子の名前とはたらき（つづき）

☞のページに詳しい説明があります。

13 コンポーネント1入力端子（Y PB/CB PR/CR映像/音声）（☞271、274ページ）

Y PB/CB PR/CR 映像入力端子
DVDプレーヤーのコンポーネントビデオ出力端子（Y/CB/CRまたは、Y/B-Y/R-Y、Y/PB/PR)、またはハイビジョン機器の映像出力端子につなぎます。

音声入力端子
DVDプレーヤーまたはハイビジョン機器の音声出力端子につなぎます。

Y PB/CB PR/CR 映像入力端子での入力信号切換について（HDモード）
ご覧になる映像の信号の種類によって設定し直してください。
「セットアップ」メニューで「HDモード」を「1080」（お買い上げ時の設定）または「1035」に設定してください。
「セットアップ」→「テレビ設定」→「各種設定」→「HDモード」→「1080」または「1035」を選ぶ。選びかたは☞14ページをご覧ください。設定していない方の信号は正しく映りません。
従来のハイビジョン放送（有効走査線数1035本）を見るときは、「HDモード：1035」に設定してください。

14 コンポーネント2入力端子（D4映像/音声）（☞183、271、273、275ページ）

D4映像入力端子
デジタルCSチューナーやビデオ機器などのD映像出力端子につなぎます。

音声入力端子
デジタルCSチューナーやビデオ機器などの音声出力端子につなぎます。

D4映像入力端子での入力信号切換について（HDモード）
D4映像入力端子に入力される以下の2種類の信号を判別して、本機の画面に映すための設定です。デジタル放送やコンポーネント入力からの信号に有効です。

- **デジタルハイビジョン放送**（有効走査線数1080本）：D4映像入力端子に他のBSデジタルチューナーなど、デジタルハイビジョン放送機器がつながっているとき。
- **従来のハイビジョン放送**（有効走査線数1035本）：D4映像入力端子に従来のハイビジョン（ベースバンド）機器がつながっているとき。デジタルハイビジョンの識別制御信号がない映像信号は、有効走査線数1035本の画像で表示します。

「セットアップ」メニューで「HDモード」を「1080」（お買い上げ時の設定）または「1035」に設定してください。設定していない方の信号は正しく映りません。
「セットアップ」→「テレビ設定」→「各種設定」→「HDモード」→「1080」または「1035」を選ぶ。選びかたは☞14ページをご覧ください。

D端子について
デジタル放送には次のような信号フォーマットがあります。

信号フォーマット	走査線数	有効走査線数
525i（480i）	525本	480本
525p（480p）	525本	480本
1125i（1080i）	1125本	1080本
750p（720p）	750本	720本

iはインターレース：飛び越し走査、pはプログレッシブ：順次走査の略です（☞135ページ）。
（ ）内は有効走査線数で数えたときの別称です。

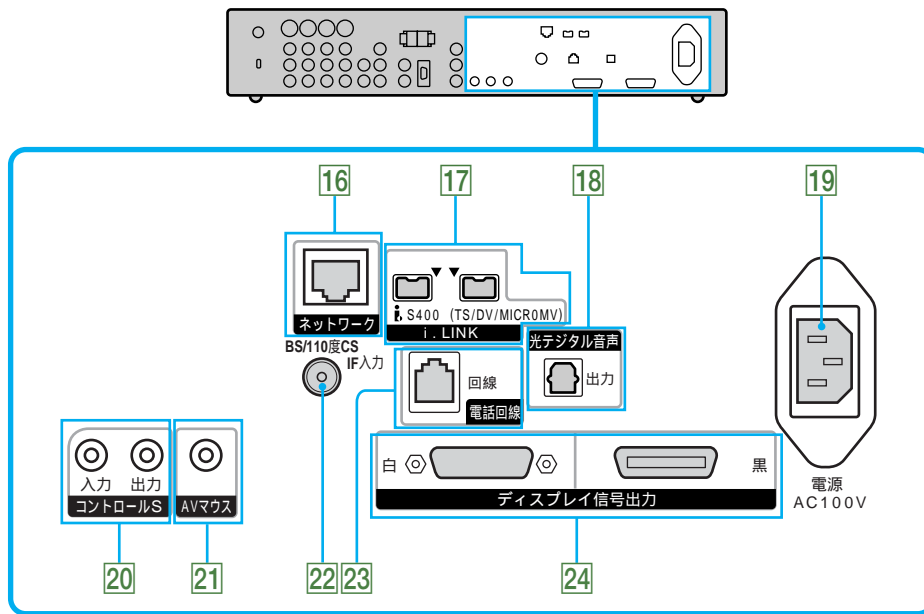
デジタル放送の信号フォーマットに対応するD端子の種類は次のようになっています。

D端子の種類とその対応信号フォーマット

D端子の種類	525i	525p	1125i	750p
D1端子	○	×	×	×
D2端子	○	○	×	×
D3端子	○	○	○	×
D4端子	○	○	○	○

15 音声出力（5kΩ）（固定）端子（左/右）（☞280ページ）

オーディオ機器の音声入力端子につなぎます。
録画予約（☞63、65、68ページ）の設定に関係なく、選んでいるチャンネルや入力の音声が出力されます。

ご注意
メディアレシーバー前面のヘッドホン端子にヘッドホンをつなぐと、音声出力端子からの音声信号が出力されなくなります。
2画面で「ヘッドホンモード2」にしているとき（☞133ページ）はスピーカーから聞こえている音声が出力されます。
音声出力端子にカセットデッキなど録音機器をつないでいるときは、ご注意ください。

16 **ネットワーク端子（☞205、206、207、208ページ）**

別売りのネットワーク（LAN）ケーブルを使って、モデムやルーターにつなぎます。

17 **i.LINK i S400（TS/DV/MICROMV）端子（☞286、287、289、290ページ）**

ハードディスクレコーダーやD-VHSビデオなどのi.LINK対応機器とつなぎます。
デジタル信号を入出力します。詳しくは、「i.LINKでの接続」（☞283ページ）をご覧ください。

18 **光デジタル音声出力端子（☞183、278ページ）**

AVアンプやサンプリングレートコンバーター内蔵のMDデッキなどの、光デジタル音声入力端子につなぎます。
デジタル放送のデジタル音声が出力されます。
また、地上アナログ放送やビデオ機器などからのアナログ音声などはPCM音声（2ch）のデジタル信号に変換して出力されます。
デジタル放送の予約録画実行中は音声が固定されます。

AVアンプなどにつなぐとき

☞183、278ページをご覧ください。

サンプリングレートコンバーター内蔵のMDデッキなどにつなぐときは

☞278ページをご覧ください。

19 **電源AC100V入力端子（☞209ページ）**

付属の電源コードをつなぎます。

20 **コントロールS入力/出力端子（☞117ページ）**

ソニー製機器のコントロールS端子とつなぎます。

21 **AVマウス端子（☞268、269、273、274ページ）**

付属のAVマウスをつなぎます。

22 **BS/110度CS IF入力端子（☞199ページ）**

衛星アンテナからの同軸ケーブルをつなぎます。衛星アンテナ用の電源を供給するため、DC15/11Vの直流電圧が出ています。

ご注意

VHF/UHF用のアンテナ接続ケーブルは絶対につながないでください。

23 **電話回線端子（☞204、205、206、207、208ページ）**

付属のモジュラーテレホンコードカプラーを使って電話コンセントにつなぎます。また、ISDN回線をお使いのときは、ターミナルアダプターのアナログポートにつなぎます。ADSL回線をお使いのときは、スプリッターと市販のモジュラーテレホンコードカプラーを使ってつなぎます。

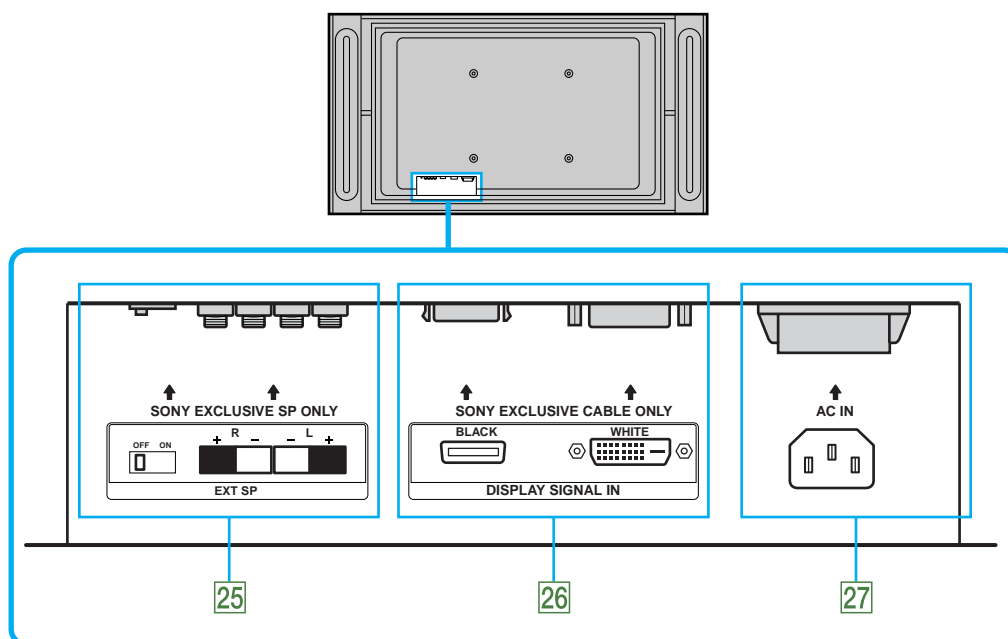
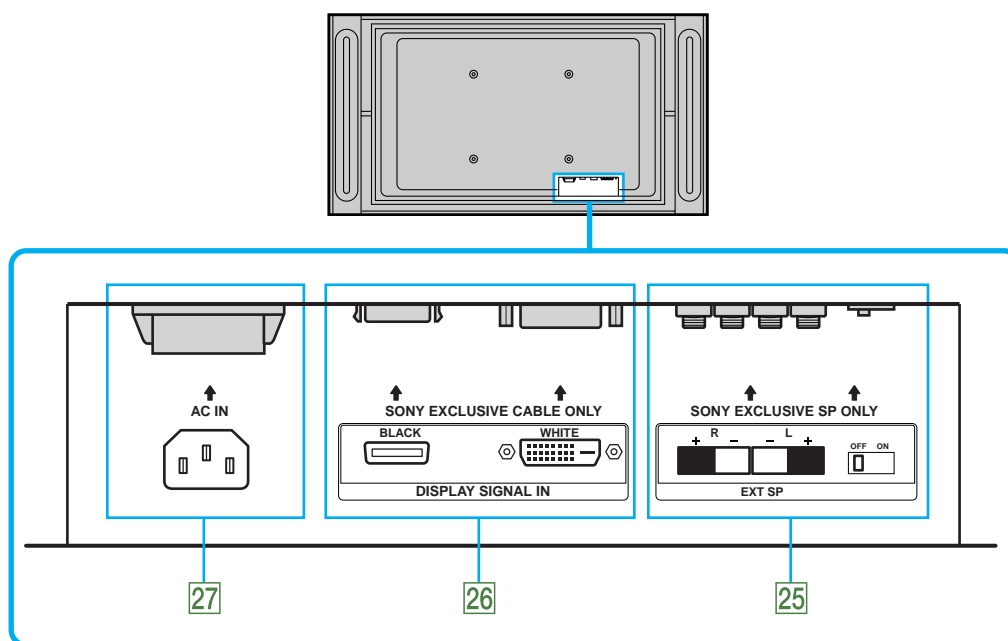
24 **ディスプレイ信号出力端子（白/黒）（☞192ページ）**

付属のディスプレイケーブルでディスプレイのディスプレイ信号入力端子とつなぎます。

他機との接続

次のページにつづく

接続端子の名前とはたらき（つづき）

KDE-P42HX2/P50HX2/P61HX2
ディスプレイ後面

KDE-P55HX2　**ディスプレイ後面**

25 EXT SP端子/専用スイッチ（KDE-P55HX2/P61HX2のみ）（☞313ページ）

本機のスピーカーをディスプレイから離して設置するときにつなぎます。この端子に本機のスピーカーをつないだときは切換スイッチを「ON」に設定します。

ご注意

EXP SP端子には、本機のスピーカー以外はつながないでください。

26 DISPLAY SIGNAL IN（ディスプレイ信号入力）端子（BLACK/WHITE）（黒/白）（☞191ページ）

付属のディスプレイケーブルでメディアレシーバーのディスプレイ信号出力端子とつなぎます。

27 AC IN（電源入力）端子（☞209ページ）

付属の電源コードをつなぎます。

コンポーネント1、2入力端子につないだ機器の画像の色あいについて（カラーマトリクス）

コンポーネント入力につないだデジタルCSチューナーやDVDプレーヤーなどの出力が、525p（480p）、1125i（1080i）、750p（720p）の各信号フォーマットのとき、映像が自然な色あいになるように設定できます。
通常はお買い上げ時の設定のままでお使いください。色あいが不自然になったときには、設定し直してください。
「セットアップ」メニューで「カラーマトリクス」をコンポーネント1、2の各入力ごとに、480p、1080i、720pの信号フォーマットを選んで、「Y/CB/CR」または「Y/PB/PR」で、自然な色あいになる方に設定してください。
「セットアップ」→「テレビ設定」→「各種設定」→「カラーマトリクス」→「480p」または「1080i」、「720p」→「Y/CB/CR」または「Y/PB/PR」を選ぶ。
選びかたは☞14ページをご覧ください。
お買い上げ時は、「480p」は「Y/CB/CR」に、「1080i」と「720p」は「Y/PB/PR」に設定されています。

ビデオなどをつなぐ

ビデオデッキやチャンネルサーバー、ソニー製ハードディスクビデオレコーダーなどをつなぎます。それぞれの機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

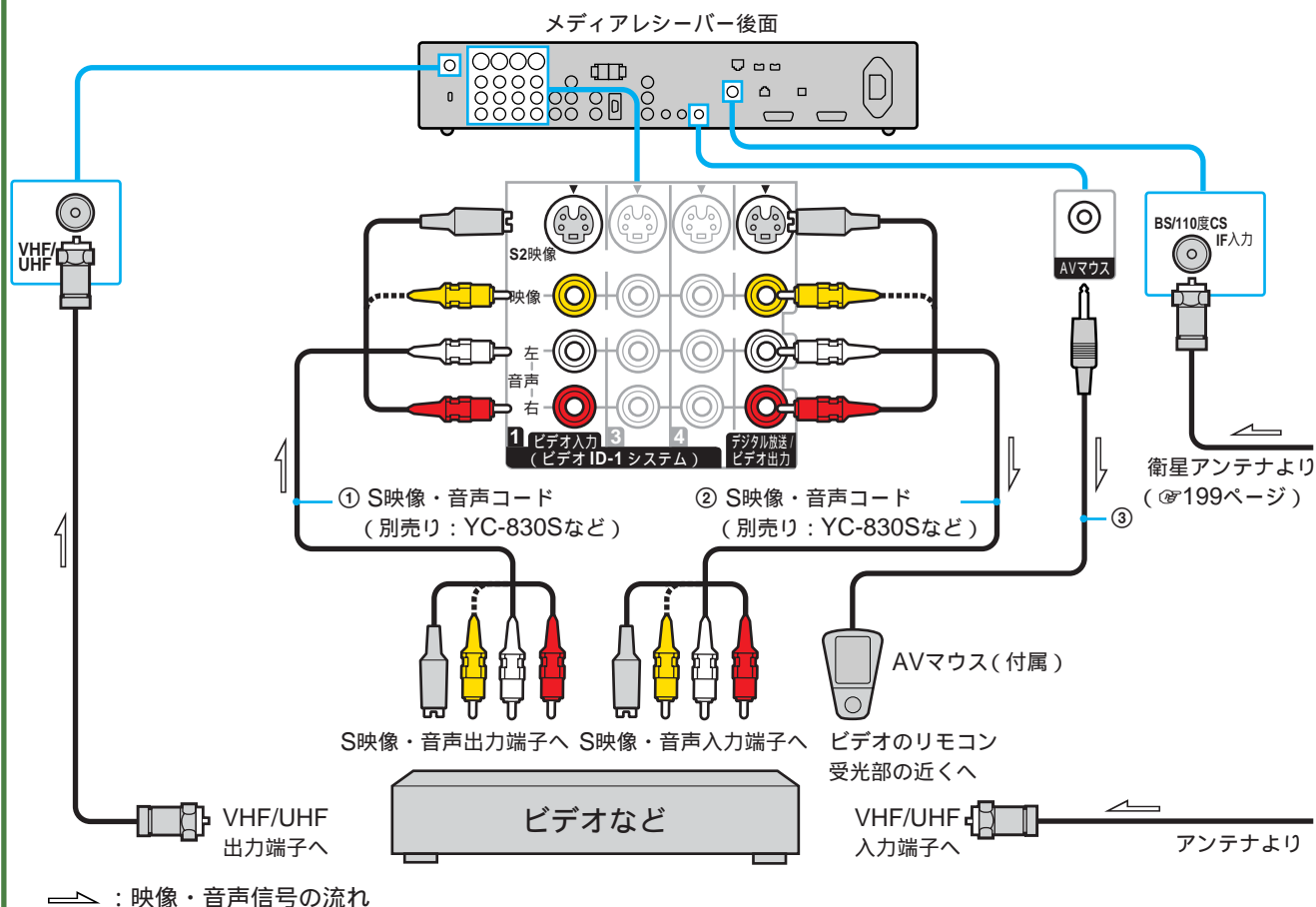
S2映像端子と映像端子のどちらにつなぐか迷ったときは

よりよい画質でご覧いただくために、S2映像端子につないでください*。
つなぐ機器にS映像端子がない場合は、映像端子につなぎます。

* レーザーディスクプレーヤーのときは映像端子につないでください。三次元Y/C分離回路搭載のレーザーディスクプレーヤーのときは、接続による画質の差はほとんど生じません。再生モードにはノーマルを選び、デジタルで再生しないでください。詳しくは、レーザーディスクプレーヤーの取扱説明書をご覧ください。

次のページにつづく

BSアナログチューナーのないビデオなどのとき

デジタル放送のテレビ放送を予約録画したり（☞63、65、68、70ページ）、ビデオを見たりするための接続です。
ビデオの取扱説明書もあわせてご覧ください。

① 再生映像を見る（☞108ページ）ための接続。
ビデオにS映像出力端子がないときは、S映像のかわりに映像コードでつないでください。

② デジタル放送のテレビ放送をビデオに録画（☞63、65、68、70ページ）するための接続。ビデオにS映像入力端子がないときは、S映像のかわりに映像コードでつないでください。

③ デジタル放送のテレビ放送を本機と連動して予約録画（☞63、65、68、70ページ）するための接続。「AVマウスを設定する」（☞244ページ）も行ってください。

ビデオなどの映像を見るには

ビデオなどの映像が出るまで、くり返しビデオボタンを押す（☞108ページ）。

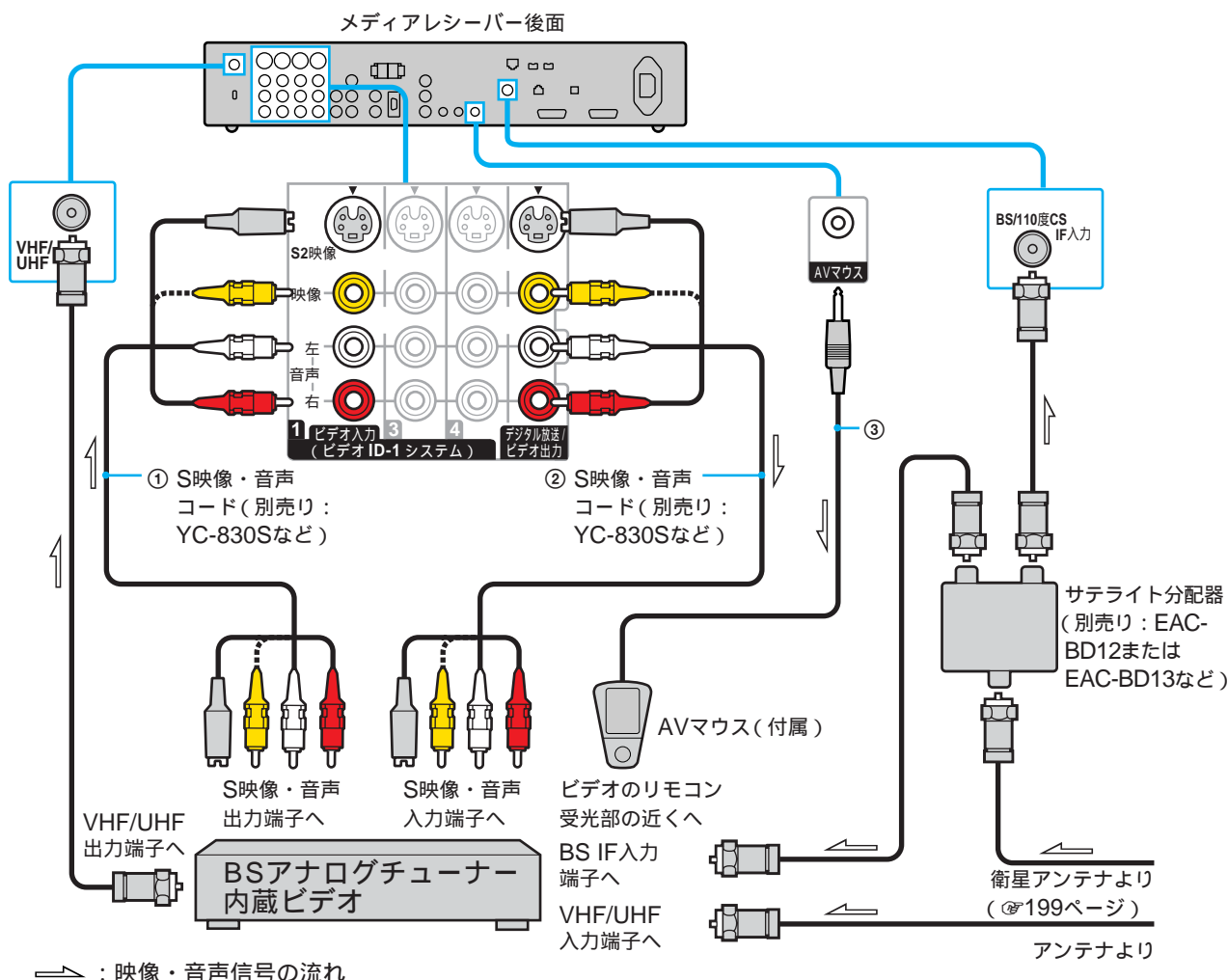
つないだ機器を本機のリモコンで操作するには

「本機のリモコンで他機器を操作する」（☞111ページ）をご覧ください。

ご注意

- 本機から録画した16:9の映像を、画面の横縦比4:3のワイド機能のないテレビで再生すると映像が縦長に引き延ばされて出力されます。
- 本機をモニターとして使い、ビデオなどで編集するときは、再生機をビデオ1入力を除いたビデオ2〜4入力端子につないでください。お買い上げ時は、ビデオ1入力端子につないだ機器の信号はデジタル放送/ビデオ出力端子から出力されない設定になっているためです（☞270ページ）。
- i.LINK端子の付いているD-VHSビデオをつなぐときは、i.LINK接続（☞287ページ）もすると、本機のi.LINK操作画面で、録画や再生の操作ができます（☞163ページ）。

BSアナログチューナー内蔵ビデオのとき

デジタル放送のテレビ放送を予約録画したり（☞63、65、68、70ページ）、ビデオを見たりするための接続です。
ビデオの取扱説明書もあわせてご覧ください。

① 再生映像を見る（☞108ページ）ための接続。ビデオにS映像出力端子がないときは、S映像のかわりに映像コードでつないでください。
② デジタル放送のテレビ放送をビデオに録画（☞63、65、68、70ページ）するための接続。BSアナログ放送の録画は、ビデオ自身に内蔵のBSアナログチューナーで受信し録画してください。ビデオにS映像入力端子がないときは、S映像のかわりに映像コードでつないでください。
③ デジタル放送のテレビ放送をメディアレシーバーと連動して予約録画するための接続（☞63、65、68、70ページ）。「AVマウスを設定する」（☞244ページ）も行ってください。

ビデオを見るには

ビデオの映像が出るまで、くり返しビデオボタンを押す（☞108ページ）。

ビデオを本機のリモコンで操作するには

「本機のリモコンで他機器を操作する」（☞111ページ）をご覧ください。

ご注意

- 110度CSデジタルに対応していない分配器を使ったり、衛星アンテナからビデオを経由して本機のBS/110度CS IF入力端子につないだりしないでください。110度CSデジタルを受信できないことがあります。
- 本機をモニターとして使い、ビデオなどで編集するときは、再生機をビデオ2～4入力端子のいずれかにつないでください。お買い上げ時の設定では、ビデオ1入力端子につないだ機器の信号はデジタル放送/ビデオ出力端子から出力されないためです（☞270ページ）。
- i.LINK端子の付いているD-VHSビデオをつなぐときは、i.LINK接続（☞287ページ）をすると、本機のi.LINK操作画面で、録画や再生の操作ができます（☞163ページ）。

次のページにつづく

ビデオなどをつなぐ（つづき）

ビデオ1～4入力のS2映像入力端子と映像入力端子の両方につないだときは

ビデオの映像信号をどちらの端子から入力するかを、ビデオ入力ごとにメニューで設定できます。お買い上げ時は、S2映像入力端子から入力された映像が映ります。

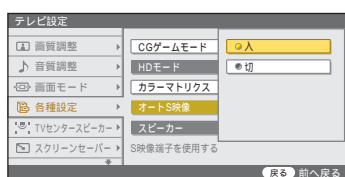
1 **ビデオボタンをくり返し押して、切り換えたいビデオ入力を選ぶ。**

2 **メニューボタンを押して、メニューを出す。**

3 **で「セットアップ」を選んで、決定で決定する。**

4 **で「テレビ設定」を選んで、決定で決定する。**

5 **で「各種設定」を選んで、決定で決定する。**

6 **で「オートS映像」を選んで、決定で決定する。**

7 **で「入」または「切」を選んで、決定で決定する。**

「入」：S2映像入力端子から入力された映像を見ることができる。

「切」：映像入力端子から入力された映像を見ることができる。

8 **戻るボタンをくり返し押して、設定画面を消す。**

ビデオ1入力の信号をデジタル放送/ビデオ出力端子から出力するときは

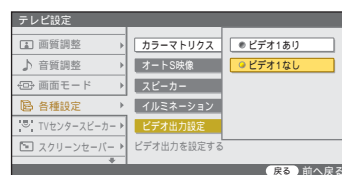
お買い上げ時は、ビデオ1入力端子につないだ機器の信号は、デジタル放送/ビデオ出力端子から出力されないようになっています。本機をモニターとして使い、ビデオなどで編集するときは再生機をビデオ2～4入力端子のいずれかにつないでください。
ビデオ1入力の映像や音声をデジタル放送/ビデオ出力端子につないだビデオ機器などで楽しむときは、以下の設定をしてください。ビデオ1入力端子につないだ機器の映像および音声がデジタル放送/ビデオ出力端子から出力されます。

1 **メニューボタンを押して、メニューを出す。**

2 **で「セットアップ」を選んで、決定で決定する。**

3 **で「テレビ設定」を選んで、決定で決定する。**

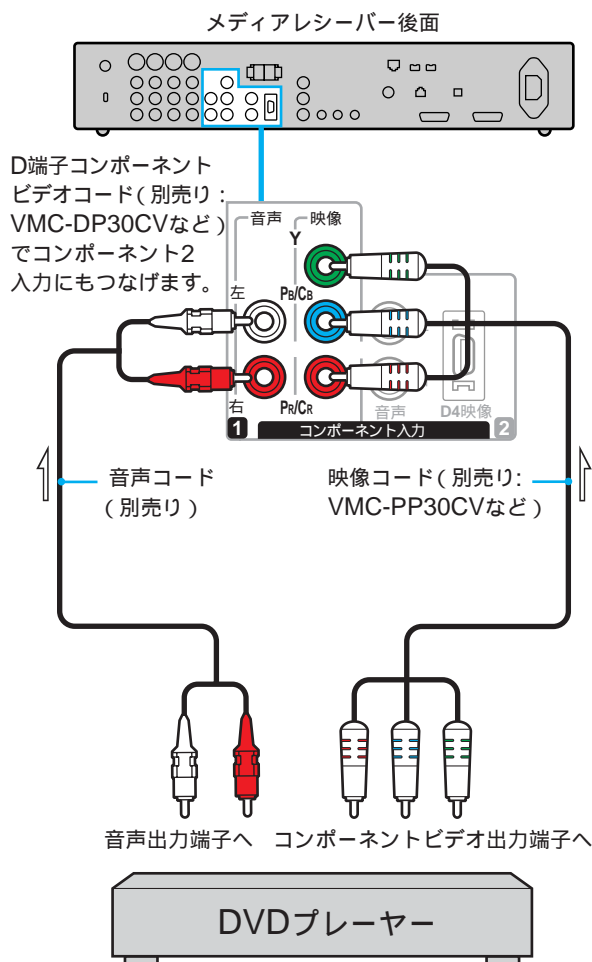
4 **で「各種設定」を選んで、決定で決定する。**

5 **で「ビデオ出力設定」を選んで、決定で決定する。**

6 **で「ビデオ1あり」を選んで、決定で決定する。**

7 **戻るボタンをくり返し押して、設定画面を消す。**

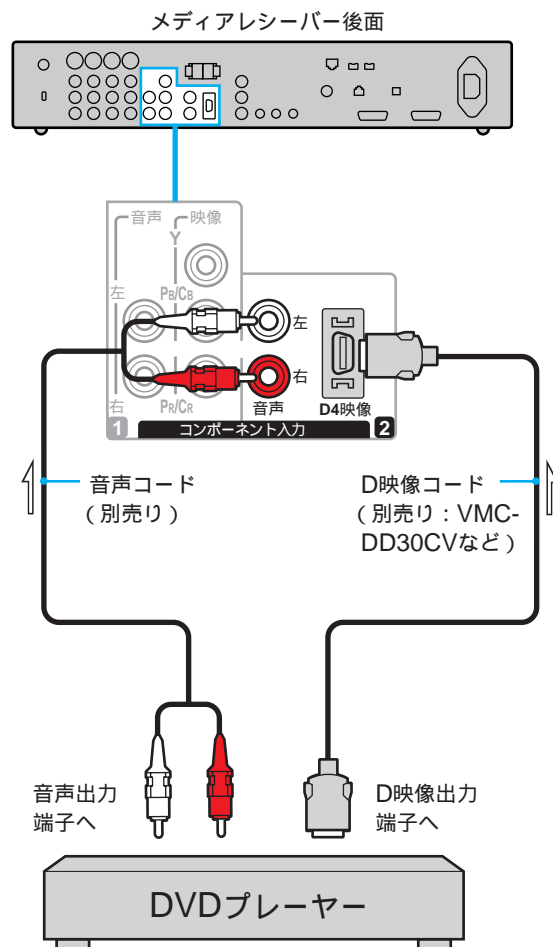
DVDプレーヤーをつなぐ

コンポーネントビデオ出力端子のあるDVDプレーヤーはメディアレシーバーのコンポーネント入力端子につなぐと、より高画質の画像をお楽しみいただけます。
DVDプレーヤーの取扱説明書もあわせてご覧ください。

コンポーネントビデオ出力端子にD端子のないDVDプレーヤーのとき

DVDプレーヤーのコンポーネントビデオ出力端子は、メーカーにより色や名前が異なります。右表のようにつないでください。

DVDプレーヤーの映像端子	本機の映像端子
Y端子	Y端子
C_B、B-Y、P_B端子	P_B/C_B端子
C_R、R-Y、P_R端子	P_R/C_R端子

⇀：映像・音声信号の流れ

コンポーネントビデオ出力端子にD端子のあるDVDプレーヤーのとき

⇀：映像・音声信号の流れ

デジタルチューナーをつながないときは、コンポーネント1入力にもつなげます。
D映像コードのかわりに、D端子コンポーネントビデオコード（別売り：VMC-DP30CVなど）を使ってY端子、C_B端子、C_R端子とD端子をつなぐこともできます。

DVDを見るには

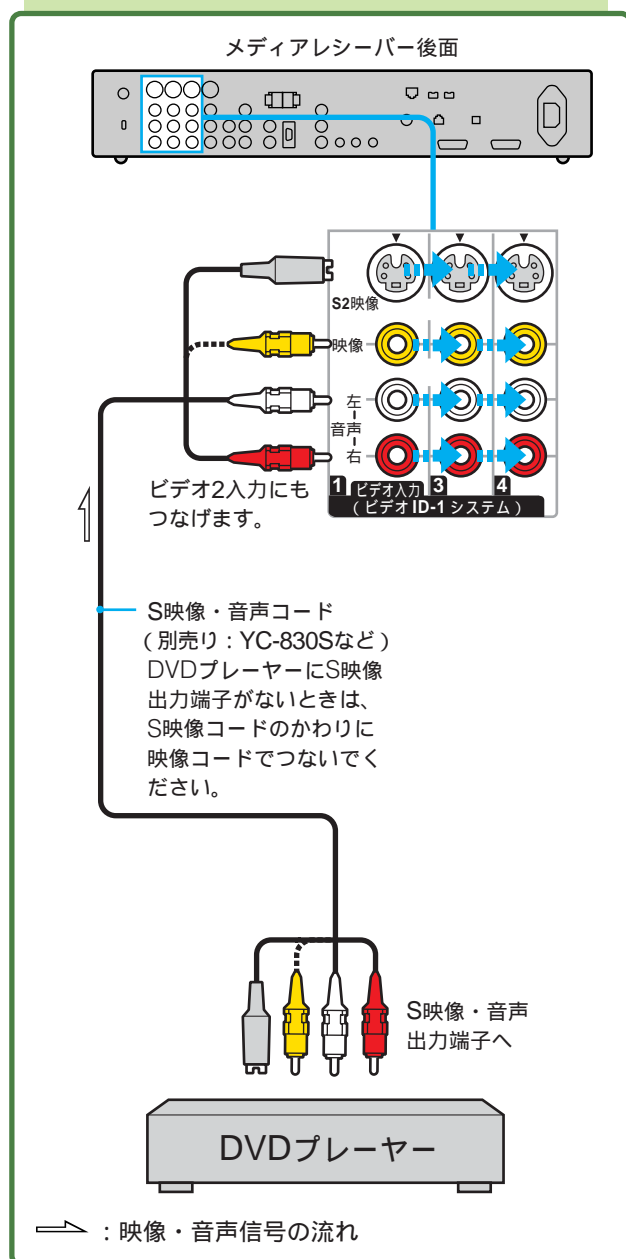
コンポーネントビデオ出力端子のあるDVDプレーヤーのときは
DVDプレーヤーの映像が出るまで、くり返しコンポーネントボタンを押す（☞108ページ）。

DVDプレーヤーを本機のリモコンで操作するには

「本機のリモコンで他機器を操作する」（☞111ページ）をご覧ください。

次のページにつづく

DVDプレーヤーをつなぐ（つづき）

コンポーネントビデオ出力端子のないDVDプレーヤーのとき

DVDを見るには

コンポーネントビデオ出力端子のないDVDプレーヤーのときは

DVDプレーヤーの映像が出るまで、くり返しビデオボタンを押す（☞108ページ）。

DVDプレーヤーを本機のリモコンで操作するには

「本機のリモコンで他機器を操作する」（☞111ページ）をご覧ください。

DVDレコーダーやハードディスクレコーダーなどをつなぐ

DVDレコーダーやハードディスクレコーダーまたはそれらが複合した機器などをつなぎます。それぞれの機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

D端子のある機器のとき

デジタル放送のテレビ放送を予約録画したり（☞63、65、68、70ページ）、つないだ機器の映像を見たりするための接続です。
つないだ機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

① デジタル放送のテレビ放送を録画（☞63、65、68、70ページ）するための接続。
② 再生映像を見る（☞108ページ）ための接続。
③ デジタル放送のテレビ放送を本機と連動して予約録画（☞63、65、68、70ページ）するための接続。「AVマウスを設定する」（☞244ページ）も行ってください。

つないだ機器の映像を見るには

つないだ機器の映像が出るまで、くり返しコンポーネントボタンを押す（☞108ページ）。

つないだ機器を本機のリモコンで操作するには

「本機のリモコンで他機器を操作する」（☞111ページ）をご覧ください。

ご注意

- 本機から録画した16:9の映像を、画面の横縦比4:3のワイド機能のないテレビで再生すると映像が縦長に引き延ばされて出力されます。
- i.LINK端子の付いている機器をつなぐときは、i.LINK接続（☞286ページ）もすると、本機のi.LINK操作画面で、録画や再生の操作ができます（☞162ページ）。

次のページにつづく

DVDレコーダーやハードディスクレコーダーなどをつなぐ（つづき）

D端子のない機器のとき

デジタル放送のテレビ放送を予約録画したり（☞63、65、68、70ページ）、つないだ機器の映像を見たりするための接続です。

つないだ機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

メディアレシーバー後面

VHF/UHF

デジタル放送ビデオ出力

音声　映像

Y

左　PB/CB

右　PR/CR

音声　D4映像

1 コンポーネント入力 2

AVマウス

BS/110度CS IF入力

衛星アンテナより（☞199ページ）

① S映像・音声コード（別売り：YC-830Sなど）

音声コード（別売り）

映像コード（別売り：VMC-PP30CVなど）

②

③

AVマウス（付属）

S映像・音声入力端子へ

コンポーネントビデオ出力端子へ

音声出力端子へ

ビデオのリモコン受光部の近くへ

VHF/UHF出力端子へ

DVDレコーダーやハードディスクレコーダーなど

VHF/UHF入力端子へ

アンテナより

：映像・音声信号の流れ

① デジタル放送のテレビ放送を録画（☞63、65、68、70ページ）するための接続。
② 再生映像を見る（☞108ページ）ための接続。
③ デジタル放送のテレビ放送を本機と連動して予約録画（☞63、65、68、70ページ）するための接続。「AVマウスを設定する」（☞244ページ）も行ってください。

つないだ機器の映像を見るには

つないだ機器の映像が出るまで、くり返しコンポーネントボタンを押す（☞108ページ）。

つないだ機器を本機のリモコンで操作するには

「本機のリモコンで他機器を操作する」（☞111ページ）をご覧ください。

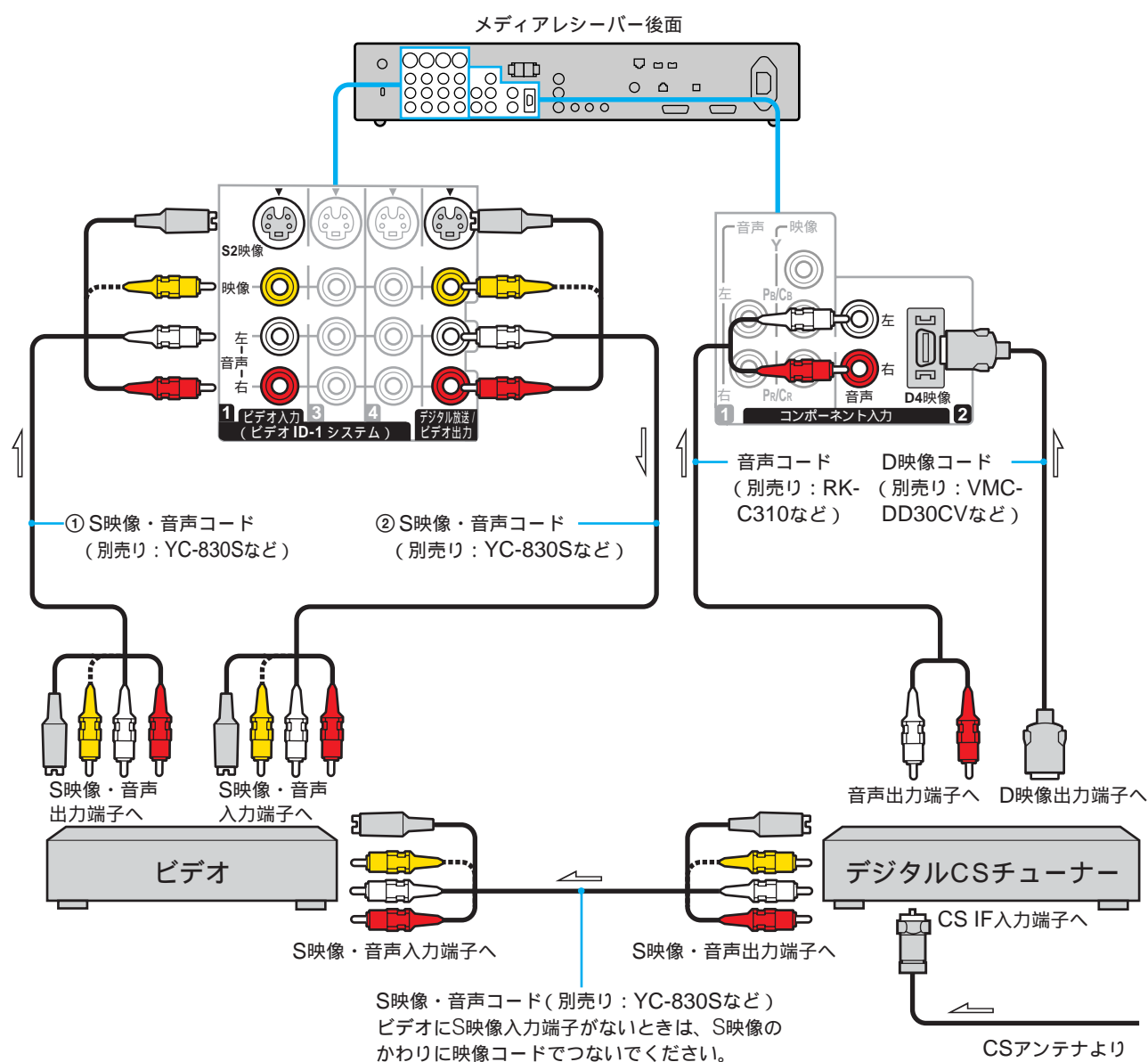
ご注意

- 本機から録画した16:9の映像を、画面の横縦比4:3のワイド機能のないテレビで再生すると映像が縦長に引き延ばされて出力されます。
- i.LINK端子の付いている機器をつなぐときは、i.LINK接続（☞286ページ）もすると、本機のi.LINK操作画面で、録画や再生の操作ができます（☞162ページ）。

デジタルCSチューナーをつなぐ

デジタルCS放送*を見るには、デジタルCS放送局との受信契約が必要です。詳しくは、デジタルCS放送局へお問い合わせください。
デジタルCSチューナーの取扱説明書もあわせてご覧ください。

* SKY PerfecTV!のことです。110度CSデジタル放送ではありません。

D端子のあるデジタルCSチューナーのとき

① 再生映像を見る（☞108ページ）ための接続。ビデオにS映像出力端子がないときは、S映像のかわりに映像コードでつないでください。

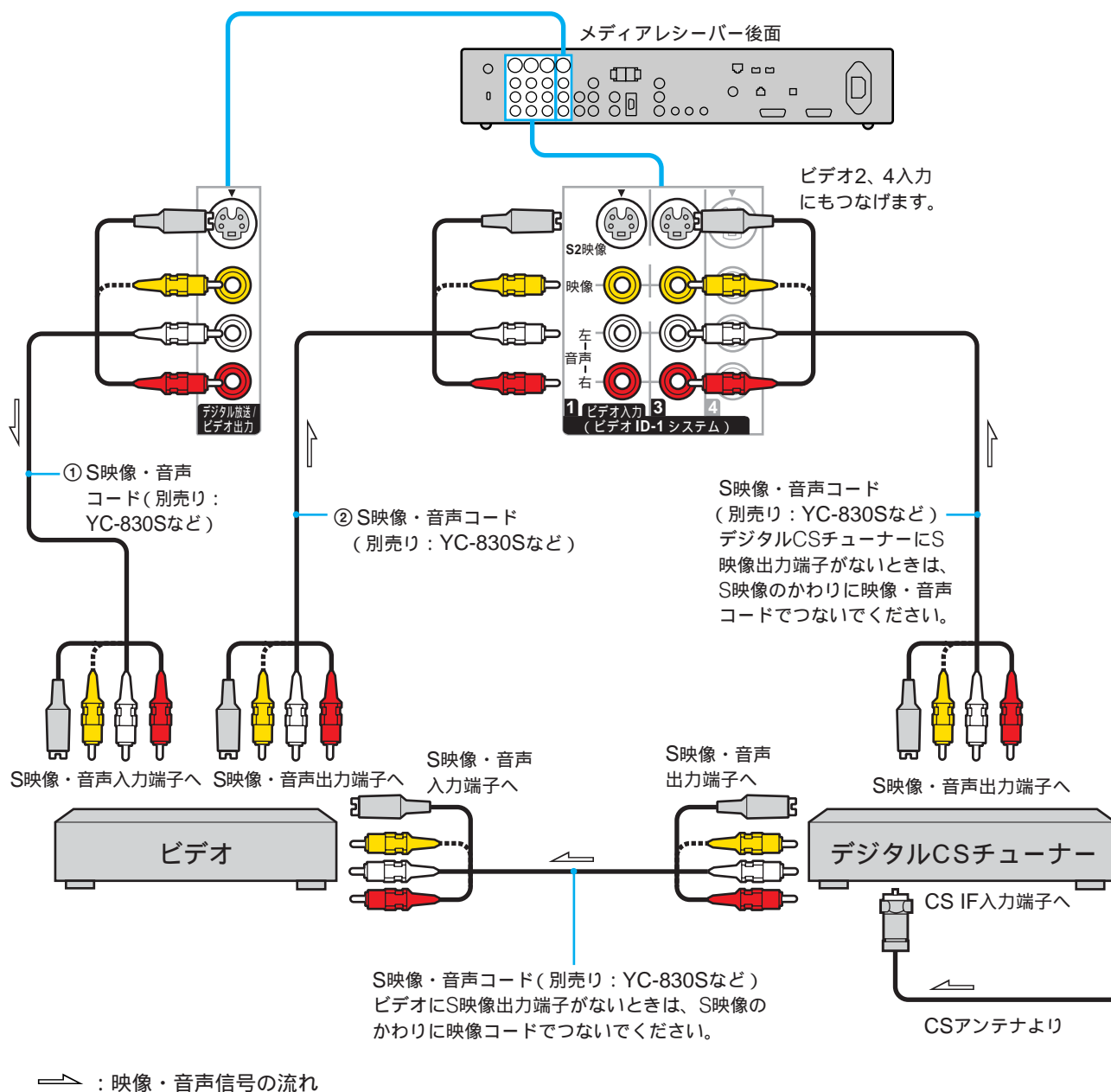
② デジタル放送のテレビ放送をビデオに録画（☞63、65、68、70ページ）するための接続。ビデオにS映像入力端子がないときは、S映像のかわりに映像コードでつないでください。

デジタルCS放送を見るには

デジタルCS放送の映像が出るまで、くり返しコンポーネントボタンを押す（☞108ページ）。

次のページにつづく

デジタルCSチューナーをつなぐ（つづき）

D端子のないデジタルCSチューナーのとき

① デジタル放送のテレビ放送をビデオに録画（☞63、65、68、70ページ）するための接続。ビデオにS映像入力端子がないときは、S映像のかわりに映像コードでつないでください。

② 再生映像を見る（☞108ページ）ための接続。ビデオにS映像出力端子がないときは、S映像のかわりに映像コードでつないでください。

デジタルCS放送を見るには

デジタルCS放送の映像が出るまで、くり返しビデオボタンを押す（☞108ページ）。

“プレイステーション 2” などをつなぐ

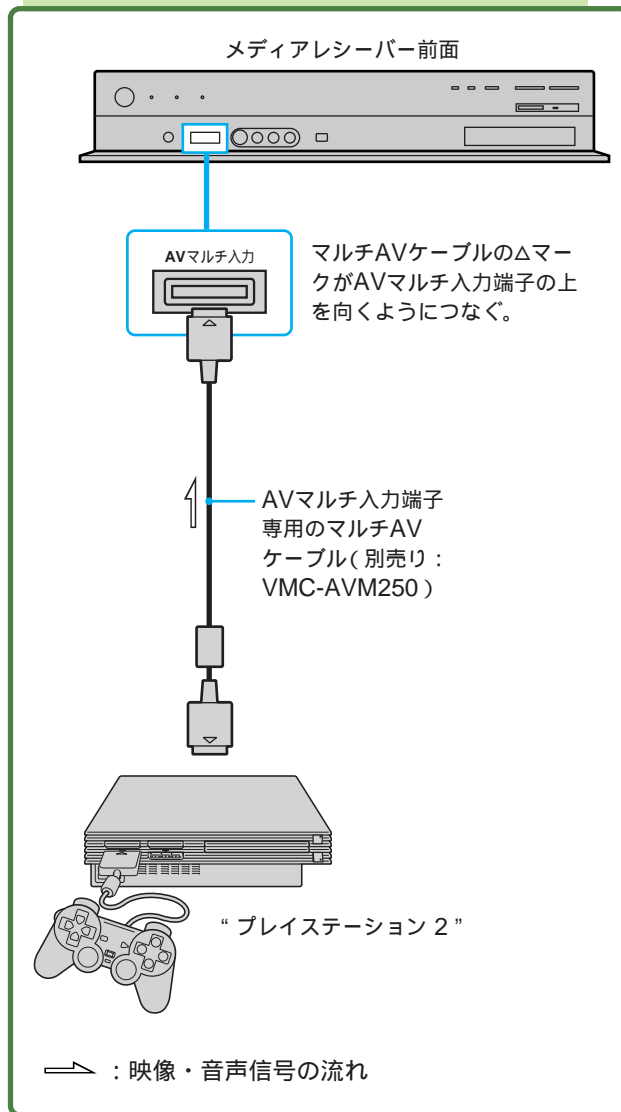
“プレイステーション 2”、
“プレイステーション”(PS one) および
“プレイステーション”を本機とつないで楽しめます。
つないだ“プレイステーション 2”などの取扱説明書もご覧ください。

ご注意

“プレイステーション 2”の一部の機種では、マルチAVケーブル(VMC-AVM250)で接続し、DVDビデオを再生した場合、出力信号(RGB)がコンポーネント映像信号(Y CB/PB CR/PR)に固定されるため、画面が乱れる場合があります。本機のAVマルチ入力端子は、このコンポーネント映像信号に対応していますが、「AVマルチ入力」が「AVマルチRGB」に選択されているとDVDが正しく再生されません。AVマルチボタンをくり返し押して、「AVマルチY/CB/CR」を表示させ、入力を切り換えてください。
詳しくは、“プレイステーション 2”本体の取扱説明書をご覧いただくか、下記にお問い合わせください。

株式会社　ソニー・コンピュータエンタテインメント
インフォメーションセンター
URL .... http://www.playstation.jp/info/
ナビダイヤル 0570-000-929
携帯電話・PHSでのご利用は 03-3475-7444
受付時間：10:00～18:00

“プレイステーション”および“PS one”は株式会社ソニー・コンピュータエンタテインメントの登録商標です。

別売りのマルチAVケーブルでつなぐとき

“プレイステーション 2”などを楽しむには

映像が出るまで、AVマルチボタンをくり返し押す(☞109ページ)。

ご注意

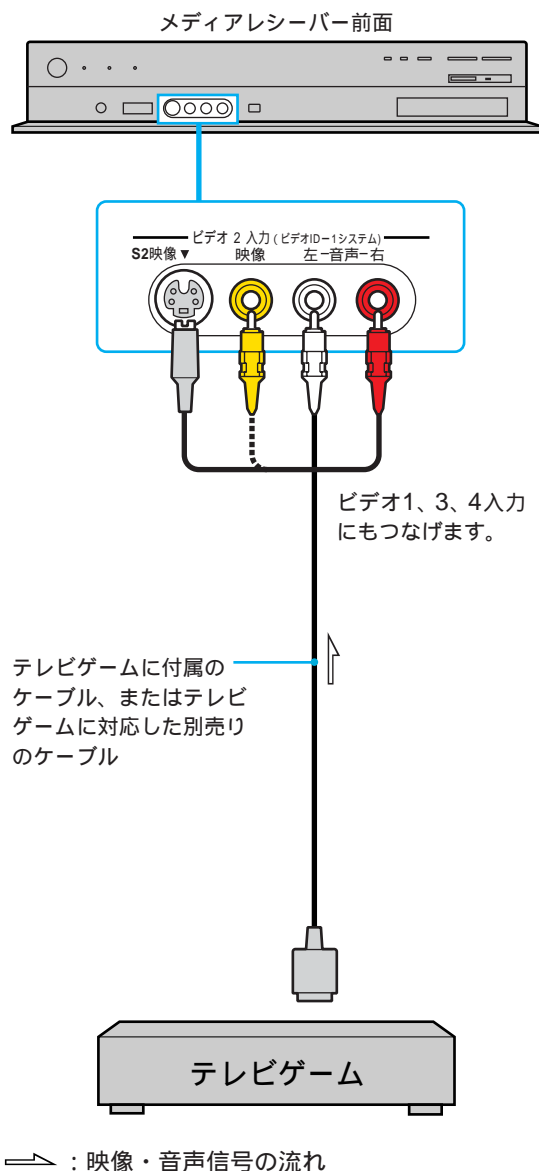
ソフトウェアの信号によっては、AVマルチ入力端子のRGBやY/CB/CR信号に適していないものもあります。

他機との接続

次のページにつづく

“プレイステーション 2”などをつなぐ（つづき）

その他のテレビゲームなどをつなぐとき

メディアレシーバー前面のビデオ2入力端子にテレビゲームをつなぎます。テレビゲームの取扱説明書もご覧ください。

テレビゲームを楽しむには

映像が出るまで、ビデオボタンをくり返し押す（☞108ページ）。

ご注意

電子的なライフルやガン（銃）などで標的にして楽しむシューティングゲームなどは、本機の画面を使用できないことがあります。詳しくは、ゲームソフトの取扱説明書をご覧ください。

オーディオ機器をつなぐ

光デジタル入力対応のオーディオ機器をつなぐとき

光デジタル音声入力端子を持つAV**アンプ**や、**サンプリングレートコンバーター内蔵の**MD**デッキ**などをつなぎます。
センタースピーカーのかわりに本機のスピーカーでセンター音声を聞くときは「TVセンタースピーカーにAVアンプをつなぐ」（☞183ページ）を行ってください。

つなぐオーディオ機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

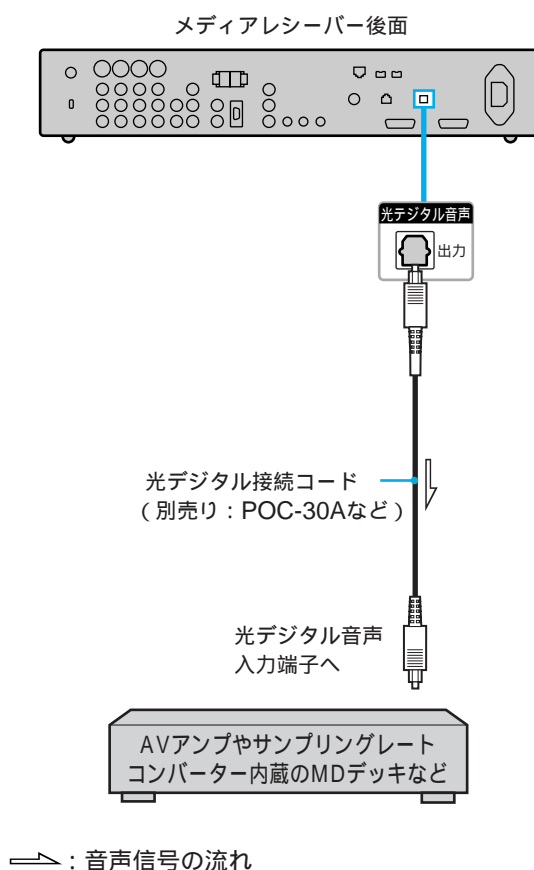
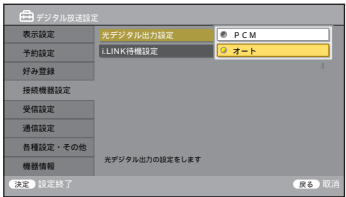
メディアレシーバー後面

光デジタル音声
出力

光デジタル接続コード
（別売り：POC-30Aなど）

光デジタル音声入力端子へ

AVアンプやサンプリングレートコンバーター内蔵のMDデッキなど

：音声信号の流れ

AAC対応AVアンプをつなぐときは

「セットアップ」メニューで「光デジタル出力設定」を「オート」（お買い上げ時の設定）にしてください。

放送の種類	メディアレシーバー後面の光デジタル音声出力端子から出力する信号
デジタル放送の音声	AAC音声（デジタル放送用音声方式）がそのまま出力されます。
地上アナログやビデオ機器などからのアナログ音声	PCM音声（2ch）のデジタル信号に変換して出力されます。

1 デジタル放送視聴中にメニューボタンを押して、メニューを出す。

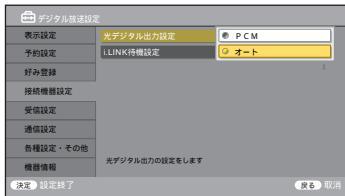
2 で「セットアップ」を選んで、決定で決定する。

3 で「デジタル放送設定」を選んで、決定で決定する。

4 で「接続機器設定」を選んで、決定で決定する。

5 で「光デジタル出力設定」を選んで、決定で決定する。

6 で「オート」（お買い上げ時の設定）を選んで、決定する。

7 戻るボタンをくり返し押して、設定画面を消す。

ちょっと一言

デジタル放送の番組によっては、5.1chサラウンドなどの音声を楽しめます。つなぐオーディオ機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

AACに対応していないAVアンプやサンプリングレートコンバーター内蔵のMDデッキなどの機器をつなぐときは

「セットアップ」メニューで「光デジタル出力設定」を「PCM」にしてください。

デジタル放送の音声も、地上アナログやビデオ機器などからのアナログ音声もすべて、PCM音声（2ch）のデジタル信号に変換して出力されます。

1 デジタル放送視聴中にメニューボタンを押して、メニューを出す。

2 で「セットアップ」を選んで、決定で決定する。

3 で「デジタル放送設定」を選んで、決定で決定する。

4 で「接続機器設定」を選んで、決定で決定する。

5 で「光デジタル出力設定」を選んで、決定で決定する。

6 で「PCM」を選んで、決定で決定する。

7 戻るボタンをくり返し押して、設定画面を消す。

録画実行中（☞63、65、68、70ページ）のご注意

- **音声信号が1つのときは**
  本機のスピーカーから聞こえる音声には関係なく、予約されたデジタル放送のチャンネルの音声を出力します。
  ただし、「PCM」に設定されているときは、二重音声番組では、「セットアップ」メニューの「二重音声設定（AVマウス）」（☞62ページ）で設定した音声が出力されます。
- **第2音声など音声信号が複数あるときは**
  i.LINKでデジタル録画予約したとき（☞61ページ）は、第1音声が出力されます。
  AVマウスで録画予約したとき（☞61ページ）は、予約時に設定した音声が出力されます。

オーディオ機器をつなぐ（つづき）

光デジタル音声入力対応のオーディオ機器につないだスピーカーでのみ音声を聞くときは

「セットアップ」メニューで「スピーカー」を「切」にしてください。
「セットアップ」→「テレビ設定」→「各種設定」→「スピーカー」→「切」を選ぶ。選びかたは☞14ページをご覧ください。
本機での音量調節に関係なく、本機のスピーカーから音声が出なくなります。オーディオ機器側で音量を調節してください。

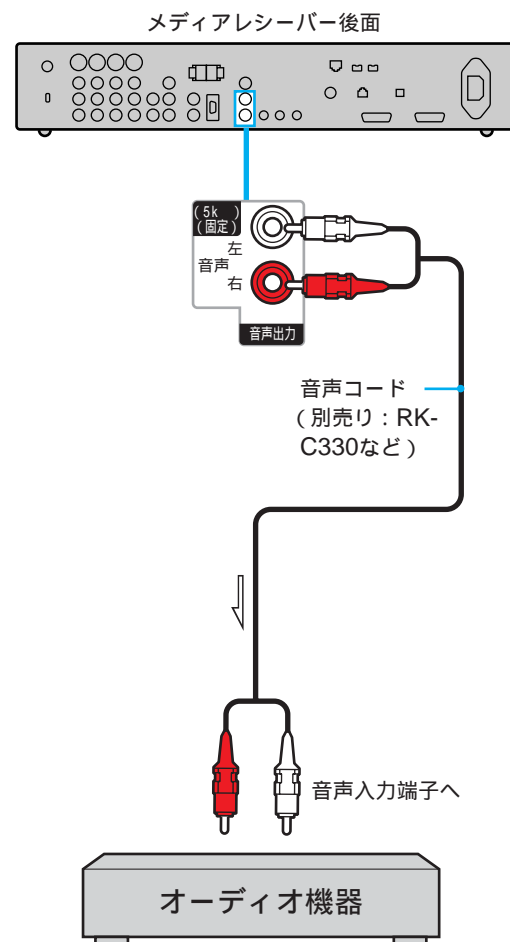
ヘッドホンで音声を聞くときは

メディアレシーバー前面のヘッドホン端子にヘッドホンをつなぐと、デジタル放送とi.LINK端子からの入力以外は、光デジタル音声出力端子から出力されなくなります。2画面で「ヘッドホンモード2」にしているとき（☞133ページ）はスピーカーから聞こえている音声が出力されます。

ご注意

- デジタル放送では、「光デジタル出力設定」を「オート」にすると、光デジタル音声出力からAAC音声が出力されます。AACに対応していないAVアンプやサンプリングレートコンバーター内蔵のMDデッキなどにつなぐときは、必ず「PCM」に設定してください。「オート」のままだと、正しく出力されません。
- 本機には、録画防止機能（コピープロテクション）が付いています（☞87、284ページ）。そのため、音声に関しても、メディアレシーバー後面の光デジタル音声出力端子からの信号を、録音できない番組があります。
- 光デジタル音声出力端子からは、データ放送での効果音（ピンポンとかブーなど）は出力されません。

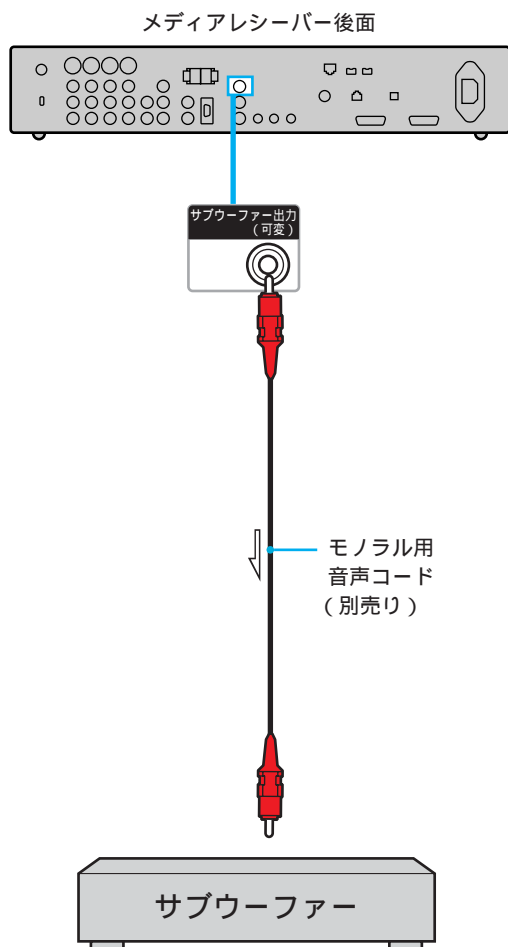
その他のオーディオ機器（2ch入力対応）をつなぐとき

オーディオ機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

オーディオ機器につないだスピーカーで音声を聞くときは

「セットアップ」メニューで「スピーカー」を「切」にしてください。
「セットアップ」→「テレビ設定」→「各種設定」→「スピーカー」→「切」を選ぶ。選びかたは☞14ページをご覧ください。
本機での音量調節に関係なく、本機のスピーカーから音声が出なくなります。オーディオ機器側で音量を調節してください。

ご注意

メディアレシーバー前面のヘッドホン端子にヘッドホンをつなぐと、音声出力端子からの音声信号が出力されなくなります。2画面で「ヘッドホンモード2」にしているとき（☞133ページ）はスピーカーから聞こえている音声が出力されます。音声出力端子にカセットデッキなど録音機器をつないでいるときは、ご注意ください。

サブウーファーをつなぐとき

ちょっと一言

AAC対応AVアンプをつなぐ（☞279ページ）ときは、サブウーファーはAVアンプのサブウーファー出力端子につないでください。

i.LINK(アイリンク)での接続

ここでは、本機とi.LINK対応機器の接続について説明しています。
i.LINK対応機器の操作については、「i.LINKで操作する [i.LINK Studio]」(☞159ページ) をご覧ください。

i.LINK（アイリンク）について

i.LINKで何ができるの？

i.LINKは、i.LINK端子を持つ機器間で、デジタル映像やデジタル音声などの信号を双方向でやりとりしたり、他機を操作したりできます。
次のような特徴があります。

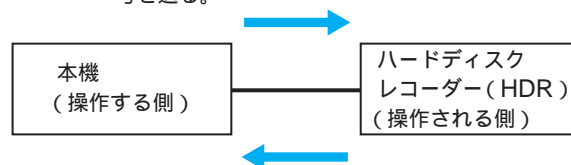
- デジタル信号の高画質/高音質をそのまま録画できます。
- i.LINKケーブル1本だけでi.LINK対応機器間をつなげます。
- 複数のi.LINK対応機器をつないだときは、他の機器を介してつないでも、操作やデータのやりとりができます。このため、接続順序は気にする必要ありません。
- つなぐ機器の特性や仕様によっては、操作のしかたが異なったり、つないでも操作やデータのやりとりができない場合があります。
- LINC（☞右記）した、i.LINK対応機器を1度に1台だけ操作できます。

LINC（リンク）する：操作したいi.LINK対応機器を選ぶ

i.LINKケーブルでつないだだけでは、i.LINK対応機器を本機は操作できません。
まず操作したい相手の機器を選ぶ必要があります。これを「LINCする」といいます。
「LINCする」と、本機と操作したい相手の機器間で、次の図のように信号のやりとりが行われます。

例：本機がハードディスクレコーダー（HDR）をLINCするとき

呼びかけ①と返答②でLINCが成立して初めて、i.LINK対応機器を操作できるようになります。

① 本機が「これから操作してもいいですか？」と、ハードディスクレコーダー（HDR）に信号を送る。

② ハードディスクレコーダー（HDR）が「了解です」と、本機に信号を送る。

ちょっと一言

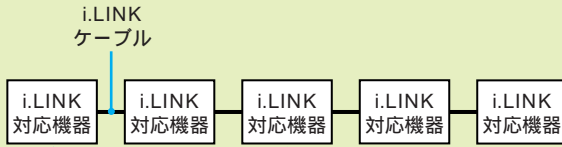
LINCは、Logical Interface Connection（ロジカル・インターフェース・コネクション：「論理的な接続を行う」の意）の略です。

i.LINK（アイリンク）および i. はIEEE1394の親しみやすい呼称としてソニーが提案し、国内外多数の企業からご賛同いただいている商標です。
IEEE1394は電子技術者協会によって標準化された国際標準規格です。

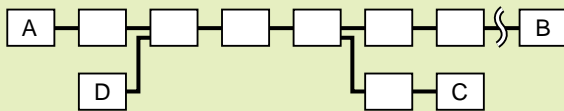
コピープロテクションについて（☞87ページもご覧ください）

本機はDTLAのコピープロテクション技術に対応しています。
著作権保護に対応したi.LINK対応機器には、デジタルデータのコピープロテクション技術が採用されています。
この技術のひとつは、DTLA（The Digital Transmission Licensing Administrator）というデジタル伝送における著作権保護技術の管理運用団体から許可を受けているものです。
このDTLAのコピープロテクション技術を搭載している機器間では、コピーが制限されている映像/音声/データにおいて、i.LINKでのデジタルコピーができない場合があります。
また、DTLAのコピープロテクション技術を搭載している機器と搭載していない機器との間では、i.LINKでデジタルの映像/音声/データのやりとりができない場合があります。

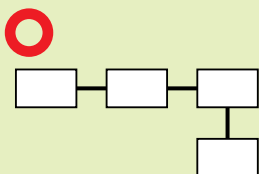
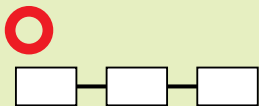
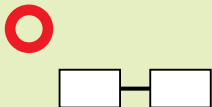
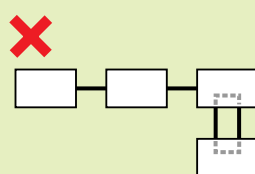
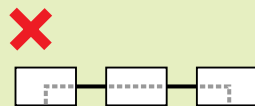
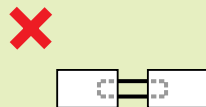
i.LINKでの接続について

i.LINK対応機器は、i.LINKケーブルで数珠つなぎにします（「デイジー・チェーン」と呼びます）。

2つの機器の間に他の機器がつながれていても、操作やデータのやりとりを行えます。

途中から分岐してつなげます

- i.LINK端子を3つ以上持つi.LINK対応機器の場合、途中から分岐してもつなげます。
- i.LINKの規格上、一番長い経路は17台までつなげます（i.LINKケーブルは、一番長い経路に対して連続して16本まで使用できます）。
  ひとつの経路に対して使用したi.LINKケーブルの数を「ホップ」と呼びます。例えば、下図のA→Cの経路は6ホップ、A→Dの経路は3ホップとなります。

A→B、A→C、A→D、B→C、B→D、C→D、
いずれの経路も最大17台の機器をつなげます（最大16ホップ）。

接続が輪（ループ）にならないようにつないでください

デジタル信号は、接続したすべてのi.LINKケーブルに流れます。信号を出力した機器に同じ信号が戻らないよう、輪にならないようにつないでください。接続が輪（環状）になることを「ループ」と呼びます。

接続についてのご注意

- i.LINKのデジタル信号は、その機器で取り扱えるかどうかに関わらず、つないだ他のi.LINK対応機器に中継されます。ただし、コンピューターなど一部のi.LINK対応機器の中には、電源が切られていたり、省電力モードに入っていると、データを中継しない機器があります。i.LINKでの接続の際は、つなぐ機器の取扱説明書もご覧ください。
- i.LINKは、すべてのi.LINK対応機器間での接続動作を保証するものではありません。i.LINK対応機器間でデータやコントロール信号がやりとりできるかどうかは、それぞれの機器の機能によって異なります。
- i.LINK対応機器には、その機器が対応している最大データ転送速度がi.LINK端子の周辺に表記されています。i.LINKの最大データ転送速度は、約100/200/400Mbps*が定義されており、200MbpsのものはS200、400MbpsのものはS400と表記されます。最大データ転送速度が異なる機器をつないだ場合や、機器の仕様により、実際の転送速度が表記と異なることがあります。

* Mbps（メガビーピーエス）とは、「Mega bits per second」の略で、1秒間に通信できるデータの容量を示しています。400Mbpsでは、1秒間に400メガビットのデータを転送します。

ハードディスクレコーダーをつなぐ

ソニー製のデジタル レコーディング ハードディスクドライブVRP-T1/VRP-T3/VRP-T5などとつなぎます。デジタル レコーディング ハードディスクドライブの取扱説明書もあわせてご覧ください。

接続対象機器

デジタル レコーディング ハードディスクドライブVRP-T1/VRP-T3/VRP-T5など

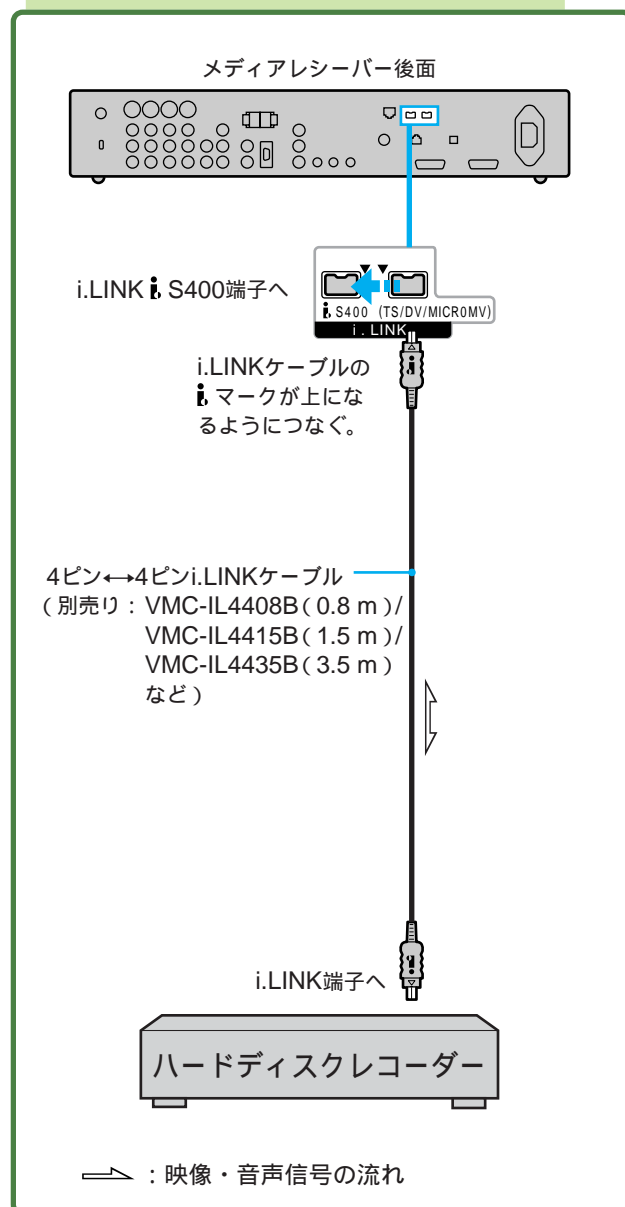
接続してできること

- 「i.LINK Studio」操作画面*（☞162ページ）を使って、デジタル放送をデジタル録画/再生できる。
- D-VHSビデオもi.LINK接続しているときは（☞287ページ）、本機を経由してハードディスクレコーダーからD-VHSビデオにダビング（☞171ページ）できる。

* 「i.LINK Studio」操作画面では、「HDR」と表示されます。

ご注意

コピープロテクション（☞87、284ページ）が設定されている地上デジタルやBSデジタル、110度CSデジタル放送の番組は、ダビングできません。

ハードディスクレコーダーをつなぐ

本機でハードディスクレコーダーを操作するには

☞162、165、169、171ページをご覧ください。

D-VHSをつなぐ

D-VHS（デジタルハイビジョンビデオ）をつなぎます。D-VHSビデオの取扱説明書もあわせてご覧ください。

接続対象機器

2004年9月現在推奨機種

- 日本ビクター製デジタルハイビジョンビデオ HM-DHX1、HM-DHS1、HM-DHX2
- 日本ビクター製デジタルハイビジョンビデオ HM-DH35000（生産完了品）
  この製品に関するお問い合わせ
  日本ビクター株式会社
  お客様ご相談センター
  TEL. 0120-282-817（フリーダイヤル）
  携帯電話やPHSなどから
  東京：TEL. 03-5684-9311
  大阪：TEL. 06-6765-4161
  受付時間：月～金曜日 9:00～17:00（祝祭日を除く）

ご注意

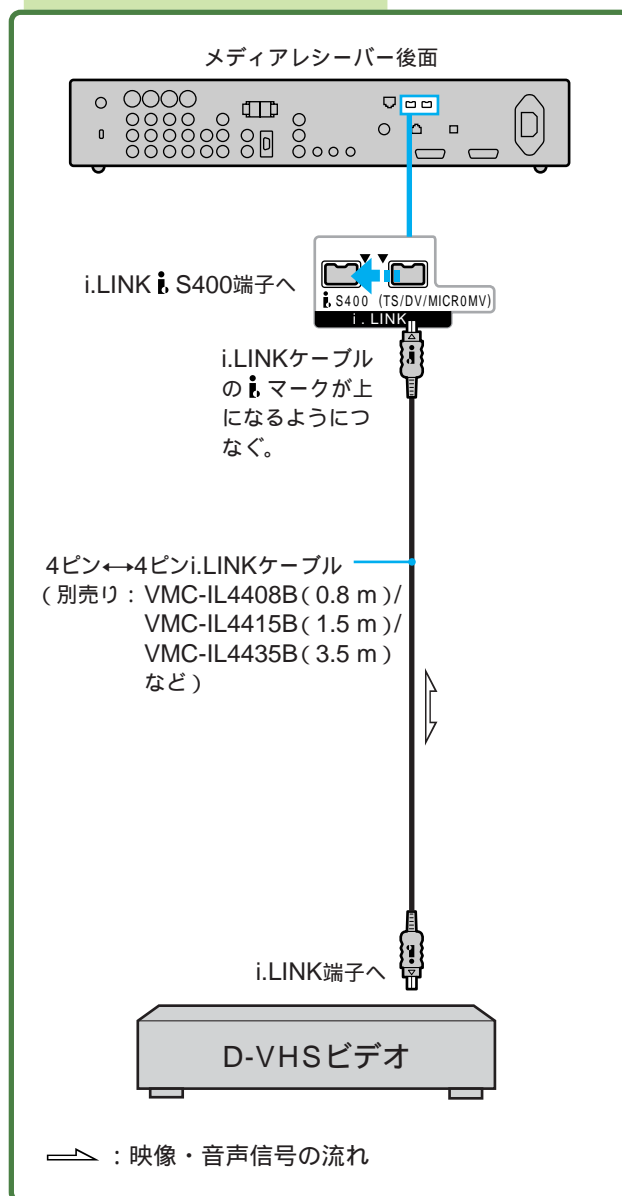
- 上記推奨機種以外のD-VHSビデオを本機につないでも、正しく動作しない場合があります。
- ソニー製D-VHSビデオデッキSLD-DC1は、本機の操作画面で操作できますが、デジタルハイビジョン信号HDは録画できません。

接続してできること

- 「i.LINK Studio」操作画面*（☞163ページ）を使って、デジタル放送をD-VHSビデオにデジタル録画/再生できる。
- ハードディスクレコーダーもi.LINK接続しているときは（☞286ページ）、ハードディスクレコーダーからD-VHSビデオにダビング（☞171ページ）できる。

* 「i.LINK Studio」操作画面では、「D-VHS」と表示されます。

ご注意

コピープロテクション（☞87、284ページ）が設定されている地上デジタルやBSデジタル、110度CSデジタル放送の番組は、ダビングできません。

本機でD-VHSビデオを操作するには

☞163、165、169、171ページをご覧ください。

ご注意

D-VHSビデオをアナログ録画やアナログ再生にも使うときは、「ビデオなどをつなぐ」（☞267ページ）も行ってください。

デジタルビデオカメラレコーダーをつなぐ

デジタルビデオカメラレコーダーなどをつなぎます。つなぐときは、デジタルビデオカメラレコーダーの電源を切っておいてください。デジタルビデオカメラレコーダーの取扱説明書もあわせてご覧ください。

接続対象機器

- ソニー製のMICROMV方式デジタルビデオカメラレコーダー
- ソニー製DV方式デジタルビデオカメラレコーダー
- ソニー製DVデッキ

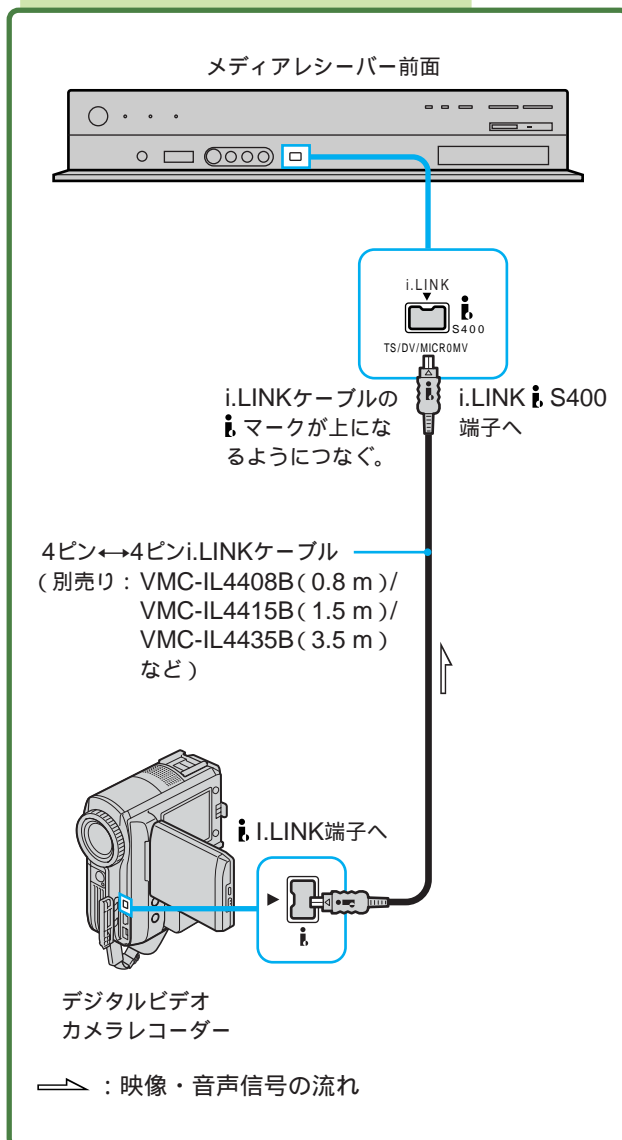
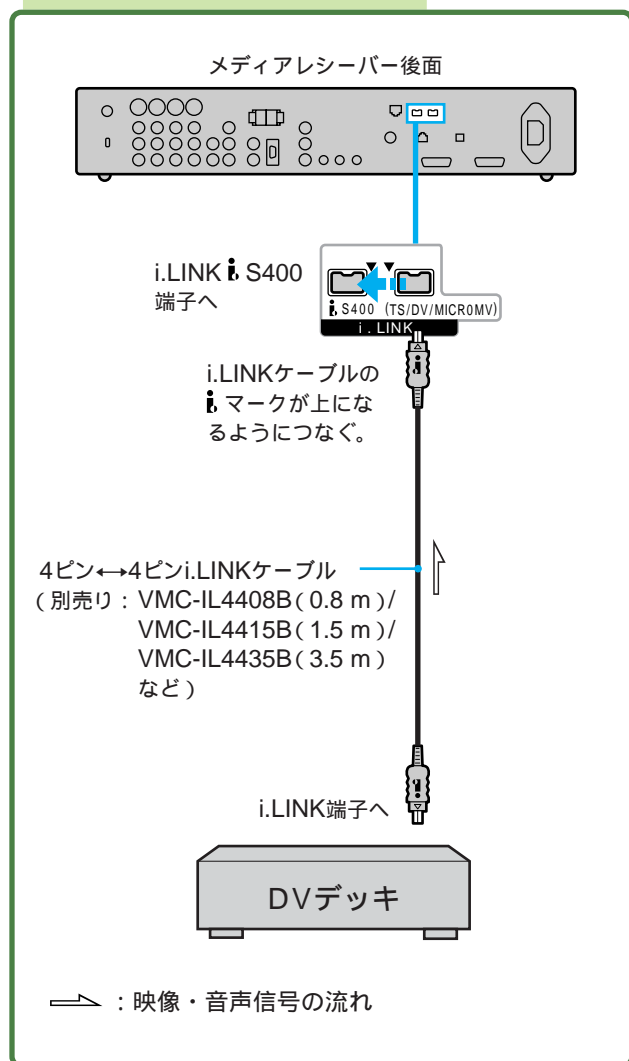
ご注意

ソニー製デジタルビデオカメラレコーダーDCR-VX1000はお使いになれません。

接続してできること

「i.LINK Studio」操作画面*（☞164ページ）を使って、デジタルビデオカメラレコーダーの映像をデジタル再生できる。

* 「i.LINK Studio」操作画面では、「CAM」と表示されます。

デジタルビデオカメラレコーダーをつなぐ

DVデッキをつなぐ

本機でデジタルビデオカメラレコーダーやDVデッキを操作するには

☞164、168ページをご覧ください。

その他のi.LINK対応機器をつなぐ

ハードディスクレコーダーや、D-VHSビデオ、デジタルビデオカメラレコーダー以外のi.LINK対応機器をつなぎます。つないだi.LINK対応機器の取扱説明書も必ずご覧ください。

接続してできること

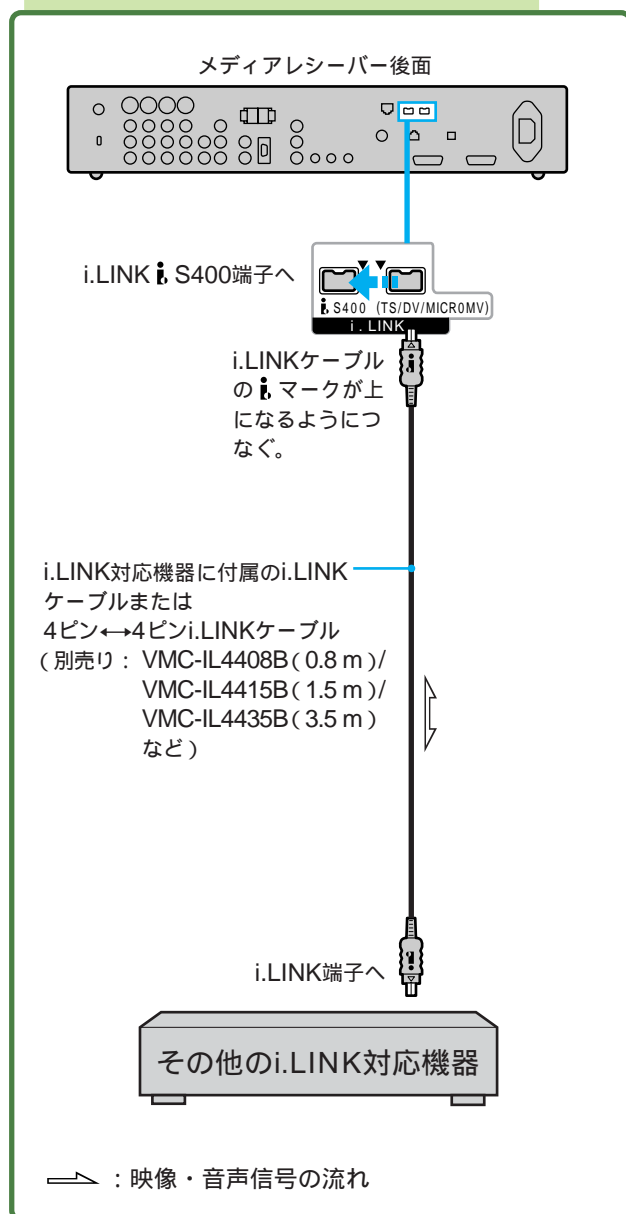
「i.LINK Studio」操作画面*（☞175ページ）を使って、デジタル信号の入出力ができます。それ以外は、本機で操作できません。**つないだ機器側で操作してください。**

* 「i.LINK Studio」操作画面では、「OTHER」と表示されます。

ご注意

- 接続対象機器（☞286～289ページ）以外の機器の動作は保証していません。
- 次のi.LINK対応機器は、本機が対応していないため、つながないでください。
  - パソコン
  - MDデッキ
- 機器によっては、正しくLINCできないことがあります。また、LINCできても、デジタル信号が正しくやりとりされないことがあります。詳しくは、つないだi.LINK対応機器の取扱説明書をご覧ください。
- i.LINK端子からは、受信中のデジタル放送のデジタル信号が出力されます。
  （地上アナログや本機につないだビデオやDVDの映像などは出力されません。）

次のページにつづく

その他のi.LINK対応機器をつなぐ

その他のi.LINK対応機器を操作するには

☞174ページをご覧ください。

その他

ここでは、本機が正常に動かないときに解決する方法や、お手入れのしかたなどについて説明しています。
また、各部の名前や索引を使って、知りたい情報を探すこともできます。

故障かな？と思ったら

修理に出す前に、もう1度、点検をしてください。それでも、正常に動作しないときは、お買い上げ店またはソニーサービス窓口にご相談ください。
ご相談になるときは、次のことをお知らせください。

セットの型名：
ケーディーイーピー　エイチエックス
KDE-P42HX2

ディスプレイの型名：
ピーディエム
PDM-4210

メディアレシーバーの型名：
エムビーディ エイチエックス ピー
MBD-HX2P

セットの型名：
ケーディーイーピー　エイチエックス
KDE-P50HX2

ディスプレイの型名：
ピーディエム
PDM-5010

メディアレシーバーの型名：
エムビーディ エイチエックス ピー
MBD-HX2P

セットの型名：
ケーディーイーピー　エイチエックス
KDE-P55HX2

ディスプレイの型名：
ピーディエム
PDM-5510

メディアレシーバーの型名：
エムビーディアールエイチエックス ピー
MBDR-HX2P

ご注意

MBDR-HX2Pは、KDE-P55HX2専用メディアレシーバーです。ディスプレイとメディアレシーバーの組み合わせが正しくない場合は、お買い上げ店またはソニーサービス窓口にご相談ください。

セットの型名：
ケーディーイーピー　エイチエックス
KDE-P61HX2

ディスプレイの型名：
ピーディエム
PDM-6110

メディアレシーバーの型名：
エムビーディ エイチエックス ピー
MBD-HX2P

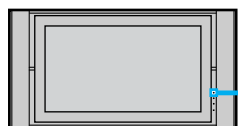
画面サイズ（番号）がどれかわからないときは、保証書に記載されている型名をお知らせください。

リモコンの型名：
アールエム ジェイ
RM-J1002

故障の状況：できるだけくわしく

購入年月日：

自己診断表示ー画面が消え、スタンバイ/オフタイマーランプが点滅したら

ディスプレイおよびメディアレシーバーには自己診断表示機能がついています。これは本機に異常が起きたときに、メディアレシーバーのスタンバイ/オフタイマーランプおよびディスプレイのPOWER ON/STANDBY⏻（電源/スタンバイ）ランプの点滅およびその速さで本機の状態をお知らせし、よりスムーズにサービス対応させていただくための機能です。

POWER ON/STANDBY⏻ランプ（電源/スタンバイランプ）

スタンバイ/オフタイマーランプ

ランプの状態と本機の症状

右記のようにランプが点灯、点滅するときは、メディアレシーバーの電源スイッチで電源を切り、ディスプレイとメディアレシーバー両方の電源コードをコンセントから抜いてください。電源コードを抜いてから10秒以上たってから再び電源を入れて症状を確認してください。それでも同じ症状が出た場合は、お買い上げ店に、点滅の状態を知らせてください。

メディアレシーバースタンバイ/オフタイマーランプ	ディスプレイPOWER ON/STANDBY⏻（電源/スタンバイ）ランプ	症　状
赤点滅9回をくり返す	赤/緑交互点滅（赤点滅→緑点滅→赤点滅...）	ディスプレイが異常。
消灯	オレンジ点滅	メディアレシーバーの電源コードがはずれている。
オレンジ点滅	消灯	ディスプレイの電源コードがはずれている。
オレンジ点滅	オレンジ点滅	ディスプレイケーブルがはずれている。
赤点滅9回をくり返す	赤点滅4回をくり返す	ディスプレイの温度が高い。または、ディスプレイの冷却ファンが異常。
赤点滅4回をくり返す	赤点灯	メディアレシーバーの冷却ファンが異常。
赤点滅9回をくり返す	赤点滅7回をくり返す	ディスプレイの音声回路が異常。
赤点滅9回をくり返す	赤点滅6回をくり返す	ディスプレイの電源回路が異常。
赤点滅6回をくり返す	赤点灯	メディアレシーバーの電源回路が異常。

映像について

デジタル放送を視聴しているときは、「デジタル放送について」（☞298ページ）をご覧ください。

症状	対処のしかた
画像が出ない	
すべてのチャンネルが映らない。	● 電源コードを、ディスプレイ/メディアレシーバーと壁のコンセントにしっかりつないでください。 ● ディスプレイケーブルがディスプレイとメディアレシーバーにしっかりつながれているか確認してください。 ● メディアレシーバーの電源スイッチを押して、主電源を入れてください。 ● アンテナ線をしっかりつないでください。 ● 電波の送信元付近の地域は、電波が強いため、画面に縞状のノイズが出ることがあります。メディアレシーバー後面にあるアッテネーター（減衰器）のスイッチを「入」にしてください（☞198ページ）。 ● 消画にしていませんか？（☞120ページ） 消画のときはディスプレイのPICTURE OFF⊠ランプが青く点灯します。 ●「残像軽減モード」にしていませんか？（☞127ページ） 「残像軽減モード」のときは画面が白くなり、約30分後に自動的に通常の画面に戻ります。
特定のチャンネルだけが映らない。	● チャンネルを合わせ直してください（☞217ページ）。
テレビの電源が突然切れた/いつのまにか消えていた（電源スタンバイ状態になった）。	● テレビの消し忘れを防ぐため、地上アナログ放送終了後（2画面では操作画面）、または放送のないチャンネルを受信している状態で約10分過ぎると、「オートシャットオフ」と表示されて、自動的に電源スタンバイ状態になります。（ただし、デジタル放送のチャンネルを表示しているときは、そのまま画面が表示され、電源スタンバイ状態にはなりません。） ● オフタイマーを設定していませんでしたか?（☞34ページ） ●「セットアップ」メニューで「無操作電源オフ」を設定していませんか?（☞16ページ）
つないだ機器の画像が出ない。	● 接続コードをしっかりつないでください。 ● リモコンの入力切換用のボタンを押してください（☞108ページ）。 ● S映像入力のときは、「セットアップ」メニューで「オートS映像」を「入」にしてください（☞270ページ）。 「セットアップ」→「テレビ設定」→「各種設定」→「オートS映像」→「入」を選ぶ。選びかたは☞14ページをご覧ください。 ●“ プレイステーション 2 ”をAVマルチ入力端子につないでいるときは、“ プレイステーション 2 ”のコンポーネント出力の設定と本機のAVマルチ（RGBまたはY/CB/CR）入力を合わせてください（☞110ページ）。 ● 消画にしていませんか？（☞120ページ）。 消画のときはディスプレイのPICTURE OFF⊠ランプが青く点灯します。
きれいに映らない	
画像が二重、三重になる。	● アンテナ線をしっかりつないでください。 ● アンテナの位置、方向、角度を調整してください。 ●「セットアップ」メニューで「GR設定」を「入」にしてください（☞254ページ）。 「セットアップ」→「テレビ設定」→「地上アナログ設定」→「GR設定」→「入」を選ぶ。選びかたは☞14ページをご覧ください。
雪が降るような画面、うすい画面、風がふくとちらつく。	● アンテナが風でこわれたり曲がったりしていないか確認してください。 ● アンテナの寿命を確認してください（通常3～5年、海辺では1～2年）。

症状		対処のしかた
きれいに映らない		
斑点や点模様が走る。		● ヘアードライヤー、自動車、バイクなどからの雑音電波の干渉を受けています。アンテナはなるべく道路から離して設置してください。
色がつかない、色がおかしい、画面が暗い。		● 明るさ設定ボタンを押して、画質設定を選んでください（☞121ページ）。 ●「セットアップ」メニューの「画質調整」で、画質を調整してください（☞124ページ）。 「セットアップ」→「テレビ設定」→「画質調整」を選ぶ。選びかたは☞14ページをご覧ください。 ●「消費電力：減」のときは、画面が暗くなります（☞120ページ）。
画面に光る点、または光らない点がある。	 輝点・滅点	● フラットパネルテレビの映像は微細な画素の集合です。画面の一部に画素欠けや輝点が存在する場合がありますが、故障ではありません。
電源を入れたとき、画面のちらつきやむらが見える。		● 電源を入れたときに画面に「むら」や「ちらつき」が見える場合がありますが、プラズマディスプレイの性質によるものであり、故障ではありません。
画面がまぶしい。		● 明るさ設定ボタンを押して、画質設定を選んでください（☞121ページ）。
縞状のノイズが多い。		● 付属のアンテナ接続ケーブルを使って、テレビアンテナをつないでいるか確認してください。 ● アンテナ線は、他の電源コードや接続ケーブルから、できるだけ離してください。 ● フィーダー線や室内アンテナは特に電波妨害を受けやすいため、使わないでください。
画像が乱れる、雑音が混じる。		● ディスプレイの前面や真横に本機に接続した機器を設置していませんか？ディスプレイと他機との間隔をあけてください。
ビデオの再生/録画時に縞状のノイズが出る。		● ビデオとメディアレシーバーが近いため、干渉しあっています。ビデオをメディアレシーバーからできるだけ離して置いてください。 ● ビデオなどの機器をディスプレイに近付けて設置すると相互干渉でノイズが生じることがあります。30cm以上離して設置してください。 ● ディスプレイの前面や側面に設置するのを避けてください。
AVマルチ入力端子につないだ“プレイステーション 2”などの画像がずれる。		●「セットアップ」メニューの「AVマルチ画面位置」で画面位置を調整してください（☞110ページ）。 「セットアップ」→「テレビ設定」→「各種設定」→「AVマルチ画面位置」を選ぶ。選びかたは☞14ページをご覧ください。
AVマルチ入力端子につないだ“プレイステーション 2”の画像がきれいに映らない。		●“プレイステーション 2”をAVマルチ入力につないでいるときは、“プレイステーション 2”のコンポーネント出力の設定と本機のAVマルチ(RGBまたはY/CB/CR) 入力を合わせてください（☞110ページ）。
画面に焼き付きや残像が出る。		●「セットアップ」メニューでスクリーンセーバーを設定してください（☞126ページ）。 「セットアップ」→「テレビ設定」→「スクリーンセーバー」→「残像軽減モード」→「入」を選ぶ。選びかたは☞14ページをご覧ください。 しばらくそのままの状態にしておくと、焼き付きや残像が軽減されます。30分後に自動的に通常の画面に戻ります。残像が気になるときは、くり返し「残像軽減モード」を行ってください。
画面表示がずれる/動く。		●「セットアップ」メニューの「スクリーンセーバー」で、「自動表示位置移動」が「入」になっていませんか？（☞126ページ）　画面表示のずれや移動が気になるときは「切」にしてください。お買い上げ時は「自動表示位置移動：入」に設定されています。 「セットアップ」→「テレビ設定」→「スクリーンセーバー」→「自動表示位置移動」→「切」を選ぶ。選びかたは☞14ページをご覧ください。

次のページにつづく

症状	対処のしかた
ワイド画面が切り換わる	
オートワイドのときに画面モードが勝手に切り換わる。	• CMが入ったり、番組が変わったりするときなどに、画面サイズが変わって不自然に見えたり、変わるまでに数秒間かかったりすることがあります。番組に最適な画面を本機が判断しているためです（☞130ページ）。 • 識別制御信号のある画像を受信して、自動的に信号に対応した画面モードになるためです（☞130ページ）。 • オートワイドが働いているときに、ワイド切換ボタンでワイド画面を切り換えていませんか。チャンネルや入力を変えたりするとオートワイドが働き、自動的に最適な画面に切り換わります。 ワイド切換ボタンで切り換えた画面モードで固定したいときは、「セットアップ」メニューで「オートワイド」を「切」にしてください（☞131ページ）。 「セットアップ」→「テレビ設定」→「画面モード」→「オートワイド」→「切」を選ぶ。選びかたは☞14ページをご覧ください。
入力が切り換わる	
自動で入力が切り換わる	• プラズマディスプレイの残像対策のため、下記の画面を表示しているときは、無操作が5分続くと、自動でもとの入力画面に戻ります。 － Memory Stick Studio（トップ画面、静止画を表示しているとき） － デジタル放送用の機能（番組説明、番組表、番組検索など） － チャンネルインデックス － CHガイド － メモ画面など

音声について

症状	対処のしかた
音が出ない/雑音が多い	
画像は出るが、音が出ない。	• 音量が下がりきっていないか確認してください。 • 画面に「消音」の表示が出ているときは、リモコンの消音ボタンか音量＋ボタンを押して表示を消してください。 • ヘッドホンを抜いてください。 •「セットアップ」メニューで「スピーカー」を「入」にしてください。 「切」のときは、本機での音量調節に関係なく、本機のスピーカーから音声が出なくなります。 「セットアップ」→「テレビ設定」→「各種設定」→「スピーカー」→「入」を選ぶ。選びかたは☞14ページをご覧ください。 • スピーカーを取りはずして使うときは（KDE-P55HX2/P61HX2のみ）、ディスプレイ後面のEXT SP専用スイッチをONにしてください（☞314ページ）。 • スピーカーを取り付けて使うときは（KDE-P55HX2/P61HX2のみ）、ディスプレイ後面のEXT SP専用スイッチをOFFにしてください（☞314ページ）。
TVセンタースピーカーにしたときに音が出ない。	• メディアレシーバー後面のセンター入力端子にAVアンプなどのセンタースピーカー出力をつないでいますか？（☞183ページ） • AVアンプを消音などにしていませんか？（☞187ページ） • センター音声のある番組やDVDソフトですか？
TVセンタースピーカーにしているときに、チャンネルを切り換えると、本機のスピーカーから音声が聞こえなくなる。	• センター音声のない番組に切り換わったためです。 TVセンタースピーカーボタンを押して、通常の音声に戻してください（☞186ページ）。

症状	対処のしかた
音が出ない/雑音が多い	
TVセンタースピーカーをやめると、本機のスピーカーから音声が聞こえなくなる。	● ビデオやDVDプレーヤーなどの音声出力をメディアレシーバーの音声入力端子につないでいますか？TVセンタースピーカーで音声を聞く機器は、映像端子と共に音声端子もメディアレシーバーにつないでおいてください（☞183ページ）。
雑音が多い。	● 付属のVHF/UHF用アンテナ接続ケーブルを使って、地上波アンテナをつないでいるかを確認してください。 ● アンテナ線は他の電源コードや接続ケーブルからできるだけ離してください。 ● フィーダー線や室内アンテナは特に電波妨害を受けやすいため、使わないでください。 ●「セットアップ」メニューで「オートステレオ」を「切」にしてください（☞141ページ）。 「セットアップ」→「テレビ設定」→「地上アナログ設定」→「オートステレオ」→「切」を選ぶ。選びかたは☞14ページをご覧ください。 ● 赤外線コードレスヘッドホンなどの赤外線通信機器を本機の近くで使用すると通信障害が発生する場合があります。 赤外線コードレスヘッドホン以外のヘッドホンをご使用ください。また、赤外線ヘッドホン以外の赤外線通信機器をご使用の場合は、ノイズが消える場所まで、赤外線の送受信機器をディスプレイから離すか、赤外線通信機器の送信部と受信部を近づけてご使用ください。
聞きたい音声になっていない。	● 二か国語放送などで、副音声や第2音声*になっていませんか？（☞138ページ）*デジタル放送のみ
本機から異音がする	
「ピシッ」といううきしみ音が出る。	● 周囲との温度差でキャビネットが伸縮し、「ピシッ」という音が出ることがありますが、本機に影響はありません。
電源スタンバイ時「カチッ」と音がする。	● 故障ではありません。これはデジタル放送からのデータを取得するために本機の電源が自動的に入るためで、本機に影響はありません。（このとき通信ランプが点灯します。）（☞309ページ）
「ブーン」という音がする。	● メディアレシーバー内部のファンが回っている音です。故障ではありません。 ● スタンバイのときも、衛星からのデータを取得するため（☞309ページ）、ファンが回っている音がすることがあります。データ取得が終わったら自動的に電源スタンバイ状態に戻り、ファンも止まります。また、メディアレシーバーの電源をスイッチで切ると、すぐにファンが止まります。 ● 高地など気圧の低い場所（高度約2400m以上、気圧約800hPa以下、ただしKDE-P55HX2のみ高度約1500m以上、気圧約840hPa以下）で使用すると、プラズマディスプレイパネルの構造上、ブーンという音（バズ音）がしたり、画面が正しく表示されなかったりすることがありますが、故障ではありません。
「サー」という音がする。	● テレビ内部で発生する静電気が原因で、本機に影響はありません。
電源を入れたときに「カチッ」という音がする。	● 電源を入れたときに、内部の回路が働くため音がしますが、故障ではありません。
ディスプレイから「ジーッ」という音がする。	● 電源を入れると、ディスプレイの駆動音が聞こえることがありますが、故障ではありません。
メディアレシーバーからモーター音や風を切る音がする。	● 本機は内部の温度上昇を抑えるため、冷却ファンを使用しています。本機から冷却ファンの音が聞こえることがありますが、故障ではありません。 ● スタンバイ中もデータ取得のためにファンの音がすることがあります。

次のページにつづく

デジタル放送について

症状	対処のしかた
デジタル放送が映らない/乱れる	
地上デジタルのアンテナ受信設定ができない/放送を受信できない。	● 地上デジタルに対応したUHFアンテナにつないでください。 ● アンテナ線をしっかりつないでください。 ● お住まいの地域で地上デジタル放送が開始されているか、ご確認ください。
BSデジタル・110度CSデジタルの衛星アンテナの受信設定ができない/衛星が受信できない。	● 衛星アンテナを前方に障害物がないところに設置してください。 ● 衛星アンテナ側は防水型コネクターをつないでください。 ● 衛星アンテナとメディアレシーバーは指定された別売りのサテライト用同軸ケーブルでつないでください（☞199ページ）。 ● 衛星アンテナの方向・角度を調整してください（☞223ページ）。 ● 雨の強い日は衛星から電波が届きにくく、受信設定ができないことがあります。
地上デジタルが映らない/画像が乱れている。	● 電波の送信元付近の地域は電波が強いため、画面にノイズが出ることがあります。メディアレシーバー後面にあるアッテネータ（減衰器）のスイッチを「入」にしてください（☞198ページ）。 ● アンテナ線をしっかりつないでください。 ● 地上波アンテナの位置・方向・角度を調整してください（☞197ページ）。 ● 本機の近くで携帯電話や電子レンジなどを使用すると、映像や音声が乱れることがあります。 ● チャンネルスキャン（☞219ページ）を行ってください。
BSデジタル・110度CSデジタルが映らない/画像が乱れている。	**衛星アンテナを直接つないでいる場合** ● 衛星アンテナの前方に障害物があれば取り除いてください。 ● 衛星アンテナ側は防水型コネクターをつないでください。 ● ケーブルの芯線をコネクターに正しく差し込んでください。 ●「セットアップ」メニューで「衛星アンテナ設定」を「オート」または「入」にしてください（☞222ページ）。 「セットアップ」→「デジタル放送設定」→「受信設定」→「BS/CS設定」→「衛星アンテナ設定」→「オート」または「入」を選ぶ。選びかたは☞14ページをご覧ください。 ● 衛星アンテナの方向・角度を調整してください（☞223ページ）。 **マンションなどの共同受信システムの場合** ● ケーブルの芯線をコネクターに正しく差し込んでください。 ● サテライト/UV分波器でVHF/UHFとBSデジタル・110度CSデジタルを分波してください（☞197ページ）。 ●「セットアップ」メニューで「衛星アンテナ設定」を「切」にしてください（☞222ページ）。 「セットアップ」→「デジタル放送設定」→「受信設定」→「BS/CS設定」→「衛星アンテナ設定」→「切」を選ぶ。選びかたは☞14ページをご覧ください。 **複数のBS機器をサテライト分配器でつないでいる場合** ● 衛星アンテナ用電源を供給する機器のスイッチを「入」にしてください。 **その他** ● 雨や雪が降ると映りが悪くなることがあります。また、晴れていても、BSデジタル・110度CSデジタルを送信する放送衛星会社（☞227ページ）の地域で雨や雪が降っていると映りが悪くなることがあります。 ● 本機の近くで携帯電話や電子レンジなどを使用すると、映像や音声が乱れることがあります。 ● サテライト専用のケーブルを使ってください（☞199ページ）。 ● 加入申し込みが必要なチャンネルもあります（☞227ページ）。

症状	対処のしかた
デジタル放送が映らない/乱れる	
BSデジタルは映るのに110度CSデジタルが映らない。	● アンテナ分配器、ブースター（増幅器）および共同受信システムは110度CSデジタルに対応していますか？（☞199ページ） ● 衛星アンテナレベルを確認してください（☞225ページ）。 ● 110度CSデジタルをご覧になるには受信契約が必要です（☞227ページ）。
デジタル放送のチャンネルが映らない。	● B-CASカードは挿入されていますか？（☞225ページ） ● B-CASカードの向きは正しいですか？（☞225ページ） ● B-CASカード挿入口のふたは閉まっていますか？（☞225ページ） ● 放送日や時間を確認してください。 ● 有料BSデジタルや110度CSデジタルの受信契約（加入申し込み）をしていますか？（☞227ページ） ● 長期間、コンセントやアンテナ、電話線を抜いたままにしないでください。視聴データなどの伝送ができなくなり、放送をご覧いただけなくなることがあります。
デジタル放送がときどき映らない/一部のチャンネルが映らない/画像が乱れる。	● よく映らないチャンネルを映したまま、「地上デジタルアンテナレベル」または「衛星アンテナレベル」を表示させ（☞220、223ページ）、画面の下部に表示される「アンテナサービス」の数値を確認し、ソニーサービス窓口にご相談ください。
チャンネル＋/－ボタンで選局できない。	● お買い上げ時は、デジタル放送の放送サービス（テレビ、ラジオ、独立データ）内で順送り選局します。ご覧になっている放送（地上デジタル、BSデジタル、110度CSデジタル）と放送サービス（テレビ、ラジオ、独立データ）をご確認ください（☞22、26、28、32ページ）。 ●「セットアップ」メニューの「チャンネル設定」で、チャンネル＋/－ボタンで選局できるチャンネルを設定できます（☞252ページ）。 「セットアップ」→「デジタル放送設定」→「受信設定」→「チャンネル設定」を選ぶ。選びかたは☞14ページをご覧ください。 ● 複数のチャンネルで同時に同じ番組を放送しているとき（イベント共有）は、代表チャンネルのみが選局できます（☞90ページ）。
デジタル放送のチャンネルが切り換わらない。	● 予約一覧で予約した録画の実行中かを確認してください（☞76ページ）。
画面が黒くなり何も映らない。	● 音声だけのラジオのチャンネルが選ばれたためです。故障ではありません。 ● 2画面のとき、操作画面でデジタル放送のラジオや独立データを選ぶと、操作画面は黒くなり何も映らなくなります。
BSデジタル・110度CSデジタルの映像が、通常に比べ画質/音質が低下した映像に勝手に切り換わる。	● 激しい雨など受信状態が悪いときなどに、降雨対応放送に切り換わる場合があります。頻繁に切り換わるときは、「セットアップ」メニューで「降雨対応放送受信」を「切」にしてください（☞91ページ）。 「セットアップ」→「デジタル放送設定」→「受信設定」→「BS/CS設定」→「降雨対応放送受信」→「切」を選ぶ。選びかたは☞14ページをご覧ください。
デジタル放送のチャンネルを切り換えたり、番組が切り換わったりするときにノイズが出る。	● デジタルハイビジョン信号HDと標準テレビ信号SDなど映像の解像度が変化するときに、同期信号などの白い線が見えることがありますが、故障ではありません。

その他

次のページにつづく

症状	対処のしかた
デジタル放送の音声が乱れる/おかしい	
音声が出ない/音声がおかしい。	● 二か国語放送などで、副音声や第2音声になっていませんか？（☞138ページ） ●「セットアップ」メニューで「サラウンド」を「切」にしてください（☞139ページ）。 「セットアップ」→「テレビ設定」→「音質調整」→「サラウンド」→「切」を選ぶ。選びかたは☞14ページをご覧ください。 「TruSurround」にしていると、番組によっては、音が聞こえにくかったり、消えてしまったりすることがあります。
二か国語が混じって録画機器に録音されていた。	● デジタル放送/ビデオ出力端子から録画機器に録画するときは、あらかじめ「セットアップ」メニューで「二重音声設定（AVマウス）」を設定してください（☞62ページ）。 「セットアップ」→「デジタル放送設定」→「予約設定」→「二重音声設定（AVマウス）」→「主」または「副」、「主/副」を選ぶ。選びかたは☞14ページをご覧ください。 「主/副」を選んだ場合、録画機器で再生するときは録画機器のリモコンで聞きたい音声を選んでください。
番組表に表示されないチャンネルや番組がある	
番組表や他チャンネルリストに表示されないチャンネルがある。	● 番組表（☞38ページ）や他チャンネルリスト（☞57ページ）には各放送（地上デジタル、BSデジタル、110度CSデジタル）の放送サービス（テレビ、ラジオ、独立データ）ごとに番組が表示されます。 放送や放送サービスは番組表や他チャンネルリストを表示中に切り換えられます。 ●「セットアップ」メニューの「チャンネル設定」で、番組表や他チャンネルリストに表示されるチャンネルを設定できます（☞252ページ）。 「セットアップ」→「デジタル放送設定」→「受信設定」→「チャンネル設定」を選ぶ。選びかたは☞14ページをご覧ください。
番組表に表示されるデジタル放送の番組が少ない。	● 地上デジタルでは、視聴中の放送局以外の番組情報を取得できないことがあります。「セットアップ」メニューの「番組情報取得設定」を設定しておけば、電源を入れたときに自動的に番組情報を取得します（☞221ページ）。 「セットアップ」→「デジタル放送設定」→「各種設定・その他」→「番組情報取得設定」を選ぶ。 選びかたは☞14ページをご覧ください。 ● 番組表を表示しているときに、ツールボタンを押して「番組情報取得」を選んでください（☞41ページ）。番組情報を取得し直します。
好み選局に表示されないチャンネルがある。	● 好み選局のチャンネルは、あらかじめ登録しないと表示されません。「好み選局にチャンネルを登録する」（☞43ページ）を行ってください。
検索をしたときに表示される番組数が少ない。	● お買い上げ時、または長時間メディアレシーバーの電源スイッチで主電源を切った状態のときは、次に電源スイッチを押して主電源を入れたあとは、番組表に表示される番組が少ないことがあります。本機では、主電源を切っているときは放送局が送信する番組情報をデータ取得できないためです。
ジャンル検索した番組のジャンルが「番組説明」画面で表示されるジャンルと違っている。	●「番組説明」画面（☞36ページ）では、代表的なジャンルが1つしか表示されませんが、1つの番組が複数のジャンル情報を持っていることがあり、それぞれのジャンルで検索できるためです。

症状	対処のしかた
BSデジタル・110度CSデジタル番組の購入などができない	
ペイ・パー・ビュー（PPV）が購入できない。	● メディアレシーバーと電話回線が正しくつながれているか確認してください（☞202ページ）。 ● 電話回線の種類などが正しく設定されているか確認してください（☞228ページ）。 ● ネットワーク（LAN）ケーブルでつないだだけでは、ペイ・パー・ビューは購入できません。 ● 番組によっては購入可能時間が決まっているものがあります。 ● 番組の購入可能件数を越えると購入できなくなります。
電源/予約録画/録画ランプが緑色に点滅する/表示が消えない	
電源/予約録画/録画ランプが緑色に点滅する。 または、「取扱説明書をご覧いただき、BSアンテナ電源（コンバーター電源）を確認してください」と表示される。	**衛星アンテナをつないでいるときは** ①☞201ページの内容を確認してください。それでも表示が消えないときは、本機の電源を切り、お買い上げ店またはソニーサービス窓口にご相談ください。 ②表示が消えたときは、「セットアップ」メニューで「衛星アンテナ設定」を「オート」または「入」にしてから、もう1度受信設定してください（☞222ページ）。 「セットアップ」→「デジタル放送設定」→「受信設定」→「BS/CS設定」→「衛星アンテナ設定」→「オート」または「入」を選ぶ。選びかたは☞14ページをご覧ください。 **マンションなど共同受信システムのときは** ①☞201ページの手順1〜2に従って操作し、手順3で「衛星アンテナ設定」を「切」にしてください。 ②それでも表示が消えないときは、メディアレシーバーの電源スイッチで電源を切り、お買い上げ店またはソニーサービス窓口にご相談ください。

その他

次のページにつづく

予約について

症状	対処のしかた
予約した番組が録画・視聴できない	
録画予約した番組が録画されない。	● 本機と連動させずに録画機器側の予約機能を使って予約したとき、録画機器側で予約を設定しましたか？（☞61ページ） ● 予約した番組の開始時刻が変わったとき、「セットアップ」メニューの「流動編成・イベントリレー対応設定」が「しない」に設定されていると、正しく録画できません（☞63ページ）。番組の変更に合わせて録画するには、「流動編成・イベントリレー対応設定」を「する」に設定してください。 「セットアップ」→「デジタル放送設定」→「予約設定」→「流動編成・イベントリレー対応設定」→「する」を選ぶ。選びかたは☞14ページをご覧ください。 ● 予約が重複しているときは、PPV番組（☞96ページ）は、番組の途中からは録画されず、予約自体が自動的に取り消されます（☞80ページ）。 ● 著作権が保護されている番組では、録画できない場合があります（☞87、284ページ）。 ●「予約一覧　－お知らせ」画面で、録画されなかった理由を確認してください（☞79ページ）。
i.LINKでハードディスクレコーダーまたはD-VHSビデオに録画予約した番組が録画されない。	● i.LINK対応機器が正しく接続されているかご確認ください。ループになっていたりホップ数をオーバーしていたりすると、i.LINK対応機器が使えなくなります（☞285ページ）。 ● 接続に異常はありませんか？i.LINKケーブルがはずれていないかご確認ください（☞286、287ページ）。 ● 他のi.LINK対応機器をLINCしていませんか？録画実行中に、予約したハードディスクレコーダーまたはD-VHSビデオ以外のi.LINK対応機器をLINCすると、予約が取り消されることがあります（☞284ページ）。
AVマウスを使って録画予約した番組が録画されない。	● お使いの録画機器のメーカー名とリモコンコードが正しく入っていて、AVマウスで操作できるか確認してください（☞244ページ）。 ● お使いの録画機器は、電源スイッチを押すたびに電源が入/切するタイプですか？入→スタンバイ→切のように切り換わるタイプの録画機器では、正しく録画できないことがあります（☞244ページ）。 ● 予約後、開始時刻までにメディアレシーバーの電源スイッチで主電源を切っていると、電源が入らないため、録画が実行されません。 ● 予約の際、録画機器の電源を「切」にしましたか？（☞61ページ） ● 録画機器の入力切換は正しいですか？ ● ソニー製のDVDレコーダーやハードディスクレコーダー などで録画するときは、自動的に本機をつないだ入力に切り換わるように設定してください（☞244ページ）。 ● AVマウスの取り付け位置は正しいですか？（☞244ページ） ● 動作テストに1度成功しても、リモコンの受光感度の低い録画機器によっては、AVマウスでの予約録画（☞60～72ページ）がうまくいかないことがあります。詳しくは、録画機器の取扱説明書をご覧ください。 ● 地上アナログはAVマウスを使って録画できません。“メモリースティック”またはお使いの録画機器の予約機能を使って録画してください。

症状	対処のしかた
予約した番組が録画・視聴できない	
録画予約した番組が"メモリースティック"に録画されない。	●"メモリースティック"に録画予約できるのは、地上アナログとビデオ3入力の映像だけです（☞81ページ）。 ●"メモリースティック"は正しく挿入されていますか？（☞145ページ） ●"メモリースティック"の空き容量は充分ですか？ ● 録画する番組に録画制限がかかっていませんか？（☞87ページ） ●「"メモリースティック"について」（☞307ページ）もご覧ください。
視聴予約した番組に切り換わらない。	● 予約開始時刻までに本機の電源を入れた状態にしておきましたか？ 視聴予約した番組は、電源スタンバイや主電源を切った状態のままだと、自動的に電源が入らないため、番組を見逃してしまいます（☞72ページ）。
予約録画した番組の再生した映像が映らない、乱れる。	●「予約一覧　－お知らせ」画面で、録画時の状況を確認してください（☞79ページ）。

その他

次のページにつづく

メニューやリモコンについて

症状	対処のしかた
メニューが選べない/表示が消えない	
メニューで選べない項目がある。	• 灰色で表示されている項目は選べません（見ている画像の種類やメニューの設定によって、選べないように制約されています）。
設定したメニューの項目が正しく反映されていない。	• デジタル放送の信号には、多くの情報が含まれています。そのため、メニューの項目を設定した直後（約2分以内）に、メディアレシーバーの電源スイッチで主電源を切ると、設定した内容が反映されないことがあります。このときは、もう1度設定し直してください。
「ICカードとのアクセスが成立しません　ICカードを抜き差ししても直らない場合はカスタマーセンターへ連絡してください」と表示される。	• B-CASカードが奥までしっかり入っているか、入れる向きが前後、表裏逆向きになっていないか確かめてから、もう1度正しい向きで入れ直してください（☞225ページ）。 入れ直してもメッセージが表示されるときは、ご覧になっているデジタル放送の放送局や110度CSの衛星サービス会社のカスタマーセンターへお問い合わせください（☞227ページ）。 • B-CASカードが破損している場合は、ご覧になっているデジタル放送の放送局や110度CSの衛星サービス会社のカスタマーセンター（☞227ページ）またはB-CASカスタマーセンター（電話番号0570-000-250）へお問い合わせください。 • 付属のB-CASカード以外は使えません（☞225ページ）。
リモコンが働かない	
リモコンで本機を操作できない。	• 電池を交換してください。 • 電池の⊕⊖を正しい向きに入れてください。 • スタンバイ/オフタイマーランプが赤く点灯していないときは、メディアレシーバーの電源スイッチを押してください。 • リモコンをディスプレイのリモコン受光部に正しく向けて、近くから操作してください。 • リモコン受光部（☞322ページ）に蛍光灯などの強い照明があたっているときは、照明があたらないように、照明器具または本機の位置を調整してください。
本機のリモコンで、つないだ機器を操作できない。	• リモコンコードは正しく登録されていますか？（☞111ページ）。 • コントロールS接続コードをつないでいない機器を操作するときは、リモコンを直接機器に向けてください（☞114ページ）。 • コントロールS接続コードをつないだ機器を操作するときは、リモコンをディスプレイまたはつないだ機器のどちらに向けるかを確認してください（☞117ページ）。つないだ機器に付属しているリモコンを使うときも同じです。

症状	対処のしかた
リモコンが働かない	
リモコンの①～⑫の数字ボタンを押しても、チャンネルが選べない。	**ワンタッチ選局の場合** ● 数字ボタンを押す前に、見たい放送（地上アナログ、地上デジタル、BSデジタル、110度CSデジタル）に切り換えましたか？（☞20、22、26ページ） **10キー選局の場合** ● 数字ボタンを押す前に、見たい放送（地上アナログ、地上デジタル、BSデジタル、110度CSデジタル）に切り換えて、⑩を押しましたか？（☞21、23、27ページ） ● 地上デジタルのチャンネルでチャンネル番号に枝番があるときは、チャンネル番号を入力した後で、⑪を押してから枝番を入力してください（☞24ページ）。 ● 11チャンネルは①を2回、12チャンネルは①と②を続けて押してから、⑫を押してください。 ● ①～⑩の数字ボタンに続けて⑫を押してください。

その他

i.LINKについて

症状	対処のしかた
i.LINK対応機器を操作できない	
i.LINK対応機器をLINCできない。	● 次のi.LINK機器は本機が対応していないため、つながないでください。 － パソコン － MDデッキ ● 接続に異常はありませんか？i.LINKケーブルがはずれていないかご確認ください（☞286～290ページ）。また、i.LINK対応機器の電源ケーブルがはずれていないかご確認ください。 ●「接続機器選択」画面で、LINCしたい機器の左横にマークが表示されていますか？（☞178ページ） ● i.LINK対応機器が正しく接続されているかご確認ください。ループになっていたりホップ数をオーバーしていると、i.LINK対応機器を使用できなくなります（☞285ページ）。 ● 機器によっては、正しくLINCできないことがあります。また、LINCできても、デジタル信号が正しくやりとりされないことがあります。詳しくは、つないだi.LINK対応機器の取扱説明書をご覧ください。
i.LINK操作画面が操作できない。	● 本機の「i.LINK Studio」操作画面を使って操作できるi.LINK対応機器を確認してください（☞160ページ）。 ● D-VHSビデオによっては、本機の「i.LINK Studio」操作画面で操作できないことがあります。 ● D-VHSビデオによっては、⏮を押したときに前の番組の先頭まで巻き戻してしまうことがあります。 ● ソニー製D-VHSビデオデッキSLD-DC1も、本機の操作画面で操作できますが、デジタルハイビジョン信号HDは録画できません。
デジタル録画・再生・ダビングができない	
ハードディスクレコーダーまたはD-VHSビデオにデジタル録画できない。	●「i.LINK Studio」操作画面で、ハードディスクレコーダーまたはD-VHSビデオをLINCしてください（☞169ページ）。 ● 著作権が保護されている番組では、記録できない場合があります（☞87、284ページ）。
ハードディスクレコーダーからD-VHSビデオにダビングできない。	● D-VHSビデオによってはダビングできません。 ● D-VHSビデオにオートリンク機能があるときは「切」にしておいてください（☞171ページ）。
i.LINK対応機器に録画された番組や映像を再生できない。	●「i.LINK Studio」操作画面で、i.LINK対応機器をLINCしてください（☞165、168ページ）。 ● デジタルビデオカメラレコーダーの映像を再生するときに、デジタルビデオカメラレコーダーの電源は入っていますか？

“ メモリースティック ”について

症状	対処のしかた
“ メモリースティック ”が使えない	
“ メモリースティック ”の画像が出ない。	● “ メモリースティック ”は正しく挿入されていますか？（☞145ページ） ● Memory Stick Studioボタンを押してから操作してください（☞146ページ）。 ● “ メモリースティック ”に静止画または動画が記録されていますか？
“ メモリースティック ”に録画できない。	● “ メモリースティック ”は正しく挿入されていますか？（☞145ページ） ● “ メモリースティック ”に録画できるのは、地上アナログとビデオ2、3、4入力の映像だけです（☞81ページ）。 ● “ メモリースティック ”録画予約できるのは地上アナログとビデオ3入力の映像だけです（☞83、84ページ）。
「このメモリースティックは保存できません」または「現在使用しているメモリースティックは録画できません」と表示される。	● 書き込みできない“ メモリースティック ”です。録画やメモした画面の保存はできません。他の“ メモリースティック ”を使ってください。
「メモリースティックに保存できない信号です」または「この信号は録画（または保存）できません」と表示される。	● “ メモリースティック ”に録画したり、メモした画面を保存できるのは、地上アナログとビデオ2、3、4入力の映像だけです（☞81、86ページ）。 ● 録画する番組に録画制限がかかっていませんか？（☞87ページ）
「メモリースティックで処理中のため録画（または保存）できません」と表示される。	● “ メモリースティック ”のフォーマット中またはファイルのプロテクト/削除などの処理中です。フォーマットやプロテクト/削除などの処理中は、録画やメモした画面の保存はできません。処理が完了するまで、しばらくお待ちください。
スライドショーなのに自動的に次の画像に切り換わらない。	● 「スライドショー設定」で「画面切換」を「手動」に設定していませんか？「スライドショーを手動で操作するには」をご覧になり、操作してください（☞157ページ）。
「メモリースティックがありません」と表示される。	● “ メモリースティック ”は正しく挿入されていますか？（☞145ページ）
「メモリースティックエラー」と表示される。	● “ メモリースティック ”の異常です。“ メモリースティック ”を1度抜いて、入れ直してみてください（☞145ページ）。 ● “ メモリースティック ”が壊れていることがあります。他の“ メモリースティック ”を入れてみてください。
ファイル名が正しく表示されない。	● 静止画または動画のファイル名をパソコンなどで変更していませんか？（☞145ページ）
「ファイルエラー」と表示される。	● 現在選ばれているフォルダ名が正しくありません。フォルダ選択メニューで「/」を含めて66文字以内の名前にしてください（☞145ページ）。
「フォーマットエラー」または「フォーマットが必要です」と表示される。	● “ メモリースティック ”が正しくフォーマット（初期化）されていません。“ メモリースティック ”をフォーマットし直す（☞150ページ）か、別の“ メモリースティック ”を入れてください。

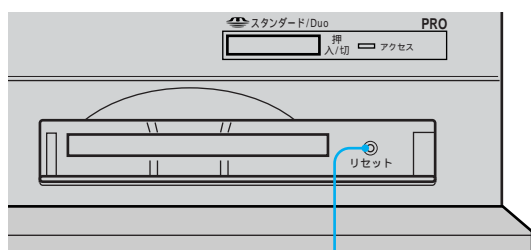
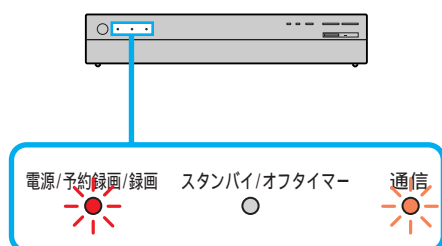
故障かな？と思ったら（つづき）

症状	対処のしかた
“ メモリースティック ”が使えない	
「メモリースティックタイプエラー」と表示される。	● 本機では使用できない“ メモリースティック ”です（☞144ページ）。
「表示できるファイルがありません」と表示される。	●“ メモリースティック ”にDCF準拠の静止画およびメモリースティックビデオファイル形式の動画がありません。
「このフォルダには表示できるファイルがありません」と表示される。	● フォルダ選択メニューの「フォルダ別」表示モードで選んだフォルダに、静止画または動画がありません（☞148ページ）。
「メモリースティックがロックされています」と表示される。	●“ メモリースティック ”の誤消去防止スイッチを解除してください（☞144ページ）。
「動画ファイルがありません」と表示される。	●「フィルタ」が「動画」に設定されていますが、選んだフォルダに動画ファイルがありません（☞147、148ページ）。
「静止画ファイルがありません」と表示される。	●「フィルタ」が「静止画」に設定されていますが、選んだフォルダに静止画ファイルがありません（☞147、148ページ）。
「ファイルがこわれているため再生できません」と表示される。	● 動画ファイルの途中のデータがこわれています。
「読み出し専用のメモリースティックです」と表示される。	● 読み出し専用の“ メモリースティック ”です。“ メモリースティック ”への書き込みはできません。
「アクセスは禁止されています」と表示される。	●“ メモリースティック PRO ”の電子ロック機能が有効になっています。専用のソフトウェアで電子ロックを解除してください。
「ファイルが多すぎます　フォルダ別表示モードになります」と表示される。	●「フォルダ選択」で「表示モード」を「シームレス」にしているときは、ファイルを最大2000枚まで表示できます（☞148ページ）。記録されているファイルが2000枚より多いときは、「表示モード」を「フォルダ別」にして、フォルダを選んで表示してください。
「削除中…　お待ちください」と表示される。	● ファイルの削除中です。削除中は、入力切り換えや選局はできません。処理が完了するまで、しばらくお待ちください。
「プロテクト中…　お待ちください」と表示される。	● ファイルをプロテクト処理中です。プロテクト処理中は、入力切り換えや選局はできません。処理が完了するまで、しばらくお待ちください。
「プロテクト解除中…　お待ちください」と表示される。	● ファイルのプロテクトを解除中です。プロテクトの解除中は、入力切り換えや選局はできません。処理が完了するまで、しばらくお待ちください。
「フォーマット中…　お待ちください」と表示される。	●“ メモリースティック ”をフォーマット中です。フォーマット中は、入力切り換えや選局はできません。処理が完了するまで、しばらくお待ちください。

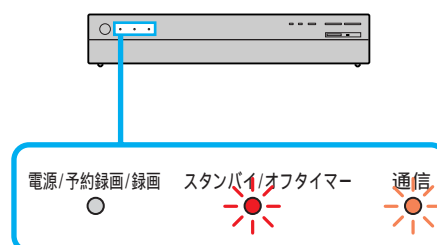
リセットボタンについて

過大な静電気や落雷による電源電圧の異常により、まれに、本機が操作を受け付けなくなったり、映像や音声が正常に出なくなった場合は、メディアレシーバー前面のB-CASカード挿入口近くにあるリセットボタンをペンの先などで1回押してください。
本機がリセットされて、正常に動作するようになります。
リセットボタンを押すと、メディアレシーバー前面の電源/予約録画/録画ランプが点灯します。

また、リセット後に異常が改善されず、かつ、以下の表示が出た場合はお買い上げ店またはソニーサービス窓口に、次のことをお知らせください。
- メディアレシーバー前面の通信ランプと電源/予約録画/録画ランプが、同時に点滅した場合は、点滅回数。
- 「デジタル自己診断メニュー」画面が表示された場合は、緑色の数字。

メディアレシーバー前面
（B-CASカード挿入口のふたを開けたところ）

電源スタンバイ中の動作について

電源スタンバイ中（スタンバイ/オフタイマーランプが赤く点灯）、以下のデータを受信したときに、「カチッ」と音がして、メディアレシーバー前面の通信ランプが長時間にわたり点灯し続けることがあります。
－放送局が送信する番組表などの番組情報データ取得中
－デジタル放送を正しく受信するためにデジタル放送から送られてくるデータの受信中および最新のソフトウェアのダウンロード中
－放送局が送信する有料放送の契約・購入状況、双方向サービス情報の取得中

ダウンロード中/データ取得中の表示

通信ランプ点灯中は、本機内部の回路が自動的に動作し、データ受信とソフトウエアの書き換えを行っていますが、**受信するデータによっては数時間かかる**ことがあります。また、動作中は回路保護のため、冷却ファンも同時に動作し続けますが、故障ではありません。
データ受信やソフトウエアの書き換えが終了すると、自動的に電源スタンバイ状態に戻り、通信ランプも消灯します。

ダウンロードの流れについて

自動でデジタル放送からダウンロードする機能について

電源スタンバイ中（スタンバイ/オフタイマーランプが赤く点灯）に、本機内部のソフトウェアを最新の内容に自動で書き換える機能です。ソフトウェア書き換え用のデータ信号は、デジタル放送電波の中に含まれて送信されます。

お買い上げ時は、本機がダウンロードを自動で行う設定（「デジタル放送からのダウンロード」が「オート」）になっているため、お客様が操作や設定することなく、常に最新版に書き換えられたソフトウェアで、デジタル放送を正しく受信し、お楽しみいただけます。

ご注意

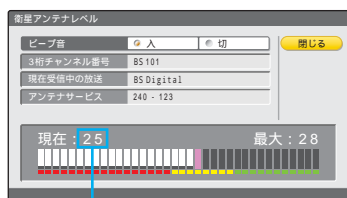
- 手動ではダウンロードできません。
- ダウンロードを行わないように設定すると、デジタル放送が正しく受信できなくなることがあります。そのため、自動でダウンロードできる設定のままお使いいただくよう、強くおすすめします。
- メディアレシーバーの電源スイッチを押して主電源を切ると、ダウンロードは行われません。

次の2つの条件を満たしていれば、電源スタンバイ中に、自動でダウンロードが行われます

条件1 地上波アンテナまたは衛星アンテナの「現在の受信レベル」が『20以上』になっている。または、地上デジタル放送を安定して受信できている。

衛星アンテナレベルが20未満のとき、または地上デジタル放送が安定して受信できていないときは、ダウンロードが正しく行われません。衛星アンテナのときはアンテナの向きを調整して、受信レベルを20以上にしてください。地上波アンテナのときはお買い上げ店にご相談ください。

アンテナの受信レベルを確認するには

「セットアップ」メニューの「地上デジタルアンテナレベル」および「衛星アンテナレベル」画面に表示されます。

衛星アンテナのときは、20以上であれば、ダウンロードが正しく行われます。

「地上デジタルアンテナレベル」画面を表示するには

「セットアップ」→「デジタル放送設定」→「受信設定」→「地上デジタル設定」→「地上デジタルアンテナレベル」を選ぶ。

選びかたは☞14ページをご覧ください。

「衛星アンテナレベル」画面を表示するには

「セットアップ」→「デジタル放送設定」→「受信設定」→「BS/CS設定」→「衛星アンテナレベル」を選ぶ。

選びかたは☞14ページをご覧ください。

条件2「デジタル放送からのダウンロード」が「オート」の設定*になっている。

「デジタル放送からのダウンロード」が「しない」に設定されていると、ダウンロードが行われません。

「デジタル放送からのダウンロード」を設定するには

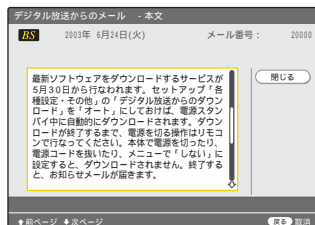
「セットアップ」→「デジタル放送設定」→「各種設定・その他」→「デジタル放送からのダウンロード」→「オート」を選ぶ。

選びかたは☞14ページをご覧ください。

* お買い上げ時の設定です。

ダウンロードが行われるときは

デジタル放送からソフトウェア書き換え用のデータ信号が送信されてきたときは、次のような**「ダウンロードのお知らせ」のメールが届きます。**

文面は異なる場合があります。

「ダウンロードのお知らせ」のメールを確認したいときは

1 **メニューボタンを押して、メニューを出す。**

2 **で「お知らせ」を選んで、決定で決定する。**

3 **で「本機からのメール」を選んで、決定で決定する。**

4 **で新しいメールを選んで、決定で決定する。**

「ダウンロードのお知らせ」のときは、上記のような内容のメールが表示されます。

5 **メールを読んだあと、←/→で「閉じる」ボタンを選んで、決定で決定する。**

6 **戻るボタンをくり返し押して、設定画面を消す。**

「自動チャンネル変更」についてのご注意

お買い上げ時は「する」に設定されているため、新しく放送局が開設されたときなどは、ダウンロードによって受信できる放送のチャンネル番号などが自動的に変わります。録画予約を設定しているときも、チャンネル番号が変わると正しく予約が行われないことがありますので、ご注意ください。

「自動チャンネル変更」は、「セットアップ」メニューで設定できます。

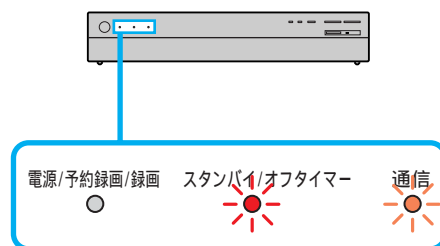
「セットアップ」→「デジタル放送設定」→「受信設定」→「地上デジタル設定」→「自動チャンネル変更」を選ぶ。

選びかたは、☞14ページをご覧ください。

ダウンロードの実行中は

ダウンロードは電源スタンバイ時（スタンバイ/オフタイマーランプが赤く点灯）にのみ、自動的に行われます。

電源スタンバイ中、数時間ごとに、デジタル放送から数分程度のソフトウェア書き換え用のデータ信号が送信され、本機がその信号を受信し、本機内部のソフトウェアを最新の内容に自動で書き換えます。書き換えは、30分前後かかります（内容により時間は異なります）。

また、ダウンロード中は、メディアレシーバー前面の通信ランプが点灯します。

ご注意

ダウンロード中は、本機の電源を入れたり、メディアレシーバーの電源スイッチで主電源を切ったり、電源コードを抜いたりしないでください。ダウンロードの中断により、ソフトウェアの書き込みが途中で終了し、誤動作を起こす場合があります。

ダウンロードについてのQ&A

「1回目の信号でうまくダウンロードできなかったら？」

ご安心ください。ソフトウェア書き換え用のデータ信号は、一定の期間内に何回も送信されます。

「電源コードを抜いておくとダウンロードされないの？」

電源コードが抜かれていたり、メディアレシーバーの電源スイッチで主電源を切ったりしたときは、ダウンロードは行われません。

「ダウンロードによって、設定内容がお買い上げ時の状態に戻ったりしないの？」

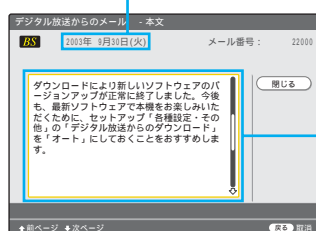
ご安心ください。お客様が設定した内容は書き換えられることなく、保持されます。

次のページにつづく

ダウンロードの流れについて（つづき）

ダウンロードが正常に終了すると

「ダウンロードのお知らせ」のメールが自動的に削除され、そのかわりに、**「ダウンロード終了のお知らせ」のメールが届きます。**

ダウンロードの実施日

ちょっと一言

新しく「ダウンロードのお知らせ」のメールが送られてくると、「ダウンロード終了のお知らせ」のメールは、自動的に削除されます。

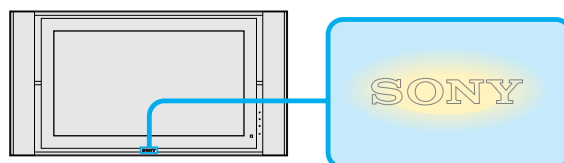
「ダウンロード終了のお知らせ」のメールが届かないときは

まず、次のことをご確認ください。

- 地上デジタルが安定して受信できていますか？また、衛星アンテナの「現在の受信レベル」が『20以上』になっていますか？
- 電源スタンバイ状態になっていましたか？

それでも、メールが届かないときは、お買い上げ店か、ソニーサービス窓口へご相談ください。

ディスプレイ前面のソニーマークに光をあてる（イルミネーション）

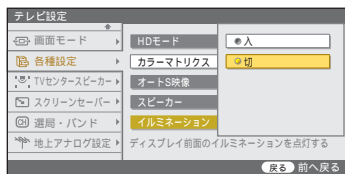
ディスプレイの画面は、透明なガラスに浮かんでいるようにデザインされています。
このガラスに刻印されているソニーマークは、電光飾（イルミネーション）により浮かび上がったように見せることができます。
また、メディアレシーバー前面のテレビ、ビデオコンポーネント、AVマルチ、メモリースティック、i.LINKの入力切換の表示もソニーマークの光に連動して光ります。

ディスプレイ前面

1 **メニューボタンを押して、メニューを出す。**

2 **で「セットアップ」を選んで、で決定する。**

3 **で「テレビ設定」を選んで、で決定する。**

4 **で「各種設定」を選んで、で決定する。**

5 で「イルミネーション」を選んで、で決定する。

6 で「切」か「入」を選んで、で決定する。

「切」：電源を入/切するときのみ、ソニーマークに白い光があたり、同時にメディアレシーバー前面の入力切換表示も光ります。

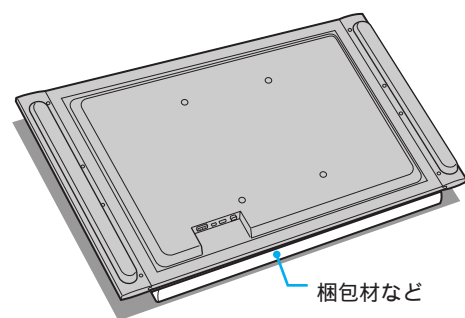
「入」：電源が入っているときに、ソニーマークに白い光があたり、同時にメディアレシーバー前面の入力切換表示も光ります。

7 戻るボタンをくり返し押して、設定画面を消す。

スピーカーを取りはずす（KDE-P55HX2/P61HX2のみ）

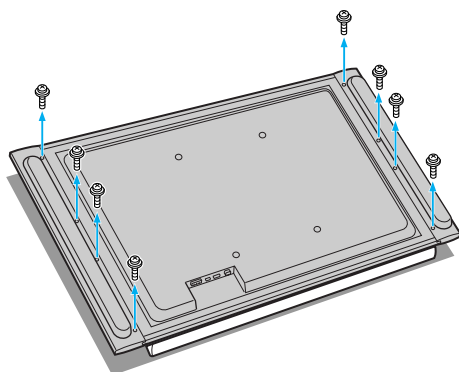
KDE-P55HX2/P61HX2のスピーカーは取りはずせます。
取りはずしたスピーカーを、別売りのスピーカースタンドSU-PSP1M（KDE-P55HX2用）または、SU-PSP1L（KDE-P61HX2用）に取り付けて、外付けのスピーカーとしても使えます。
スピーカーの脱着やスピーカースタンドへの取り付けは、必ず販売店など専門の業者に依頼してください。専門業者以外の人がスピーカーの脱着やスピーカースタンドへの取り付けを行うと、はずしたスピーカーの落下、指はさみなどにより、大けがの原因となることがあります。
スピーカーの取りはずしや取り付け作業は、必ず、販売店などにご依頼いただき、お客様自身では行わないでください。

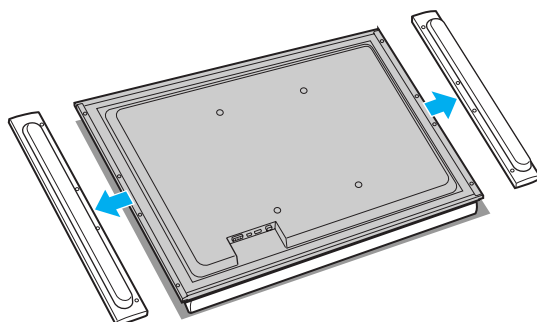
ちょっと一言
本機のスピーカーを取りはずし、市販のAVアンプやスピーカーシステムを組み合わせてお使いいただくこともできます。

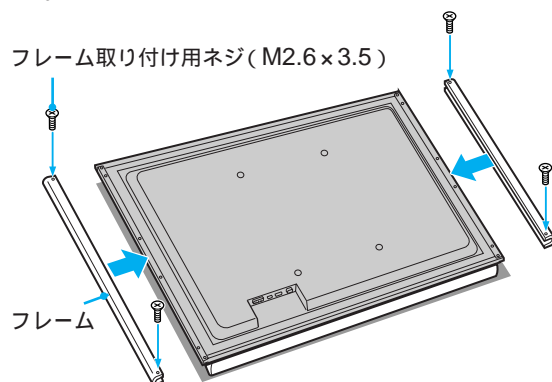
1 ディスプレイを置く。

ご注意
- スピーカー部分にディスプレイの負荷がかからないよう、梱包材のクッションなどやわらかいものを床とディスプレイ面の間に置いてください。スピーカー部にディスプレイの負荷がかかると、接触不良や変形することがあります。
- 必ずディスプレイが安定するように置いてください。
- ディスプレイ面に傷や汚れがつかないように、やわらかい布などで保護してください。

次のページにつづく

スピーカーを取りはずす（KDE-P55HX2/P61HX2のみ）（つづき）

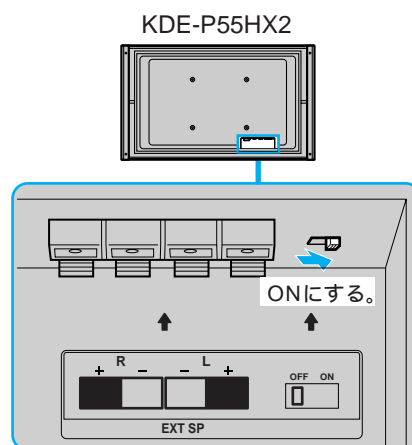
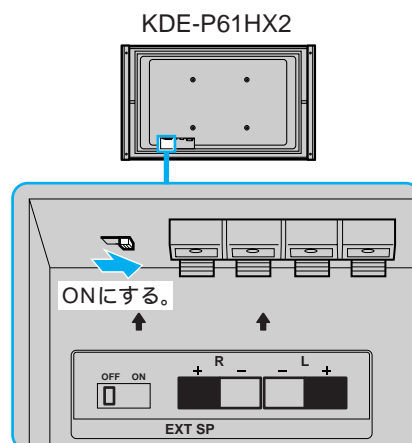
2 スピーカー後面のネジを8か所取はずす。

取りはずしたネジは、なくさないように保管しておいてください。

3 スピーカー部分を水平に引き出して取りはずす。

4 フレームを付属のフレーム取り付け用ネジ4本で取り付ける。

フレーム取り付け用ネジは付属の8本のうち4本を使います。残りの4本は予備ですので、なくさないように保管してください。

別売りのスピーカースタンドに取り付けるときは

取り付けかたについて詳しくは、スピーカースタンドSU-PSP1MまたはSU-PSP1Lの取扱説明書をご覧ください。また、スピーカースタンドに取り付けて外付けのスピーカーとして使うときは、下図のように専用スイッチをONにしてください。

KDE-P61HX2

KDE-P55HX2

ご注意

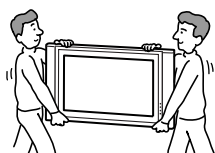
- ディスプレイ後面のEXT SP端子には、取りはずした本機のスピーカー以外はつながないでください。市販のAVアンプやスピーカーシステムなどは、メディアレシーバー後面の光デジタル音声出力端子につないでください。
- 取りはずしたスピーカーは、他のオーディオ機器につながないでください。

使用上のご注意

輝点・滅点について

画面上に赤や青、緑の点（輝点）が消えなかったり、黒い点（滅点）がある場合がありますが、故障ではありません。
パネルは非常に精密な技術で作られており、ごくわずかの画素欠けや常時点灯する画素がある場合がありますのでご了承ください。

ディスプレイの持ちかたについてのご注意

ディスプレイを運ぶときは必ず2人以上で図のように、上下のフレームの部分を持って運んでください。
スピーカー部分には手をかけないでください。

また、ガラス表面は特殊な処理を施しているため、なるべく触れないようにしてください。

ディスプレイのガラス表面の取り扱いについてのご注意

ディスプレイのガラス表面は反射による映りこみを抑えるため、特殊な表面処理を施しています。誤ったお手入れをした場合、性能を損なうことがありますので、次のことを必ずお守りください。また、ガラス表面は傷つきやすいので固い物などでこすったり、たたいたり、物をぶつけたりしないでください。

ディスプレイのガラス表面のお手入れについてのご注意

- お手入れをする前に、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 長時間視聴した直後は、ガラス表面が熱くなっていますので、触れないでください。
- ガラス表面は特殊な表面処理をしているので、シールなどの粘着物は絶対に貼らないでください。
- ガラス表面は特殊な表面処理をしているので、なるべくガラス表面に触れないようにしてください。
- ガラス表面の汚れは、付属のクリーニングクロスを使って拭いてください。
- ガラス表面の汚れがひどいときは、付属のクリーニングクロスやメガネ拭きなどの柔らかい布に水で薄めた中性洗剤を少し含ませて拭いてください。
- クリーニングクロスにゴミが付着したまま強く拭いた場合、傷が付くことがあります。
- アルコールやベンジン、シンナー、酸性洗浄液、アルカリ性洗浄液、研磨剤入り洗浄剤、化学ぞうきんなどは、ガラス表面を傷めますので絶対に使用しないでください。

外装のお手入れについてのご注意

- 乾いた柔らかい布で軽く拭いてください。汚れがひどいときは、水で薄めた中性洗剤を少し含ませた布で拭きとり、乾いた布でから拭きしてください。
- アルコールやベンジン、シンナー、殺虫剤のような揮発性のものをかけたり、ゴムやビニール製品に長時間接触させると、変質したり、塗装がはげるなど、表面の仕上げを傷めたり、表示が消えてしまうことがあるので、絶対に使用しないでください。
- クリーニングクロスにゴミが付着したまま強く拭いた場合、傷が付くことがあります。

結露について

設置時や冷暖房機器などで急激に温度差の影響を受けると、本機内部で結露が発生することがあります。この場合、画面が消えてディスプレイのPOWER ON/STANDBY⏻（電源/スタンバイ）ランプが赤と緑に交互に点滅します。
そのまま使用すると故障の原因となりますので、いったん電源を切り、ディスプレイとメディアレシーバーの電源コードを抜いて正常に動作するまでお待ちください。

保証書とアフターサービス

本機は日本国内専用です。電源電圧や放送規格の異なる海外ではお使いになれません。

保証書について

- この製品は保証書が添付されていますので、お買い上げの際、お買い上げの店からお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

「故障かな？と思ったら」の項を参考にして、故障かどうかをお調べください。

それでも具合が悪いときはサービス窓口へ

お買い上げ店、または添付の「ソニーご相談窓口のご案内」にある、お近くのソニーサービス窓口にご相談ください。
BSデジタル、110度CSデジタルの放送局との受信契約や番組に関しては、ご覧になりたい放送局のカスタマーセンターや衛星サービス会社、B-CASカスタマーセンター（電話番号0570-000-250）に問い合わせてください。

部品の交換について

この製品は、修理の際に交換した部品を再生、再利用する場合があります。その際、交換した部品は回収させていただきます。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。
詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料で修理させていただきます。

部品の保有期間について

当社では、カラーテレビの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打ち切り後8年間保有しています。この部品保有期間を修理可能の期間とさせていただきます。保有期間が経過したあとでも、故障箇所によっては修理可能の場合がありますので、お買い上げ店か、ソニーサービス窓口にご相談ください。

ご相談になるときは次のことをお知らせください。

型名：KDE-P42HX2、KDE-P50HX2、
KDE-P55HX2、KDE-P61HX2

型名について詳しくは、☞292ページをご覧ください。

故障の状態：できるだけくわしく

購入年月日：

お買い上げ店
TEL.
お近くのサービスステーション
TEL.

This television is designed for use in Japan only and cannot be used in any other country.

主な仕様

システム

受信方式	NTSC方式 地上デジタル放送方式 BSデジタル放送方式 110度CSデジタル放送方式
受信チャンネル	VHF 1～12チャンネル UHF 13～62チャンネル CATV（ケーブルテレビ放送会社との受信契約が必要） 地上アナログ：C13～C35 地上デジタル・BSデジタル・110度CSデジタル（テレビ、ラジオ、独立データ）の各チャンネル
BSデジタル・110度CSデジタル対応周波数	1022～2072 MHz
BSデジタル・110度CSデジタル対応ローカル周波数	10.678 GHz
使用スピーカー	KDE-P42HX2 KDE-P50HX2 ウーファー 6×13cm 楕円（2） バツシブラジエーター 6×13cm楕円（2） ツイーター 5cm 丸（2） KDE-P55HX2 ウーファー 8cm 丸（2） ミッドレンジ 8cm 丸（2） ツイーター 5cm 丸（2） KDE-P61HX2 ウーファー 6×13cm 楕円（2） ミッドレンジ 6×13cm 楕円（2） ツイーター 5cm 丸（2）
音声出力	実用最大出力： 15W＋15W（JEITA） 負荷インピーダンス 4Ω

入出力端子（ディスプレイ）

DISPLAY SIGNAL IN（WHITE）	専用コネクター
DISPLAY SIGNAL IN（BLACK）	専用コネクター
EXT SP	（KDE-P55HX2/P61HX2のみ） 実用最大出力：15W＋15W（JEITA） 負荷インピーダンス 4Ω

入出力端子（メディアレシーバー）

アンテナ端子	VHF/UHF、BS/110度CS IF 75Ω F型コネクター （コンバーター用電源出力、DC15/11V最大4W、芯線側＋、オート/入/切、メニュー切り換え）

ビデオ1～4入力端子
S2映像：
4ピンミニDIN
Y：1Vp-p、75Ω、不平衡、同期負
C：0.286Vp-p（バースト信号）、75Ω
映像：ピンジャック、1Vp-p、75Ω、不平衡、同期負
音声：ピンジャック、2チャンネル、500mVrms、インピーダンス47kΩ以上

コンポーネント1入力端子
映像：ピンジャック
Y：1Vp-p（0.3V負同期付き）
P_B/P_R、C_B/C_R：±350mVp-p
入力インピーダンス 75Ω
音声：ピンジャック、2チャンネル、500mVrms、インピーダンス47kΩ以上

コンポーネント2入力端子
D4映像：
D端子
Y：1Vp-p（0.3V負同期付き）
P_B/P_R、C_B/C_R：±350mVp-p
入力インピーダンス 75Ω
音声：ピンジャック、2チャンネル、500mVrms、インピーダンス47kΩ以上

AVマルチ入力端子　12ピン

メモリースティック挿入口
スタンダード/Duo兼用スロット

デジタル放送/ビデオ出力端子
S2映像：
4ピンミニDIN
Y：1Vp-p、75Ω、不平衡、同期負
C：0.286Vp-p（バースト信号）、75Ω
映像：ピンジャック、1Vp-p、75Ω、不平衡、同期負
音声：ピンジャック、2チャンネル、500mVrms
インピーダンス 4.7kΩ以下
テレビ放送の音声の100%変調時、またはBSデジタル放送の最大出力 –12dB時の数値です。

音声出力端子　2ch出力、ピンジャック
最大出力レベル 2.0 Vrms
出力インピーダンス 5 kΩ

ヘッドホン端子　ステレオミニジャック
負荷インピーダンス 16Ω以上

光デジタル音声出力端子
AAC/PCM対応

電話回線端子　モジュラージャック、直流抵抗値 221Ω

ネットワーク端子　10 BASE-T/100 BASE-TXコネクター（ネットワークの使用環境により、接続速度に差が生じることがあります。本機は10 BASE-T/100 BASE-TXの通信速度や通信品質を保証するものではありません。）

i.LINK端子　4ピン　S400（3）

AVマウス端子　ミニジャック

コントロールS入/出力端子
ミニジャック

センター入力端子　6Ω、最大 180W、1kHz、無歪み最大 30Vp-p

サブウーファー出力（可変）端子
ピンジャック

アッテネータースイッチ（VHF/UHF）
入/切

ディスプレイ信号出力（白）端子
専用コネクター

ディスプレイ信号出力（黒）端子
専用コネクター

電源部・その他

モデム通信速度　56kbps

消費電力　KDE-P42HX2
ディスプレイ：410W
メディアレシーバー：51W
KDE-P50HX2
ディスプレイ：493W
メディアレシーバー：51W
KDE-P55HX2
ディスプレイ：495W
メディアレシーバー：51W
KDE-P61HX2
ディスプレイ：735W
メディアレシーバー：51W

消費電力（リモコン待機時）：KDE-P42HX2、KDE-P50HX2、KDE-P55HX2、KDE-P61HX2共通です。
ディスプレイ；0.4W
メディアレシーバー；0.4W
ただし、以下2つの電源スタンバイ中は、メディアレシーバーの消費電力が異なります。
予約した録画の実行中/i.LINKダビング中：51W
i.LINK待機中：13W

最大外形寸法　KDE-P42HX2
ディスプレイ：
135.2×72.0×10.2cm
メディアレシーバー：
43.0×7.9×34.3cm
KDE-P50HX2
ディスプレイ：
157.3×85.6×10.8cm
メディアレシーバー：
43.0×7.9×34.3cm
KDE-P55HX2
ディスプレイ：
171.0×87.0×10.9cm
ディスプレイ（スピーカーをはずしたとき）：148.7×87.0×10.9cm
メディアレシーバー：
43.0×7.9×34.3cm

次のページにつづく

主な仕様（つづき）

	KDE-P61HX2 ディスプレイ： 179.7×93.7×11.0cm ディスプレイ（スピーカーをはずしたとき）：157.1×93.7×10.0cm メディアレシーバー： 43.0×7.9×34.3cm （幅×高さ×奥行き）
質量	KDE-P42HX2 ディスプレイ：39.0kg メディアレシーバー：6.0kg KDE-P50HX2 ディスプレイ：53.0kg メディアレシーバー：6.0kg KDE-P55HX2 ディスプレイ：62.0kg ディスプレイ（スピーカーをはずしたとき）：58.0kg メディアレシーバー：6.0kg KDE-P61HX2 ディスプレイ：71.0kg ディスプレイ（スピーカーをはずしたとき）：68.0kg メディアレシーバー：6.0kg
電源	AC100V、50/60Hz
付属品	• リモートコマンダーRM-J1002（1） • 乾電池　単4形（2） • アンテナ接続ケーブル（2.4m）（1） • AVマウス（1.5m）（1） • テレホンコード（10m）（1） • モジュラーテレホンコードカプラー（1） • 電源コード（2.4m）（2） • 変換プラグアダプター（2） • ディスプレイ用ACプラグホルダー（1） • ディスプレイケーブル（3.0m）（1） • アンテナ変換アダプター（1） • クリーニングクロス（1） • フレーム（2）（KDE-P55HX2/P61HX2のみ） • フレーム取り付け用ネジ（8）（KDE-P55HX2/P61HX2のみ） • B-CASカード（デジタル放送用ICカード）とB-CAS用ユーザー登録はがき台紙（各1） • 取扱説明書（1） • WEGA〈ベガ〉で楽しもう!（1） • かんたん選局ガイド（1） • 地上デジタル放送・地域別チャンネル一覧表（1） • 保証書（2） • ソニーご相談窓口のご案内（1） • ソニー用お客様ご登録カード（1） • 安全のために（1） • ソフトウェア使用許諾契約書（1）

別売りアクセサリー

2004年4月現在の別売りアクセサリーです。万一、品切れや生産完了のときはご容赦ください。

テレビスタンド	SU-PF1（KDE-P42HX2/P50HX2用：フローティングスタンド） SU-PF1L（KDE-P55HX2/P61HX2用：フローティングスタンド） SU-PC1/PC1M/PG1/HXL（KDE-P42HX2/P50HX2用：壁寄せスタンド） SU-HXL（KDE-P55HX2/P61HX2用：壁寄せスタンド） SU-P42T1/P42T2（KDE-P42HX2用：テーブルトップスタンド） SU-P50T1/P50T2（KDE-P50HX2用：テーブルトップスタンド） SU-P50T2（KDE-P55HX2/P61HX2用：テーブルトップスタンド） SU-PW2（壁掛けユニット）
スピーカースタンド	SU-PSP1L（KDE-P61HX2用：スピーカースタンド） SU-PSP1M（KDE-P55HX2用：スピーカースタンド）
AVシステムラック	SU-AVHS1
ステレオヘッドホン	MDR-AV305
接続ケーブルなど	VMC-P10 （ディスプレイケーブル10m） VM-50（AVマウス）
衛星アンテナなど	

- 「JIS C 61000-3-2適合品」です。JIS C 61000-3-2適合品とは、日本工業規格「電磁両立性－第3-2部：限度値－高調波電流発生限度値（1相当たりの入力電流が20A以下の機器）」に基づき、商用電力系統の高調波環境目標レベルに適合して設計・製造した製品です。
- 本機は米国BBE社の所有する特許USP4638258と4482866を使用しています。
  BBEとBBEのシンボルは、BBE Sound, Inc. の登録商標です。
- 本製品の一部には、Independent JPEG Groupの研究成果を使用しています。
- i.LINKは、IEEE1394-1995とIEEE1394a-2000を示す呼称です。i.LINKとi.LINKロゴ“ ”は商標です。
- “Memory Stick”（“メモリースティック”）、“Memory Stick Duo”（“メモリースティック デュオ”）および は、ソニー株式会社の商標です。
- QuickTimeおよびQuickTimeロゴは、ライセンスに基づいて使用されるアップルコンピュータ社の商標または登録商標です。
- 本機は電気通信事業法第50号第1項の規定に基づく技術基準適合認定モデルです。

機器名	MBD-HX2P、MBDR-HX2P（メディアレシーバー）
認証番号	A03-0416JP

- このテレビは日本国内用ですから、電源電圧、放送規格の異なる外国ではお使いになれません。
- 仕様および外観は改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

用語集

五十音順

ア行

アンテナレベル（☞223ページ）
アンテナから入ってくる電波の強さです。天候や気温、時間帯、アンテナ接続ケーブルの長さなどによって影響を受けます。

インターレース（飛び越し走査）（☞135ページ）
走査線525本のうち、まず奇数番目の走査線（262.5本）を1/60秒かけて描き（この1画面を1フィールドという）、次にその間を埋めるように偶数番目の走査線（262.5本）を描き、合わせて走査線525本の1枚の完全な画面（フレーム）を作っていく飛び越し走査のことです。

カ行

緊急警報放送（☞91ページ）
地上デジタル、BSデジタルの標準テレビ信号SDのマルチ放送を利用した放送です。
緊急警報放送には、地震などの災害時に放送される緊急ニュース番組などがあります。

ケーブルテレビ（CATV）（☞214、249ページ）
契約者と放送局をケーブルで直接結んで番組を提供する有線放送です。地上アナログのテレビ番組や地上デジタル、BSアナログに加え、スポーツや映画の専門チャンネル、地域情報番組や文字放送などを見ることができます。

降雨対応放送（☞91ページ）
激しい雨による映像・音声の遮断を防ぐために、通常の放送に並行して、降雨に強い方式で同じ番組を送るものです。
本機では、お買い上げ時、番組によって降雨対応放送に自動的に切り換わるように設定されています。
降雨対応放送は、画質や音質が通常の放送に比べ低下します。

ゴースト（☞254ページ）
放送局からの電波が、テレビアンテナに届く前に、建物や地形の影響で妨害波となり、時間がズレて二重、三重に受信されることです。そのため、正しく送られてきた画像に妨害波の画像が重なって表われた、見にくい画面となります。

サ行

三次元Y/C分離回路
本機で使っている回路の1つで、映像信号を構成するY信号とC信号を別々に処理し、より鮮明な画像を再現します。

識別制御信号（☞131ページ）
識別制御信号とは、オリジナル映像の横縦比をテレビで忠実に再現するためのコントロール信号です。この信号を含んだ映像には、次のものがあります。
– 横縦比情報の入ったビデオカメラなどの記録映像（ID-1方式やS2方式）
– D4入力端子からの横縦比情報の入った映像

字幕放送（☞94ページ）
画面上に、セリフなどの字幕を表示できる放送です。
本機では、字幕を入/切したり、字幕の言語を切り換えたりできます。

走査線（☞135ページ）
テレビは、左から右へ流れる電子ビームを上から下へ送ることで画面を作っています。この電子ビームが作る線を走査線と呼び、走査線によって、どのように画面を作っていくかで、インターレースやプログレッシブなどの方式があります。

タ行

地上デジタル（☞12、22ページ）
2003年12月に一部地域で放送が開始された、地上波によるデジタル放送です。UHFの周波数帯域を利用して送信されます。
デジタル信号で大量の情報を扱えるので、多チャンネルの放送を高画質・高音質で楽しめます。くっきりはっきりした高画質のHDTV（高精細度テレビ）や、また文字や画像などのデータ放送などがあります。

デジタル・リアリティー・クリエーション：マルチファンクション（DRC-MF）（☞122～123ページ）
地上アナログやビデオなどのNTSC映像を、ソニー独自のデジタル信号処理アルゴリズムによって、高精細なリアル映像につくり換えます。従来の線形補間方式の処理とは全く異なり、動画部分の輪郭のボケが少ないスッキリとした画像になります。また、映像によって、きめ細かく自然な映像にする「DRC高密度（標準）モード」と、チラツキを抑えた映像にする「DRCプログレッシブモード」を切り換えられます。
さらに、本機では、DRC-MFパレットで映像に合った好みの画質に調整できます。

デジタルCS放送（☞13、275ページ）
110度CSデジタル放送ではなく、SKY PerfecTV!のことです。
通信衛星を使ったCS放送の一種です。従来のアナログCS放送とは違い、映像や音声をデジタル化することで、大量の情報を扱えます。これにより、多チャンネルの放送を高画質・高音質で楽しめます。

デジタルハイビジョン信号HD（☞135ページ）
デジタル放送の画像方式で、1125iと750pがあり、大画面になっても走査線（テレビ画面を水平に走る線）が目立たなく、35mm映画なみの臨場感あふれる高精細画質を楽しめます。

ハ行

ハイビジョン放送（☞264ページ）
BSアナログでのBS9チャンネル（NHKハイビジョン）の放送です。BSデジタル放送で行われるデジタルハイビジョン信号HDではありません。

ビスタビジョン（☞130ページ）
画面の横縦比が1.85:1になっている映像ソフトのことです。一般的には画像の中に字幕が入る映画などに使われています。

標準テレビ信号SD（☞135ページ）
デジタル放送の画像方式で、525pと525iがあり、525iは地上アナログと同等の画質です。

プログレッシブ（順次走査）（☞135ページ）
飛び越し走査（「インターレース」の項目を参照）をしないで、1フレーム目で525本全部の走査線を順番どおりに描き、次のフレームも同じ場所を525本全部の走査線で描いていく順次走査のことです。

マ行

マルチチャンネル放送（☞91ページ）
地上デジタルやBSデジタルの標準テレビ信号SDのマルチ放送を利用した放送です。
同じ放送局の複数のチャンネルで、それぞれ違う番組を放送する場合と、同じ放送局の別のチャンネルで臨時放送を行う場合があります。

次のページにつづく

用語集（つづき）

マルチビュー放送（☞91、92ページ）
地上デジタルやBSデジタルの標準テレビ信号SDのマルチ放送を利用した放送です。
生中継の番組などで、最大3つの映像を同じチャンネルで楽しめます。
それぞれのカメラからの映像を、本機のリモコンの映像切換ボタンで切り換えて見ることができます。

ヤ行

焼き付き（☞126ページ）
同じ画像や画面表示などを一定時間以上、ディスプレイに映したままにしておくと、その部分が変色したり、かすれたりして正常に表示されなくなる現象のことです。

有効走査線数（☞135ページ）
走査線のうち、映像信号が載っている走査線の数のことを言います。地上アナログでは、525本ある走査線のうち有効走査線数は480本です。BSアナログのハイビジョン放送では同じく1125本中1035本、デジタルハイビジョン信号HDでは、1125本中1080本となっています。
なお、有効走査線に含まれていない残りの走査線（映像信号の載っていない走査線）には、画面の横縦比を規定した識別制御信号などが載っています。

ラ行

臨時放送（☞91ページ）
地上デジタルやBSデジタルの標準テレビ信号SDのマルチ放送を利用した放送です。
同じ放送局の別のチャンネルで、臨時放送を行います。

数字・アルファベット順

110度CSデジタル放送（☞12、26ページ）
2002年3月から始まった、110度デジタル衛星N-SAT-110によってデジタル信号で映像や音声を流す放送のことです。大量の情報を扱えるので、多チャンネルの放送を高画質・高音質で楽しめます。文字や画像などのデータ放送、音楽CD並みの高音質な放送などがあります。

5.1ch（チャンネル）サラウンド（☞140、142、182、279ページ）
左フロント、右フロント、センター、左リア、右リアの5本のスピーカーとサブウーファーから、それぞれ独立した音声を出力できるサラウンド方式です。
メディアレシーバーの光デジタル音声出力端子に5.1ch対応のオーディオ機器をつなぐと、本機が受信した5.1chサラウンドの音声を楽しめます。

AAC（☞142、184、279ページ）
デジタル放送で標準に定められたデジタル音声方式です。「アドバンスド・オーディオ・コーディング（Advanced Audio Coding）」の略で、高い圧縮率で音楽CD並みの音質を実現します。

B-CASカード（デジタル放送用ICカード）（☞225ページ）
プラスチック・カードに集積回路を埋め込んだものです。チャンネルの契約、購入内容などの情報がB-CASカードに記憶されます。記憶された情報は、電話回線を通じて放送局に送信されます。

BSデジタル放送（☞12、26ページ）
2000年12月から始まった、放送衛星（BS）によってデジタル信号で映像や音声を流す放送のことです。大量の情報を扱えるので、多チャンネルの放送を高画質・高音質で楽しめます。くっきりはっきりした高画質のHDTV（高精細度テレビ）や、また文字や画像などのデータ放送、音楽CD並みの高音質な放送などがあります。

D端子（☞264ページ）
デジタルCS放送やDVDプレーヤーなどに対応したコンポーネント映像端子です。デジタルCSチューナーやDVDプレーヤーなどと、1本のケーブルで簡単に映像信号を接続できます。コンポーネント映像で接続するため、より高画質な画像を楽しめます。
D端子には対応する信号フォーマットによって、次の種類があります。

本機にはD4入力端子が付いてます。
- D1端子: 525i（480i）の信号に対応
- D2端子: 525i（480i）と525p（480p）の信号に対応
- D3端子: 525i（480i）と 525p（480p）、1125i（1080i）の信号に対応
- D4端子: 525i（480i）と525p（480p）、1125i（1080i）、750p（720p）の信号に対応

iはインターレース、pはプログレッシブの略です。
（ ）内は有効走査線数で数えたときの別称です。

EPG（☞38ページ）
「エレクトロニック・プログラム・ガイド（Electronic Program Guide）」の略で、デジタル放送の放送局から送信される番組表（タイトルや番組説明、放映時間など）のことです。

ID-1方式（ビデオID-1システム）（☞130ページ）
ビデオ信号の一部にデジタルのID信号を加算することにより、画面の横縦比（16:9、4:3またはレターボックス）の情報を記録するシステムの名前です。
本機はID-1方式に対応しています。ID-1方式対応のビデオカメラやビデオデッキなどを、本機のビデオ1～4入力端子につなぐと、ID-1方式の画像となります。ただし、あらかじめビデオカメラなどで「ワイドTV」モードを「入」にして録画した画像に限ります。

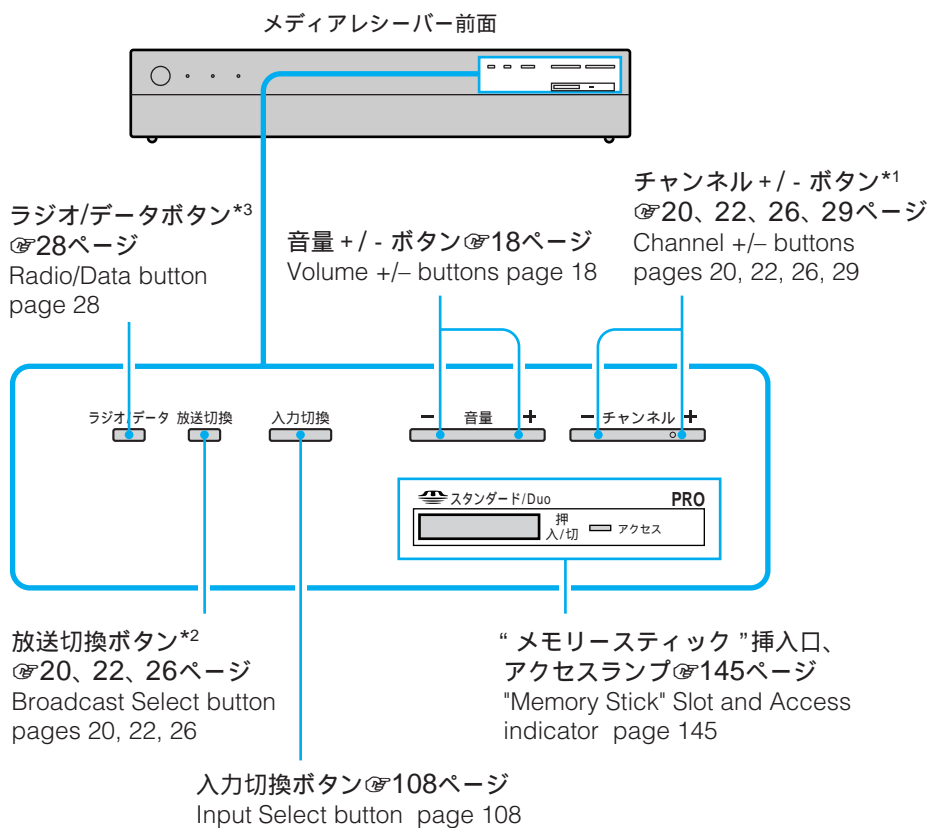
PCM（☞142、279ページ）
アナログ音声をデジタル音声に変換する方式です。「パルス・コード・モジュレーション（Pulse Code Modulation）」の略で、手軽にデジタル音声を楽しめます。

PPV（ペイ・パー・ビュー）（☞96ページ）
「見るたびに支払う」という意味で、1回視聴するごとに購入する番組のことです。

S2映像端子（S2方式）（☞130、267、270ページ）
S映像のC端子へ直流電圧を重畳することにより、画面の横縦比（16:9または4:3）の情報を記録するシステムの名前です。
縦長に圧縮された画像は「フル」モードに、レターボックスの映像は「ズーム」モードに自動的に戻す識別制御信号が入っています。
本機はS2方式に対応しています。
S2映像出力端子が付いたビデオカメラなどを、本機のS2映像入力端子につなぐと、S2方式の画像となります。
ただし、あらかじめビデオカメラなどで「ワイドTV」モードを「入」にして録画した画像に限ります。

各部の名前

Identifying parts and controls

メディアレシーバー前面/Media Receiver Front Panel

ちょっと一言
*1の付いたボタン（チャンネル+ボタン）の上には、凸点（突起）が付いています。操作の目印として、お使いください。

*2 放送切換ボタンをくり返し押すと、次のように切り換えられます。

地上アナログ → 地上デジタル
↑　　　　　　　↓
CS2 ← CS1 ← BSデジタル

*3 ラジオ/データボタンをくり返し押すと、見ている放送の放送サービスを切り換えられます。

テレビ → ラジオ → データ
↑＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿|

その他

次のページにつづく

各部の名前　Identifying parts and controls（つづき）

テレビ　ビデオ　コンポーネント　AVマルチ　メモリースティック　i.LINK

入力表示ランプ
Input indicators
文字はディスプレイ前面のソニーロゴと連動して光ります。（☞312ページ）

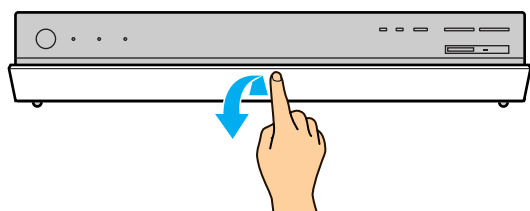
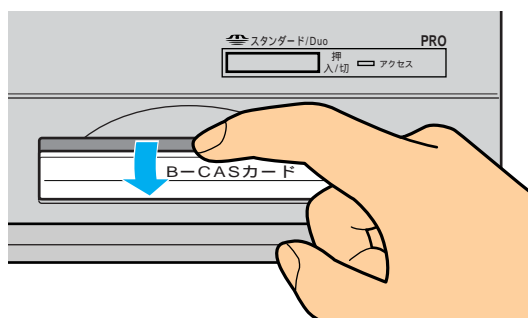
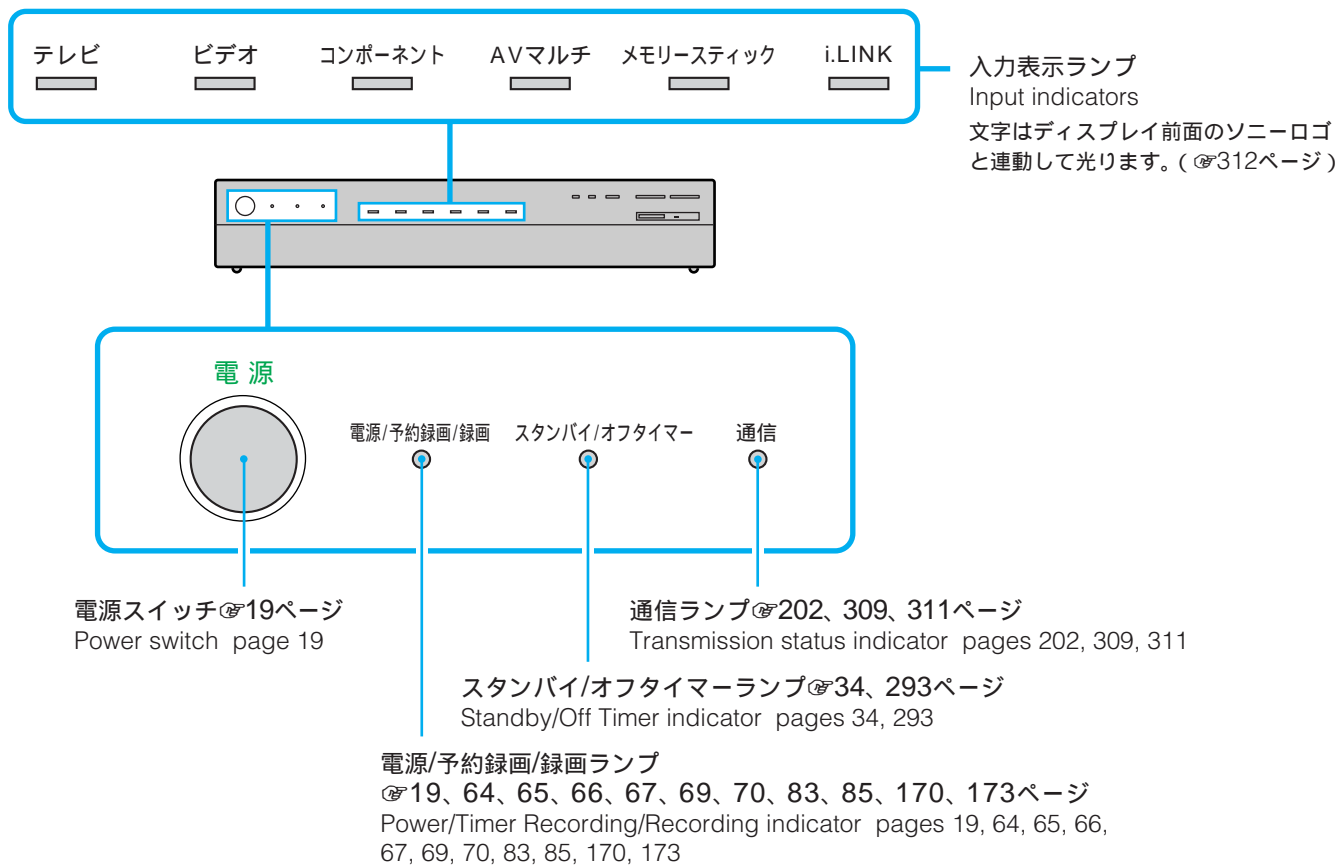
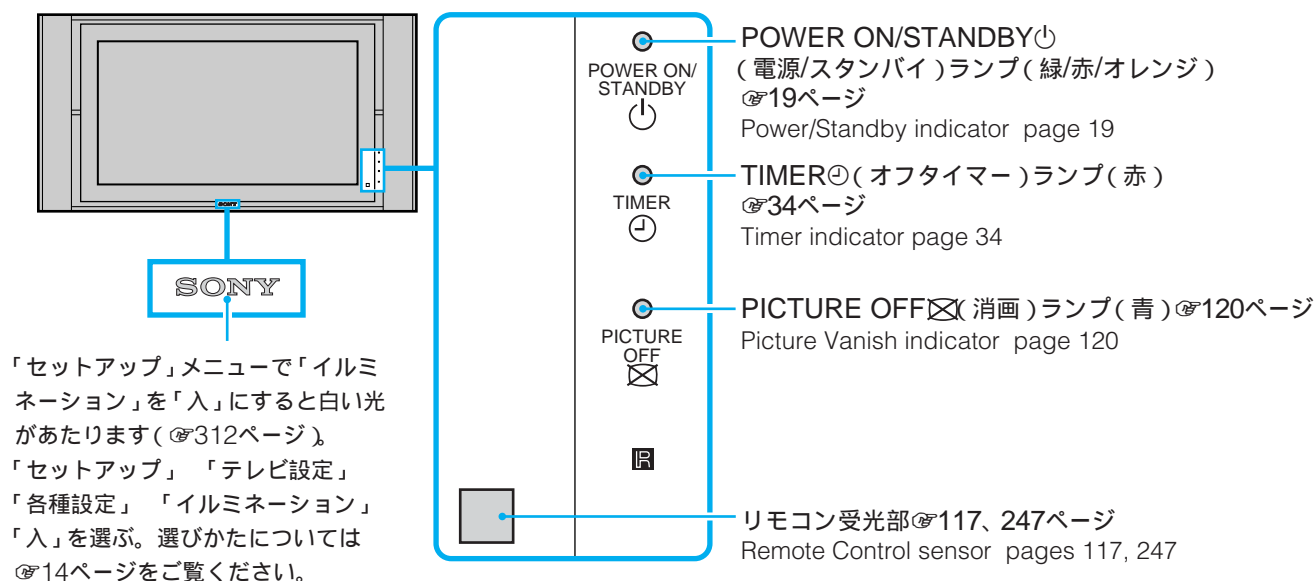
電源

電源/予約録画/録画　スタンバイ/オフタイマー　通信

電源スイッチ☞19ページ
Power switch page 19

通信ランプ☞202、309、311ページ
Transmission status indicator pages 202, 309, 311

スタンバイ/オフタイマーランプ☞34、293ページ
Standby/Off Timer indicator pages 34, 293

電源/予約録画/録画ランプ
☞19、64、65、66、67、69、70、83、85、170、173ページ
Power/Timer Recording/Recording indicator pages 19, 64, 65, 66, 67, 69, 70, 83, 85, 170, 173

ディスプレイ前面/Display Front Panel

ランプの点灯について

主電源「切」のとき

電源/予約録画/録画　スタンバイ/オフタイマー　通信

電源スタンバイのとき

電源/予約録画/録画　スタンバイ/オフタイマー　通信

赤点灯

電源が入っているとき

電源/予約録画/録画　スタンバイ/オフタイマー　通信

緑点灯

オフタイマー「入」のときは、赤く点灯（☞34ページ）

ダウンロード中（☞311ページ）
データ取得中（☞309ページ）

電源/予約録画/録画　スタンバイ/オフタイマー　通信

赤点灯　オレンジ点灯

衛星アンテナ電源のショートなど（☞201ページ）

電源/予約録画/録画　スタンバイ/オフタイマー　通信

緑点滅

自己診断表示（☞293ページ）

電源/予約録画/録画　スタンバイ/オフタイマー　通信

赤点滅

主電源「切」以外のときは、左記に加えて、次のランプも点灯します。

予約録画待機中（☞64、66、69、85ページ）

電源/予約録画/録画　スタンバイ/オフタイマー　通信

オレンジ点灯

予約した録画の実行中（☞65、67、69、70、83、85、170ページ）
i.LINKダビング中（☞173ページ）

電源/予約録画/録画　スタンバイ/オフタイマー　通信

赤点灯

通信中（☞202ページ）
（電源スタンバイ時は点灯しません）

電源/予約録画/録画　スタンバイ/オフタイマー　通信

緑点灯　オレンジ点灯

消画中（☞120ページ）

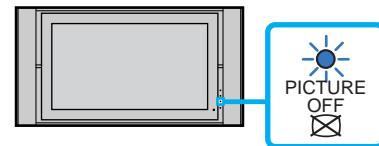
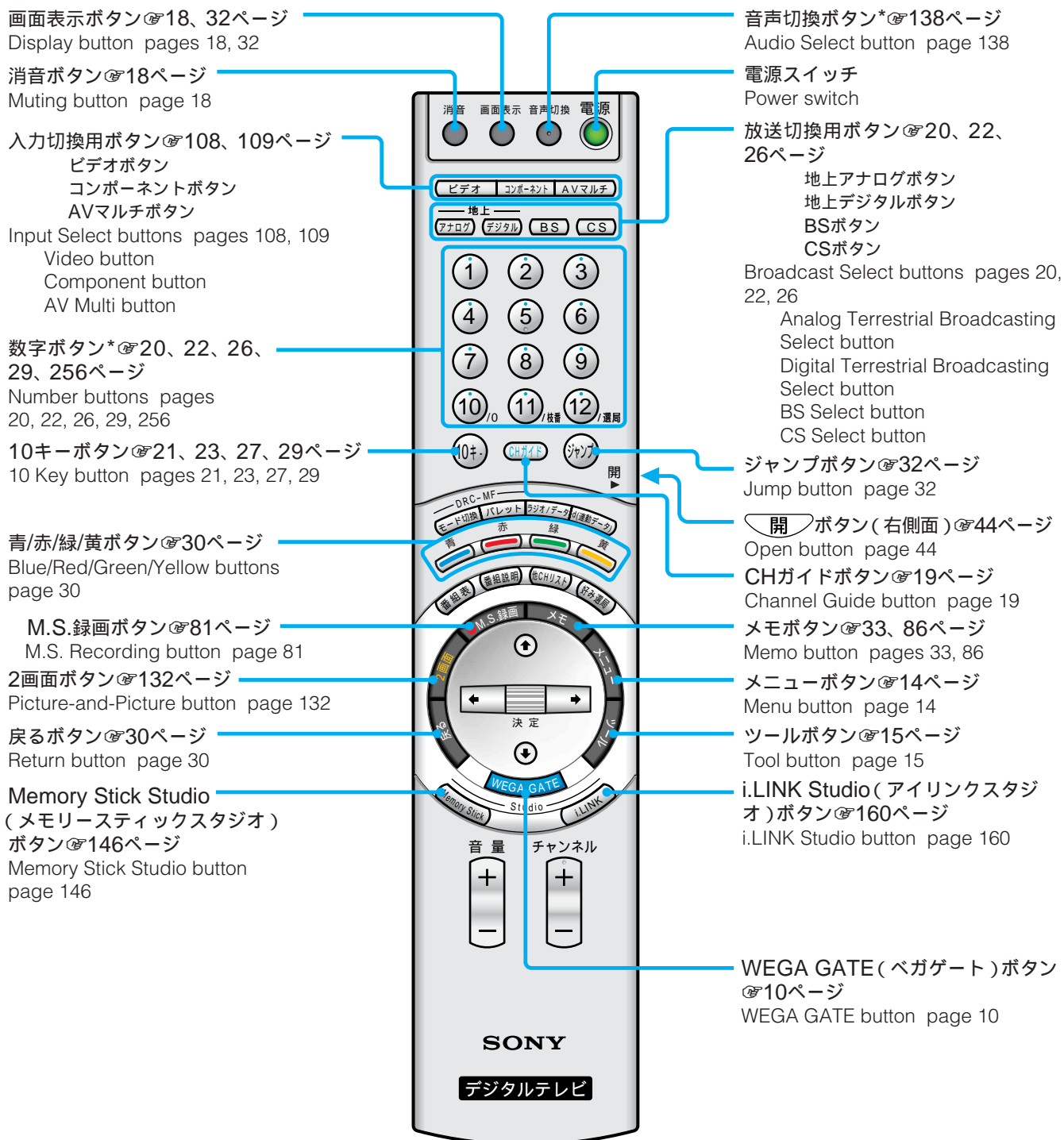
電源/予約録画/録画　スタンバイ/オフタイマー　通信

緑点灯

消画中（☞120ページ）

PICTURE OFF

その他

次のページにつづく

リモコン/Remote Control

ちょっと一言
* の付いたボタン（数字ボタン の「5」、音声切換ボタン、チャンネル＋ボタン）には、凸点（突起）が付いています。操作の目印として、お使いください。

明るさ設定ボタン☞121、123ページ
Brightness Mode button pages 121, 123

消費電力ボタン☞120ページ
Power Saving button page 120

DVDボタン☞111ページ
DVD button page 111

VTRボタン☞111ページ
VTR button page 111

CHインデックスボタン☞55ページ
Channel Index button page 55

映像切換ボタン☞92ページ
Video Select button page 92

字幕ボタン☞94ページ
Subtitles button page 94

予約一覧ボタン☞76ページ
Reservation List button page 76

DRC-MFモード切換ボタン
☞122ページ
DRC-MF Mode Select button
page 122

DRC-MFパレットボタン
☞123ページ
DRC-MF Palett button page 123

番組説明ボタン☞36ページ
Program Explanation button
page 36

番組表ボタン☞38ページ
TV Program button page 38

音量+/−ボタン☞18ページ
Volume +/– buttons page 18

ワイド切換ボタン☞128ページ
Wide Mode Select button page 128

AMPボタン☞111、187ページ
AMP button page 111, 187

AV電源☞111ページ
AV Power button page 111

機器操作ボタン☞111、154、
162〜164ページ
Equipment Operation buttons
pages 111, 154, 162~164

TVセンタースピーカーボタン
☞186ページ
TV Center Speaker button
page 186

番組検索ボタン☞44ページ
Program Search button
page 44

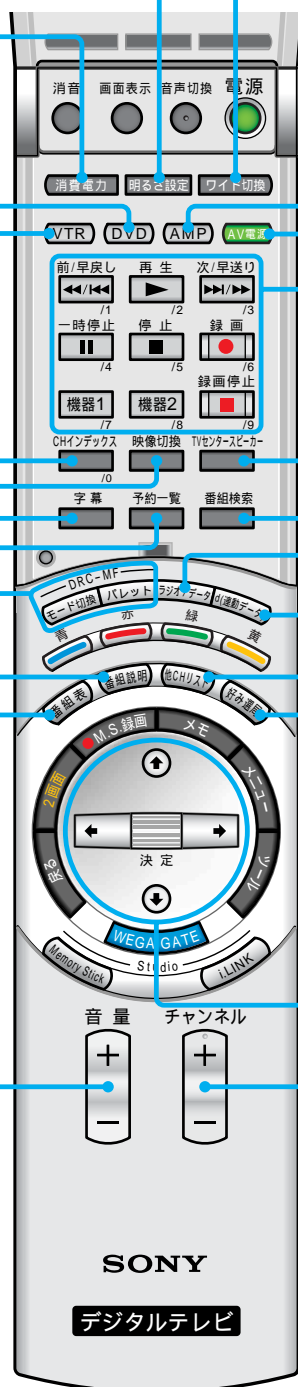
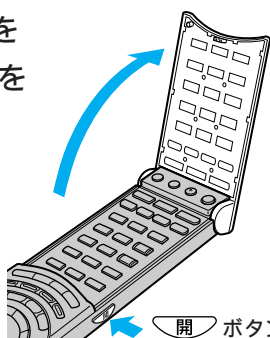
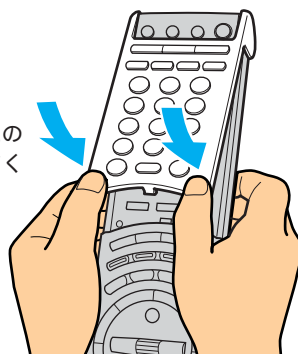
ラジオ/データボタン☞28ページ
Radio/Data Select button page 28

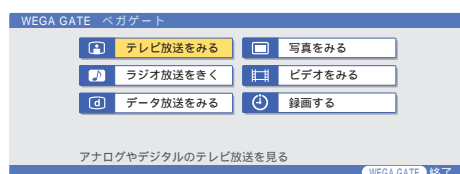
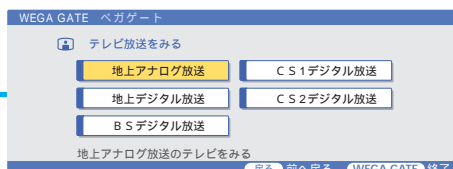
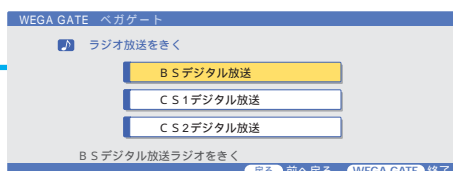
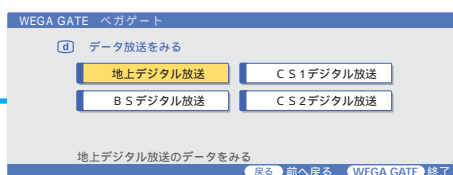
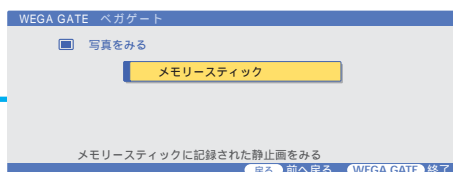
d（連動データ）ボタン
☞30ページ
Linkage Data button page 30

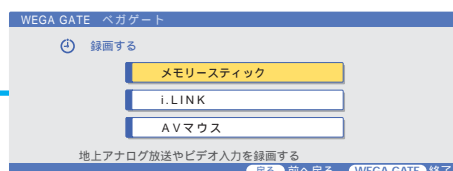
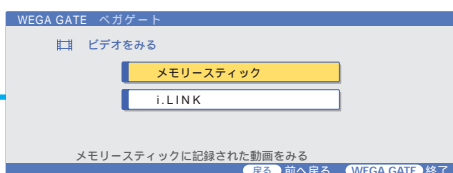
他CHリストボタン☞57ページ
Other Channels List button
page 57

好み選局ボタン☞42ページ
Favorite Channel Select button
page 42

決定（ジョグダイヤル）/↑/↓/←/→
☞14ページ
決定(JOG dial) /↑/↓/←/→
page 14

チャンネル+/−ボタン*☞20、
22、26、29ページ
Channel +/– buttons
pages 20, 22, 26, 29

その他

WEGA GATE一覧

(ベガ ゲート)

地上アナログ放送　「地上アナログ放送を見る」（☞20ページ）
地上デジタル放送　「地上デジタル放送を見る」（☞22ページ）
BSデジタル放送　「BSデジタル・110度CSデジタル放送を見る」（☞26ページ）
CSデジタル放送　「BSデジタル・110度CSデジタル放送を見る」（☞26ページ）

BSデジタル放送　「ラジオ/データ放送を楽しむ」（☞28ページ）
CSデジタル放送　「ラジオ/データ放送を楽しむ」（☞28ページ）

地上デジタル放送　「ラジオ/データ放送を楽しむ」（☞28ページ）
BSデジタル放送　「ラジオ/データ放送を楽しむ」（☞28ページ）
CSデジタル放送　「ラジオ/データ放送を楽しむ」（☞28ページ）

“メモリースティック”「静止画を楽しむ」（☞151ページ）

“メモリースティック”「動画を楽しむ［ムービープレーヤー］」（☞153ページ）
i.LINK　「i.LINKでデジタル再生する」（☞165ページ）

WEGA GATE　ベガゲート
録画する
メモリースティック
i.LINK
AVマウス
地上アナログ放送やビデオ入力を録画する
戻る 前へ戻る
WEGA GATE 終了

ご注意

- "メモリースティック"に録画できるのはアナログ放送、ビデオ2〜4入力です（録画予約できるのはビデオ3入力のみ）。i.LINK録画、AVマウス録画できるのはデジタル放送のみです。
- 同時に2つ以上の録画はできません。
- デジタル放送視聴中に他のデジタル放送を録画できません。
- 録画予約をするには、デジタル放送の受信設定を行って、時刻情報の取得が必要です。
- B-CASカードを挿入していない場合、録画予約できません。

索引

五十音順

あ行

か行

さ行

た行

な行

数字・アルファベット順

商品の修理、お取扱い方法、お買物相談などの問い合わせ

ホームページ　● http://www.sony.co.jp/SonyDrive/

「ソニードライブ」は、ソニーの商品情報とライフスタイルをご提案するホームページです。
「良くあるご質問」「修理情報」「ショッピング情報」は、ホームページをご活用ください。

お客様ご相談センター

● ナビダイヤル*…………………… 0570-00-3311
（全国どこからでも市内通話料でご利用いただけます）

● 携帯電話・PHSでのご利用は*……… 03-5448-3311
（ナビダイヤルがご利用できない場合はこちらをご利用ください）

● FAX……………………………………0466-31-2595

受付時間：月〜金曜日 9:00〜20:00　土・日・祝日 9:00〜17:00

*お電話は自動音声応答にてお受けし, 内容に応じて専門の相談員が対応します。
はじめにご用件を下記より、次に音声案内にそって商品カテゴリーの番号を押してください。
選択番号は変更になることがありますので、ご容赦願います。

1：修理受付
2：使用方法や故障と思われるご相談
3：お買物相談
4：業務用・プロ用商品に関するご相談全般
5：その他のご相談

ソニー株式会社　〒141-0001 東京都品川区北品川 6-7-35

この説明書は100%古紙再生紙を使用しています。

Printed in Japan